

第3章

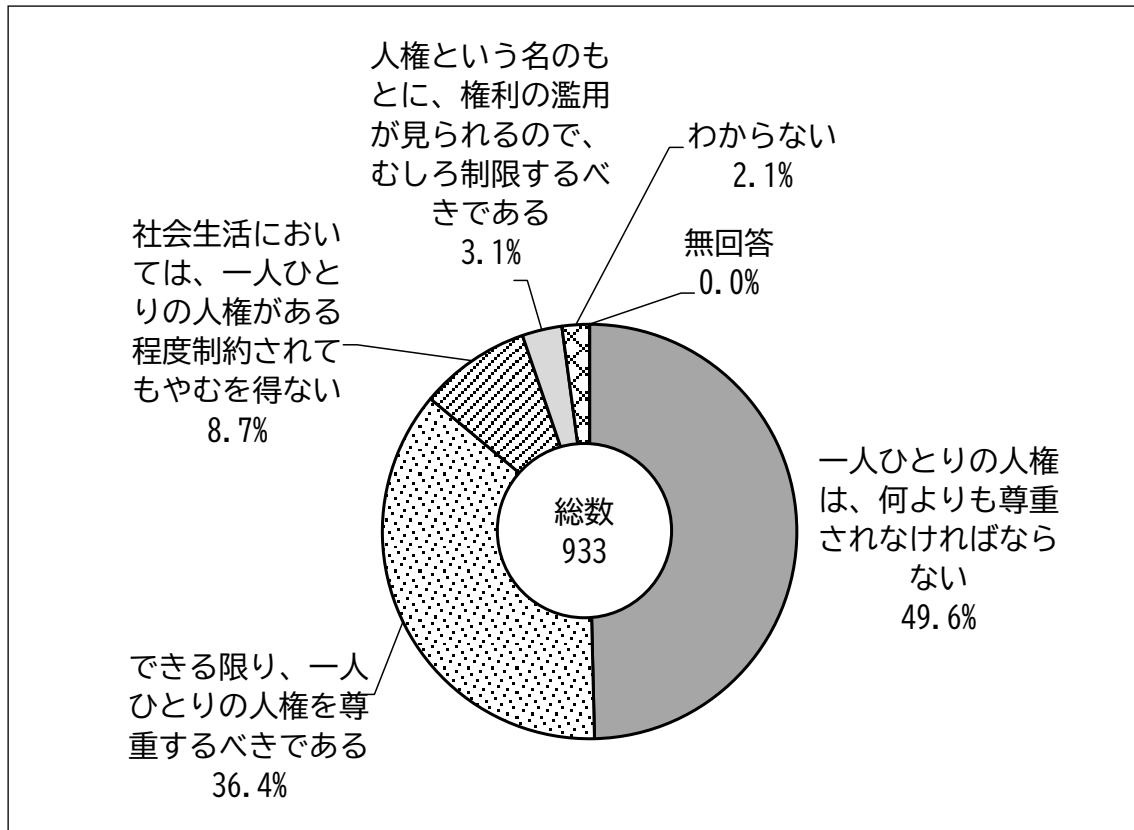
調査結果

第3章 調査結果

1 人権問題全般について

問1 人権への意識

あなたは人権についてどのようにお考えですか。(○は1つ)



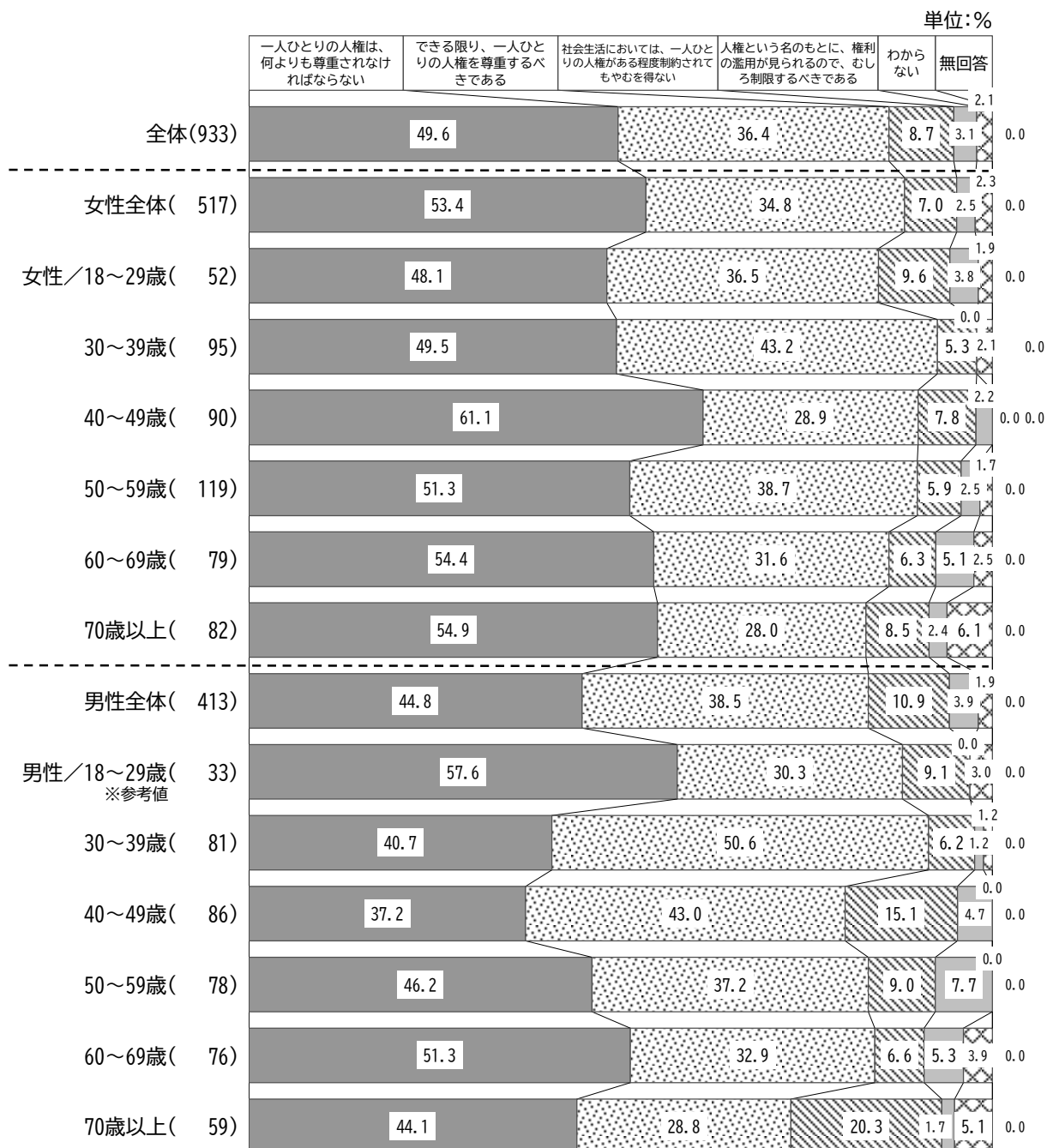
図表 6 人権への意識

○全体の傾向

「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が 49.6%で最も多く、「できる限り、一人ひとりの人権を尊重すべきである」(36.4%)、「社会生活においては、一人ひとりの人権がある程度制約されてもやむを得ない」(8.7%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」は 53.4%であり、男性の割合を 8 ポイント上回っています。



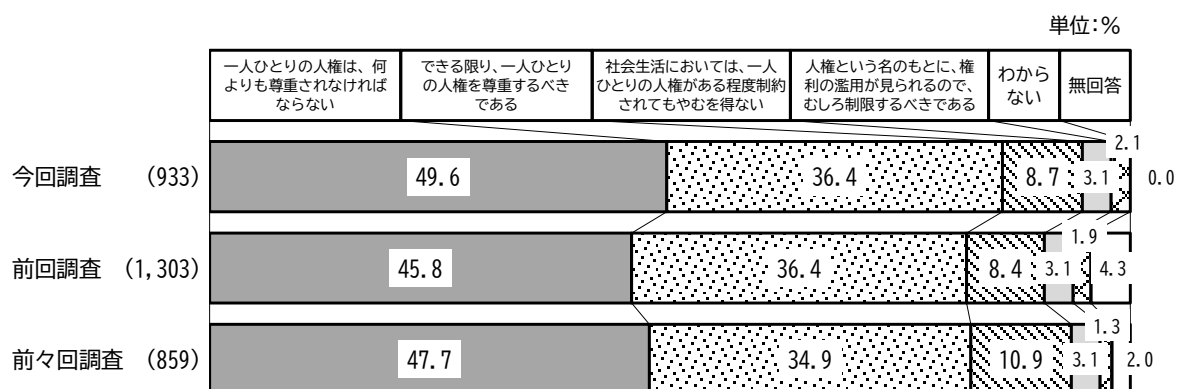
図表 7 人権への意識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳では「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が61.1%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。30～39歳では「できる限り、一人ひとりの人権を尊重するべきである」が43.2%であり、女性回答者全体の割合を8ポイント上回っています。

男性の60～69歳では「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が51.3%であり、男性回答者全体の割合を6ポイント上回っています。また、30～39歳では「できる限り、一人ひとりの人権を尊重するべきである」(50.6%)が他の年代に比べて多くなっていると同時に、「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」(40.7%)を上回って最も多い回答となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 8 人権への意識<<前回調査・前々回調査との比較>>

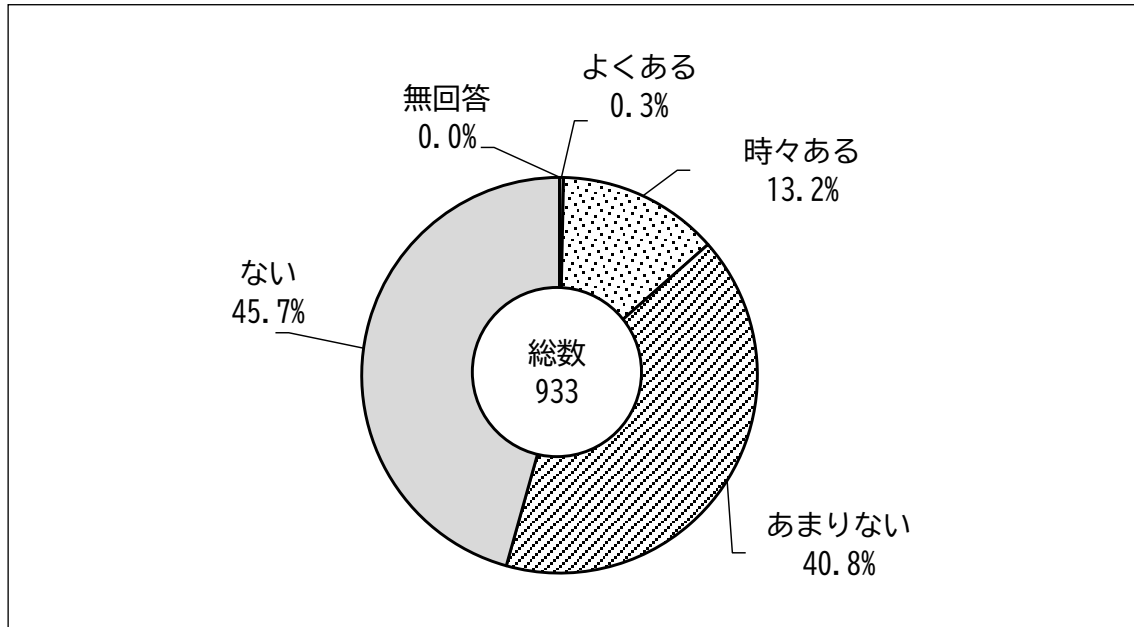
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査、前回調査、前々回調査とも「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が5割弱、「できる限り、一人ひとりの人権を尊重すべきである」が3割台であり、大きな傾向の違いは見られません。

問2 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験

あなたは、無意識のうちに周囲の人とともに、自分より劣ったり、弱い立場にある人に対して差別的な行動や発言をしてしまうことがありますか（ありましたか）。

（〇は1つ）



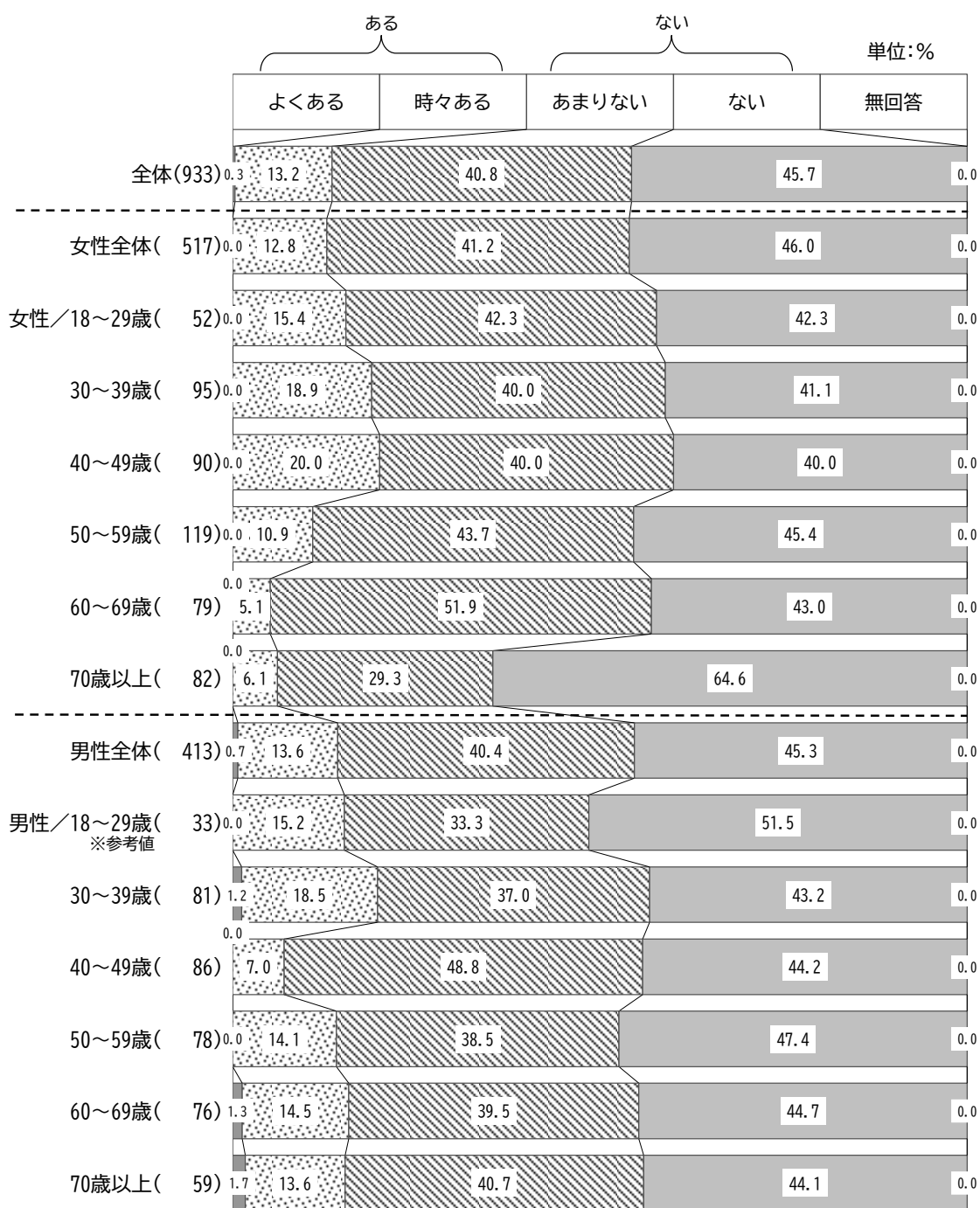
図表 9 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験

○全体の傾向

“ある（「よくある」と「時々ある」の合計）”が13.5%であり、“ない（「あまりない」と「ない」の合計）”が86.5%となっています。

○男女別の傾向

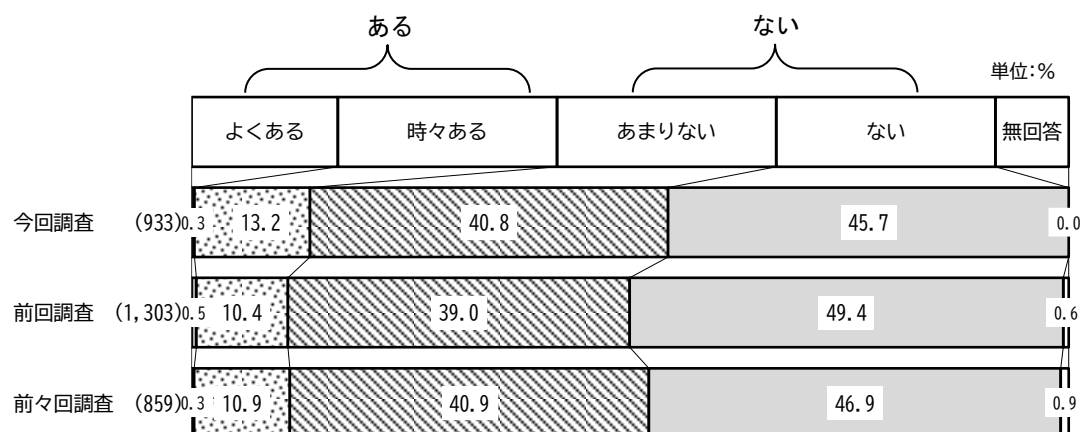
性別による大きな傾向の違いはありません。



○男女・年代別の傾向

男性では、40～49 歳で“ある”が 7.0%となっており、他の年代を 7 ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



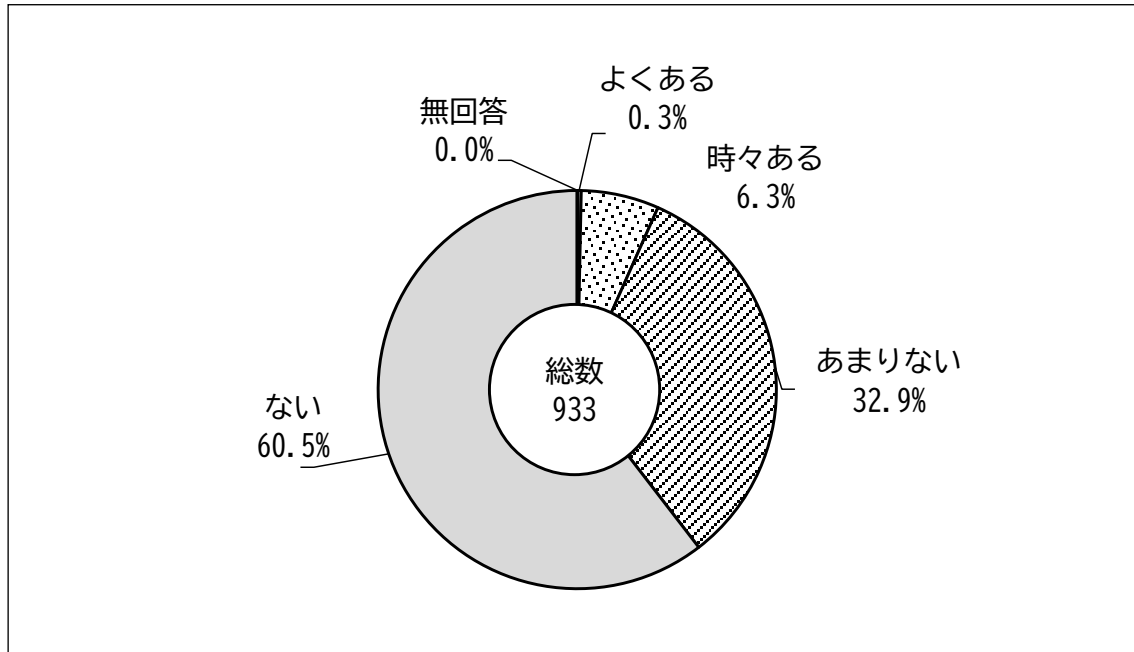
図表 11 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも“ない”が9割弱を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問3 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験

あなたは、他人から受けた不当な扱いや日ごろの劣等感等から、自分より劣ったり、弱い立場にあると思える人に対して差別的な行動や発言をしてしまうことがありますか（ありましたか）。（○は1つ）



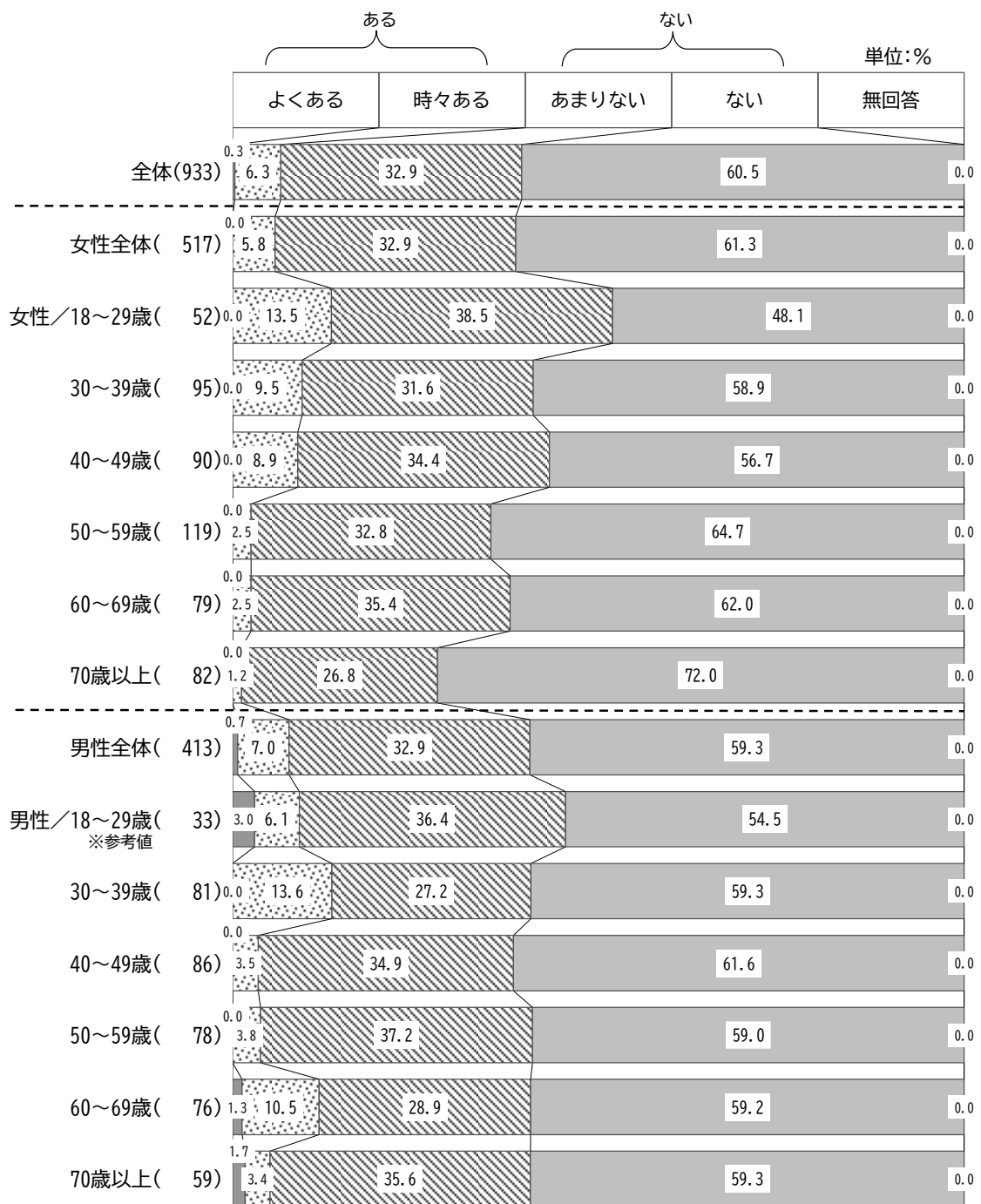
図表 12 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験

○全体の傾向

“ある（「よくある」と「時々ある」の合計）”が 6.6%であり、“ない（「あまりない」と「ない」の合計）”が 93.4%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



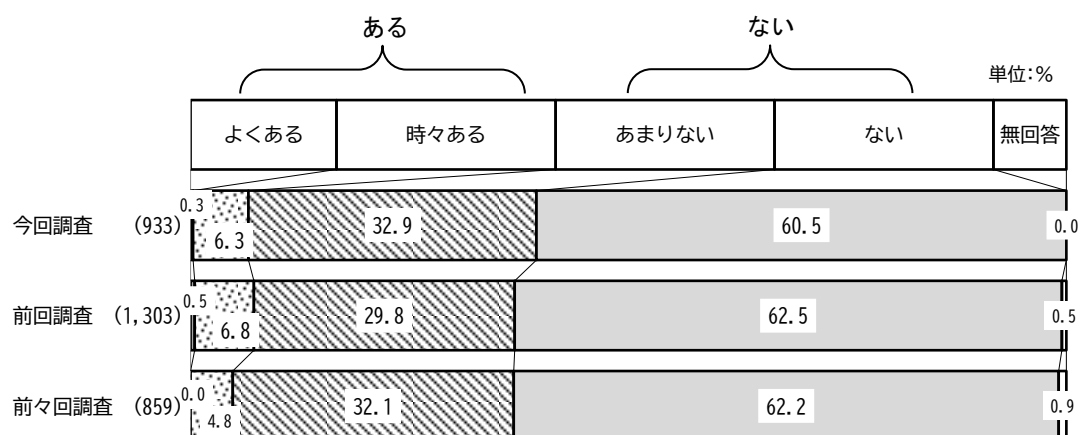
図表 13 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では“ある”が 13.5%であり、女性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。女性の“ある”の割合は 49 歳以下の各年代で 1 割前後であるのに対し、50 歳以上の各年代では 5 %を下回っています。

男性では、30～39 歳、60～69 歳で“ある”の割合が 1 割強となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 14 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験《前回調査・前々回調査との比較》

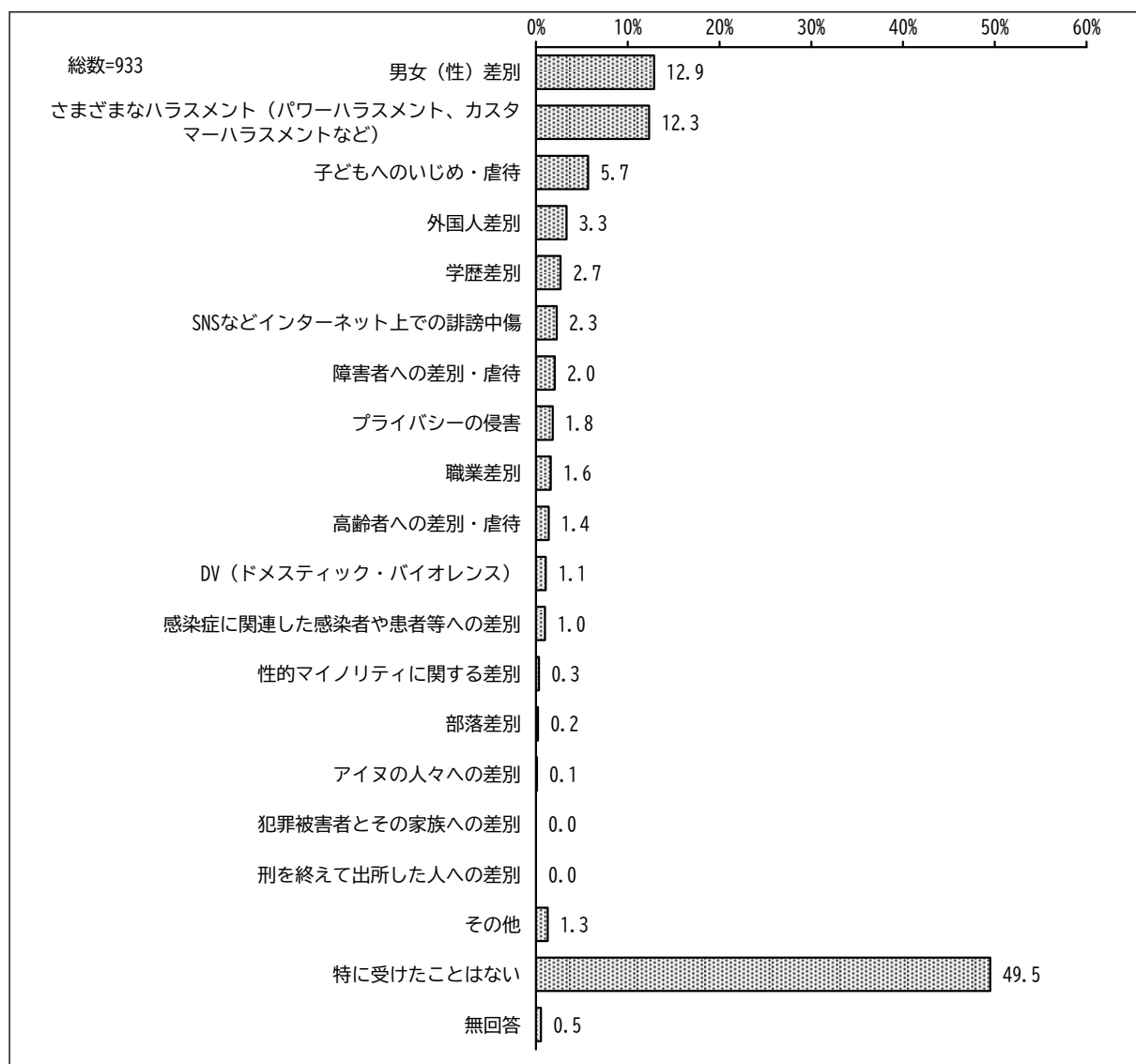
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも“ない”が9割強を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問4 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと

あなたは、これまでに自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○、その中で主なもの1つに◎)

(1) 主なもの



図表 15 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【主なもの】

○全体の傾向

「男女(性)差別」(12.9%)、「さまざまなハラスメント(パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど)」(12.3%)がともに多く、「子どもへのいじめ・虐待」(5.7%)、「外国人差別」(3.3%)が続きます。

一方、「特に受けたことはない」という回答が49.5%となっています。

		人数	男女（性）差別	子どもへのいじめ・虐待	高齢者への差別・虐待	障害者への差別・虐待	部落差別	アイヌの人々への差別	外国人差別	感染者等への差別	SNSなどインターネット上の誹謗中傷	プライバシーの侵害	学歴差別	犯罪被害者とその家族への差別	職業差別	性的マイノリティに関する差別
全体		933	12.9	5.7	1.4	2.0	0.2	0.1	3.3	1.0	2.3	1.8	2.7	-	1.6	0.3
性別	女性	517	18.2	4.3	1.2	1.9	0.2	-	3.7	0.8	1.7	1.7	2.3	-	1.7	0.2
	男性	413	6.1	7.5	1.7	2.2	0.2	0.2	2.9	1.2	2.7	1.9	3.1	-	1.5	0.5
	その他・無回答 ※参考値	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	25.0	3.8	-	-	-	9.6	-	-	-	3.8	-	-	1.9
		30～39歳	95	22.1	-	-	1.1	-	6.3	1.1	2.1	4.2	4.2	-	2.1	-
		40～49歳	90	22.2	4.4	-	2.2	-	2.2	1.1	3.3	-	2.2	-	3.3	-
		50～59歳	119	15.1	5.9	1.7	1.7	-	2.5	0.8	1.7	3.4	1.7	-	1.7	-
		60～69歳	79	15.2	5.1	2.5	3.8	-	3.8	-	1.3	1.3	1.3	-	1.3	-
		70歳以上	82	12.2	6.1	2.4	2.4	1.2	-	1.2	1.2	-	1.2	-	1.2	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	15.2	9.1	-	-	-	-	-	3.0	6.1	-	-	3.0	-
		30～39歳	81	12.3	6.2	-	1.2	1.2	7.4	-	2.5	3.7	4.9	-	-	2.5
		40～49歳	86	7.0	4.7	1.2	-	-	1.2	2.3	3.5	1.2	2.3	-	1.2	-
		50～59歳	78	-	6.4	3.8	5.1	-	2.6	1.3	2.6	1.3	5.1	-	2.6	-
		60～69歳	76	5.3	11.8	2.6	2.6	-	1.3	3.9	2.6	1.3	1.3	-	2.6	-
		70歳以上	59	-	8.5	1.7	3.4	-	-	-	3.4	-	3.4	-	-	-
	その他・無回答 ※参考値	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-

		人数	DV（ドメスティック・バイオレンス）	さまざまな人権侵害（マハラジャメント・カスターなど）	刑を終えて出所した人への差別	特に受けたことはない	その他	無回答
全体		933	1.1	12.3	-	49.5	1.3	0.5
性別	女性	517	1.5	14.5	-	44.3	1.2	0.6
	男性	413	0.5	9.7	-	56.2	1.5	0.5
	その他・無回答 ※参考値	3	-	-	-	33.3	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	-	11.5	-	42.3	1.9
		30～39歳	95	-	16.8	-	37.9	2.1
		40～49歳	90	4.4	15.6	-	38.9	-
		50～59歳	119	1.7	16.0	-	44.5	1.7
		60～69歳	79	1.3	20.3	-	41.8	1.3
		70歳以上	82	1.2	4.9	-	61.0	3.5
	男性	18～29歳 ※参考値	33	-	3.0	-	57.6	3.0
		30～39歳	81	-	7.4	-	50.6	-
		40～49歳	86	1.2	12.8	-	59.3	2.3
		50～59歳	78	-	19.2	-	48.7	1.3
		60～69歳	76	1.3	6.6	-	51.3	2.6
		70歳以上	59	-	3.4	-	74.6	1.7
	その他・無回答 ※参考値	3	-	-	-	33.3	-	-

図表 16 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと(男女・年代別)【主なもの】

○男女別の傾向

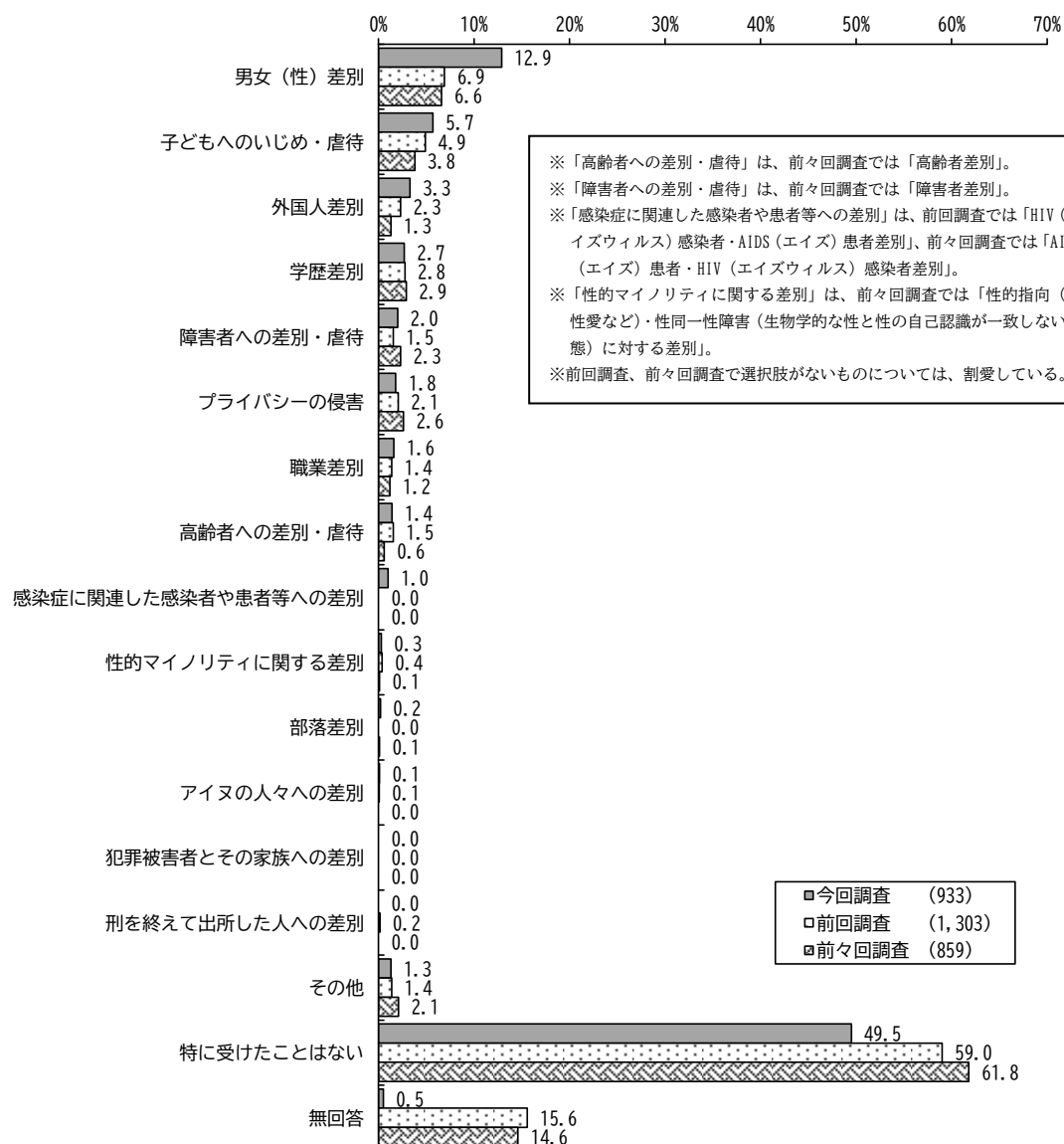
女性の「男女（性）差別」は 18.2%であり、男性を 12 ポイント上回っています。一方、男性の「特に受けたことはない」は 56.2%であり、女性を 11 ポイント上回っています。

○男女・年代別の傾向

女性の 70 歳以上では、「特に受けたことはない」が 61.0%であり、他の年代を 16 ポイント以上上回っています。

男性の 70 歳以上では、「特に受けたことはない」が 74.6%であり、他の年代を 15 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較

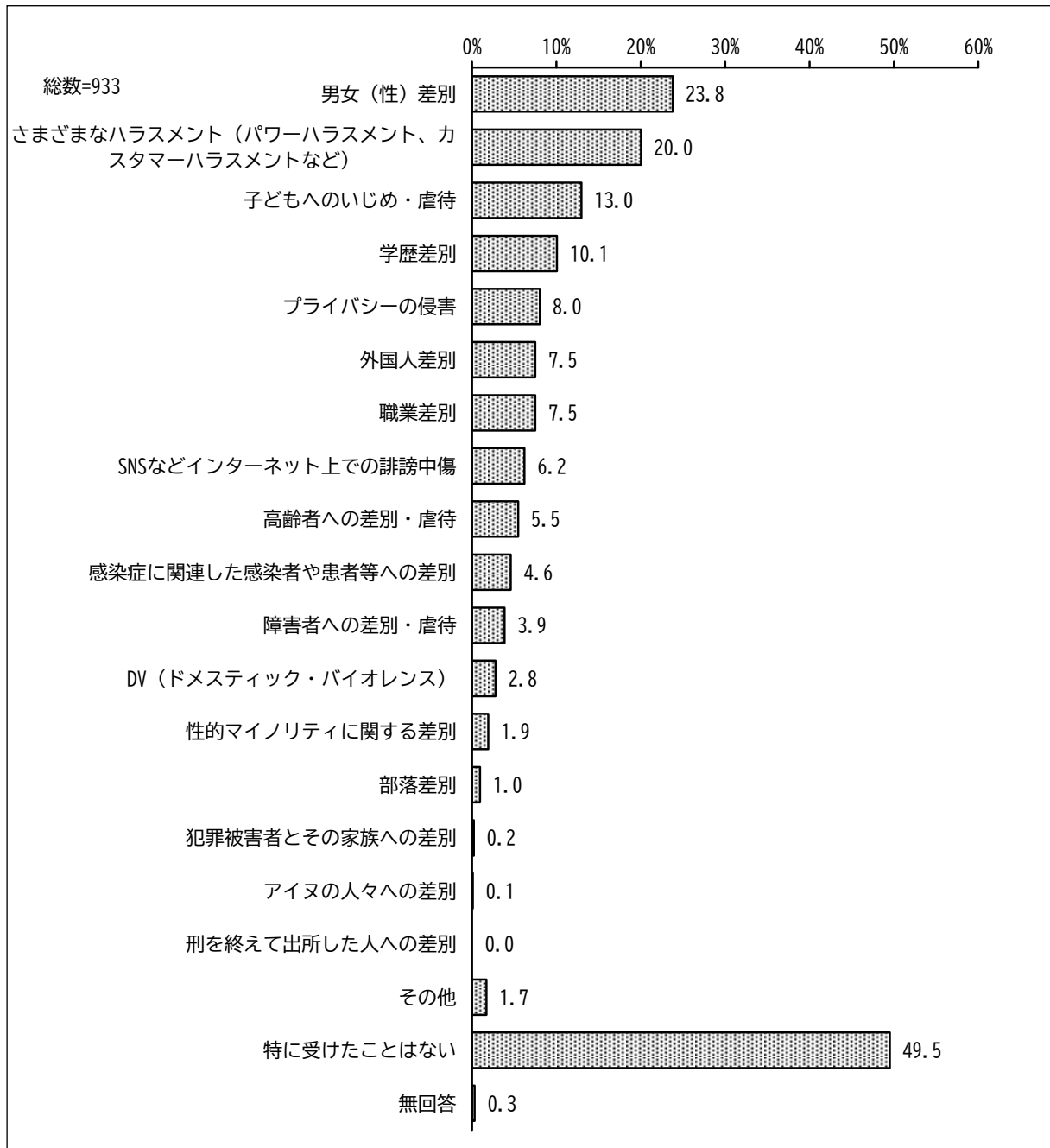


図表 17 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【主なもの】◀前回調査・前々回調査との比較▶

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査の「男女（性）差別」は12.9%であり、前回調査・前々回調査を6ポイント上回っています。

(2) すべて



図表 18 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【すべて】

○全体の傾向

「男女（性）差別」が 23.8%で最も多く、「さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）」（20.0%）、「子どもへのいじめ・虐待」（13.0%）が続きます。

一方、「特に受けたことはない」という回答が 49.5%となっています。

			男女（性）差別	子どもへのいじめ・虐待	高齢者への差別・虐待	障害者への差別・虐待	部落差別	アイヌの人々への差別	外国人差別	感染症に関連した感染者や患者等への差別	SNSなどインターネット上の誹謗中傷	プライバシーの侵害	学歴差別	犯罪被害者とその家族への差別	職業差別	
人数																
全体		933	23.8	13.0	5.5	3.9	1.0	0.1	7.5	4.6	6.2	8.0	10.1	0.2	7.5	
性別	女性	517	33.5	13.0	6.4	4.1	0.4	-	7.4	5.4	5.2	9.1	11.6	-	7.5	
	男性	413	11.4	12.8	4.4	3.6	1.7	0.2	7.7	3.6	7.0	6.5	8.0	0.5	7.5	
	無回答 ※参考値	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3	33.3	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	52	34.6	7.7	3.8	3.8	-	15.4	1.9	9.6	5.8	19.2	-	7.7	
		30～39歳	95	42.1	5.3	5.3	3.2	1.1	-	9.5	4.2	8.4	15.8	20.0	-	9.5
		40～49歳	90	34.4	15.6	1.1	6.7	-	-	6.7	5.6	4.4	4.4	8.9	-	7.8
		50～59歳	119	35.3	19.3	9.2	2.5	-	-	6.7	7.6	3.4	8.4	10.9	-	7.6
		60～69歳	79	30.4	13.9	12.7	3.8	-	-	6.3	5.1	3.8	15.2	8.9	-	7.6
		70歳以上	82	22.0	12.2	4.9	4.9	1.2	-	2.4	6.1	3.7	3.7	3.7	-	4.9
		18～29歳 ※参考値	33	18.2	15.2	-	-	-	-	6.1	-	12.1	9.1	3.0	-	3.0
	男性	30～39歳	81	23.5	13.6	3.7	3.7	6.2	-	16.0	3.7	11.1	11.1	9.9	1.2	12.3
		40～49歳	86	8.1	8.1	1.2	-	-	-	4.7	2.3	5.8	4.7	7.0	-	9.3
		50～59歳	78	6.4	14.1	6.4	5.1	2.6	-	6.4	5.1	5.1	6.4	10.3	1.3	9.0
		60～69歳	76	11.8	17.1	7.9	6.6	-	1.3	9.2	6.6	5.3	6.6	9.2	-	6.6
		70歳以上	59	1.7	10.2	5.1	5.1	-	-	1.7	1.7	5.1	1.7	5.1	-	-
		無回答 ※参考値	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3	33.3	-	-

		人数	別性的マイノリティに関する差別	ODV（ドメスティック・バイオレンス）	マラーハラスメント、カスタマーハラスメントなど	さまざまなハラスメント、カスタマーハラスメントなど	刑を終えて出所した人への差別	特に受けたことはない	その他	無回答
全体		933	1.9	2.8	20.0	-	49.5	1.7	0.3	
性別	女性	517	1.7	4.1	24.4	-	44.3	1.5	0.4	
	男性	413	1.7	1.2	14.5	-	56.2	1.9	0.2	
	無回答 ※参考値	3	66.7	-	33.3	-	33.3	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	52	3.8	3.8	19.2	-	42.3	1.9	-
		30～39歳	95	2.1	3.2	26.3	-	37.9	3.2	-
		40～49歳	90	2.2	7.8	28.9	-	38.9	-	-
		50～59歳	119	0.8	4.2	29.4	-	44.5	1.7	-
		60～69歳	79	1.3	3.8	27.8	-	41.8	2.5	-
		70歳以上	82	1.2	1.2	9.8	-	61.0	-	2.4
		無回答 ※参考値	33	-	-	3.0	-	57.6	3.0	-
	男性	18～29歳	81	4.9	1.2	18.5	-	50.6	-	-
		30～39歳	86	2.3	2.3	14.0	-	59.3	3.5	-
		40～49歳	78	-	-	23.1	-	48.7	2.6	-
		50～59歳	76	1.3	2.6	13.2	-	51.3	2.6	-
		60～69歳	76	1.3	2.6	13.2	-	51.3	2.6	-
		70歳以上	59	-	-	6.8	-	74.6	-	1.7
		無回答 ※参考値	3	66.7	-	33.3	-	33.3	-	-

図表 19 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと（男女・年代別）【すべて】

○男女別の傾向

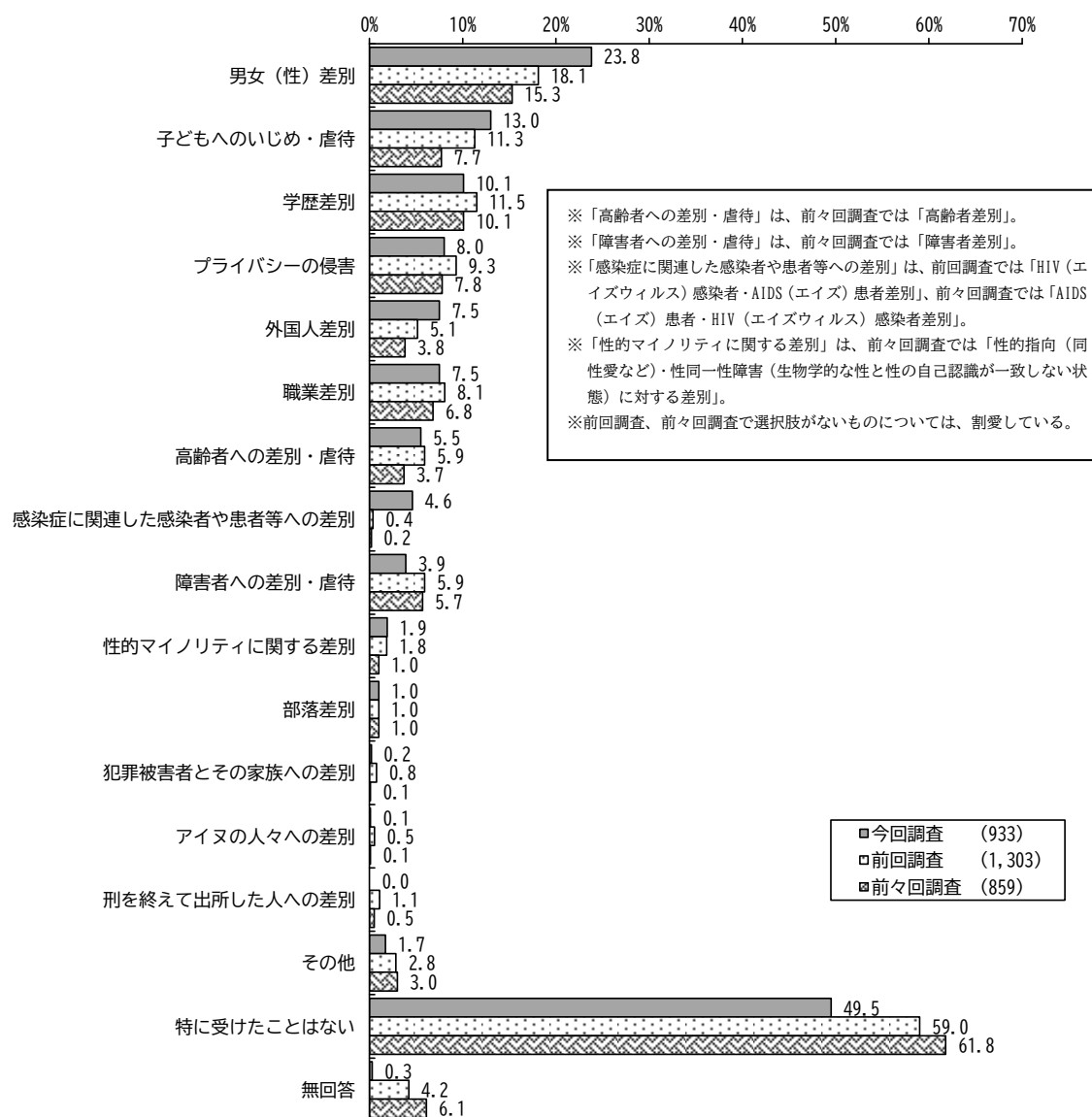
女性の「男女（性）差別」は33.5%、「さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）」は24.4%であり、男性を9ポイント以上上回っています。一方、男性の「特に受けたことはない」は56.2%であり、女性を11ポイント上回っています。

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳では「男女（性）差別」が42.1%であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。このほか、18～29歳では「外国人差別」が15.4%、18～29歳と30～39歳では「学歴差別」が2割弱から2割、30～39歳と60～69歳では「プライバシーの侵害」が1割台半ばから2割弱であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。また、70歳以上では「さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）」が9.8%にとどまっています。

男性では、30～39歳で「男女（性）差別」が23.5%であり、男性回答者全体の割合を12ポイント上回っています。50～59歳では「さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）」が23.1%となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 20 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【すべて】《前回調査・前々回調査との比較》

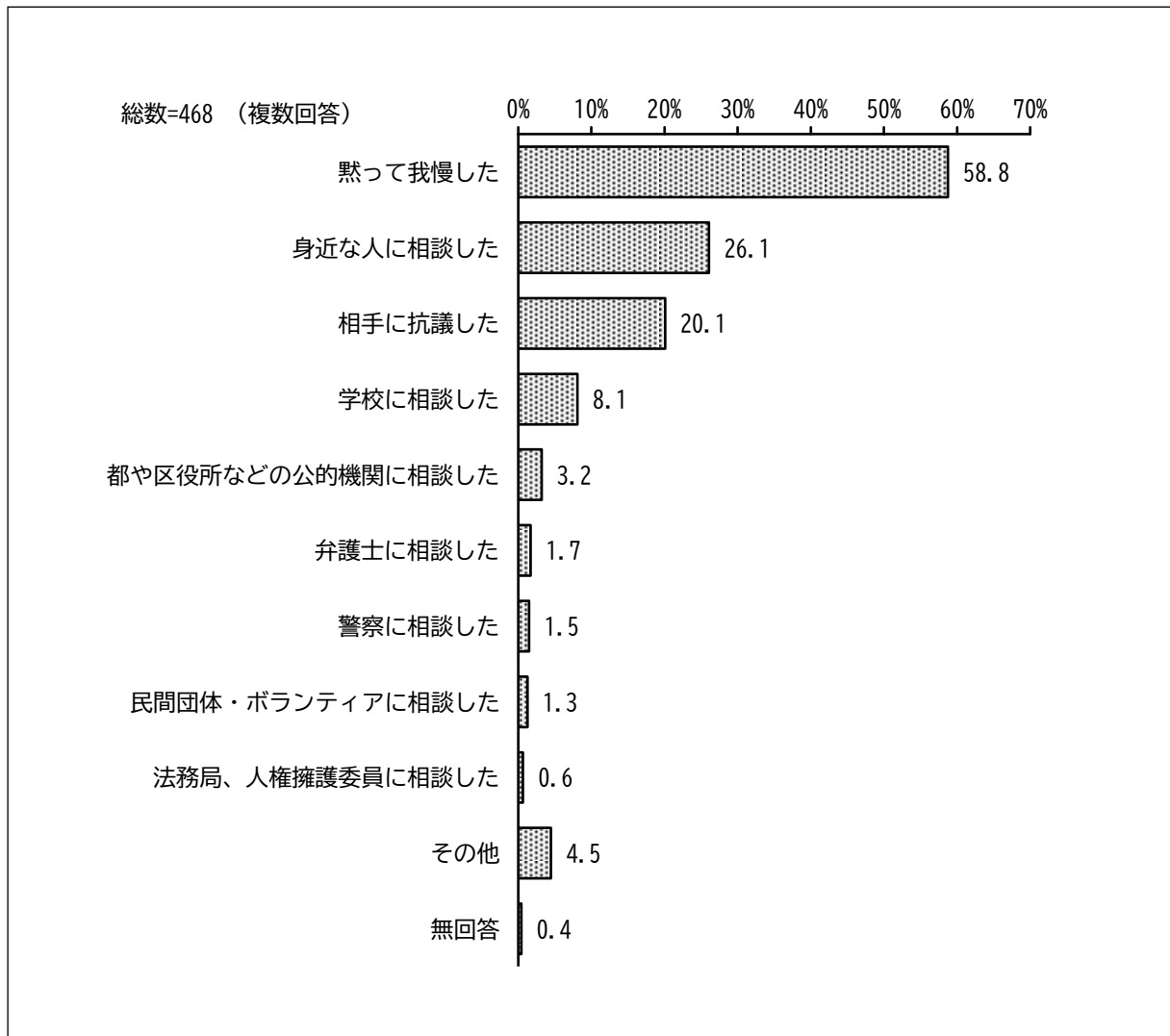
●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「男女（性）差別」「子どもへのいじめ・虐待」「外国人差別」「性的マイノリティに関する差別」が増加を続けており、特に今回調査の「男女（性）差別」は前回調査を5ポイント上回っています。

問 4-1 最もひどい人権侵害への対応

問4で「1」～「17」「19」を選択された方（「人権」が侵害されたと感じたことがあるとお答えの方）にうかがいます。

では、最もひどい人権侵害に対して、どのように対応しましたか。（〇はいくつでも）



図表 21 最もひどい人権侵害への対応

○全体の傾向

人権が侵害されたと感じたことがあると回答した人に対して、その際の対応方法を聞いたところ、具体的に対応したこととしては「身近な人に相談した」が 26.1%で最も多く、「相手に抗議した」（20.1%）、「学校に相談した」（8.1%）が続きます。

一方、「黙って我慢した」という回答が 58.8%と過半数を占めています。

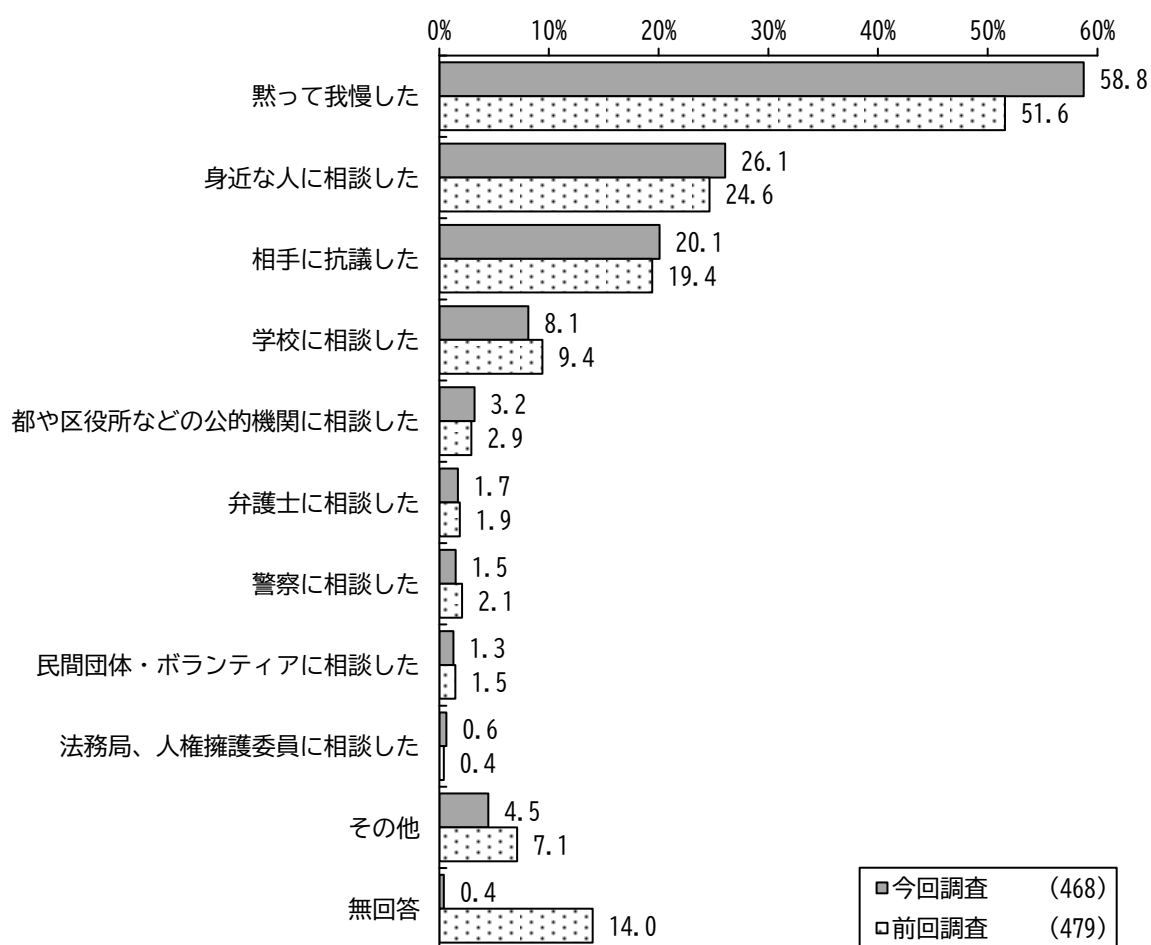
		人数	相手に抗議した	身近な人に相談した	警察に相談した	都や区役所などの公的機関に相談した	民間団体・ボランティアに相談した	学校に相談した	弁護士に相談した	法務局、人権擁護委員に相談した	黙って我慢した	その他	無回答	
全体		468	20.1	26.1	1.5	3.2	1.3	8.1	1.7	0.6	58.8	4.5	0.4	
性別	女性	286	20.3	31.5	1.4	4.2	0.3	6.6	1.0	0.7	57.7	4.5	0.7	
	男性	180	18.9	17.2	1.7	1.7	2.8	10.6	2.8	0.6	61.1	3.9	-	
	その他・無回答 ※参考値	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
性・年代別	女性	18～29歳 ※参考値	30	16.7	26.7	-	-	-	-	-	60.0	6.7	-	
		30～39歳	59	20.3	39.0	-	1.7	-	1.7	-	1.7	62.7	1.7	-
		40～49歳	55	20.0	25.5	3.6	9.1	-	9.1	3.6	-	52.7	3.6	-
		50～59歳	66	21.2	28.8	-	1.5	-	10.6	-	-	57.6	4.5	-
		60～69歳 ※参考値	46	28.3	43.5	2.2	6.5	2.2	10.9	2.2	-	54.3	4.3	-
		70歳以上 ※参考値	30	10.0	20.0	3.3	6.7	-	3.3	-	3.3	60.0	10.0	6.7
	男性	18～29歳 ※参考値	14	21.4	14.3	-	-	-	7.1	-	-	64.3	7.1	-
		30～39歳 ※参考値	40	22.5	17.5	-	-	-	2.5	-	-	67.5	2.5	-
		40～49歳 ※参考値	35	22.9	20.0	-	2.9	2.9	8.6	5.7	-	60.0	2.9	-
		50～59歳 ※参考値	40	17.5	20.0	-	-	2.5	7.5	-	-	60.0	5.0	-
		60～69歳 ※参考値	37	16.2	16.2	8.1	5.4	8.1	21.6	8.1	2.7	54.1	5.4	-
		70歳以上 ※参考値	14	7.1	7.1	-	-	-	21.4	-	-	64.3	-	-
	その他・無回答 ※参考値		2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-

図表 22 最もひどい人権侵害への対応(男女・年代別)

○男女別の傾向

女性の「身近な人に相談した」は31.5%であり、男性を14ポイント上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 23 最もひどい人権侵害への対応＜前回調査との比較＞

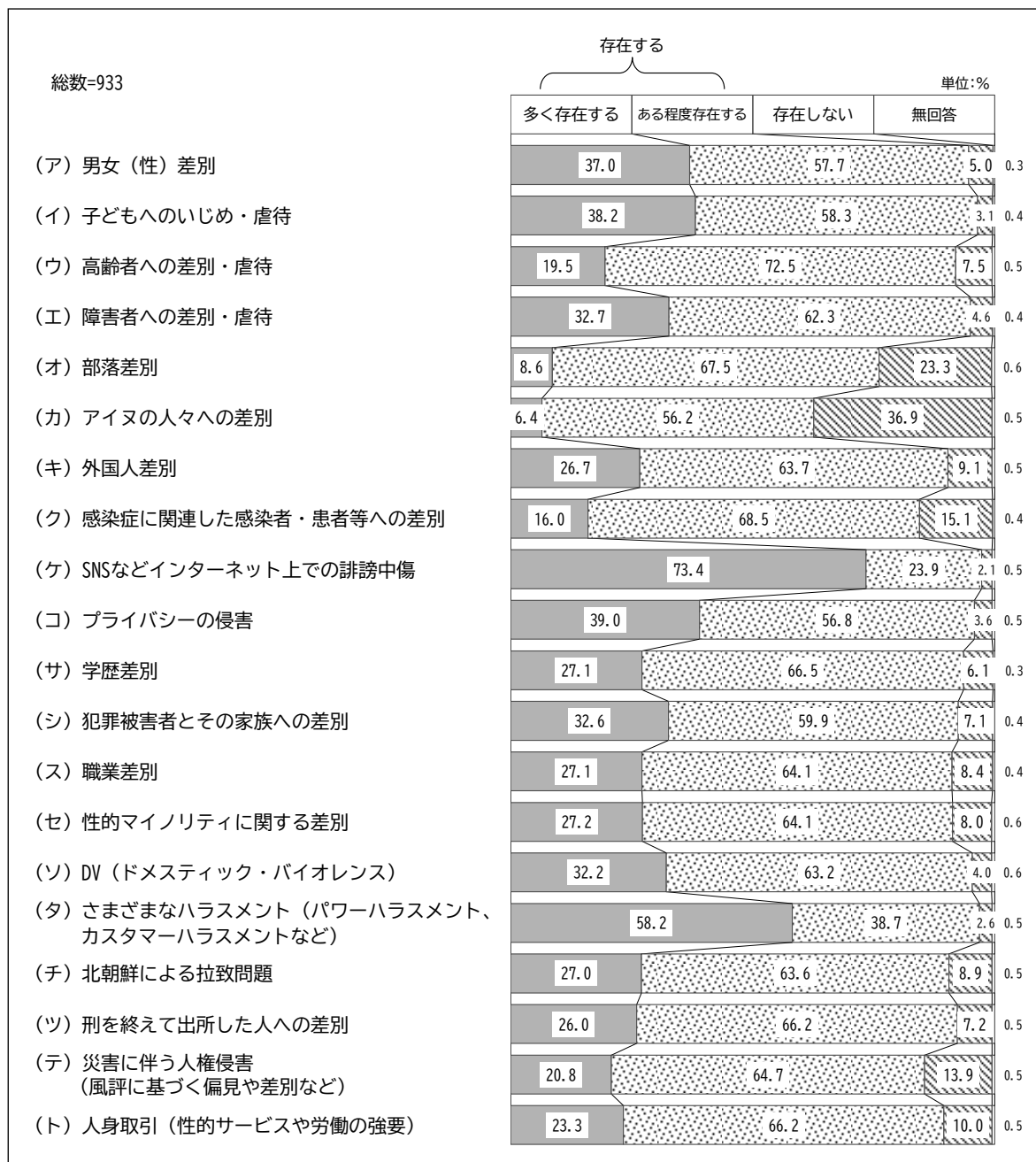
●前回調査との比較

今回調査・前回調査とも「黙って我慢した」が5割台となっており、大きな傾向の違いは見られません。

問5 現在の社会に存在する人権侵害

あなたは、現在の社会で、次のような差別や人権侵害が存在すると思いますか。(ア)～(ト)の各項目についてお答えください。

(ア～トのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



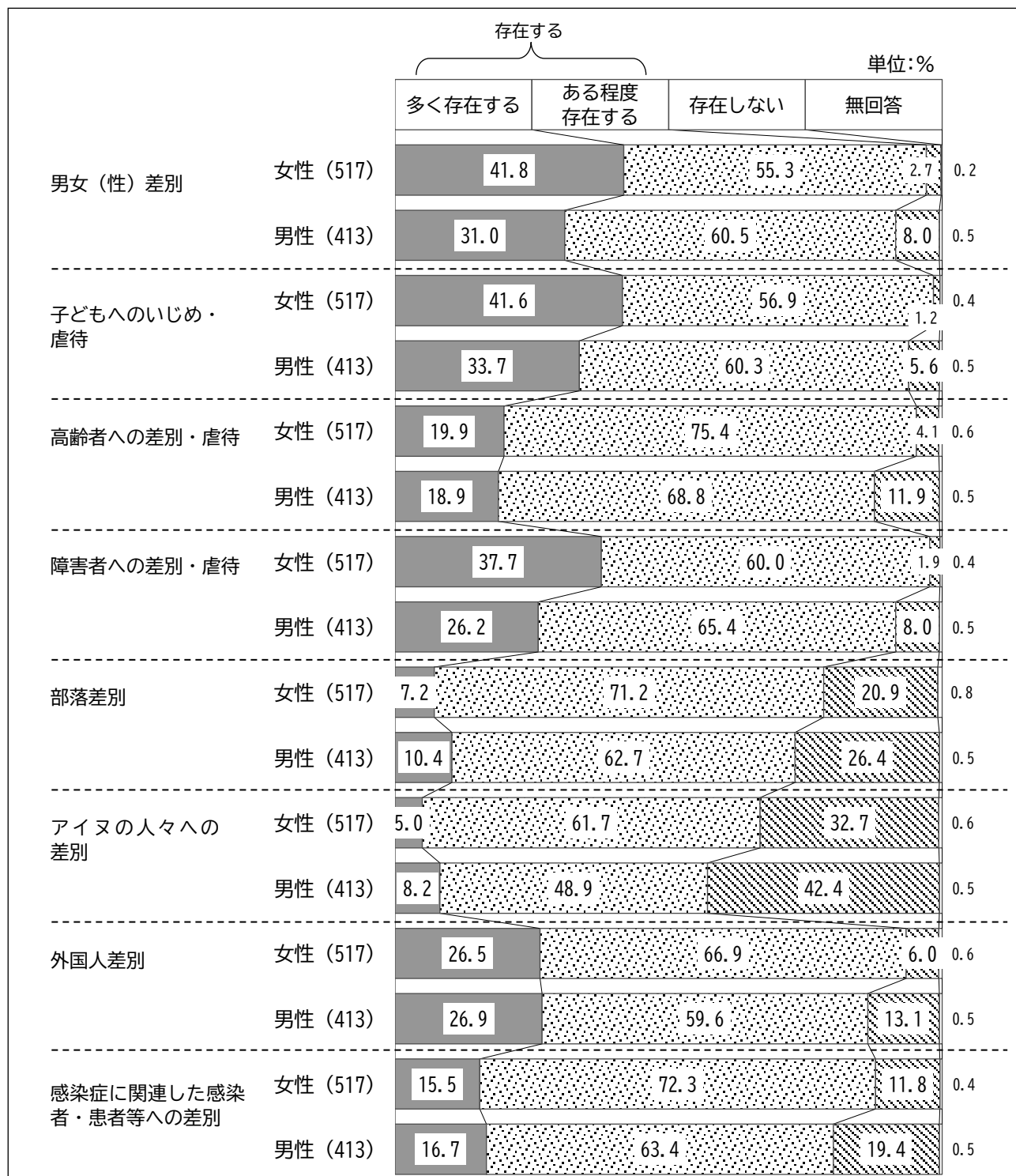
図表 24 現在の社会に存在する人権侵害

○全体の傾向

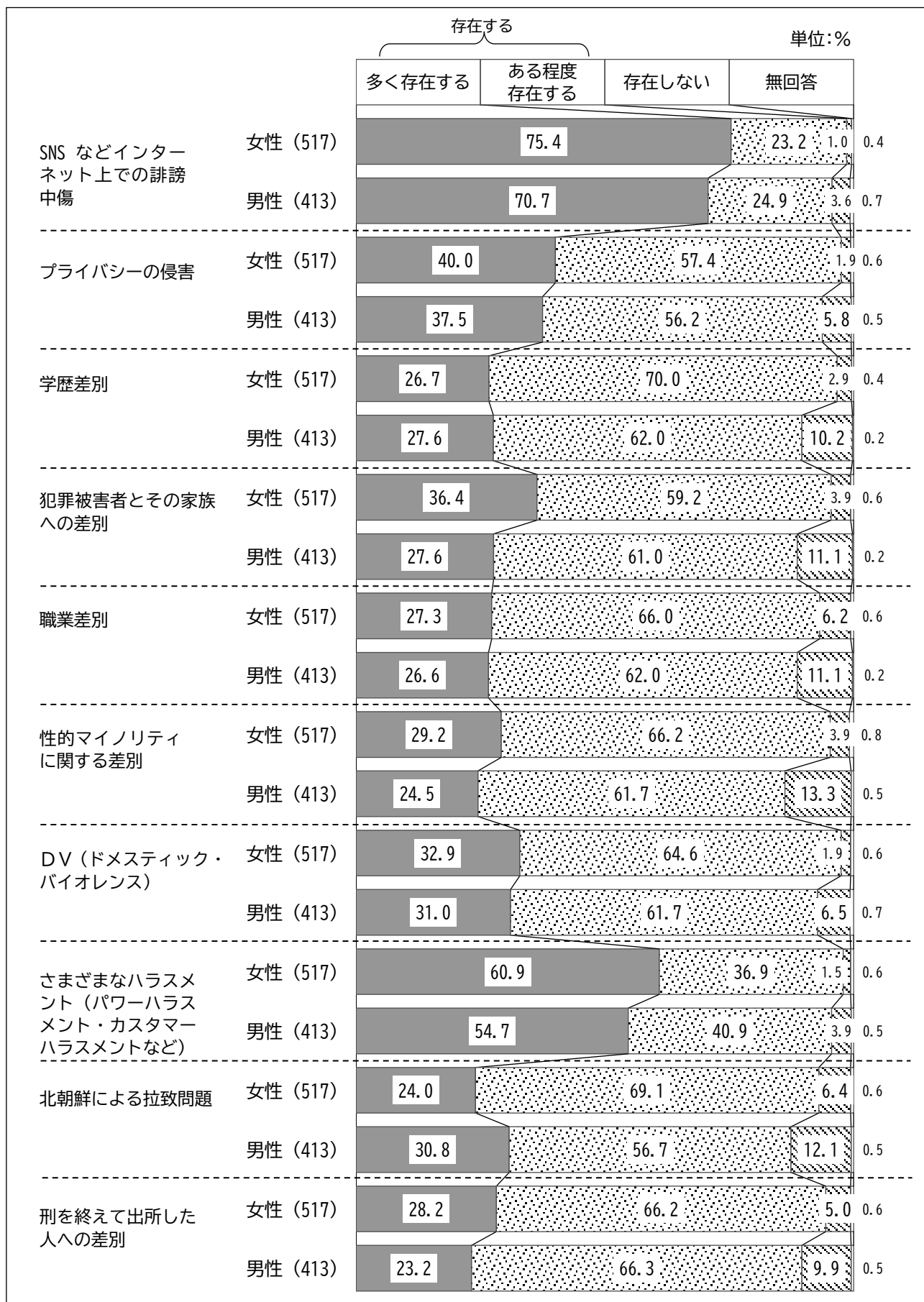
現在の社会に存在する人権侵害について、『SNS などインターネット上での誹謗中傷』では「多く存在する」が 73.4%、『さまざまなハラスメント(パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど)』では「多く存在する」が 58.2%となっています。このほか、『プライバ

シーの侵害』(39.0%)、『子どもへのいじめ・虐待』(38.2%)、『男女(性)差別』(37.0%)では「多く存在する」が4割弱となっています。また、『部落差別』『アイヌの人々への差別』以外の項目では、“存在する(「多く存在する」と「ある程度存在する」の合計)”が8割以上を占めています。

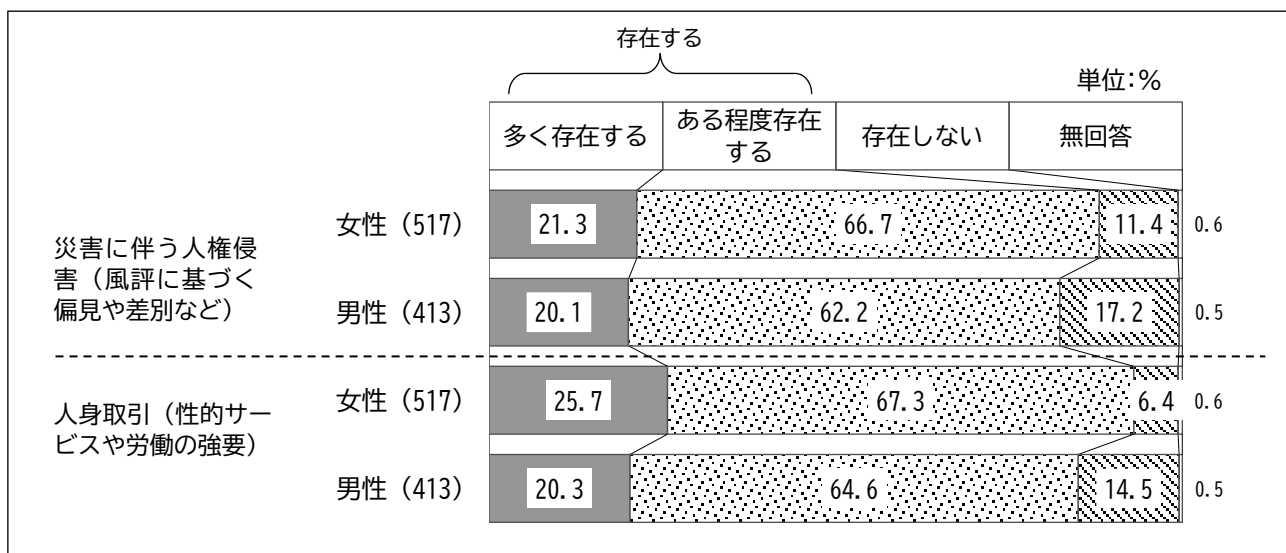
一方、『部落差別』『アイヌの人々への差別』(62.6%)では“存在する”が6割から7割台であり、「存在しない」という回答が2割から3割台となっています。



図表 25 現在の社会に存在する人権侵害(男女別)①



図表 26 現在の社会に存在する人権侵害(男女別)②



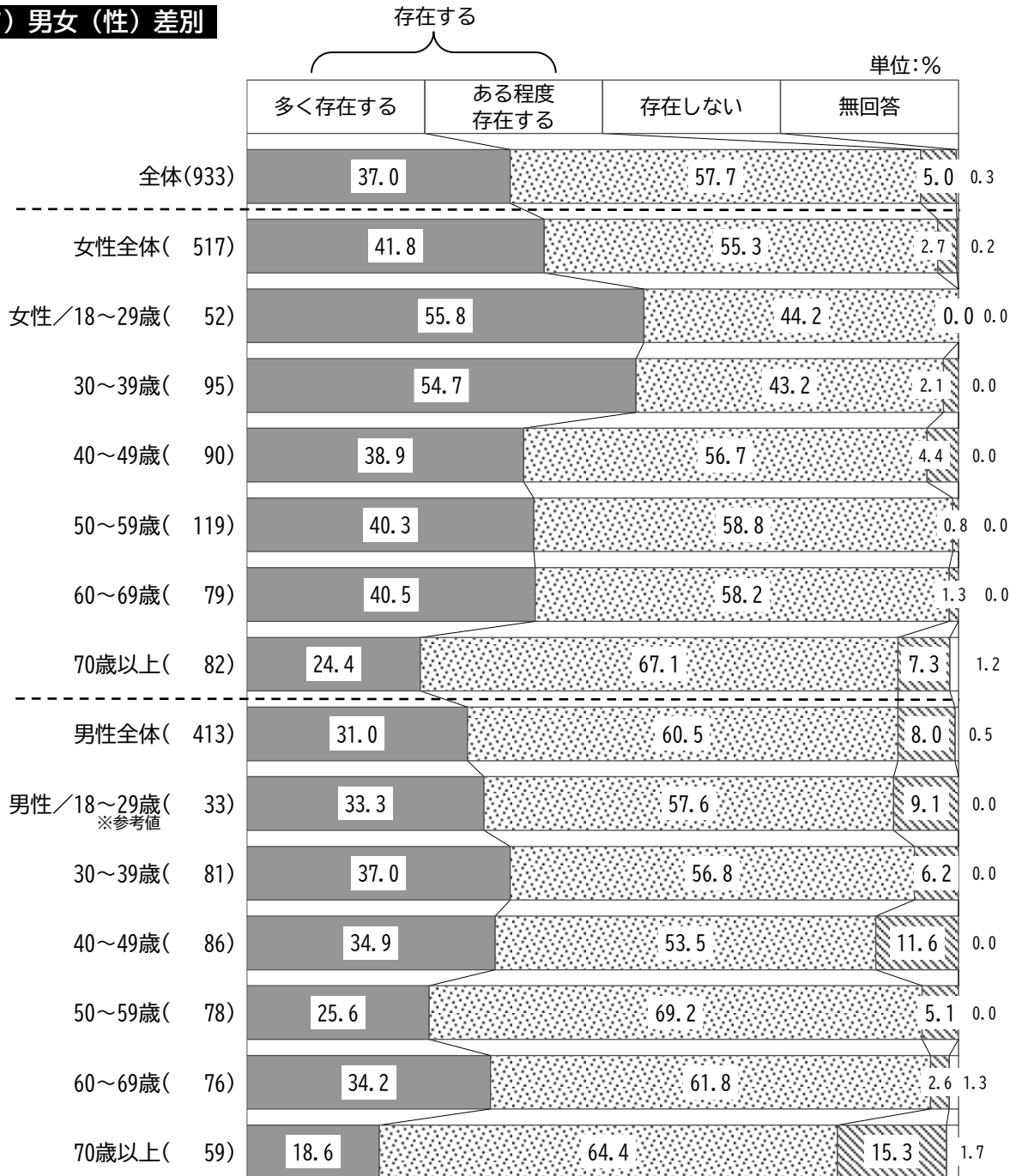
図表 27 現在の社会に存在する人権侵害(男女別)③

○男女別の傾向

『男女（性）差別』『子どもへのいじめ・虐待』『障害者への差別・虐待』『犯罪被害者とその家族への差別』『さまざまなハラスメント（パワーハラスメント・カスタマーハラスメントなど）』については、女性の「多く存在する」の割合が男性を6ポイント以上上回っています。

『アイヌの人々への差別』『人身取引（性的サービスや労働の強要）』については、女性の“存在する”の割合が男性を8ポイント以上上回っている一方で、男性の「存在しない」の割合は女性を8ポイント以上上回っています。

(ア) 男女(性)差別



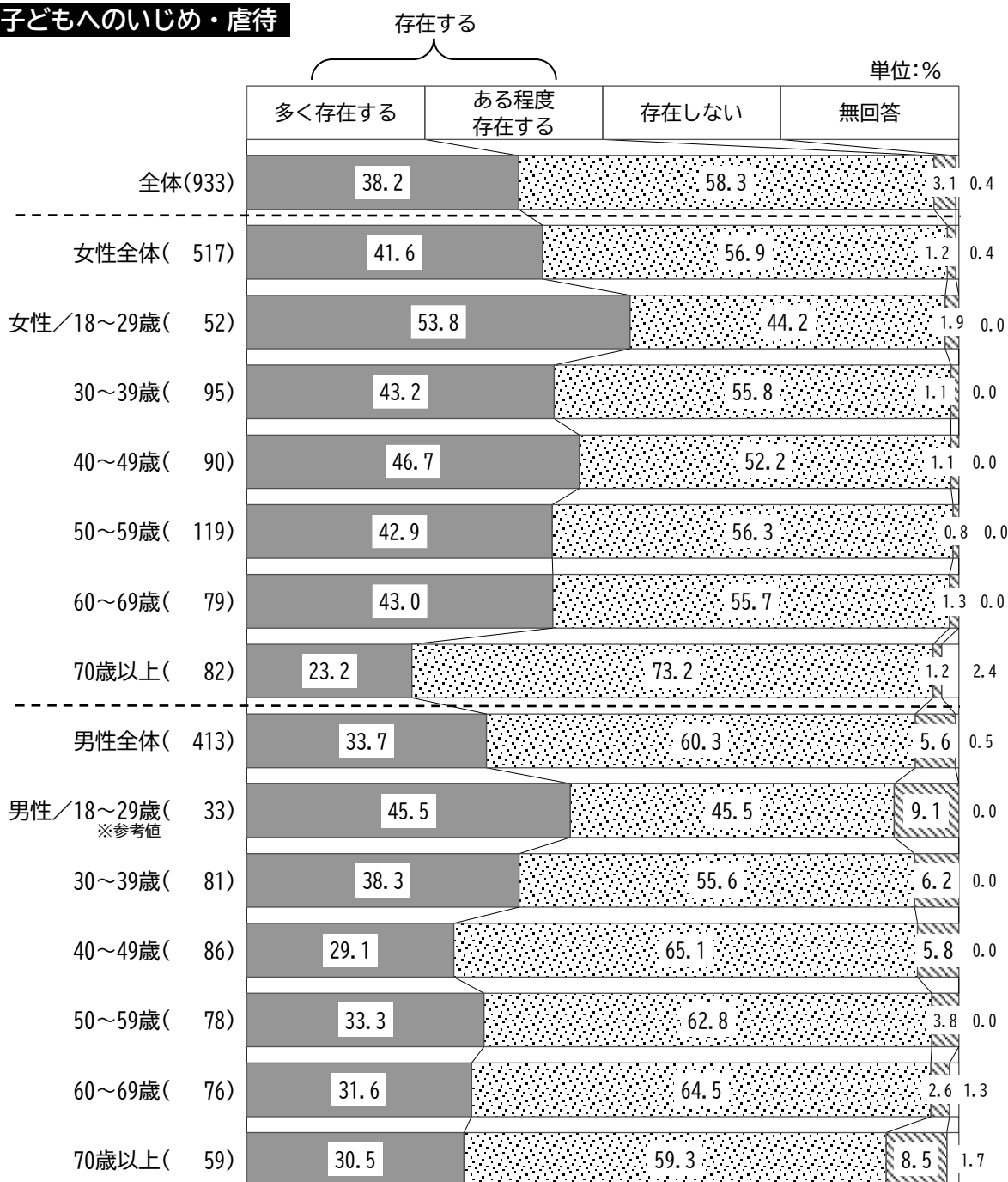
図表 28 現在の社会に存在する人権侵害『男女(性)差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「多く存在する」が5割台半ばから6割弱であり、他の年代を14ポイント以上上回っています。

男性では、40～49歳と70歳以上で“存在する”が8割台にとどまっており、「存在しない」が1割台となっています。

(イ) 子どもへのいじめ・虐待



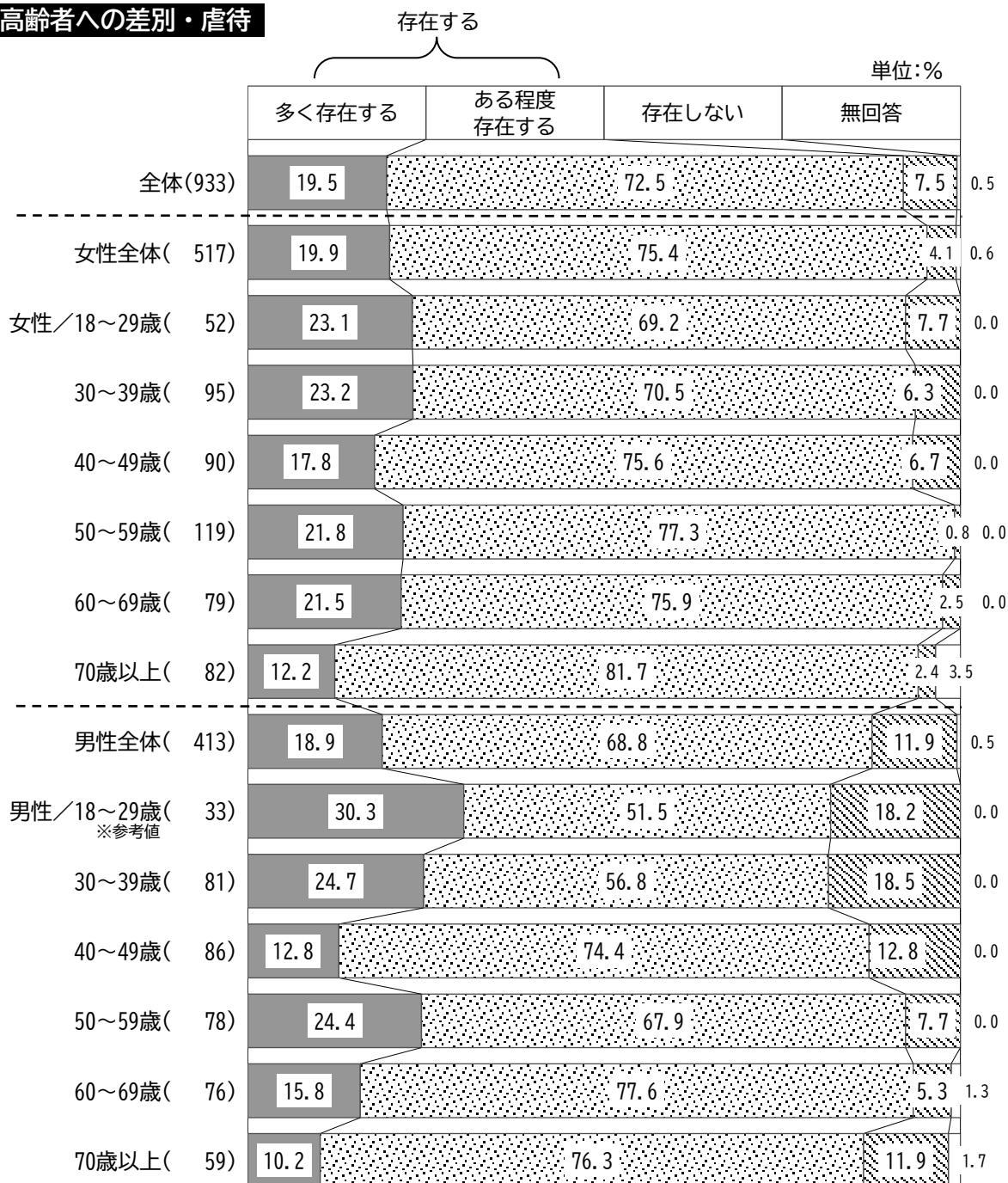
図表 29 現在の社会に存在する人権侵害『子どもへのいじめ・虐待』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では「多く存在する」が 53.8%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「多く存在する」が 23.2%であり、他の年代を 19 ポイント以上下回っています。

このほか、男性の 70 歳以上では“存在する”が 89.8%にとどまっています。

(ウ) 高齢者への差別・虐待



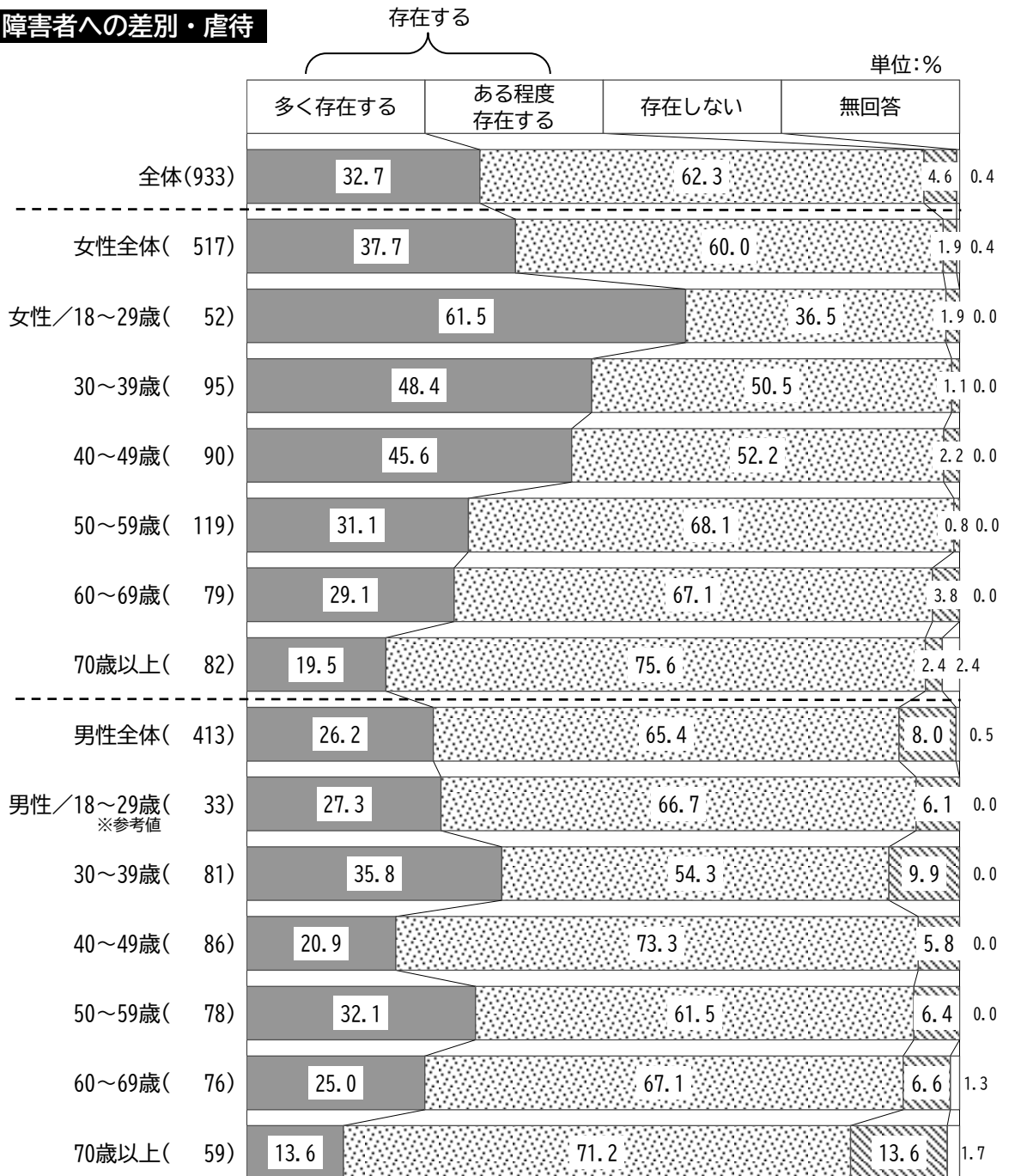
図表 30 現在の社会に存在する人権侵害『高齢者への差別・虐待』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の各年代とも“存在する”が9割台を占めています。70歳以上では「多く存在する」が12.2%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、50～59歳と60～69歳で“存在する”が9割強となっており、他の年代を5ポイント以上上回っています。一方、30～39歳では「存在しない」が18.5%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

(工) 障害者への差別・虐待



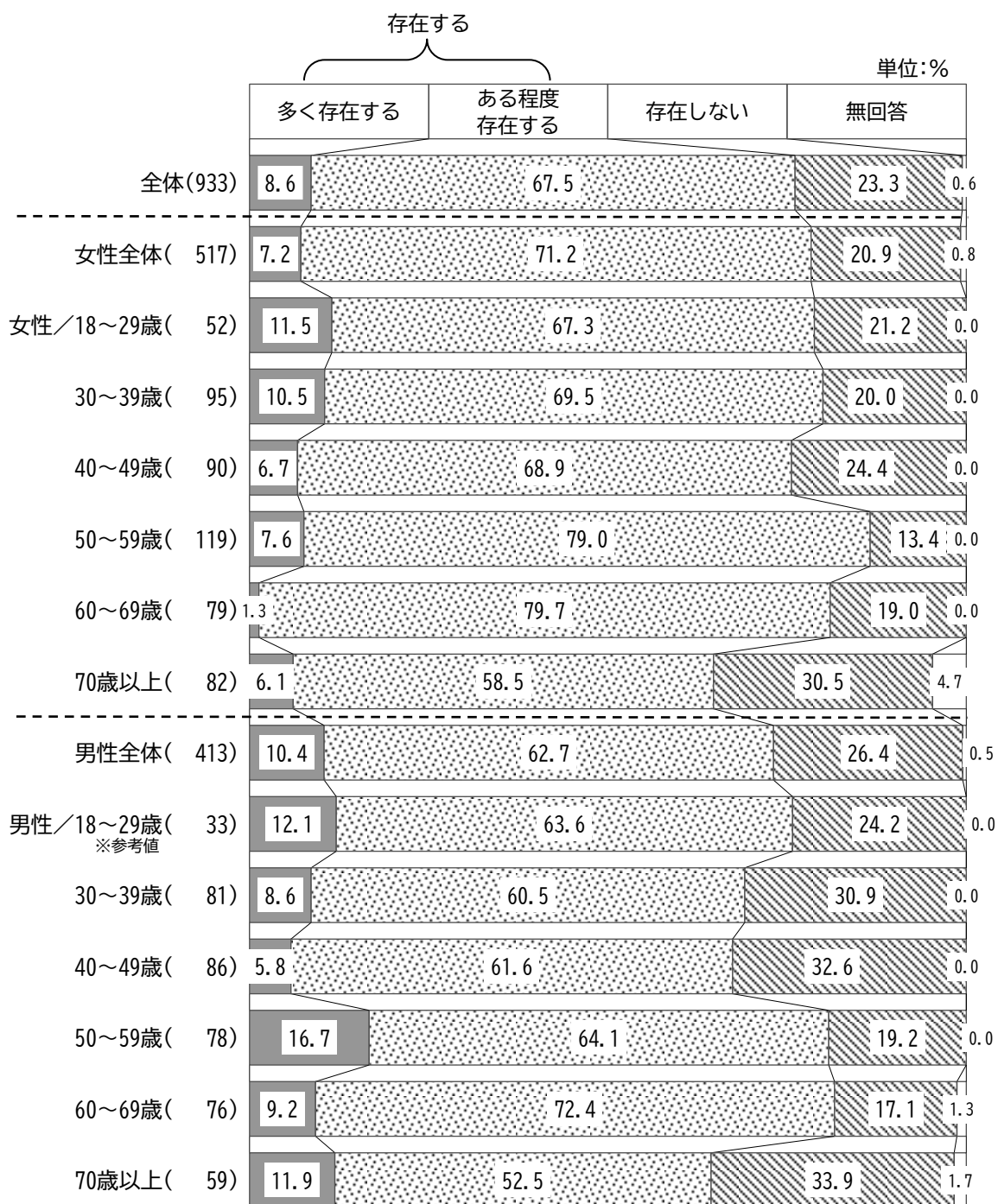
図表 31 現在の社会に存在する人権侵害『障害者への差別・虐待』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「多く存在する」が61.5%であり、他の年代を13ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では19.5%にとどまっています。

男性では、30～39歳と50～59歳で「多く存在する」が3割台であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。

(オ) 部落差別

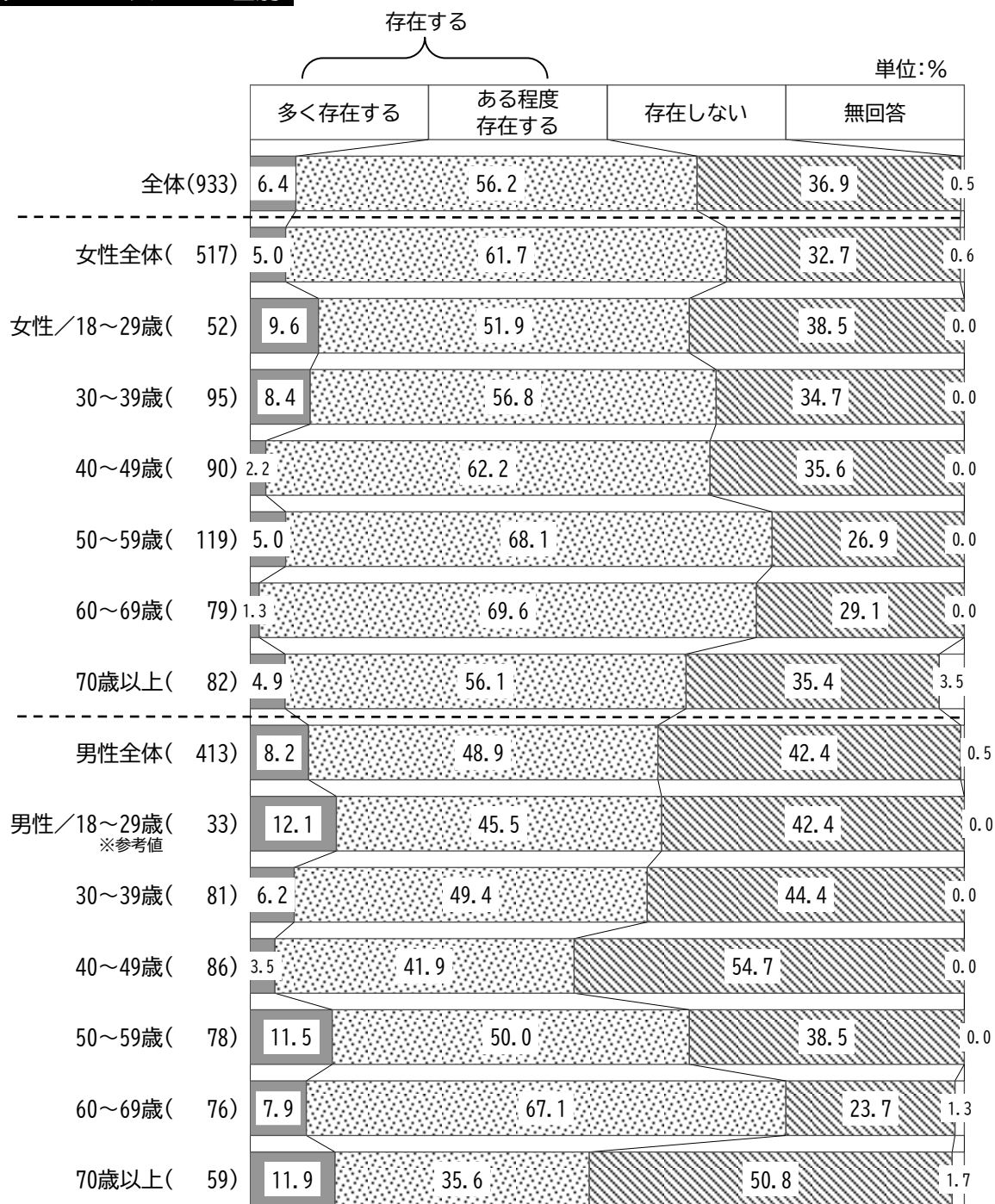


図表 32 現在の社会に存在する人権侵害『部落差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の69歳以下、男性の50～59歳と60～69歳では“存在する”が8割以上、男女の70歳以上では6割強となっています。また、男女とも70歳以上では「存在しない」が3割強となっています。

(カ) アイヌの人々への差別

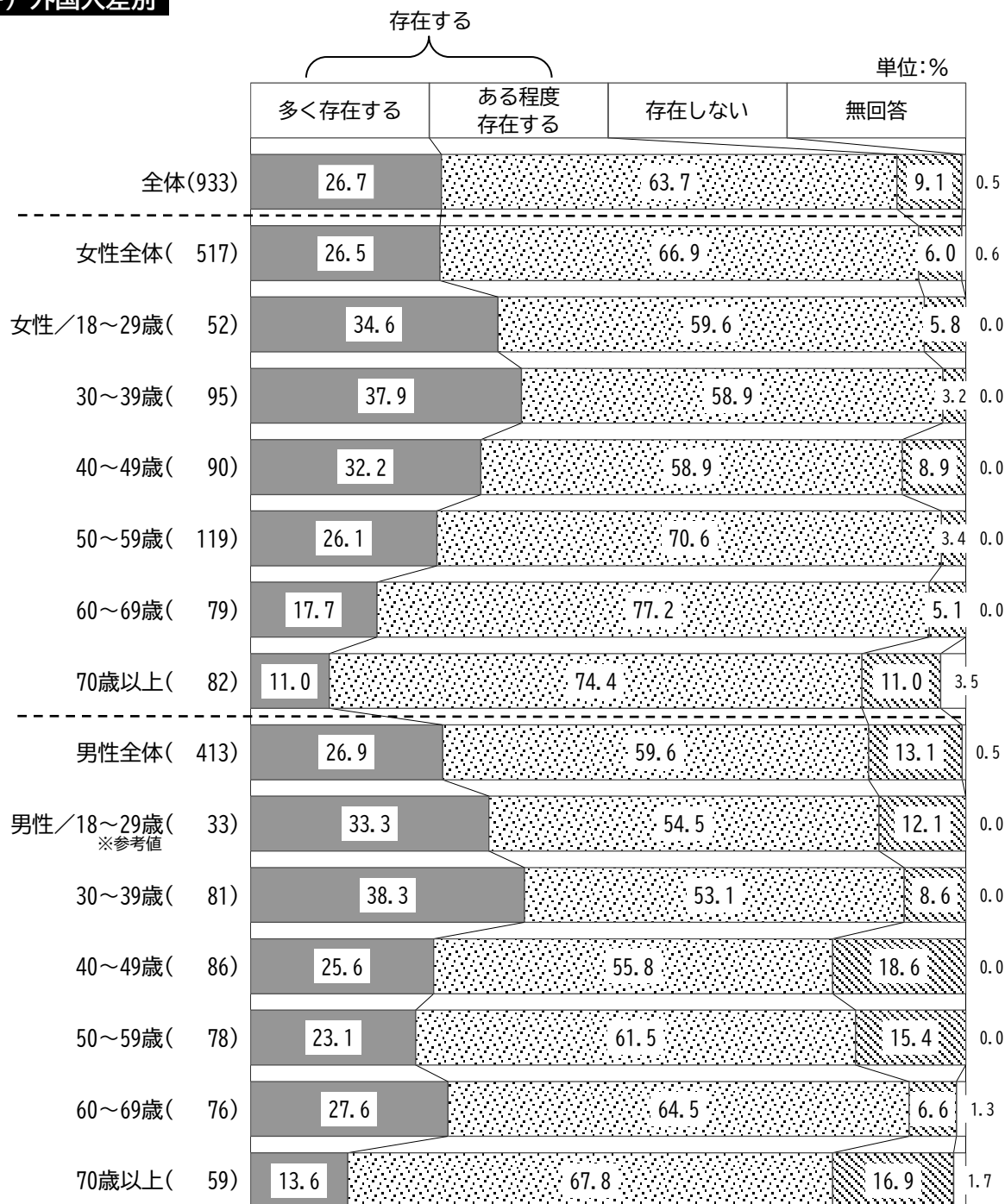


図表 33 現在の社会に存在する人権侵害『アイヌの人々への差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳と 60～69 歳では“存在する”が7割強であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。男性では、60～69 歳で“存在する”が 75.0%であるのに対し、40～49 歳と 70 歳以上では4割台半ばから5割弱にとどまっており、「存在しない」が過半数を占めています。

(キ) 外国人差別



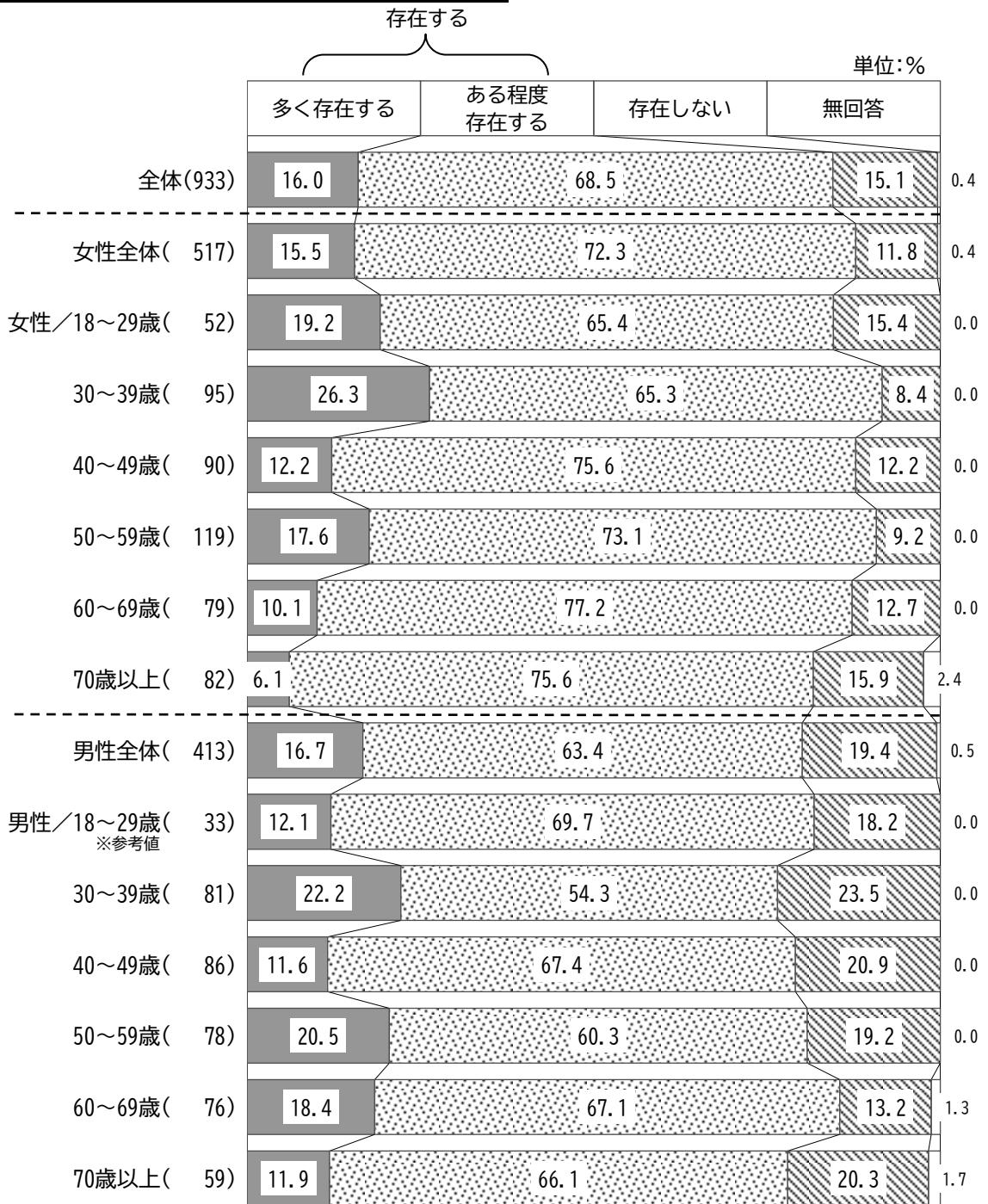
図表 34 現在の社会に存在する人権侵害『外国人差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、60～69歳と70歳以上では1割台にとどまっています。

このほか、男性の40～49歳と50～59歳、70歳以上では「存在しない」が1割台半ばから2割弱となっています。

(ク) 感染症に関連した感染者・患者等への差別



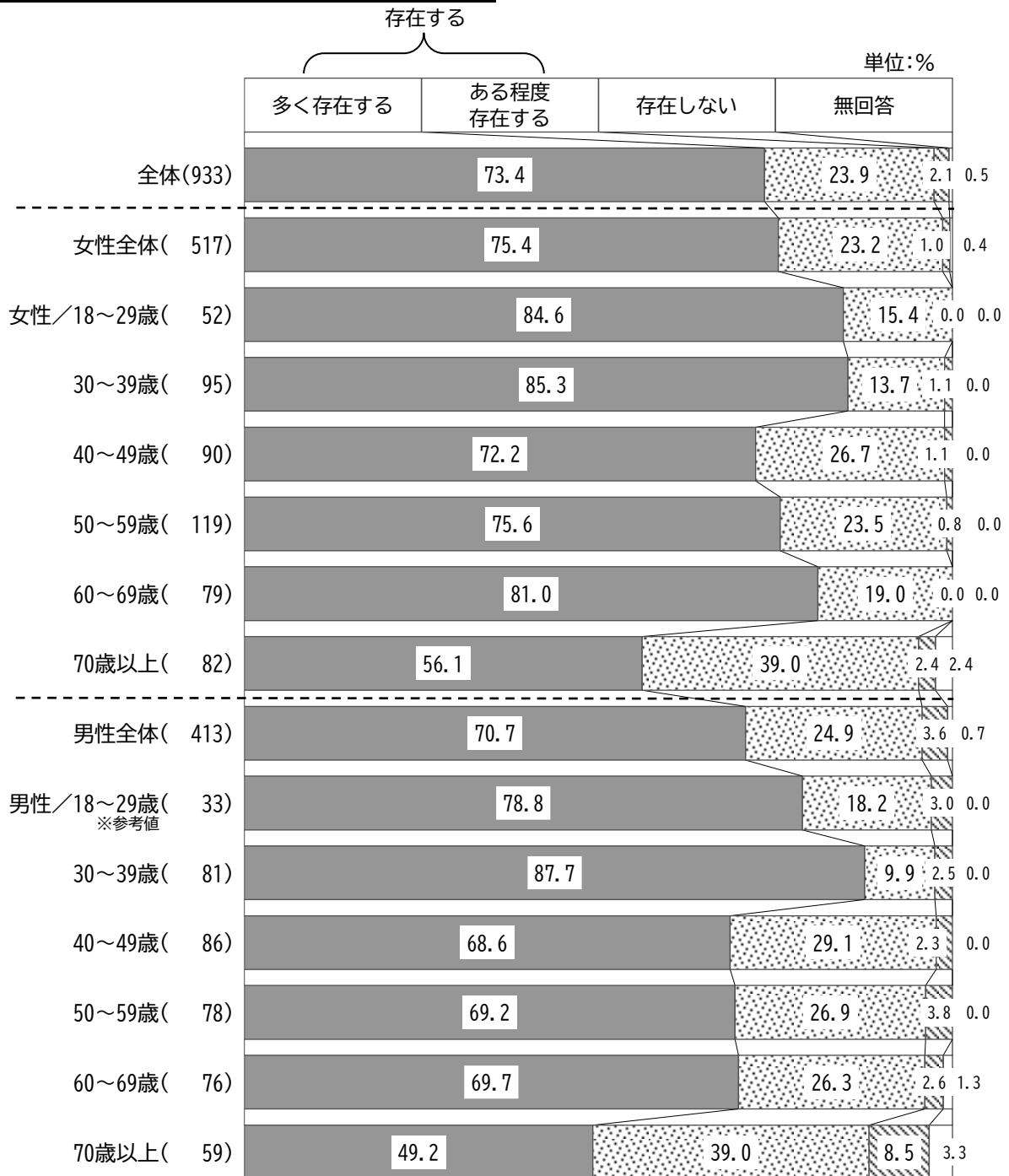
図表 35 現在の社会に存在する人権侵害『感染症に関連した感染者・患者等への差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30~39 歳では「多く存在する」が 26.3%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。

男性では、30 歳~39 歳と 50~59 歳、60~69 歳で「多く存在する」が 2 割前後であるのに対し、40~49 歳と 70 歳以上では 1 割強にとどまっています。

(ケ) SNS などインターネット上での誹謗中傷



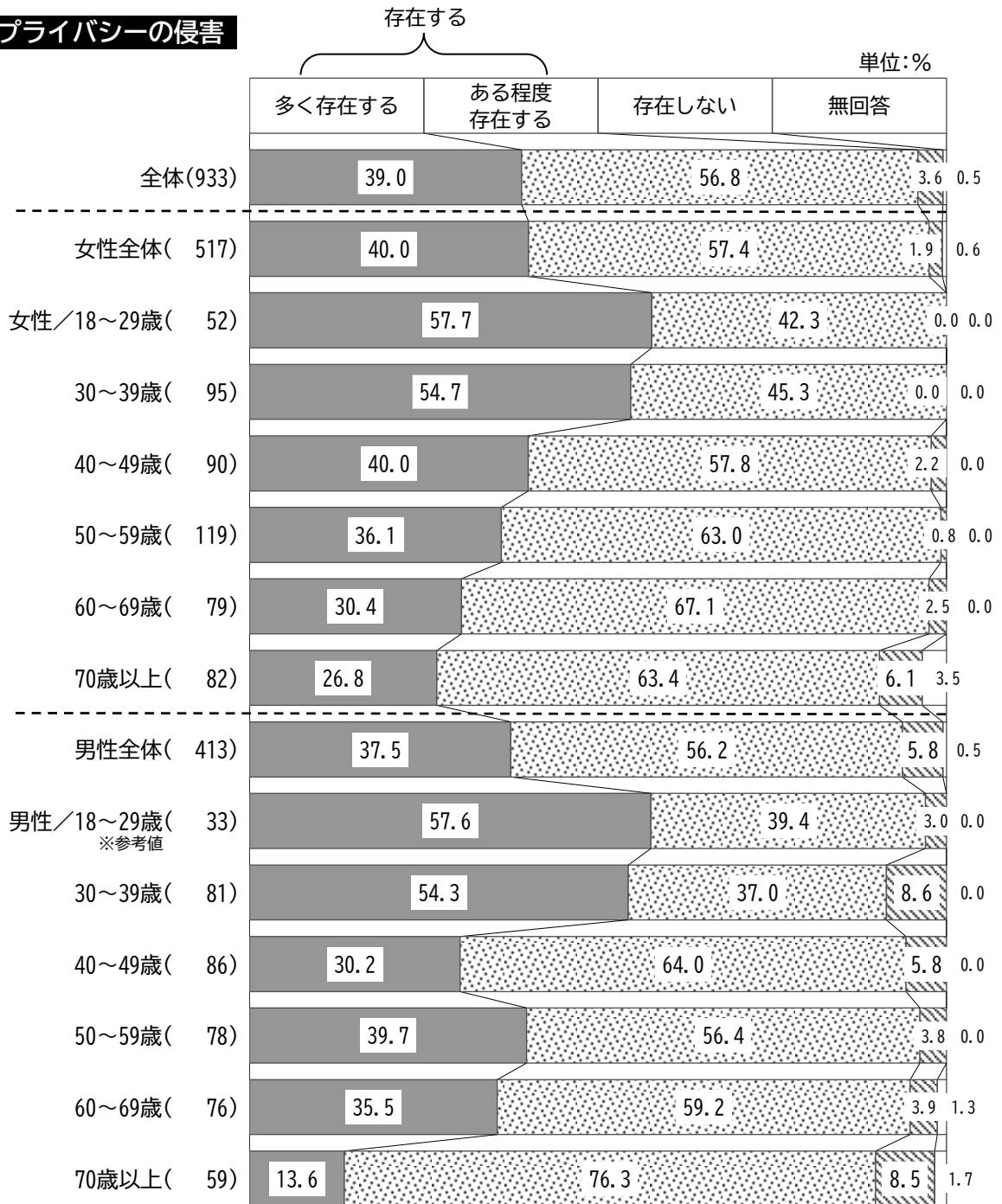
図表 36 現在の社会に存在する人権侵害『SNS などインターネット上での誹謗中傷』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳、30～39 歳、60～69 歳では「多く存在する」が 8 割台であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。男性の 30～39 歳では「多く存在する」が 87.7%であり、他の年代を 18 ポイント以上上回っています。

このほか、男女とも 70 歳以上では「多く存在する」が 5 割弱から 6 割弱にとどまっています。

(コ) プライバシーの侵害



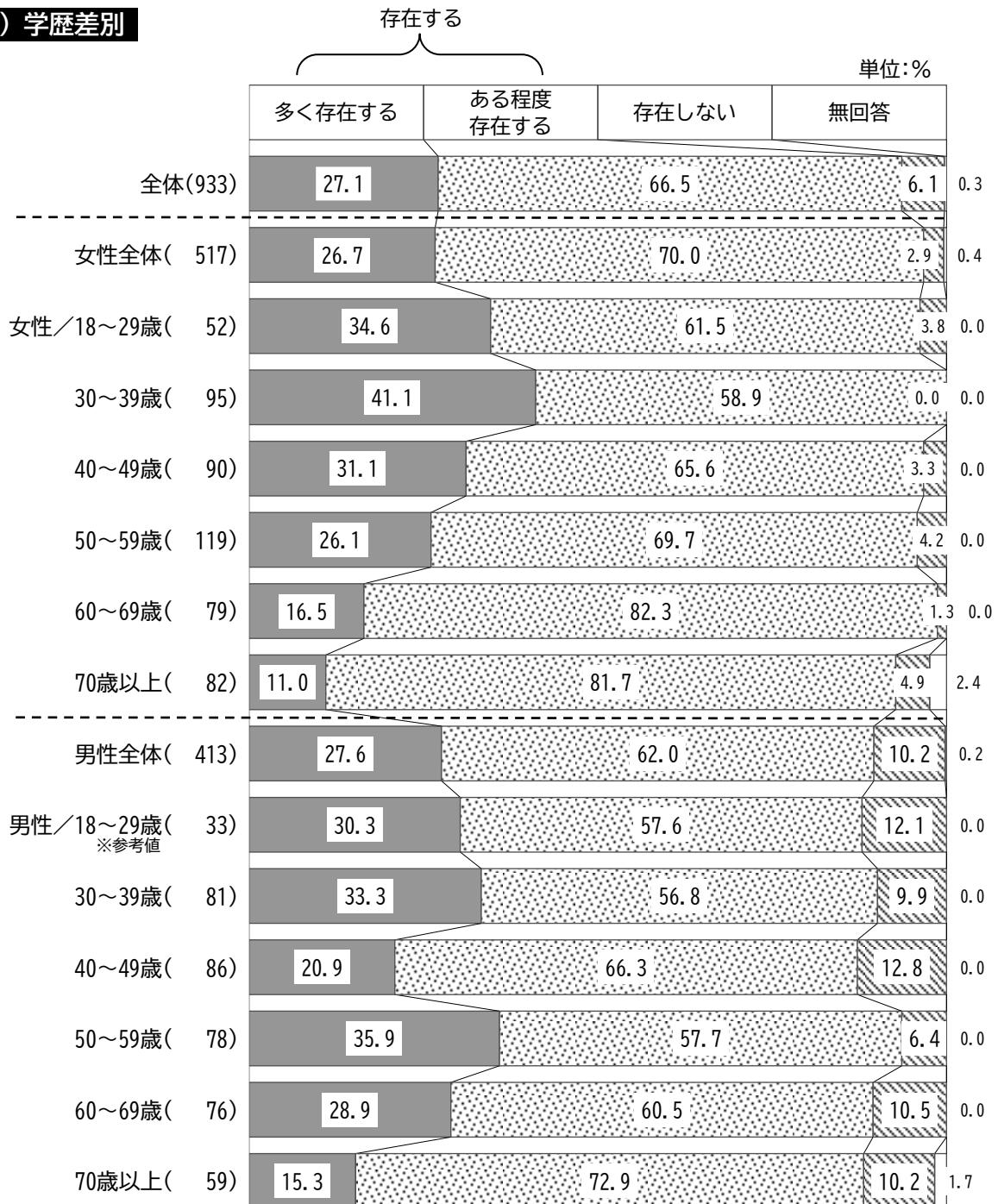
図表 37 現在の社会に存在する人権侵害『プライバシーの侵害』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は年代とともに減少する傾向があり、18～29 歳と 30～39 歳で5割台であるのに対し、70 歳以上では 26.8%にとどまっています。

男性では、30～39 歳で「多く存在する」が 54.3%であり、他の年代を 14 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「多く存在する」が 13.6%であり、他の年代を 16 ポイント以上下回っています。

(サ) 学歴差別



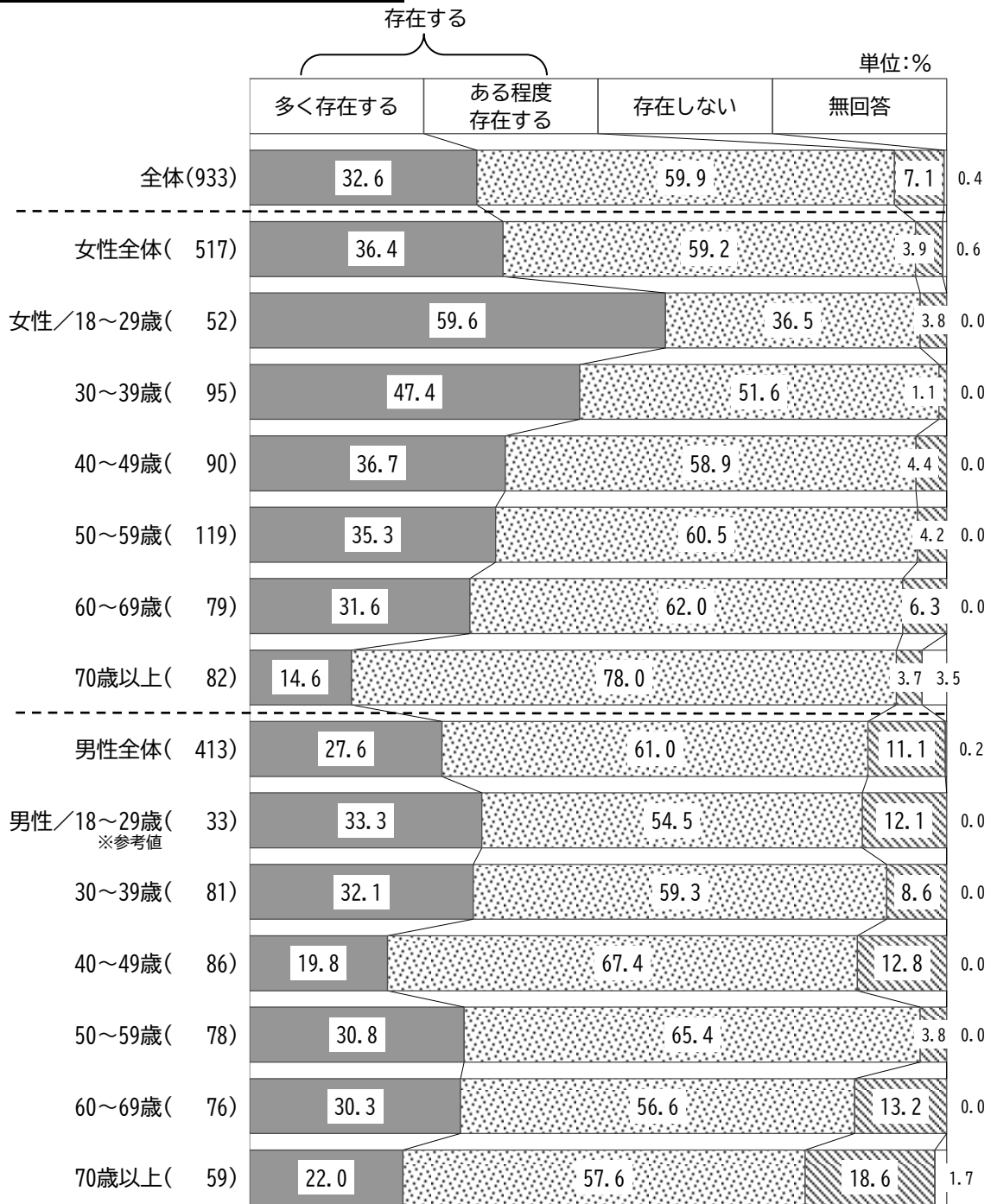
図表 38 現在の社会に存在する人権侵害『学歴差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳では「多く存在する」が 41.1%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、30～39 歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、60～69 歳と 70 歳以上では 1 割台となっています。

男性では、40～49 歳と 70 歳以上で「多く存在する」が 1 割台半ばから 2 割であり、男性他の年代を 6 ポイント以上下回っています。

(シ) 犯罪被害者とその家族への差別



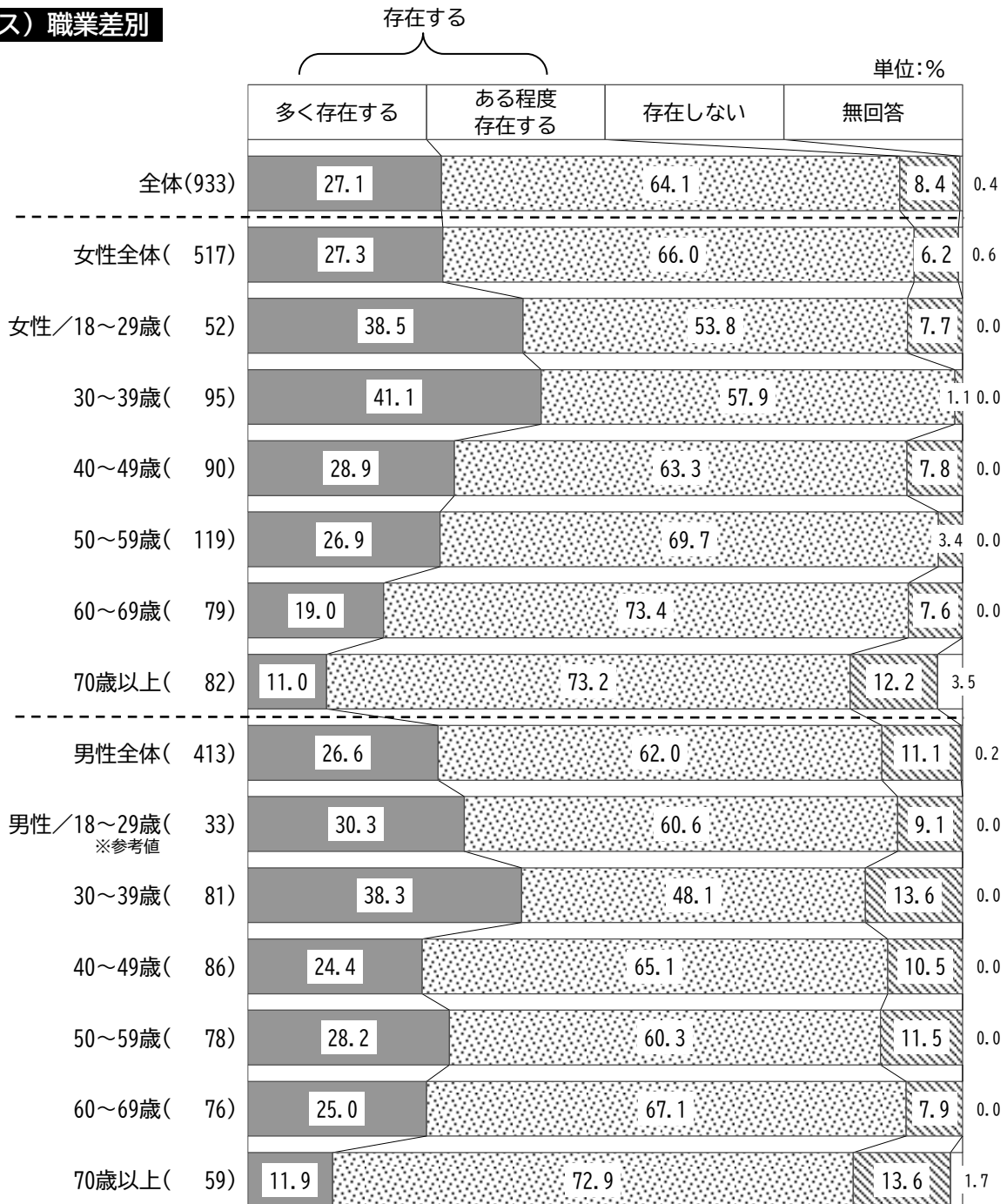
図表 39 現在の社会に存在する人権侵害『犯罪被害者とその家族への差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は年代とともに減少する傾向があり、18～29歳で59.6%であるのに対し、70歳以上では14.6%にとどまっています。

男性では、40～49歳と70歳以上で「多く存在する」が2割前後であり、他の年代を8ポイント以上下回っています。

(ス) 職業差別



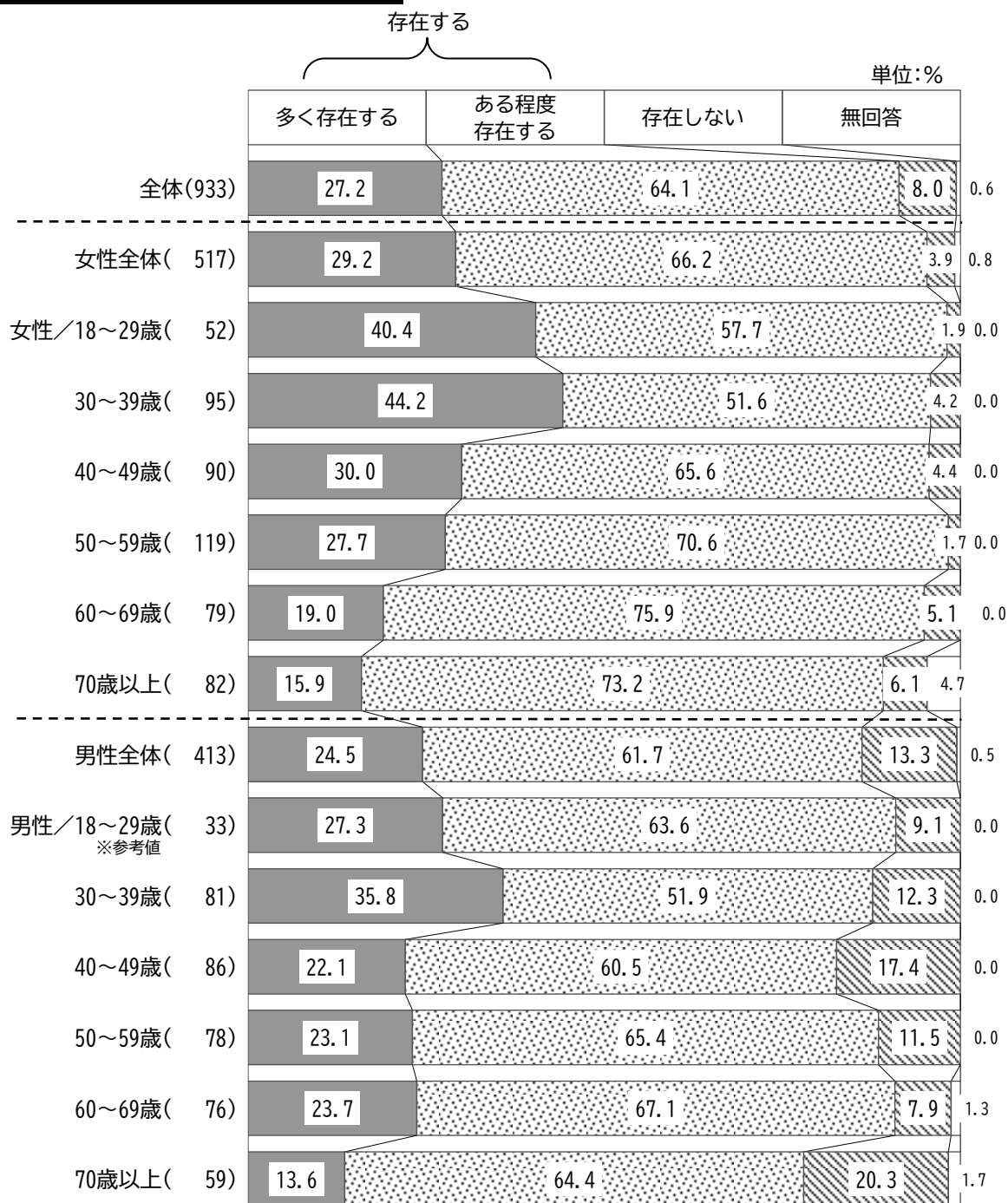
図表 40 現在の社会に存在する人権侵害『職業差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「多く存在する」が4割前後であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、60～69歳と70歳以上では1割台となっています。

男性の30～39歳では、「多く存在する」が38.3%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。

(セ) 性的マイノリティに関する差別



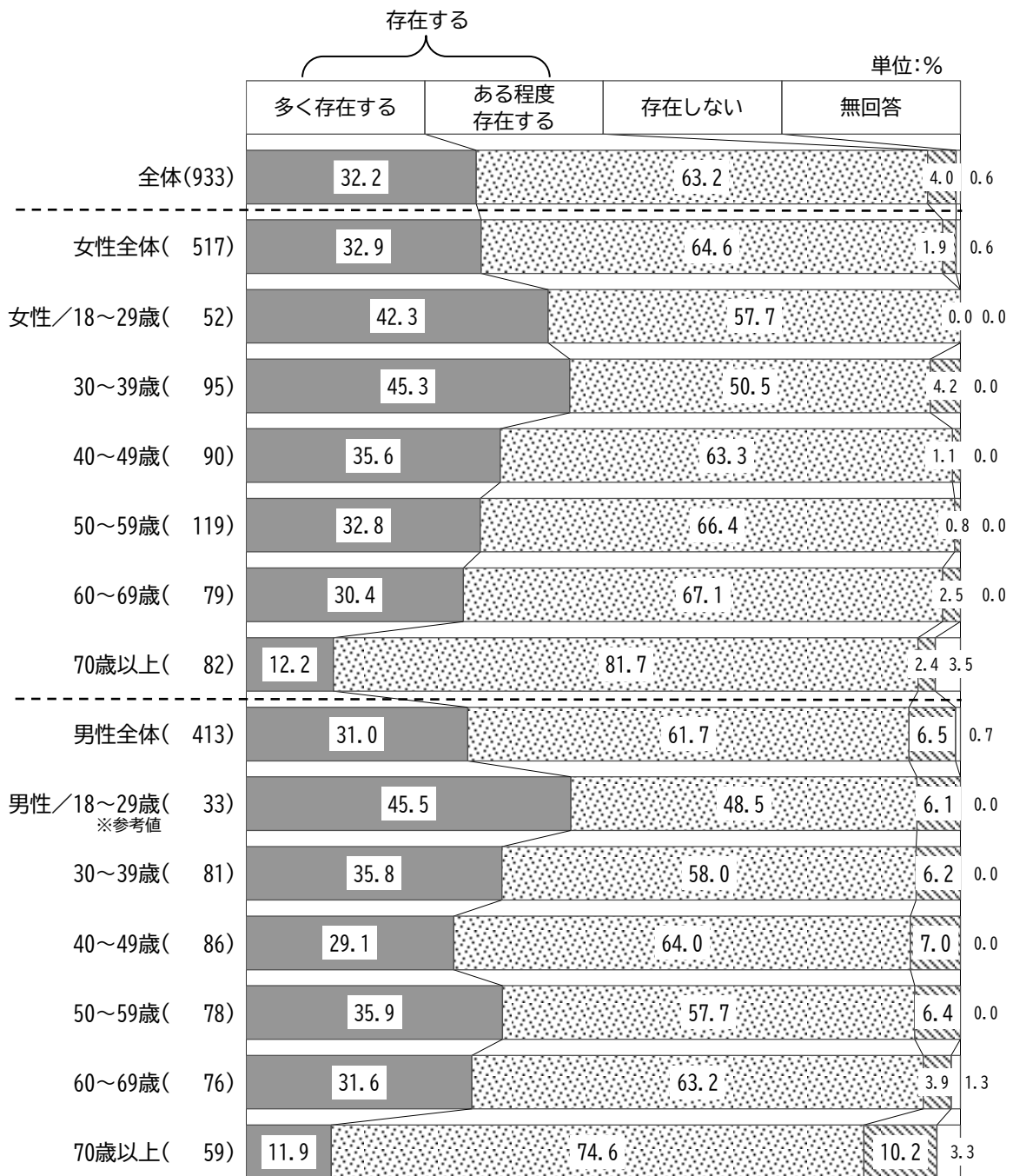
図表 41 現在の社会に存在する人権侵害『性的マイノリティに関する差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「多く存在する」が4割強であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、60～69歳と70歳以上では2割弱となっています。

男性の30～39歳では、「多く存在する」が35.8%であり、他の年代を12ポイント以上上回っています。40～49歳と70歳以上では「存在しない」が2割前後であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

(ソ) DV (ドメスティック・バイオレンス)



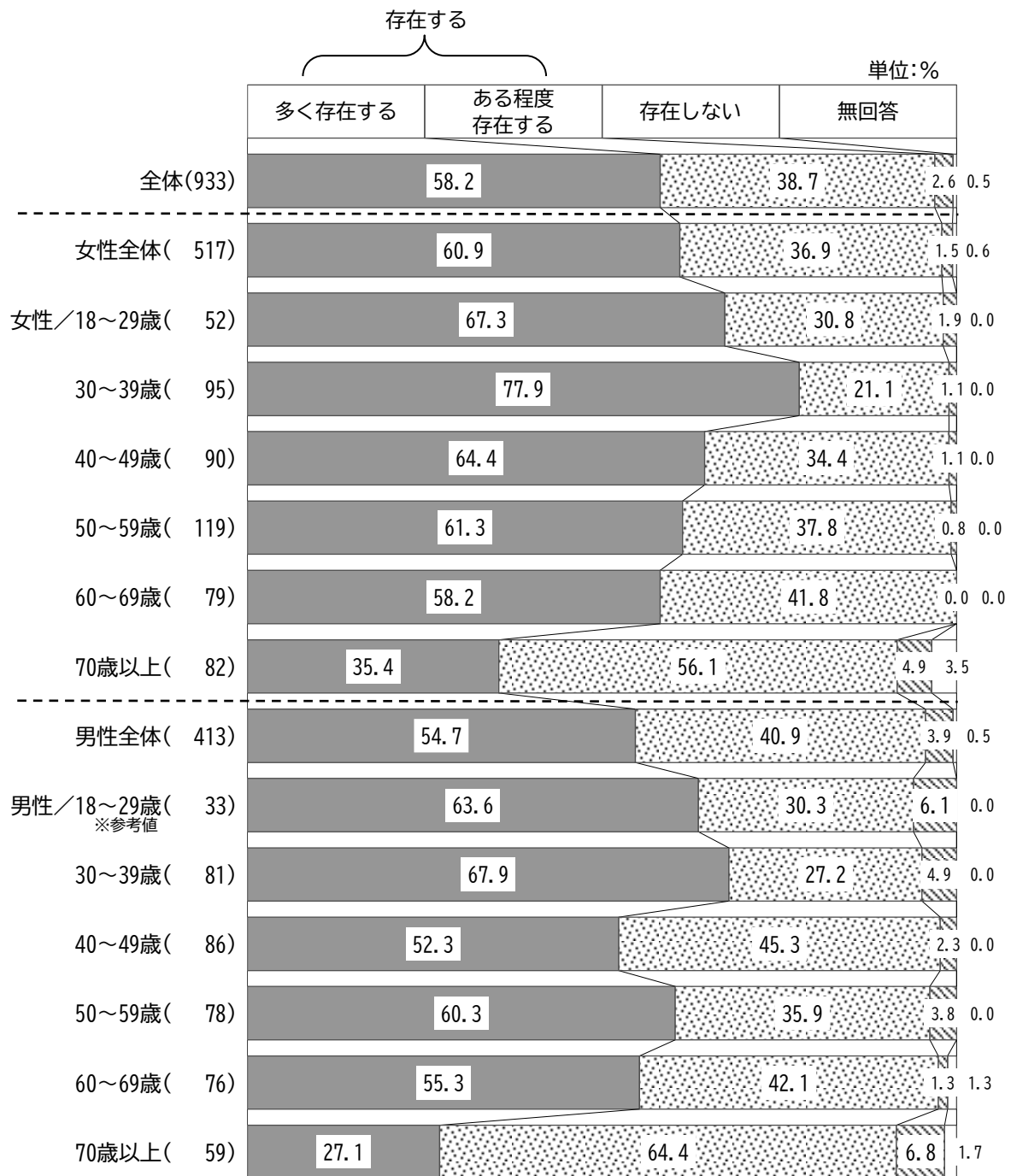
図表 42 現在の社会に存在する人権侵害『DV(ドメスティック・バイオレンス)』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は、30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、18～29歳と30～39歳で4割強から4割台半ばであるのに対し、70歳以上では12.2%にとどまっています。

男性では、70歳以上で「多く存在する」が11.9%であり、他の年代を17ポイント以上下回っています。

(タ) さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）



図表 43 現在の社会に存在する人権侵害

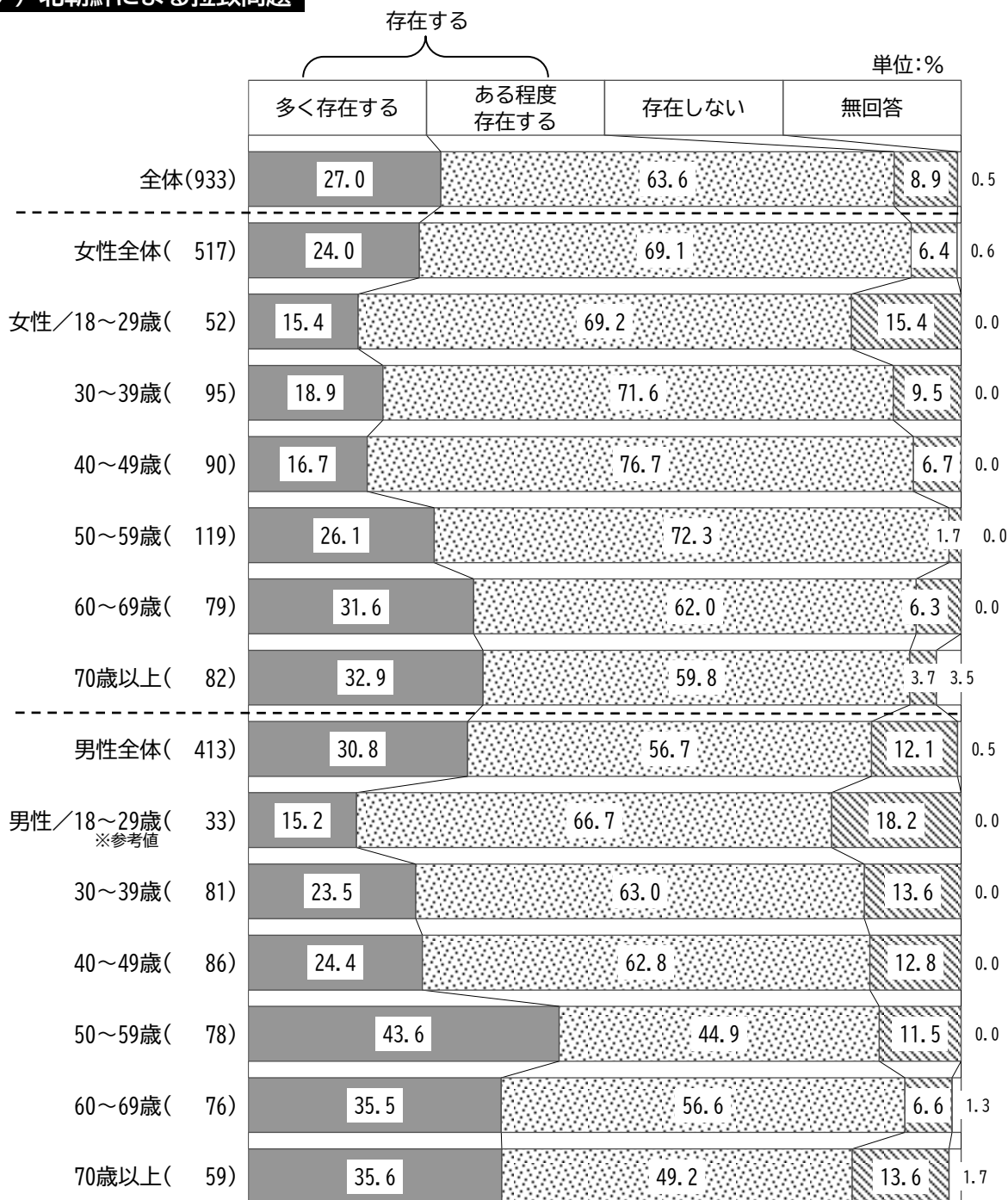
『さまざまなハラスメント（パワーハラスメント、カスタマーハラスメントなど）』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳では「多く存在する」が77.9%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では35.4%となっています。

男性では、69歳以下の各年代で「多く存在する」が5割から6割台であるのに対し、70歳以上では27.1%となっています。

(チ) 北朝鮮による拉致問題



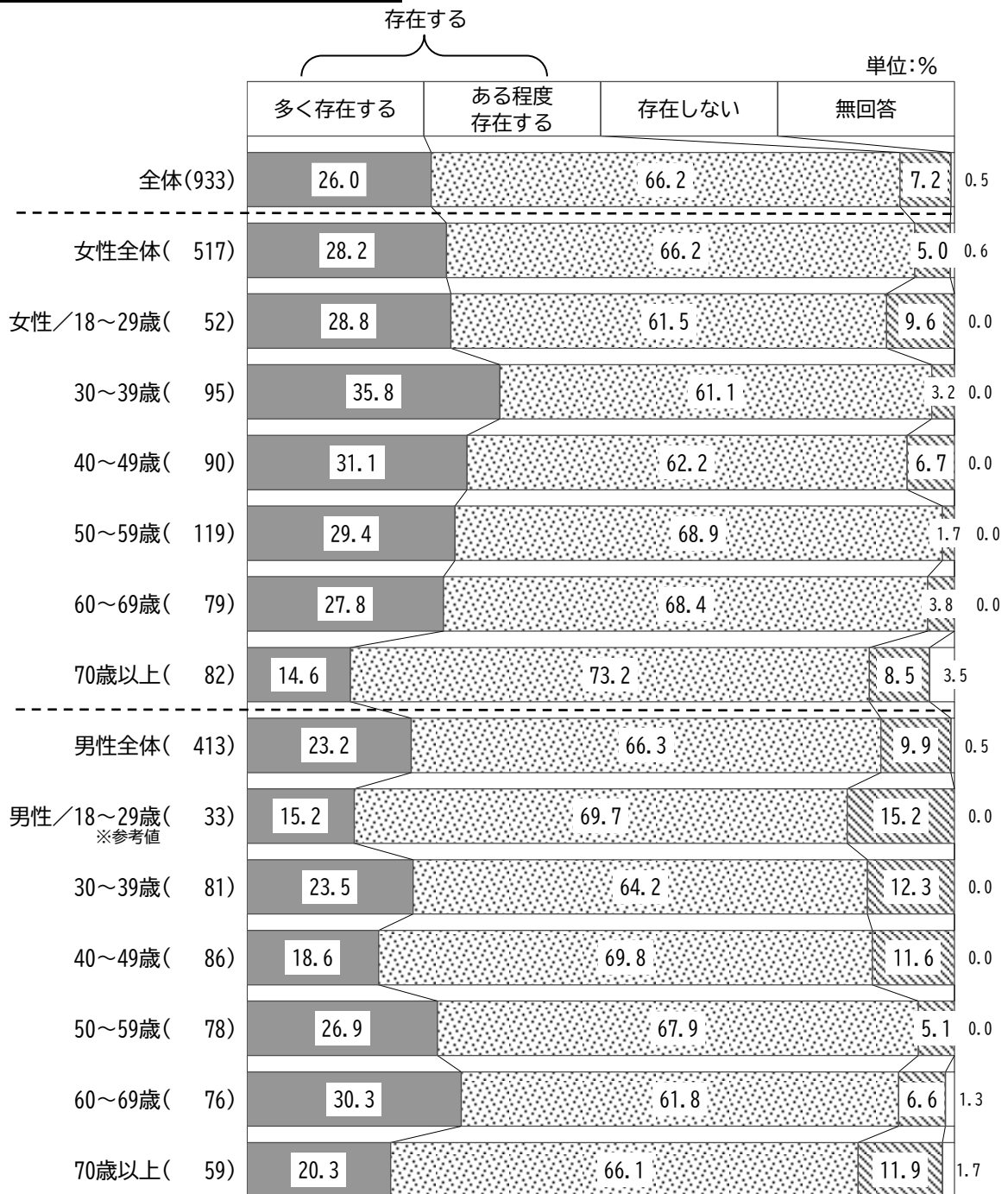
図表 44 現在の社会に存在する人権侵害『北朝鮮による拉致問題』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は、おおむね年代とともに増加する傾向があり、60~69歳と70歳以上では3割強となっています。18~29歳では「存在しない」が15.4%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性の30~39歳と40~49歳では「多く存在する」が2割強であるのに対し、50~59歳では43.6%、60~69歳と70歳以上では3割台半ばから4割弱となっています。

(ツ) 刑を終えて出所した人への差別



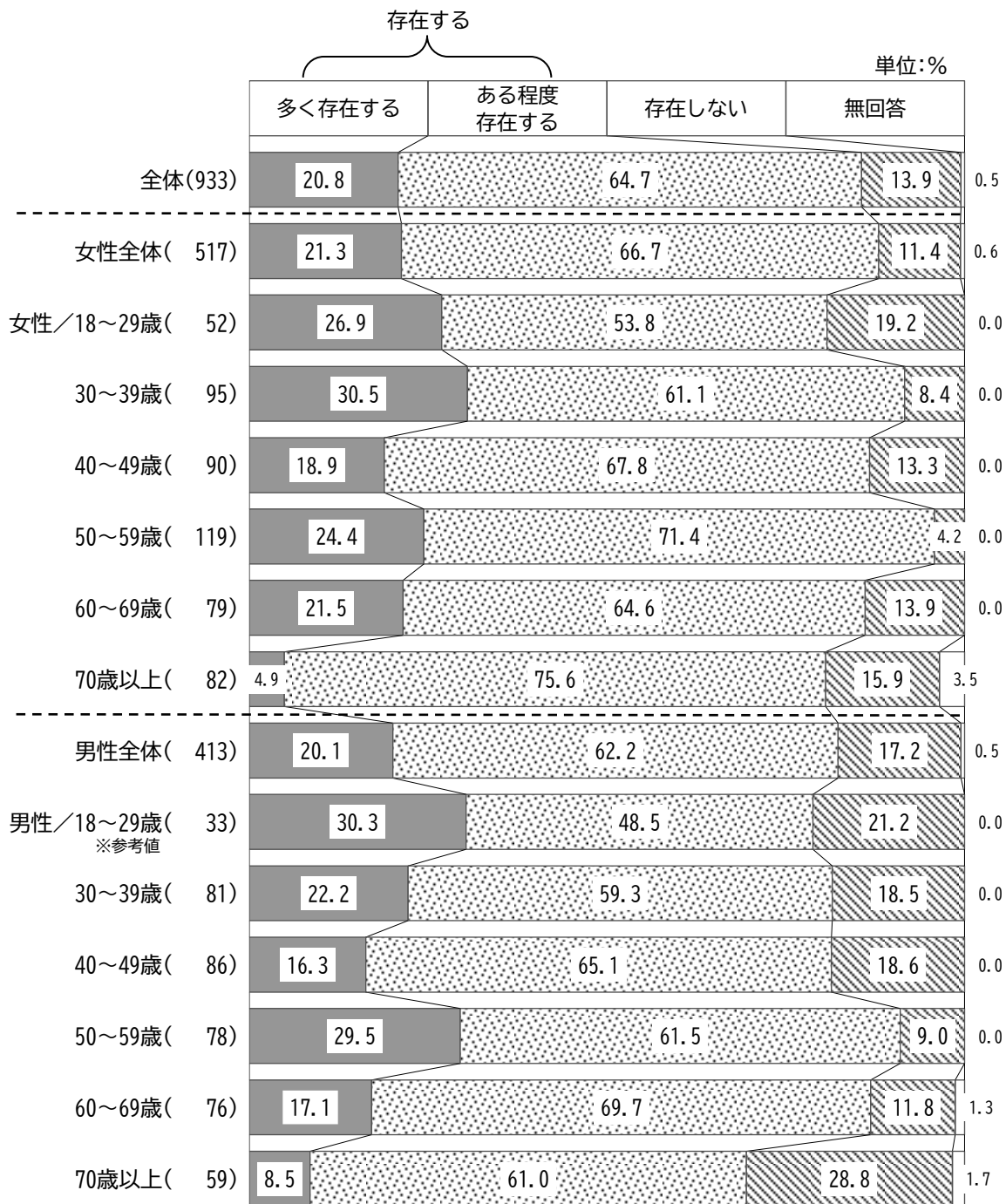
図表 45 現在の社会に存在する人権侵害『刑を終えて出所した人への差別』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「多く存在する」の割合は、30～39歳をピークとして年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では14.6%となっています。

男性では、60～69歳で「多く存在する」が30.3%であり、男性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。

(テ) 災害に伴う人権侵害（風評に基づく偏見や差別など）



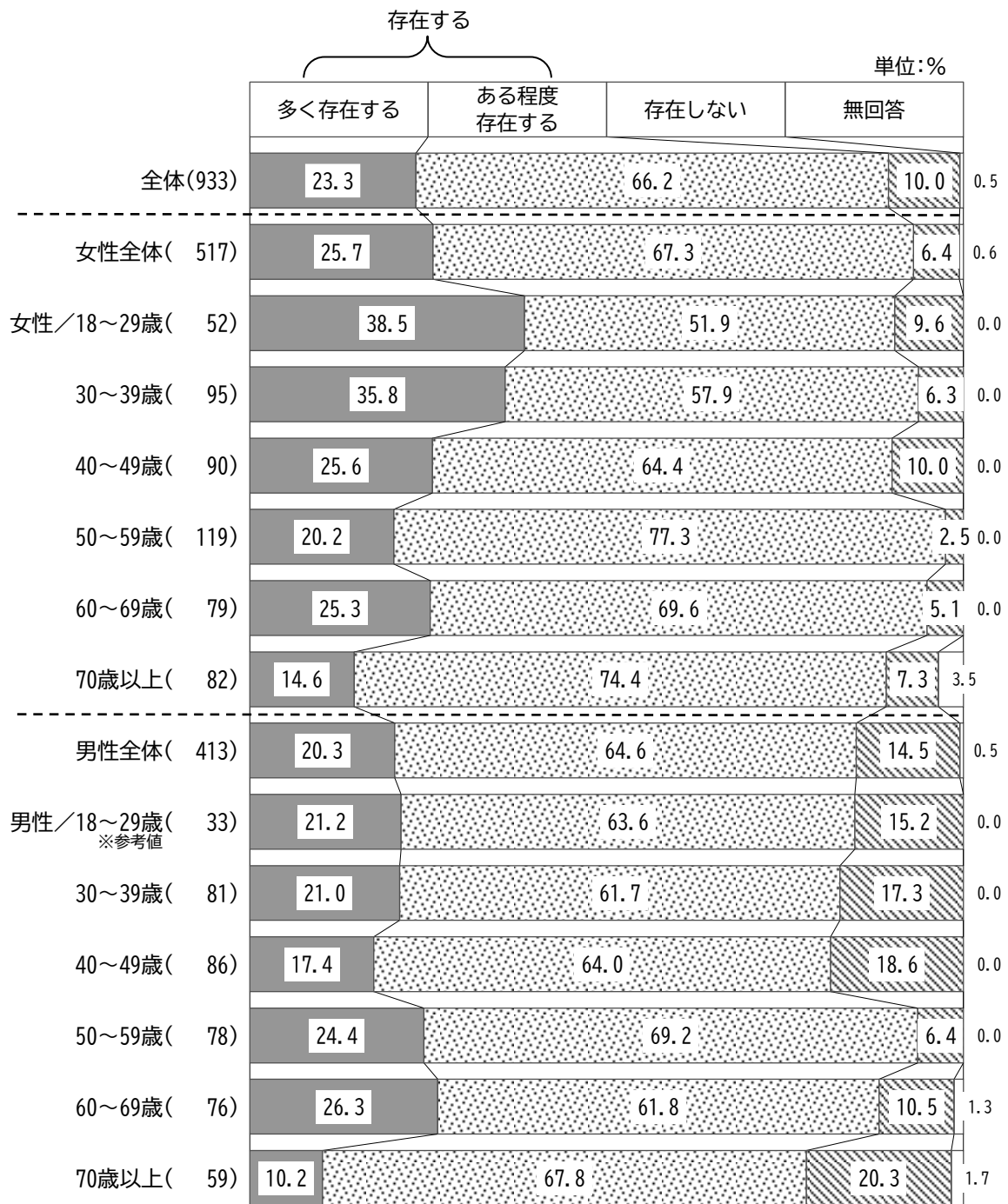
図表 46 現在の社会に存在する人権侵害
『災害に伴う人権侵害(風評に基づく偏見や差別など)』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳、男性の 50～59 歳では「多く存在する」が 3 割前後であり、女性回答者全体の割合、男性回答者全体の割合をそれぞれ 9 ポイント上回っています。

男性の 70 歳以上では、「存在する」が 69.5%にとどまっており、「存在しない」が 28.8%となっています。

(ト) 人身取引（性的サービスや労働の強要）



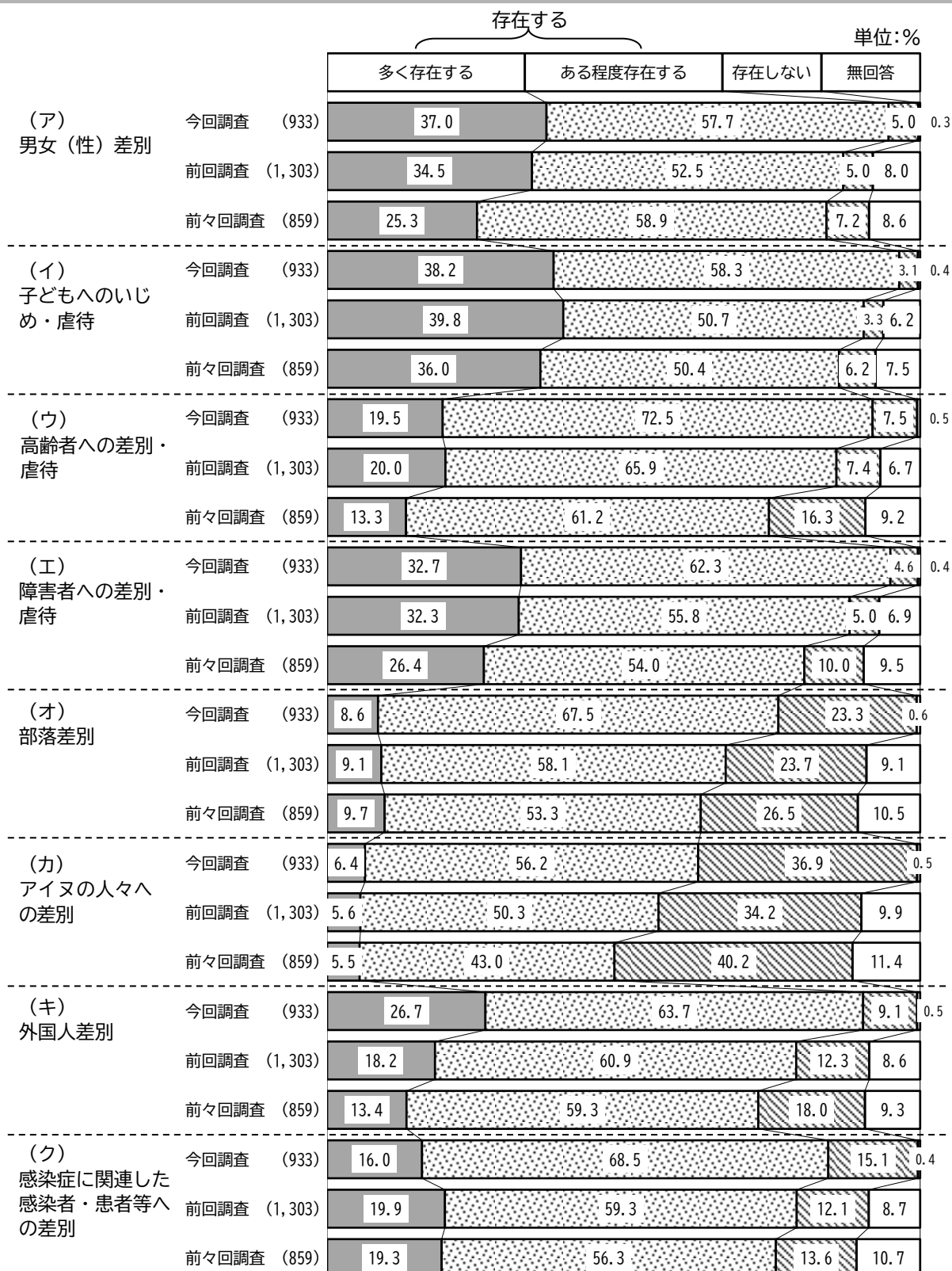
図表 47 現在の社会に存在する人権侵害『人身取引(性的サービスや労働の強要)』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

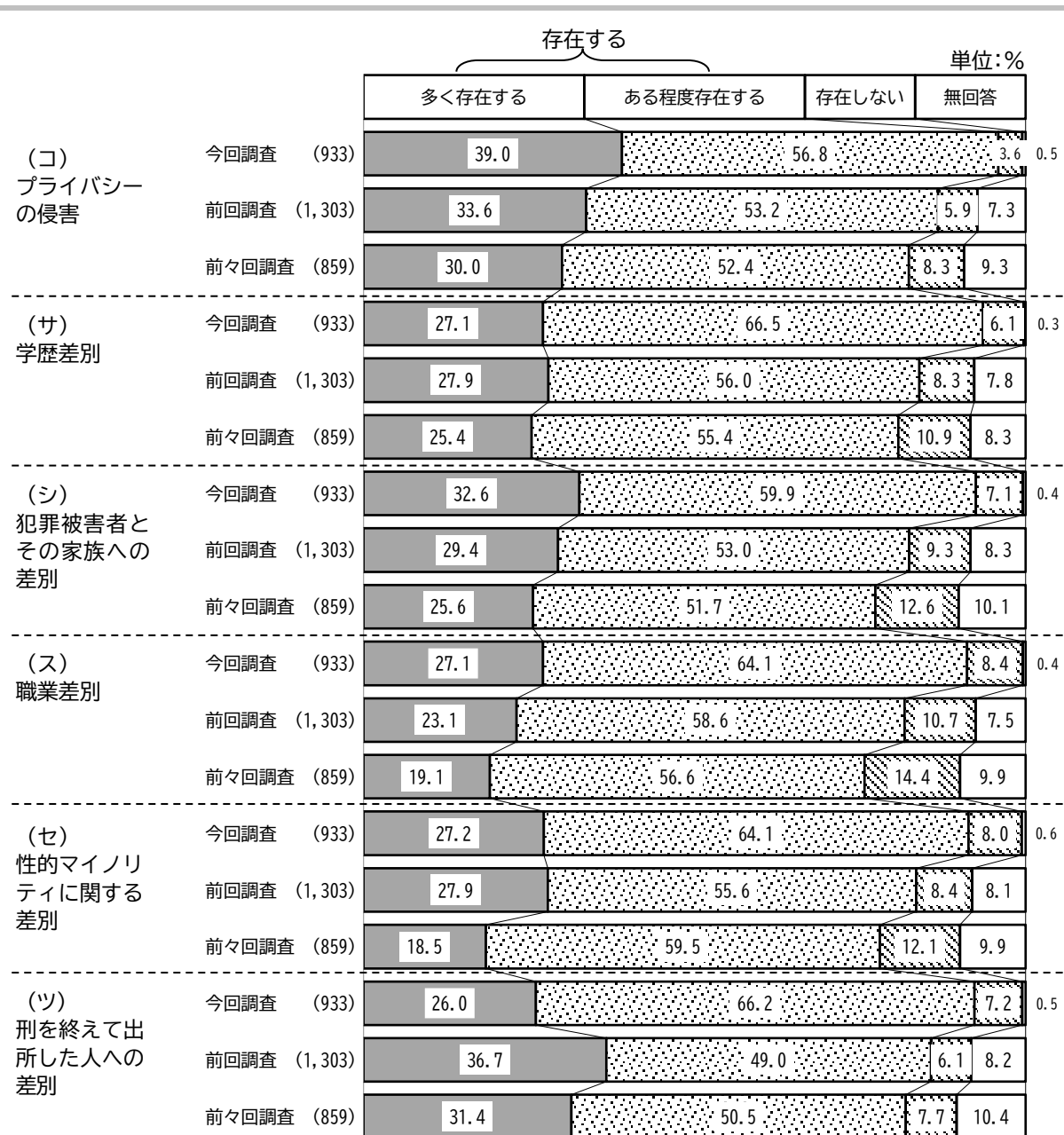
女性の18～29歳と30～39歳では「多く存在する」が4割弱であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。

男性の70歳以上では、「多く存在する」が10.2%にとどまっており、「存在しない」が20.3%となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 48 現在の社会に存在する人権侵害◀前回調査・前々回調査との比較①▶



※「高齢者への差別・虐待」は前々回調査では「高齢者差別」。「障害者への差別・虐待」は前々回調査では「障害者差別」。「感染症に関連した感染者・患者等への差別」は、前回調査では「HIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別」、前々回調査では「AIDS（エイズ）患者・HIV（エイズウィルス）感染者差別」。

図表 49 現在の社会に存在する人権侵害<<前回調査・前々回調査との比較②>>

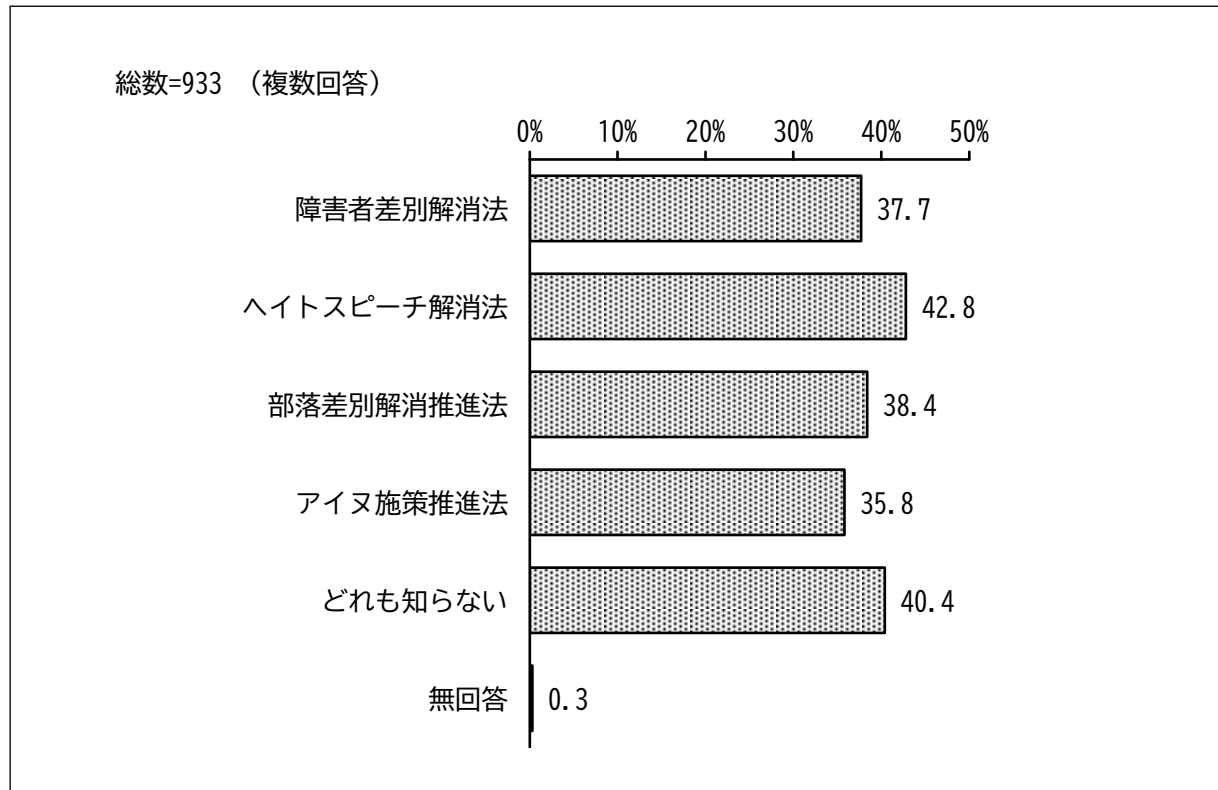
●前回調査・前々回調査との比較

『外国人差別』『プライバシーの侵害』では、前回調査から今回調査にかけて「多く存在する」が5ポイント以上増加しています。一方、『刑を終えて出所した人への差別』では、前回調査から今回調査にかけて「多く存在する」が10ポイント減少しています。

『感染症に関連した感染者・患者等への差別』以外のすべての項目について、今回調査の“存在する”の割合が前回調査及び前々回調査の割合を上回っています。

問6 差別解消に関する法律の認知状況

あなたは、次の4つの法律が施行されていることを知っていますか。知っている法律に○をつけてください。(○はいくつでも)



図表 50 差別解消に関する法律の認知状況

○全体の傾向

「ハイトスピーチ解消法」が42.8%で最も多く、「部落差別解消推進法」(38.4%)、「障害者差別解消法」(37.7%)が続きます。

一方、「どれも知らない」という回答が40.4%を占めています。

○男女別の傾向

男性の「ハイトスピーチ解消法」は51.8%であり、女性を16ポイント上回っています。一方、女性の「どれも知らない」は44.5%であり、男性を9ポイント上回っています。

			障害者差別解消法	ヘイトスピーチ解消法	部落差別解消推進法	アイヌ施策推進法	どれも知らない	無回答	
人数									
全体			933	37.7	42.8	38.4	35.8	40.4	0.3
性別	女性	517	34.2	35.4	33.1	30.8	44.5	—	
	男性	413	41.9	51.8	45.0	42.1	35.4	0.7	
	その他・無回答 ※参考値	3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	—	
性・年代別	女性	18～29歳	52	48.1	32.7	28.8	36.5	42.3	—
		30～39歳	95	26.3	23.2	18.9	22.1	56.8	—
		40～49歳	90	31.1	37.8	30.0	21.1	51.1	—
		50～59歳	119	33.6	40.3	39.5	36.1	37.0	—
		60～69歳	79	35.4	38.0	41.8	34.2	39.2	—
		70歳以上	82	37.8	39.0	37.8	36.6	40.2	—
	男性	18～29歳 ※参考値	33	33.3	39.4	36.4	33.3	48.5	—
		30～39歳	81	37.0	46.9	38.3	34.6	39.5	—
		40～49歳	86	27.9	40.7	30.2	30.2	47.7	—
		50～59歳	78	59.0	69.2	53.8	61.5	24.4	—
		60～69歳	76	47.4	57.9	56.6	48.7	26.3	1.3
		70歳以上	59	44.1	50.8	54.2	40.7	30.5	3.3
	その他・無回答 ※参考値		3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	—

図表 51 差別解消に関する法律の認知状況(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

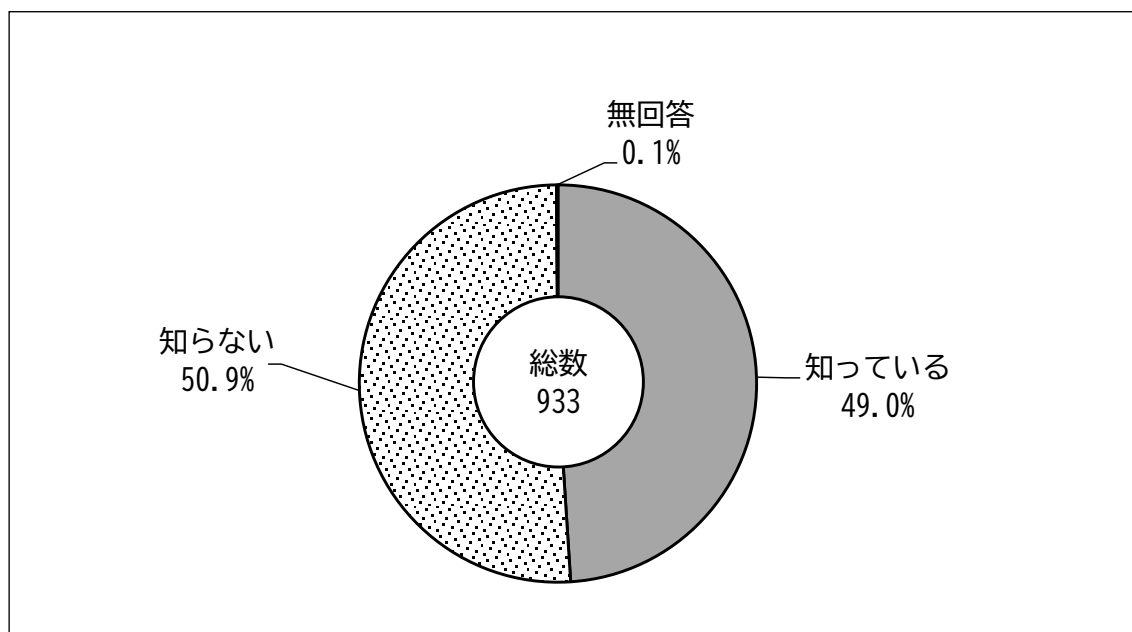
女性の 18～29 歳では、「障害者差別解消法」が 48.1%であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。また、女性の 30～39 歳では「ヘイトスピーチ解消法」が 23.2%、「部落差別解消推進法」が 18.9%であり、女性回答者全体の割合を 12 ポイント以上下回っています。

男性では、50～59 歳で「障害者差別解消法」が 59.0%、「ヘイトスピーチ解消法」が 69.2%、「アイヌ施策推進法」が 61.5%であり、他の年代を 11 ポイント以上上回っています。また、40～49 歳では「障害者差別解消法」が 27.9%であり、他の年代を 9 ポイント以上下回っています。

このほか、女性の 30～39 歳では「どれも知らない」が 56.8%、男性の 40～49 歳では 47.7%であり、いずれも他の年代に比べて多くなっています。

問 7 公益通報者保護制度の認知

あなたは、公益のために事業者の法令違反を通報した労働者などを守るために、公益通報者保護制度があることを知っていますか。(〇は1つ)



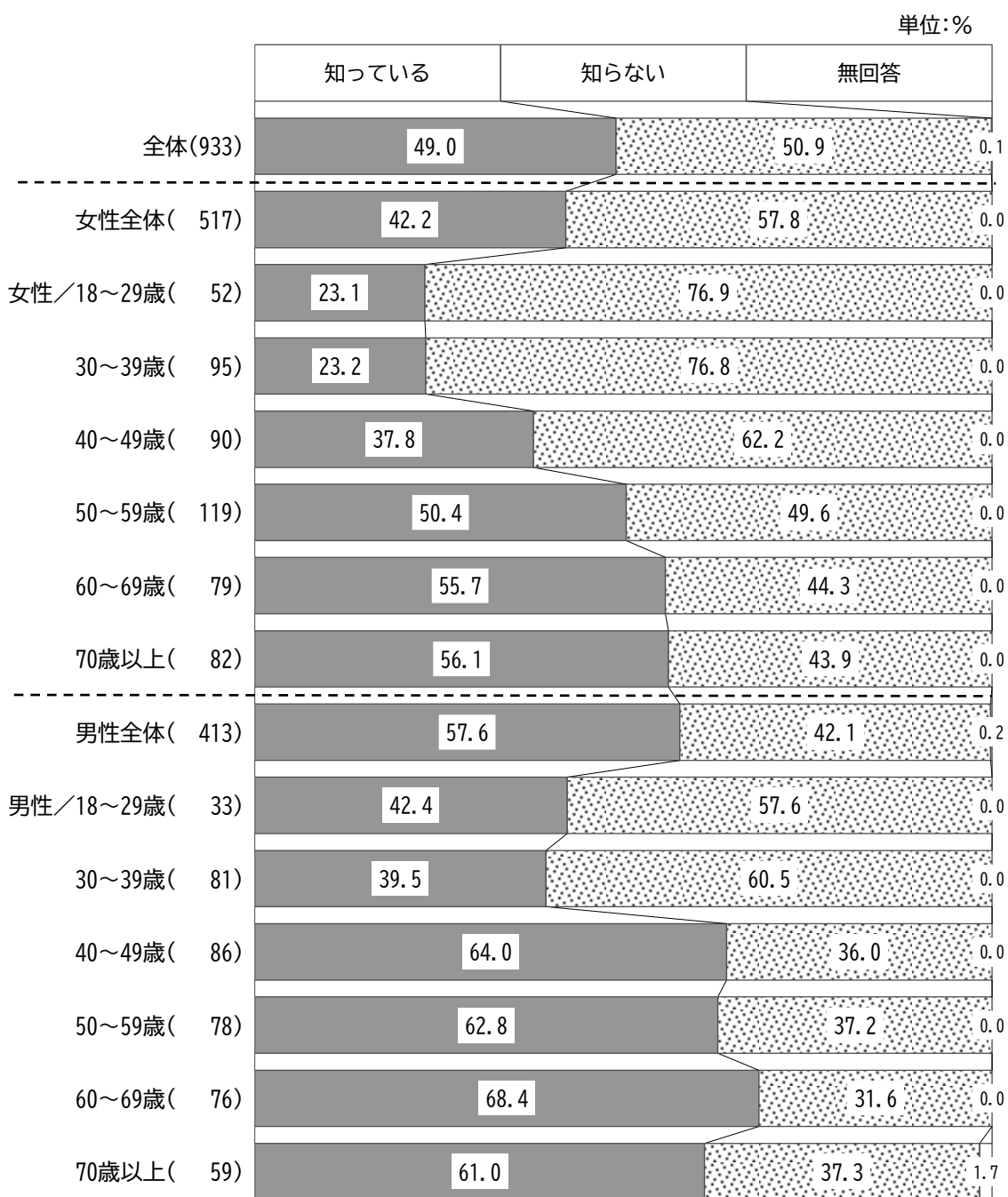
図表 52 公益通報者保護制度の認知

○全体の傾向

「知っている」が49.0%、「知らない」が50.9%となっています。

○男女別の傾向

女性の「知っている」は42.2%であり、男性を15ポイント下回っています。



図表 53 公益通報者保護制度の認知(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の「知っている」の割合は年代とともに増加する傾向があり、18～29歳と30～39歳で2割強であるのに対し、60～69歳と70歳以上では6割弱となっています。

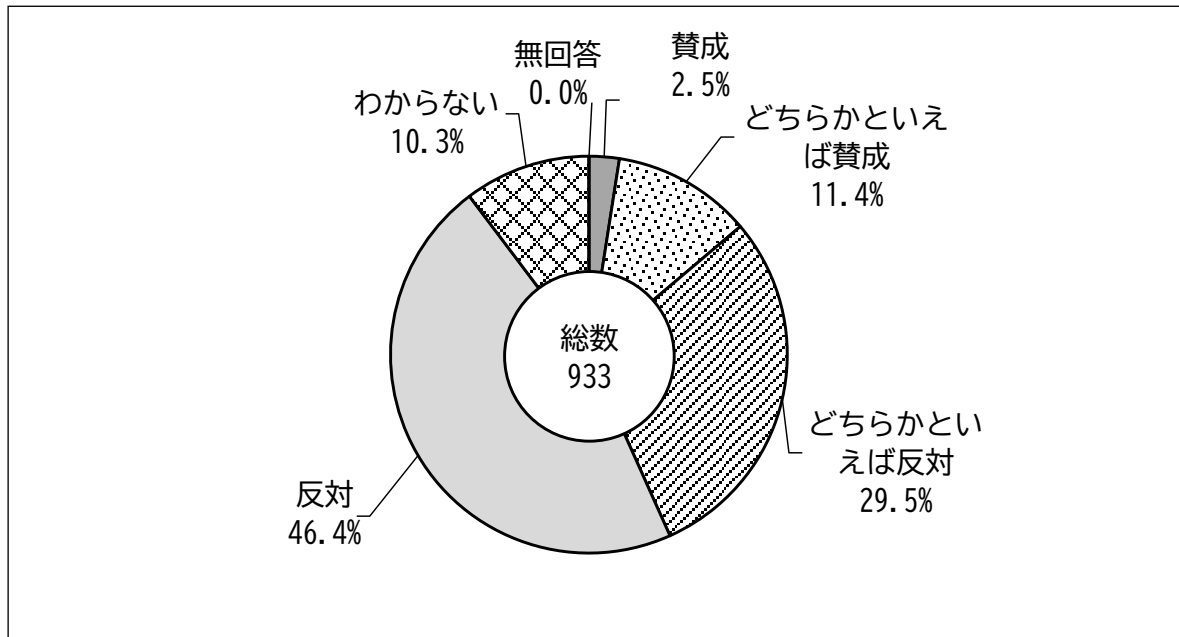
男性では、30～39歳で「知っている」が39.5%であり、男性回答者全体の割合を18ポイント下回っています。

2 男女平等に関する意識について

問8 「性別役割分担」の意識

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

(〇は1つ)



図表 54 「性別役割分担」の意識

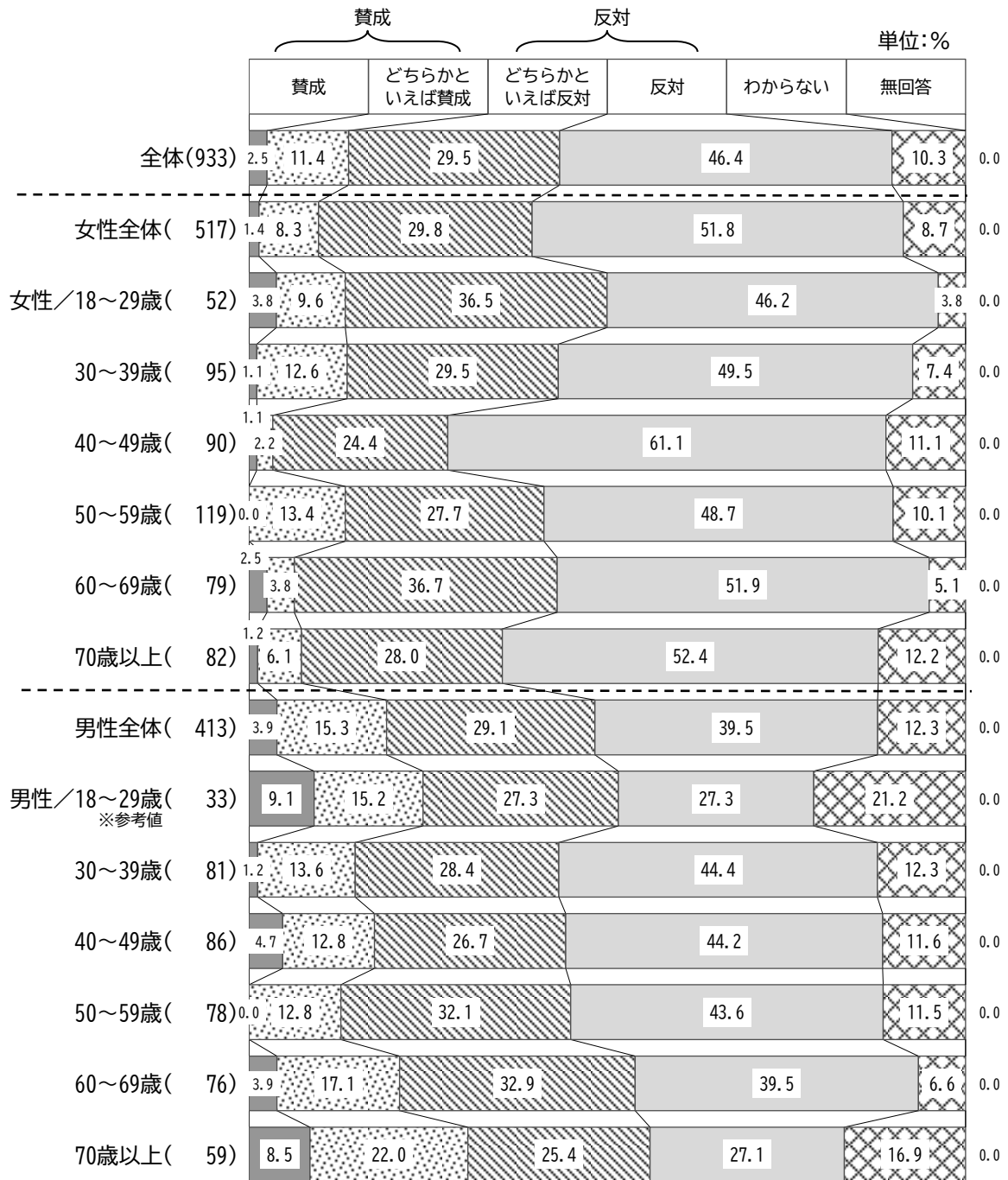
○全体の傾向

「賛成」が 2.5%、「どちらかといえば賛成」が 11.4%であり、「反対」が 46.4%、「どちらかといえば反対」が 29.5%となっています。

“賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）”は 13.9%、“反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）”は 75.9%であり、“反対”が“賛成”を 62 ポイント上回っています。

○男女別の傾向

“賛成”は男性 19.2%、女性 9.7%であり、男性が女性を 9 ポイント上回っています。一方、“反対”は男性 68.6%、女性 81.6%であり、女性が男性を 13 ポイント上回っています。



図表 55 「性別役割分担」の意識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18~29歳、30~39歳、50~59歳では“賛成”が1割強であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。

男性の70歳以上では“賛成”が30.5%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。

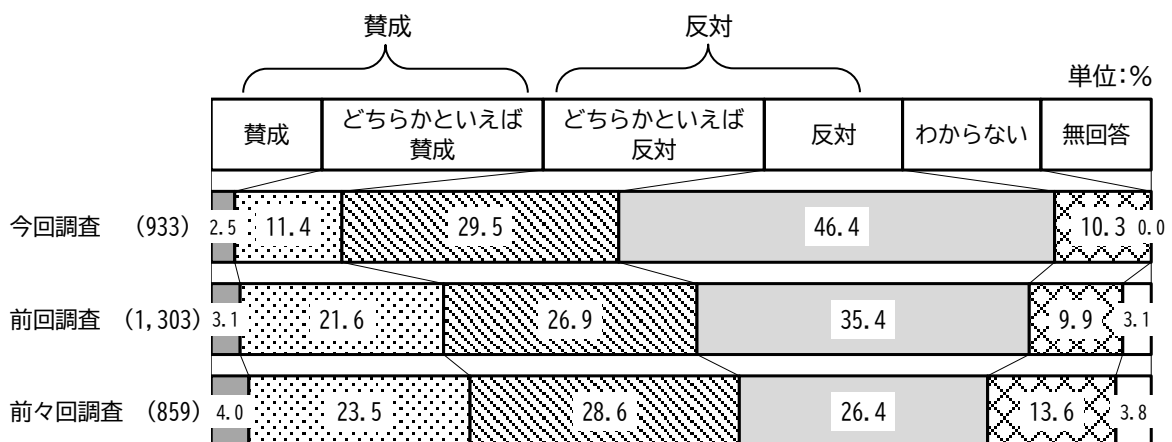
			賛成		反対				
			賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	わからない	無回答	
			人数						
全体			933	2.5	11.4	29.5	46.4	10.3	-
夫婦世帯	夫婦世帯全体		557	2.9	11.8	29.3	45.8	10.2	-
	女性	夫婦世帯/女性全体	300	1.7	8.3	28.3	52.0	9.7	-
		共働きである	188	1.1	8.5	27.1	57.4	5.9	-
		片働きである	85	2.4	8.2	30.6	42.4	16.5	-
		働いていない・その他 ※参考値	27	3.7	7.4	29.6	44.4	14.8	-
	男性	夫婦世帯/男性全体	256	4.3	16.0	30.1	38.7	10.9	-
		共働きである	151	1.3	13.9	33.1	42.4	9.3	-
		片働きである	78	9.0	16.7	26.9	33.3	14.1	-
		働いていない・その他 ※参考値	27	7.4	25.9	22.2	33.3	11.1	-
性別その他・未婚・離死別			377	1.9	10.6	30.0	47.2	10.3	-

図表 56 「性別役割分担」の意識(男女・世帯の働き方別)

○男女・世帯の働き方別の傾向

共働き世帯の女性では、“反対”が84.5%であり、片働き世帯の女性の割合を11ポイント上回っています。共働き世帯の男性では、“反対”が75.5%であり、片働き世帯の男性の割合を15ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



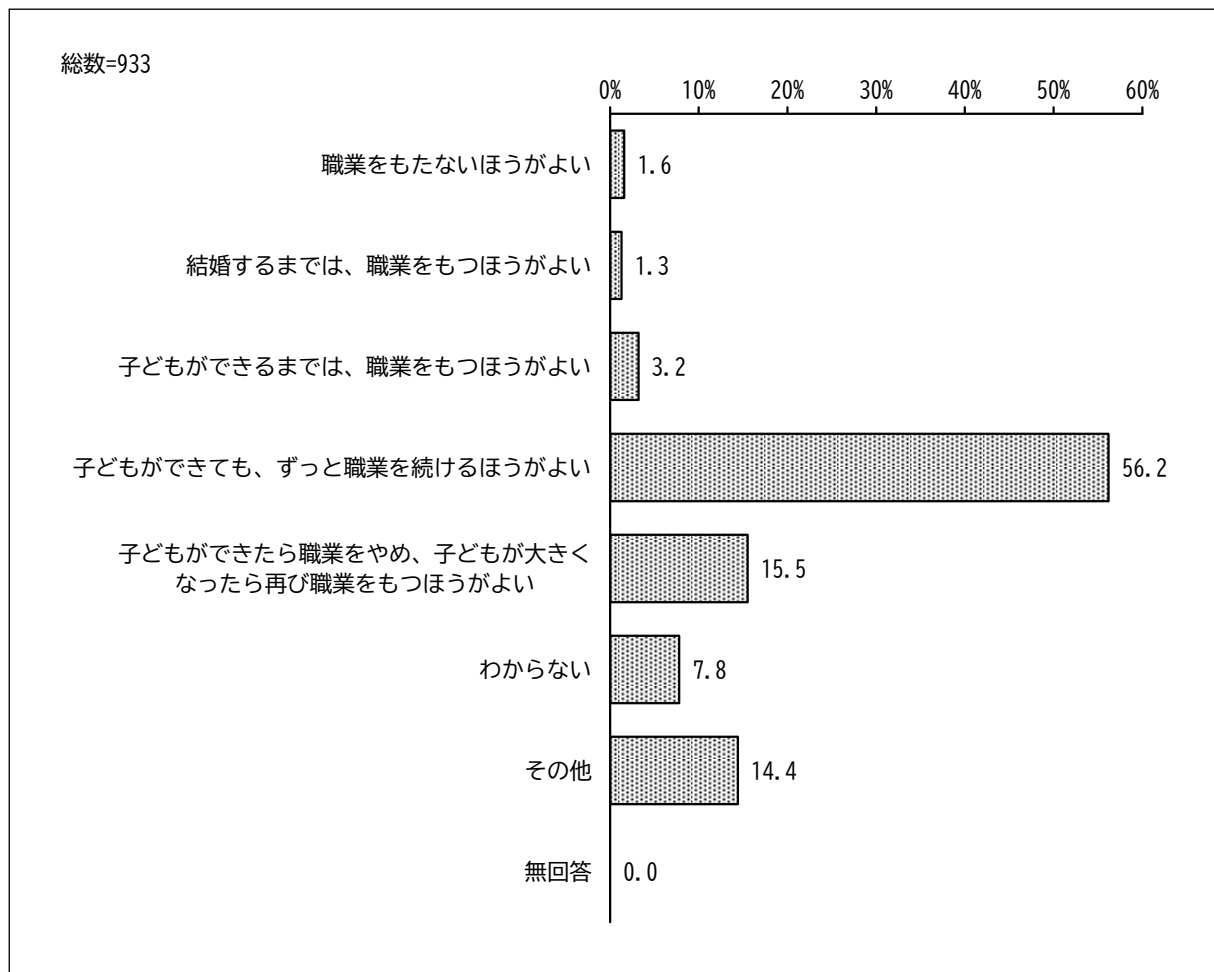
図表 57 「性別役割分担」の意識<前回調査・前々回調査との比較>

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、“賛成”の割合が減少を続けるとともに、“反対”の割合が増加を続けています。今回調査の“反対”は前回調査を13ポイント上回っており、「性別役割分担」に否定的な意識が強くなっています。

問9 女性が職業をもつことについての意識

一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



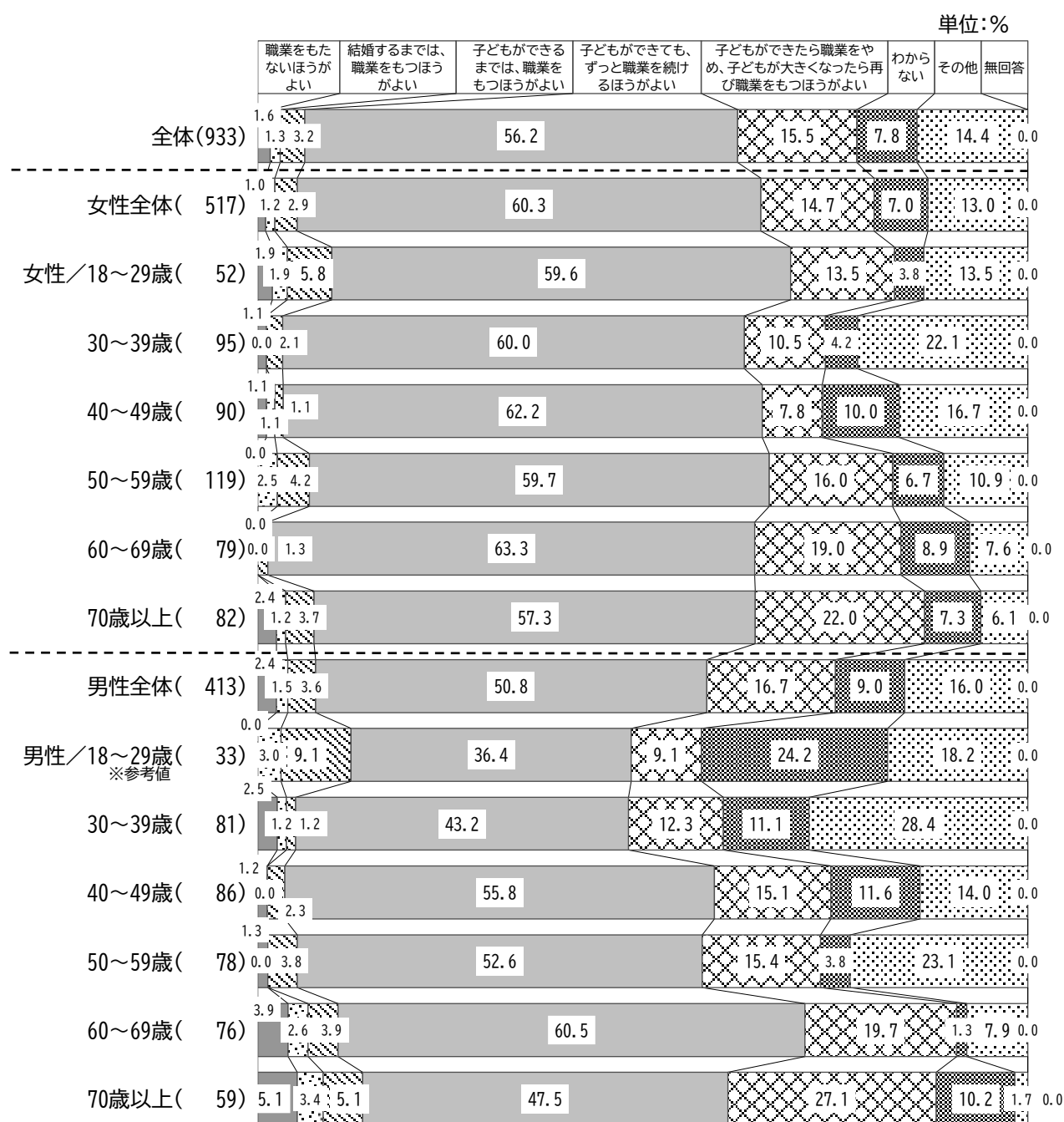
図表 58 女性が職業をもつことについての意識

○全体の傾向

「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 56.2%で最も多く、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」(15.5%)が続きます。「子どもができるまでは、職業をもつほうがよい」「結婚するまでは、職業をもつほうがよい」「職業をもたないほうがよい」という回答は、いずれも1割に達していません。

○男女別の傾向

女性の「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」は 60.3%であり、男性を9ポイント上回っています。



図表 59 女性が職業をもつことについての意識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 40~49 歳では「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 62.2% であり、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」(7.8%) を 54 ポイント上回っています。女性の 60~69 歳と 70 歳以上では「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が 2 割前後となっています。

男性では、60~69 歳で「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 60.5% であり、男性回答者全体の割合を 9 ポイント上回っています。また、70 歳以上では「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が 27.1% であり、男性回答者全体の割合を 10 ポイント上回っています。

			職業をもたないほうがよい	結婚するまでは、 職業をもつほうがよい	子どもができるまでは、 職業をもつほうがよい	子どもができて、 ずっと職業を続けるほうがよい	子どもができて、 子どもが大きくなったら 職業をやめ、子どもが 大きくなったら再び職業を もつほうがよい	わからない	その他	無回答
		人数								
全体		933	1.6	1.3	3.2	56.2	15.5	7.8	14.4	-
夫婦世帯	夫婦世帯全体	557	1.8	1.6	3.8	57.8	15.8	5.0	14.2	-
	夫婦世帯/女性全体	300	0.7	1.0	3.3	62.3	15.0	4.7	13.0	-
	女性									
	共働きである	188	0.5	1.1	3.2	68.1	9.0	4.3	13.8	-
	片働きである	85	-	-	3.5	52.9	24.7	4.7	14.1	-
	働いていない・その他 ※参考値	27	3.7	3.7	3.7	51.9	25.9	7.4	3.7	-
	夫婦世帯/男性全体	256	3.1	2.3	4.3	52.3	16.8	5.5	15.6	-
	男性									
	共働きである	151	2.0	1.3	2.0	58.3	17.2	4.0	15.2	-
	片働きである	78	3.8	2.6	7.7	41.0	16.7	6.4	21.8	-
	働いていない・その他 ※参考値	27	7.4	7.4	7.4	51.9	14.8	11.1	-	-
性別その他・未婚・離死別		377	1.3	0.8	2.4	53.8	15.1	11.9	14.6	-

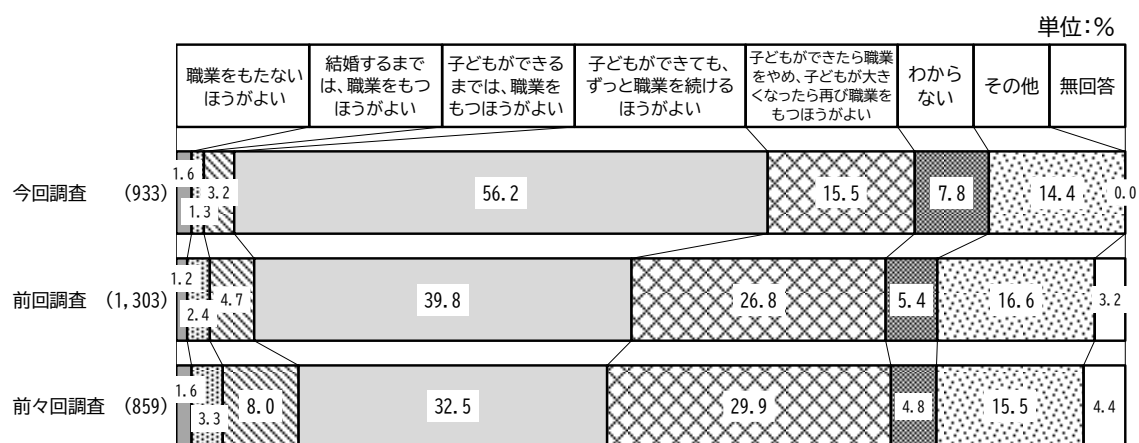
図表 60 女性が職業をもつことについての意識(男女・世帯の働き方別)

○男女・世帯の働き方別の傾向

共働き世帯の女性では、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 68.1% であり、片働き世帯の女性の割合を 15 ポイント上回っています。一方、片働き世帯の女性では、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が 24.7% であり、共働き世帯の女性の割合を 15 ポイント上回っています。

共働き世帯の男性では、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 58.3% であり、片働き世帯の男性の割合を 17 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



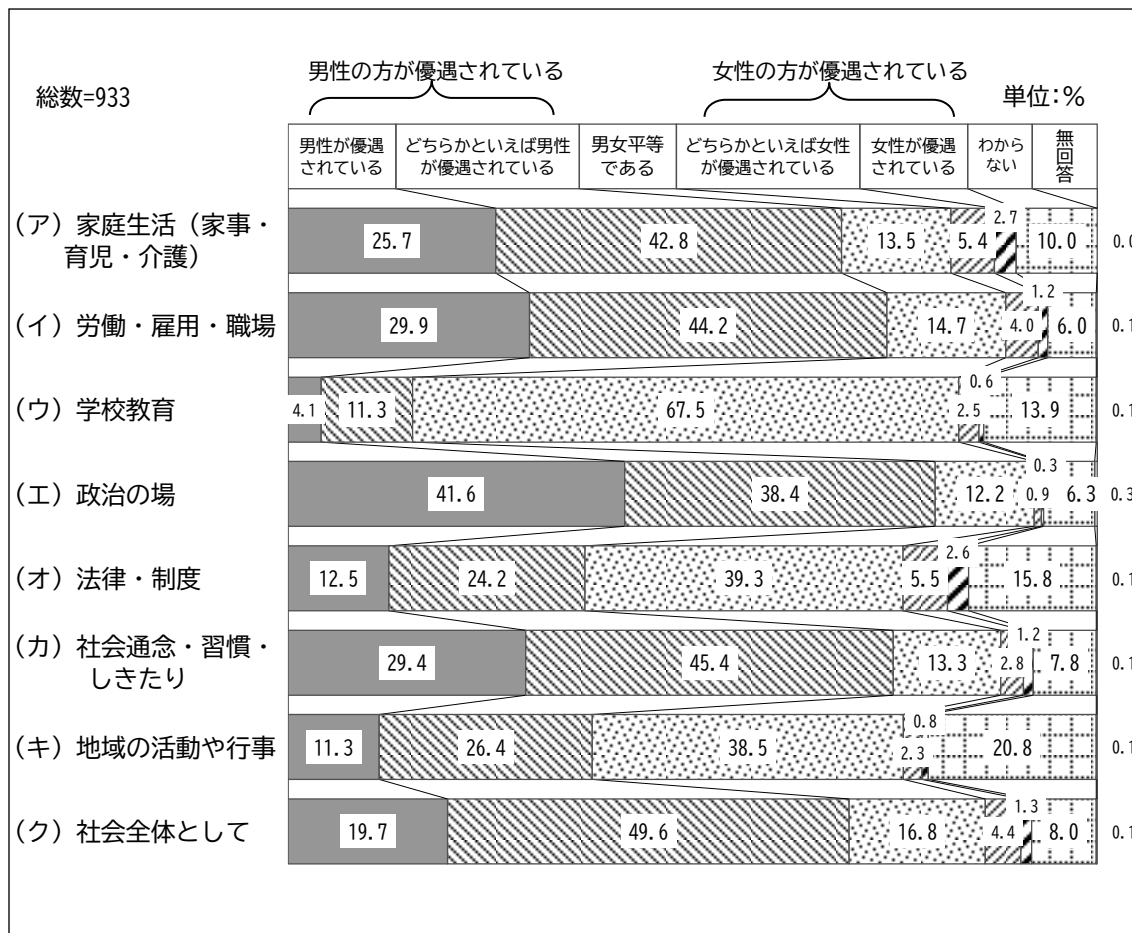
図表 61 女性が職業をもつことについての意識《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が増加を続けるとともに、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が減少を続けています。今回調査の「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合は前回調査を16ポイント上回っており、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」との差は、前回調査では13ポイントでしたが、今回調査では40ポイントに拡大しています。

問 10 男女平等の認識

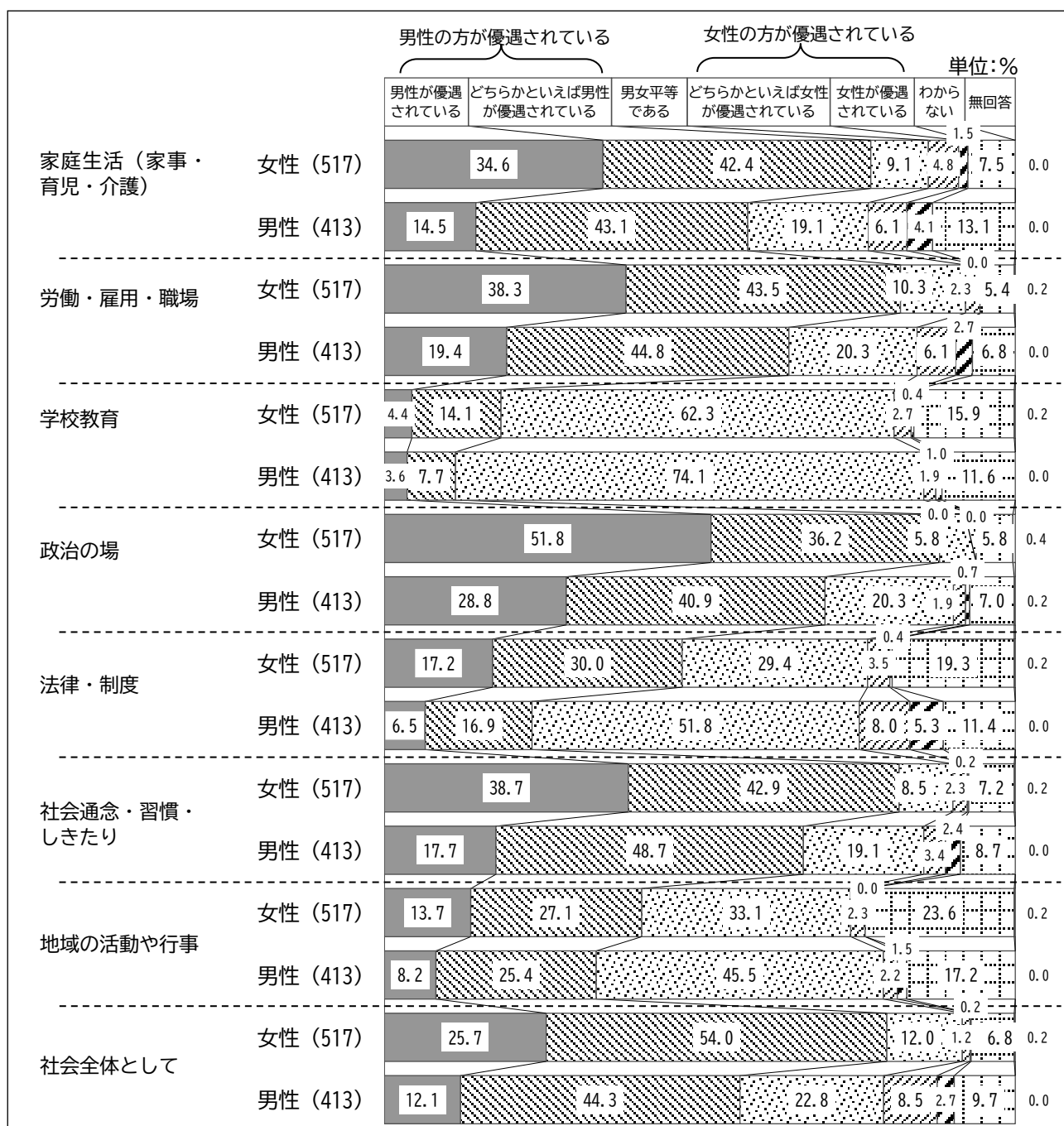
次のそれぞれの分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)の各項目についてお答えください。(ア～クのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)



図表 62 男女平等の認識

○全体の傾向

男女の地位が最も「平等」と考えられているのは、『学校教育』（67.5%）となっています。一方、『家庭生活（家事・育児・介護）』『労働・雇用・職場』『政治の場』『社会通念・習慣・しきたり』『社会全体として』では“男性の方が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）”という認識が強く、『政治の場』で8割、『家庭生活（家事・育児・介護）』『労働・雇用・職場』『社会通念・習慣・しきたり』『社会全体として』で7割前後となっています。『法律・制度』『地域の活動や行事』では、“男性の方が優遇されている”と「平等」がいずれも4割弱となっています。



図表 63 男女平等の認識(男女別)

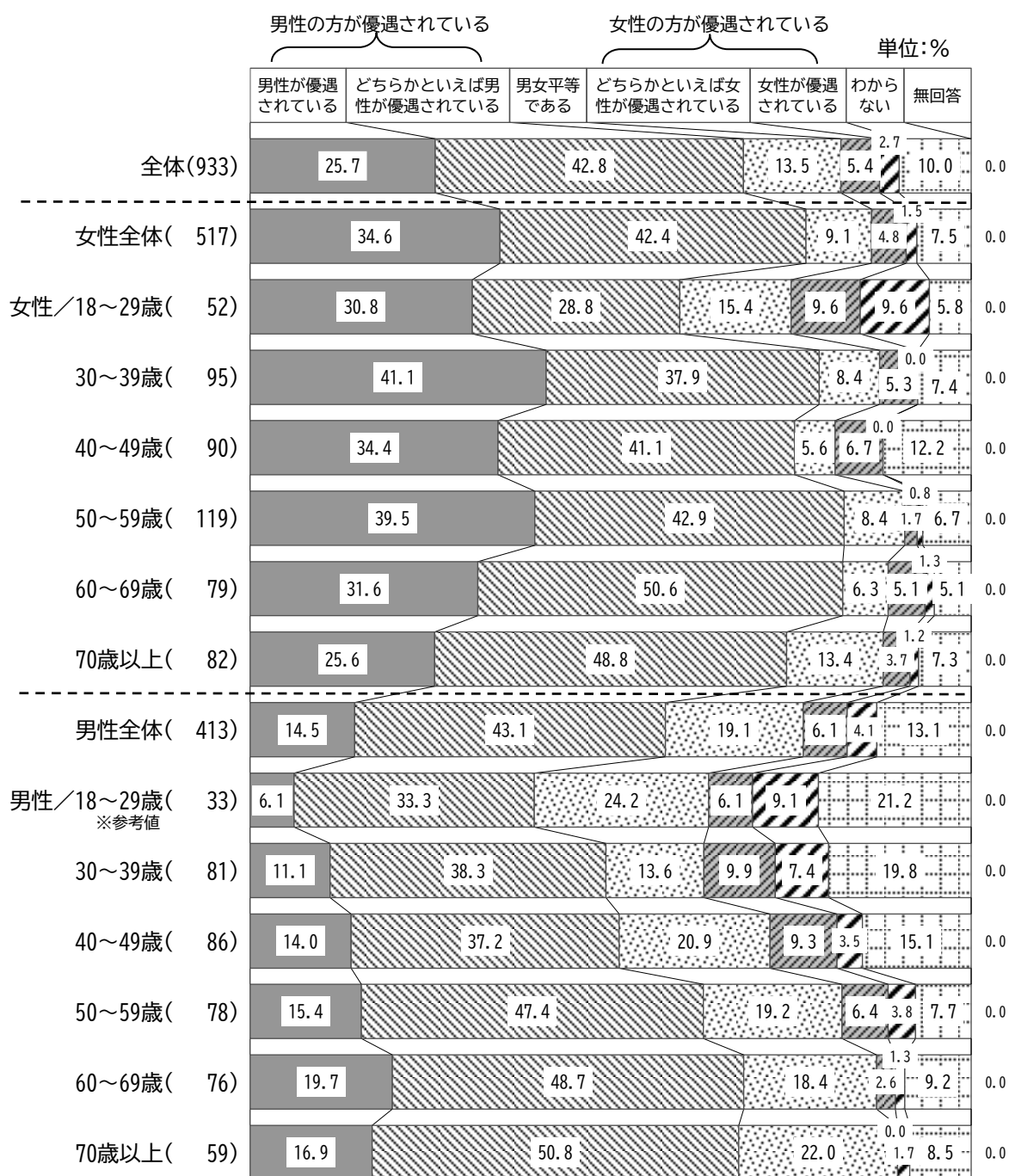
○男女別の傾向

『労働・雇用・職場』『政治の場』『社会通念・習慣・しきたり』では、女性の“男性の方が優遇されている”が8割に達しており、男性の割合を15ポイント以上上回っています。

『法律・制度』『地域の活動や行事』については、女性で“男性の方が優遇されている”が「男女平等である」を上回っているのに対し、男性では「男女平等である」が“男性の方が優遇されている”を上回っており、男女で意識の違いが見られます。

このほか、各分野について男性の「男女平等である」の割合が女性の割合を10ポイント以上上回っており、『法律・制度』ではその差が22ポイントとなっています。

(ア) 家庭生活(家事・育児・介護)



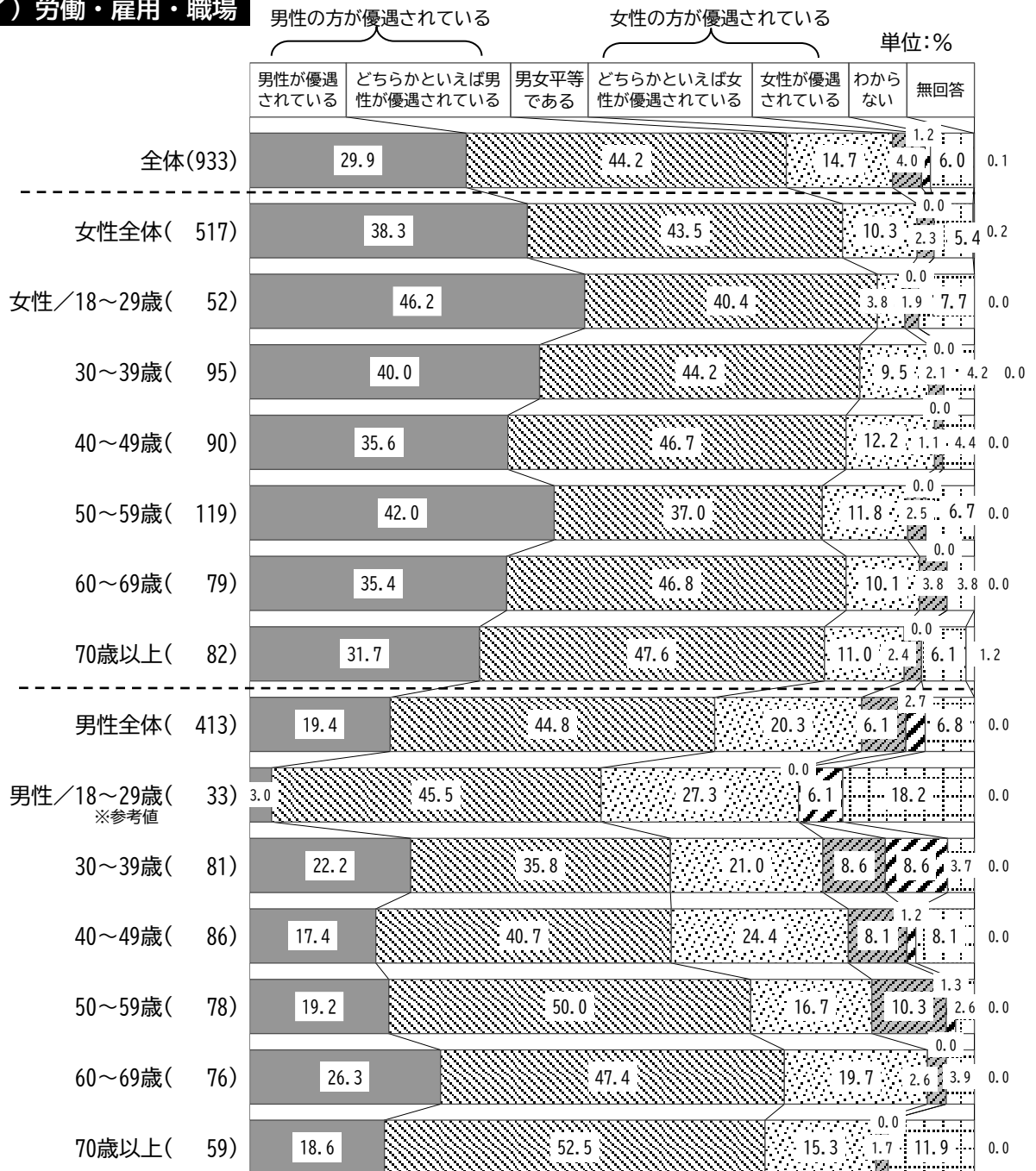
図表 64 男女平等の認識『家庭生活(家事・育児・介護)』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の50~59歳と60~69歳では“男性の方が優遇されている”が8割強であり、女性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。女性の「男女平等である」の割合は、18~29歳、70歳以上を除き1割を下回っています。

男性では、おおむね年代とともに“男性の方が優遇されている”の割合が増加しており、60~69歳と70歳以上では7割弱となっています。

(イ) 労働・雇用・職場



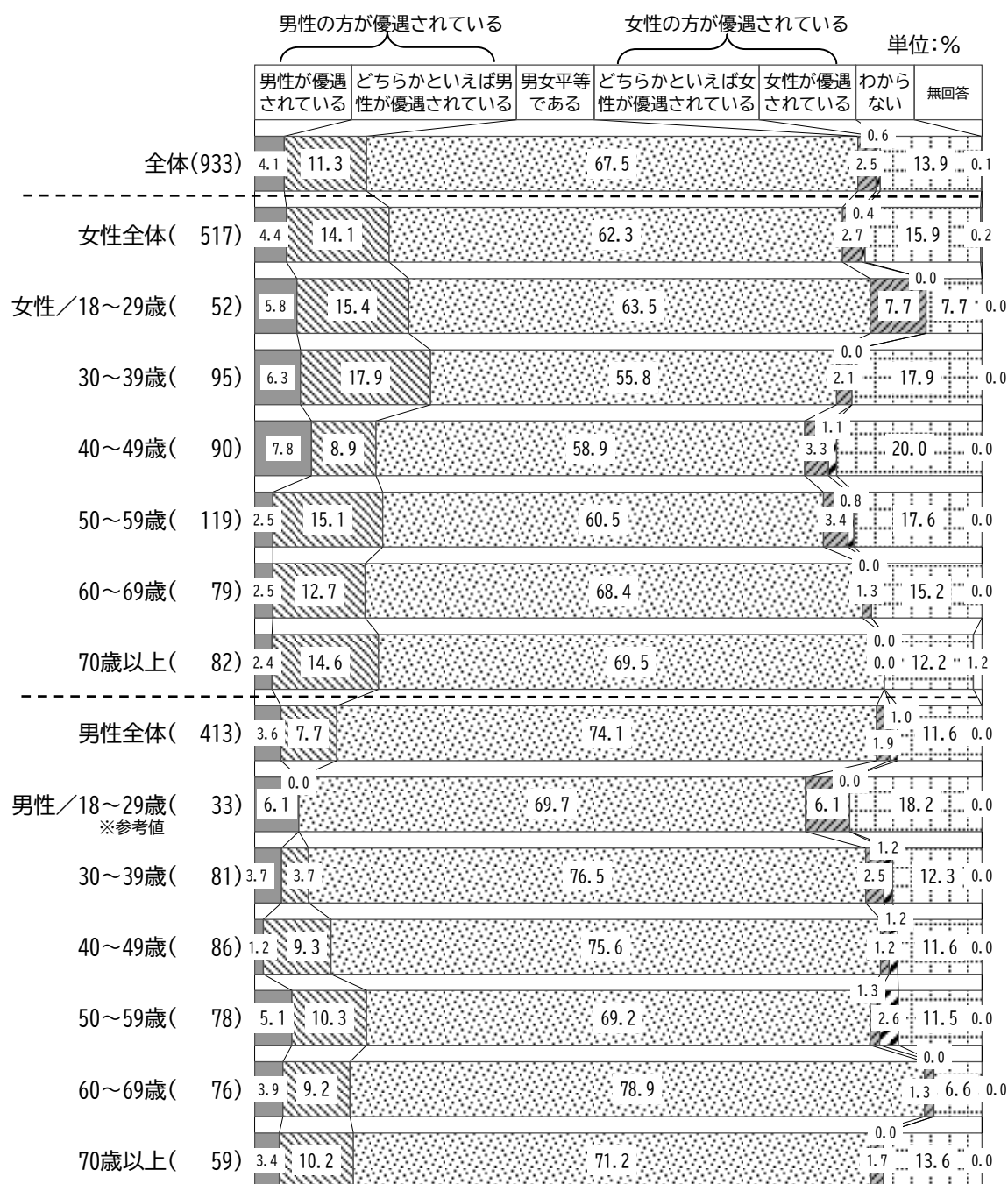
図表 65 男女平等の認識『労働・雇用・職場』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18~29歳では「男女平等である」が3.8%であり、他の年代を5ポイント以上下回っています。

男性では、おおむね年代とともに“男性の方が優遇されている”の割合が増加しており、60~69歳と70歳以上では7割強となっています。30~39歳では“女性の方が優遇されている(「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計)”が17.2%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

(ウ) 学校教育



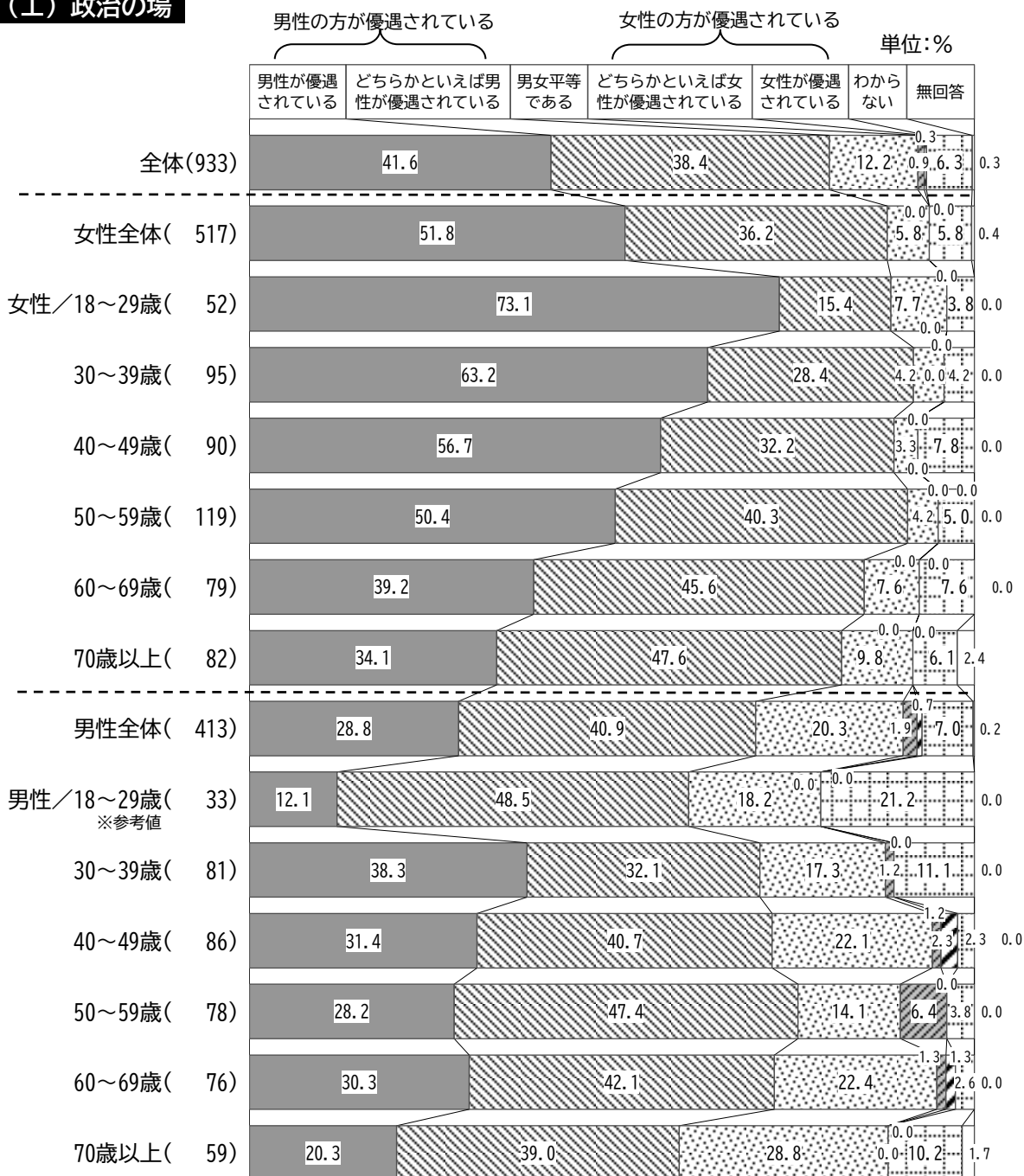
図表 66 男女平等の認識『学校教育』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30~39 歳では“男性の方が優遇されている”が 24.2%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っているほか、「男女平等である」が 55.8%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント下回っています。

男性では、50~59 歳で「男女平等である」が 7 割を下回っています。

(工) 政治の場



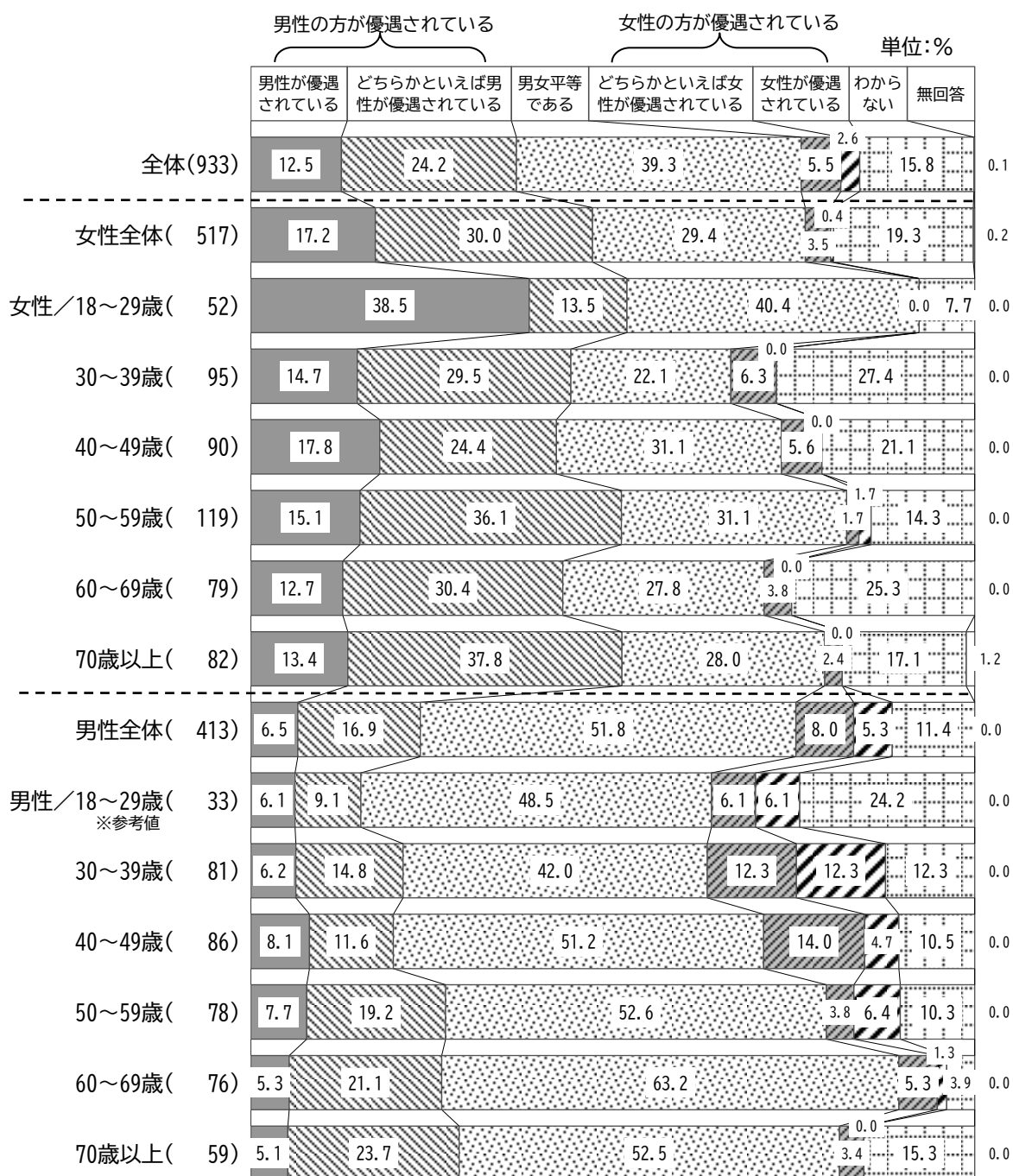
図表 67 男女平等の認識『政治の場』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 59 歳以下の各年代では“男性の方が優遇されている”が9割前後であるのに対し、60~69 歳と 70 歳以上では8割強となっています。このほか、回答者の年代が低いほど「男性が優遇されている」の割合が高くなっており、18~29 歳の「男性が優遇されている」の割合は 73.1%となっています。

男性では、70 歳以上で“男性の方が優遇されている”が 59.3%であり、他の年代を 11 ポイント以上上下回っているほか、「男女平等である」が 28.8%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

(オ) 法律・制度



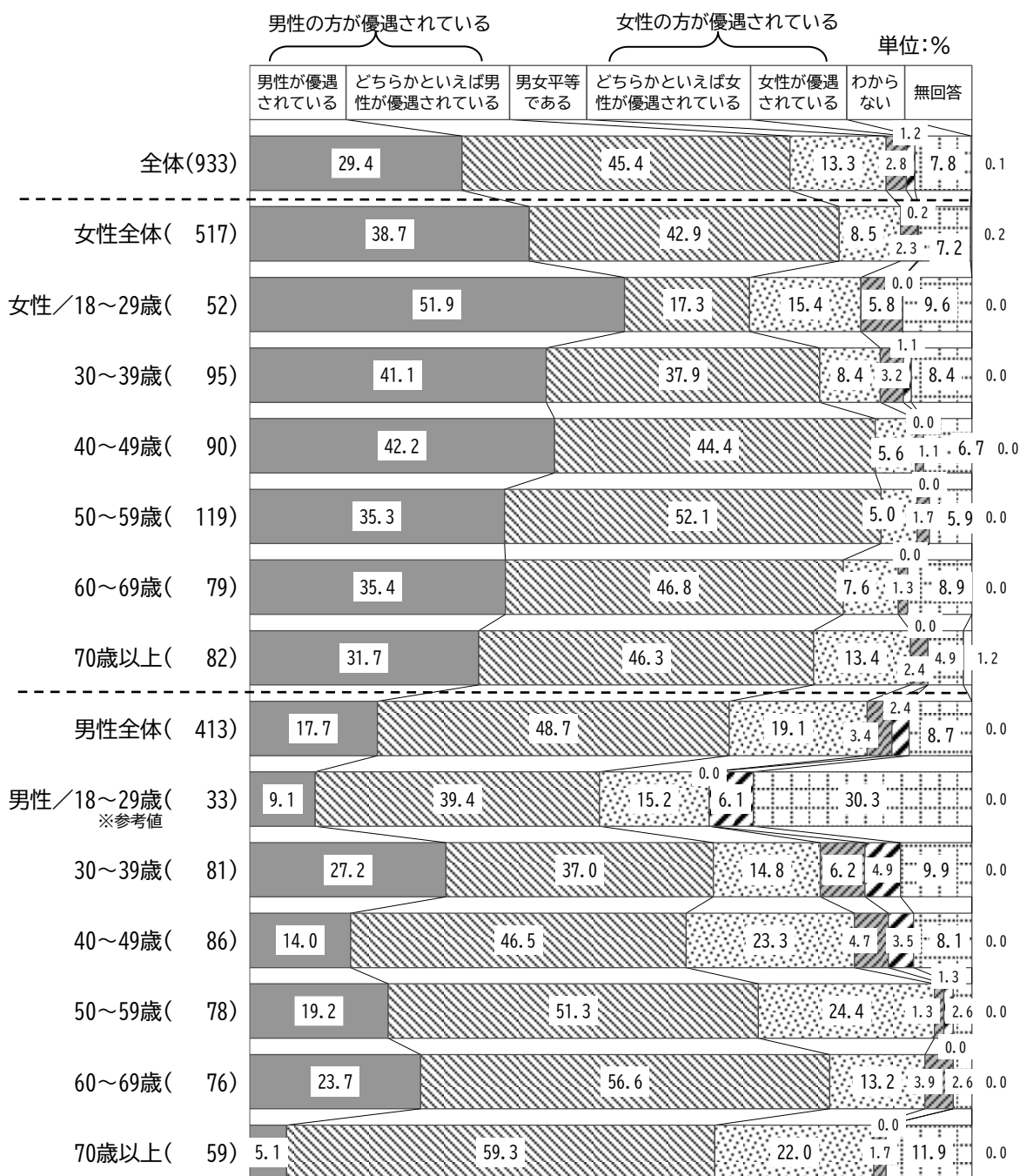
図表 68 男女平等の認識『法律・制度』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18~29歳では「男性が優遇されている」が38.5%であり、他の年代を20ポイント以上上回っています。また、「男女平等である」が40.4%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。

男性では、70歳以上で“男性の方が優遇されている”が28.8%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。60~69歳では「男女平等である」が63.2%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。

(カ) 社会通念・習慣・しきたり



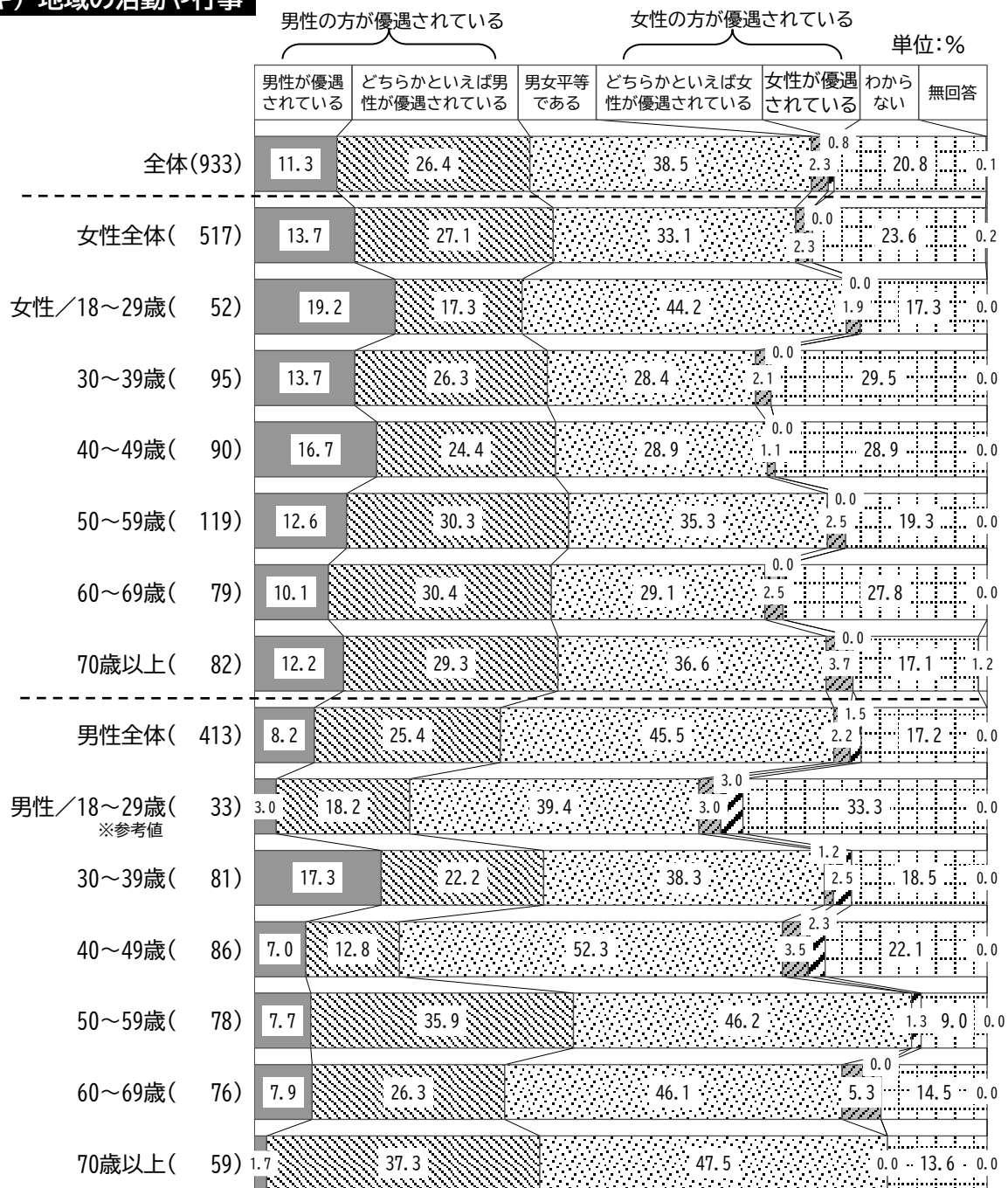
図表 69 男女平等の認識『社会通念・習慣・しきたり』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18~29歳では“男性の方が優遇されている”が69.2%で他の年代を8ポイント以上上回っているものの、「男性が優遇されている」が51.9%で他の年代を9ポイント以上上回っています。

男性では、60~69歳で“男性の方が優遇されている”が80.3%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。

(キ) 地域の活動や行事



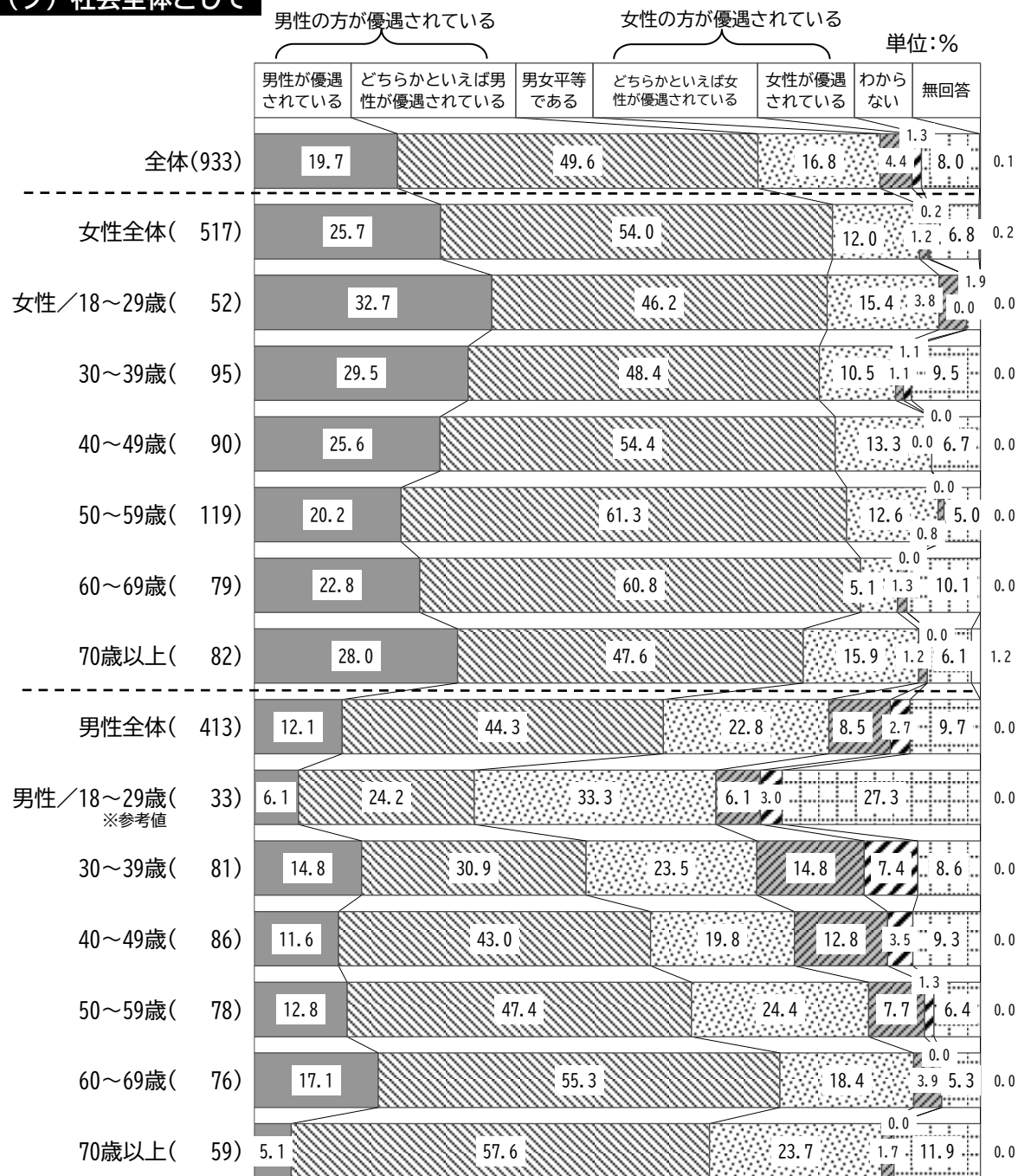
図表 70 男女平等の認識『地域の活動や行事』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18~29 歳では「男女平等である」が 44.2%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。

男性の 40~49 歳では“男性の方が優遇されている”が 19.8%であり、他の年代を 14 ポイント以上上回っているほか、「男女平等である」が 52.3%であり、男性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。

(ク) 社会全体として



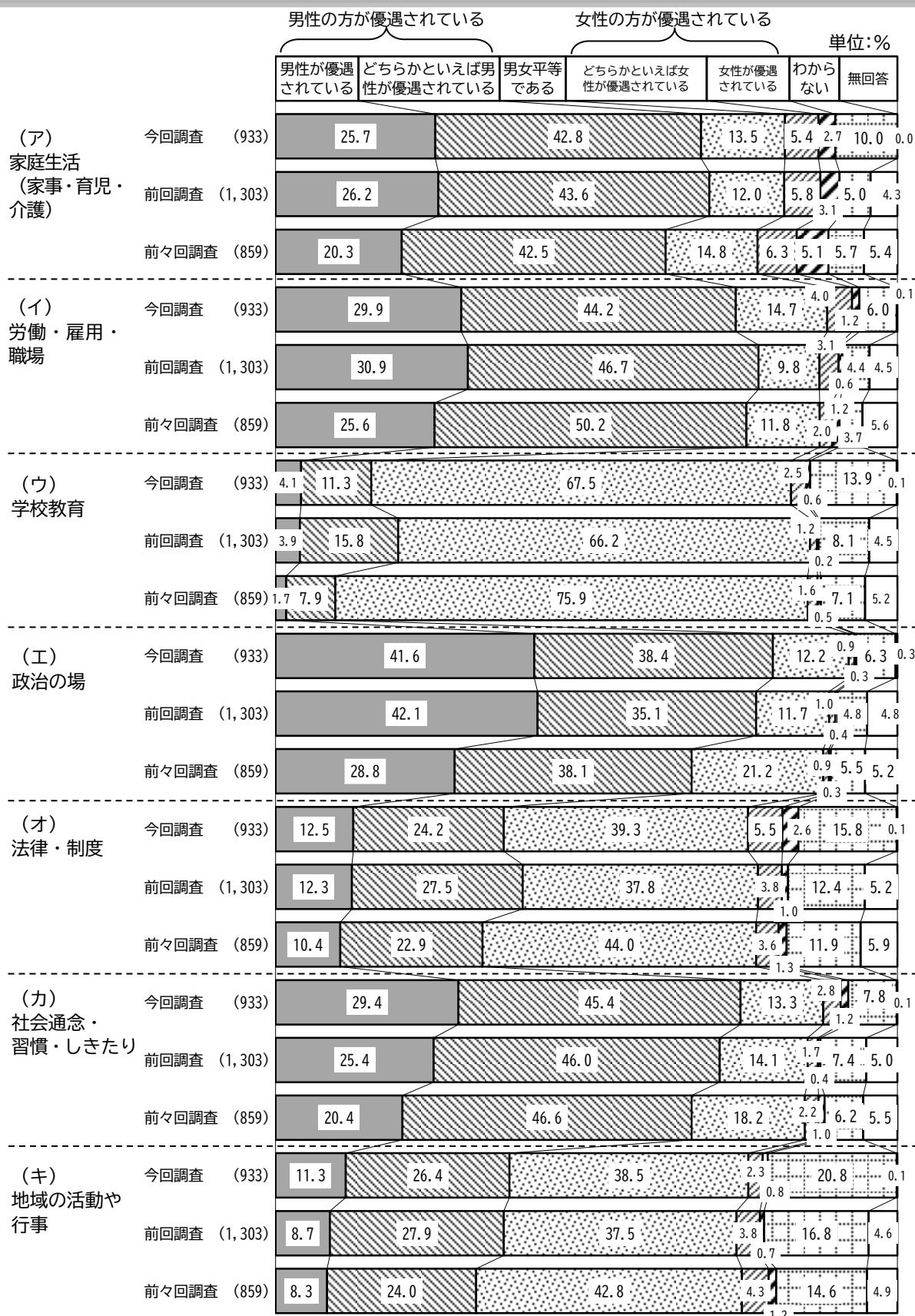
図表 71 男女平等の認識『社会全体として』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の60~69歳では「男女平等である」が5.1%であり、他の年代を5ポイント以上下回っています。

男性では、60~69歳で“男性の方が優遇されている”が72.4%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。また、30~39歳では“女性の方が優遇されている”が22.2%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 72 男女平等の認識◀前回調査・前々回調査との比較▶

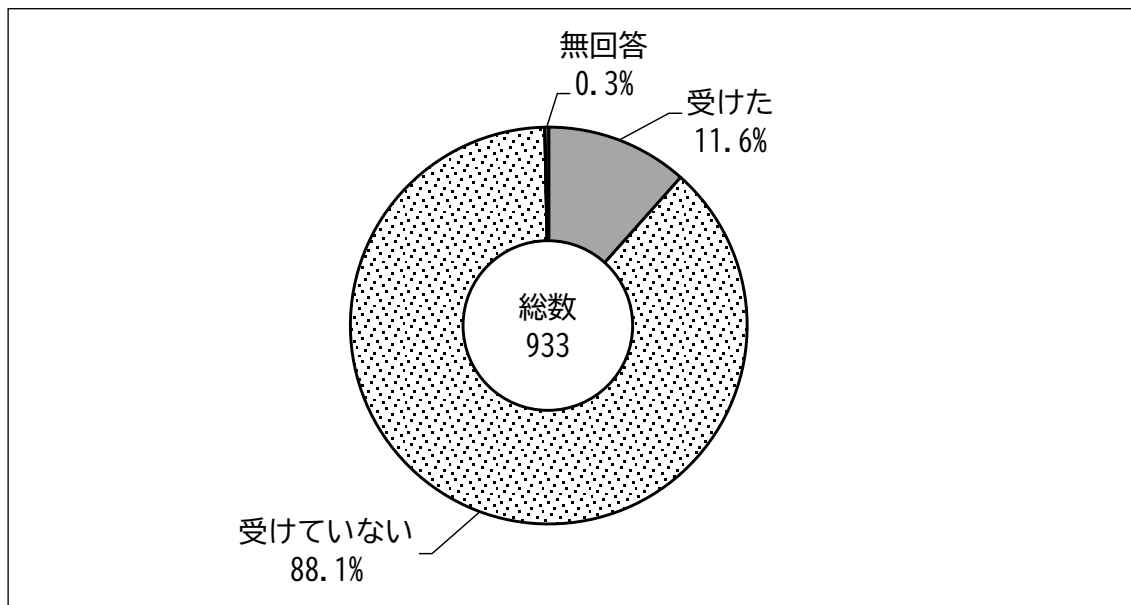
●前回調査・前々回調査との比較

『社会通念・習慣・しきたり』を除く各分野において、前回調査から今回調査にかけて「男女平等である」の割合がやや増加しています。

『政治の場』『社会通念・習慣・しきたり』『地域の活動や行事』では、前々回調査から今回調査にかけて“男性の方が優遇されている”の割合が増加を続けています。

問 11 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

相手を不快にさせる性的な言動を「セクシュアル・ハラスメント」といいます。あなたは
この3年間で、セクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。(○は1つ)



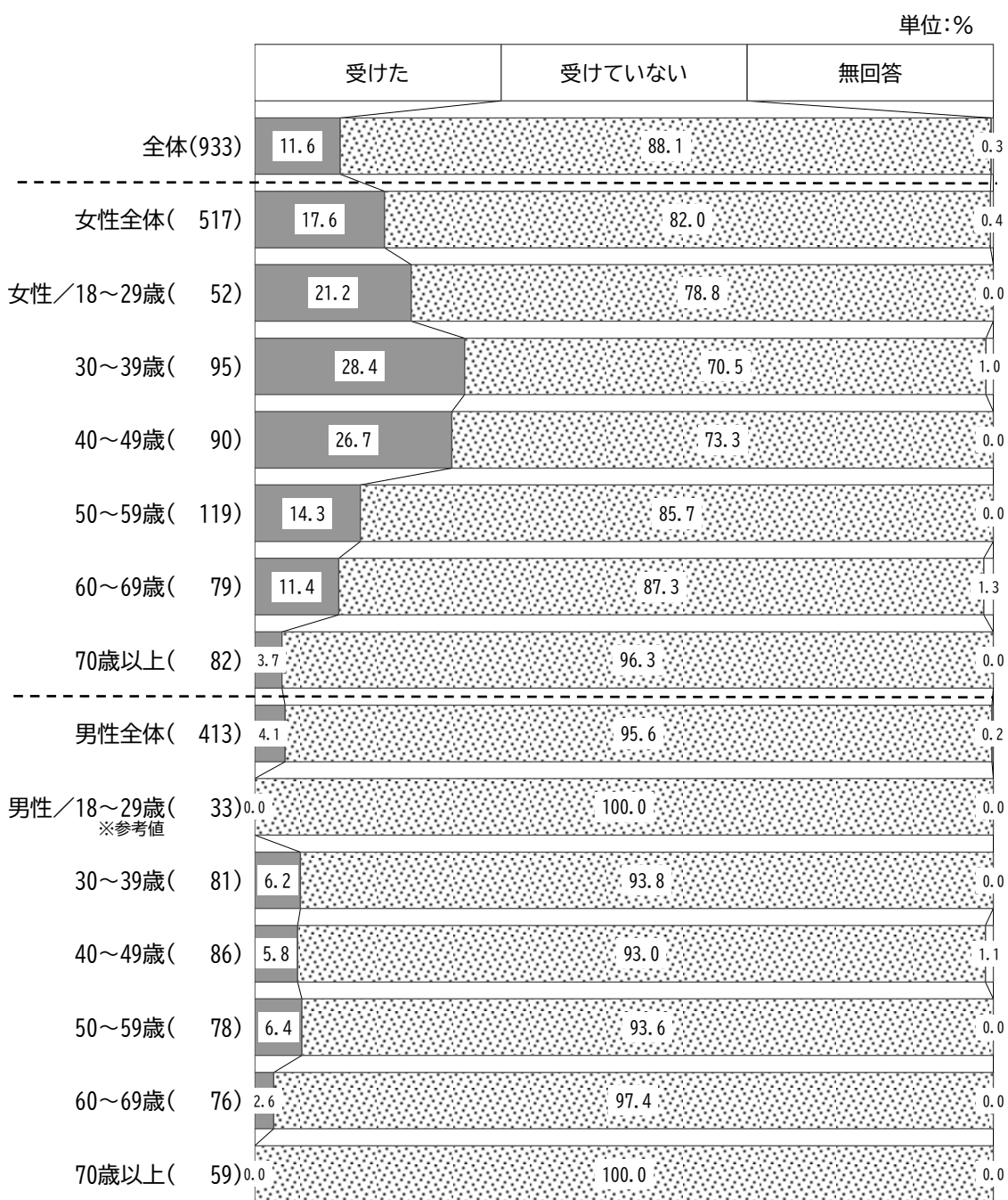
図表 73 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

○全体の傾向

「受けた」が11.6%、「受けていない」が88.1%となっています。

○男女別の傾向

女性の「受けた」は17.6%であり、男性を13ポイント上回っています。

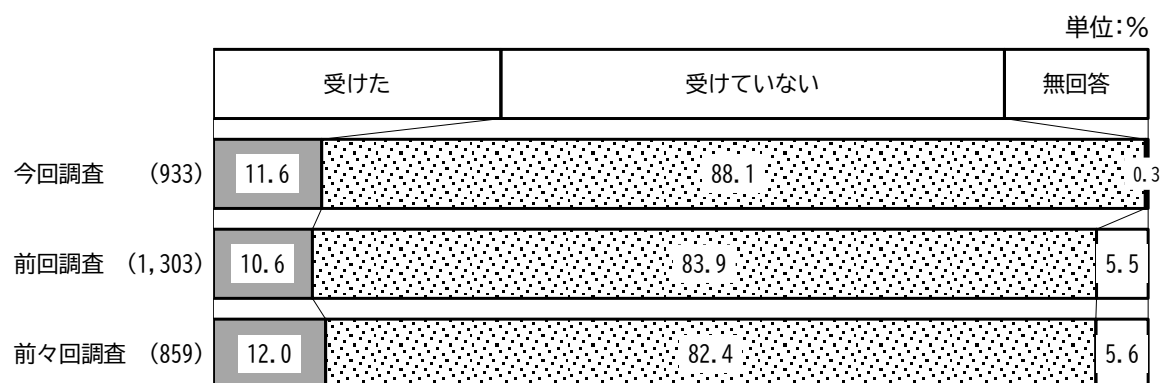


図表 74 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳と 40～49 歳では「受けた」が 3 割弱であり、他の年代の割合を 5 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 75 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験《前回調査・前々回調査との比較》

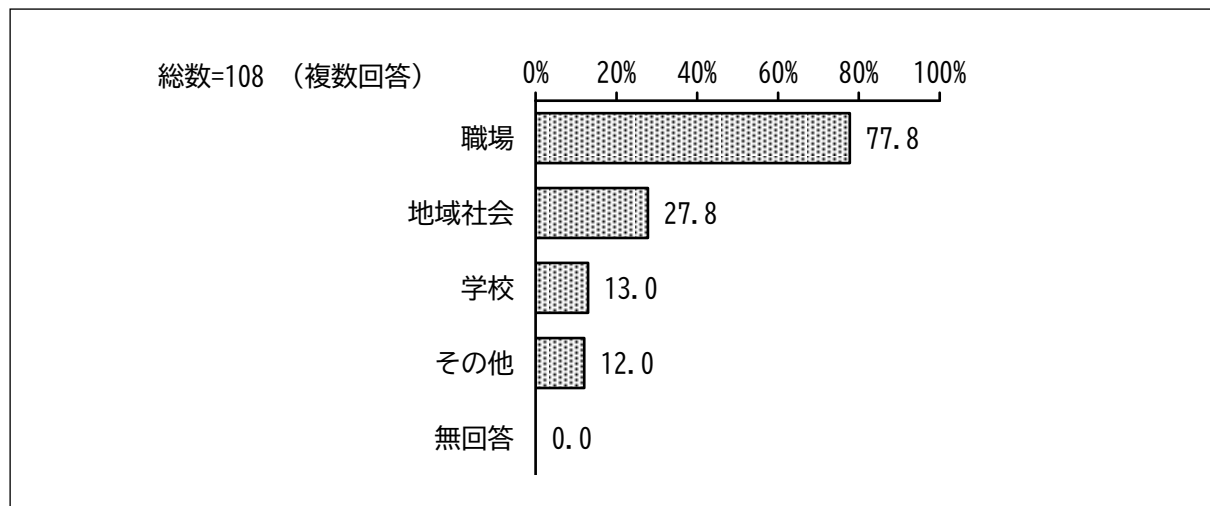
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査、前回調査、前々回調査とも「受けた」が1割強、「受けていない」が8割台であり、大きな傾向の違いは見られません。

問 11-1 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

問 11 で「1. 受けた」を選択された方にうかがいます。

あなたは、セクシュアル・ハラスメントをどこで受けましたか。(〇はいくつでも)



図表 76 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

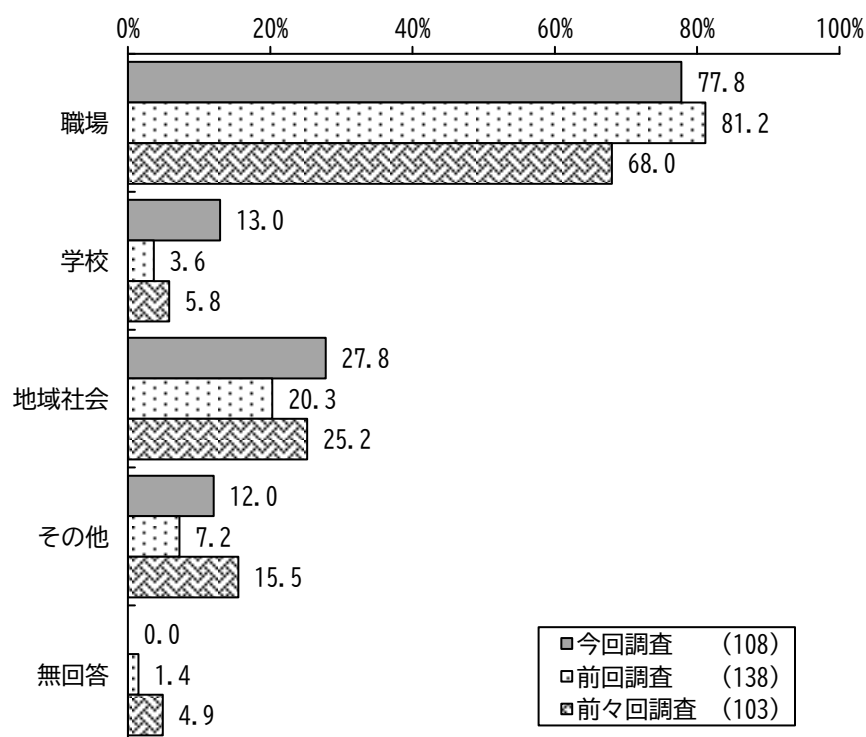
○全体の傾向

この3年間でセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に対して、被害を受けた場所を聞いたところ、「職場」が 77.8%で最も多く、「地域社会」(27.8%)、「学校」(13.0%)が続きます。

			人数	職場	学校	地域社会	その他	無回答
全体			108	77.8	13.0	27.8	12.0	-
性別	女性		91	75.8	13.2	29.7	12.1	-
	男性 ※参考値		17	88.2	11.8	17.6	11.8	-
	その他・無回答 ※参考値		-	-	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳 ※参考値	11	72.7	54.5	18.2	9.1	-
		30～39歳 ※参考値	27	66.7	11.1	48.1	11.1	-
		40～49歳 ※参考値	24	83.3	4.2	25.0	8.3	-
		50～59歳 ※参考値	17	88.2	11.8	11.8	17.6	-
		60～69歳 ※参考値	9	77.8	-	33.3	11.1	-
		70歳以上 ※参考値	3	33.3	-	33.3	33.3	-
		その他・無回答 ※参考値	-	-	-	-	-	-
	男性	18～29歳 ※参考値	-	-	-	-	-	-
		30～39歳 ※参考値	5	100.0	20.0	20.0	-	-
		40～49歳 ※参考値	5	100.0	-	-	20.0	-
		50～59歳 ※参考値	5	80.0	20.0	20.0	20.0	-
		60～69歳 ※参考値	2	50.0	-	50.0	-	-
		70歳以上 ※参考値	-	-	-	-	-	-
		その他・無回答 ※参考値	-	-	-	-	-	-

図表 77 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所(男女・年代別)

▼ 前回調査・前々回調査との比較



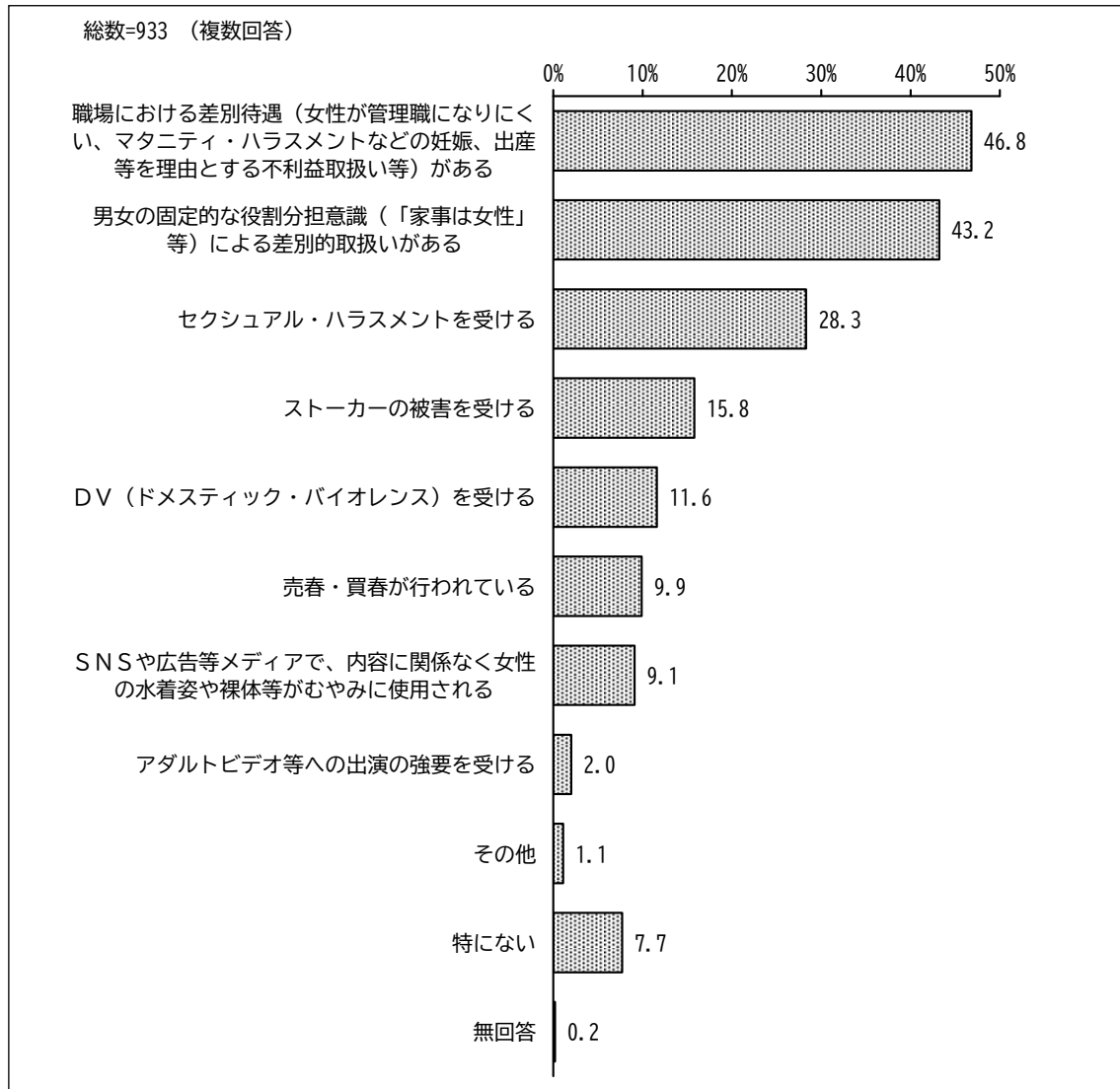
図表 78 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査、前回調査、前々回調査とも「職場」が最も多い回答となっています。前回調査から今回調査にかけて「学校」が9ポイント増加しています。

問 12 女性の人権が守られていないと思うこと

女性の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。（○は2つまで）



図表 79 女性の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が 46.8%で最も多く、「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」（43.2%）、「セクシュアル・ハラスメントを受ける」（28.3%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」は 49.7%、「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」は 54.7%で、男性を 14 ポイント以上上回っています。一方、男性の「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受ける」は 33.4%であり、女性を 9 ポイント上回っています。

		男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある	職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある	セクシュアル・ハラスメントを受ける	DV（ドメスティック・バイオレンス）を受ける	売春・買春が行われている	ストーカーの被害を受ける	アダルトビデオ等への出演の強要を受ける	SNSや広告等メディアで、内容に関係なく女性の水着姿や裸体等がむやみに使用される	特にな	その他	無回答
人数												
全体	933	43.2	46.8	28.3	11.6	9.9	15.8	2.0	9.1	7.7	1.1	0.2
性別												
女性	517	49.7	54.7	24.0	11.6	11.8	13.7	1.2	11.0	3.9	1.2	-
男性	413	34.9	37.3	33.4	11.6	7.5	17.9	3.1	6.8	12.6	1.0	0.5
その他・無回答 ※参考値	3	66.7	-	66.7	-	-	66.7	-	-	-	-	-
性・年代別												
女性												
18～29歳	52	46.2	61.5	23.1	9.6	9.6	13.5	1.9	9.6	5.8	3.8	-
30～39歳	95	56.8	54.7	24.2	5.3	10.5	11.6	2.1	16.8	3.2	-	-
40～49歳	90	50.0	53.3	30.0	14.4	12.2	7.8	1.1	10.0	-	2.2	-
50～59歳	119	55.5	48.7	26.9	16.8	15.1	12.6	1.7	9.2	0.8	-	-
60～69歳	79	41.8	60.8	22.8	11.4	10.1	21.5	-	11.4	2.5	1.3	-
70歳以上	82	42.7	54.9	14.6	9.8	11.0	17.1	-	8.5	13.4	1.2	-
男性												
18～29歳 ※参考値	33	36.4	24.2	36.4	18.2	12.1	9.1	3.0	3.0	15.2	3.0	-
30～39歳	81	37.0	34.6	37.0	12.3	4.9	24.7	1.2	6.2	12.3	-	-
40～49歳	86	32.6	36.0	27.9	5.8	4.7	15.1	2.3	10.5	17.4	2.3	-
50～59歳	78	28.2	38.5	42.3	17.9	6.4	19.2	3.8	3.8	6.4	1.3	-
60～69歳	76	38.2	44.7	36.8	10.5	6.6	15.8	6.6	6.6	9.2	-	-
70歳以上	59	39.0	39.0	18.6	8.5	15.3	18.6	1.7	8.5	16.9	-	3.3
その他・無回答 ※参考値	3	66.7	-	66.7	-	-	66.7	-	-	-	-	-

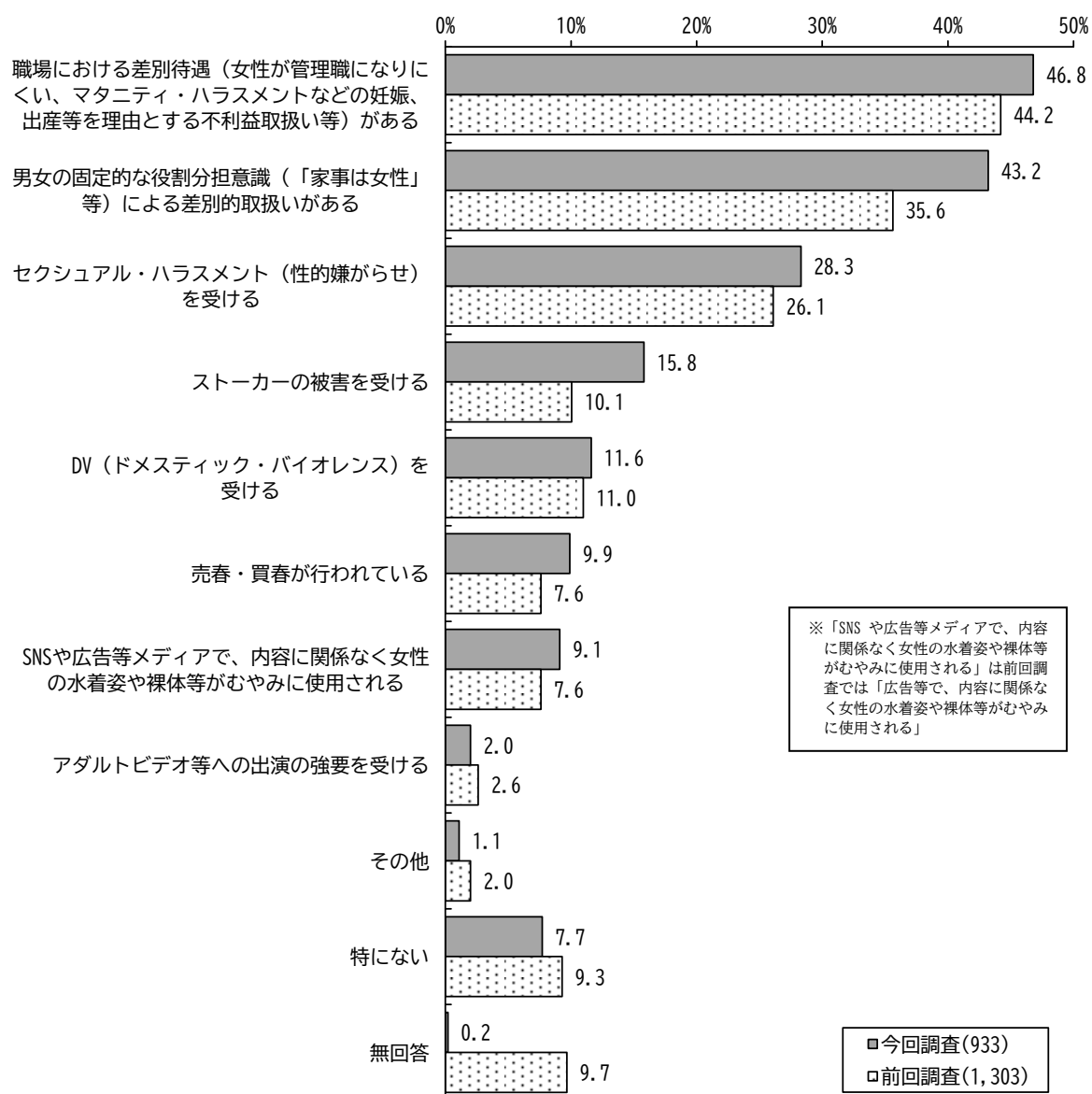
図表 80 女性の人権が守られていないと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳と50～59歳では「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」が5割台半ばから6割弱であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。18～29歳と60～69歳では「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が6割強であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。また、30～39歳では「SNSや広告メディア等で、内容に関係なく女性の水着姿や裸体等がむやみに使用される」が16.8%あり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、30～39歳で「ストーカーの被害を受ける」が24.7%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。60～69歳では「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が44.7%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



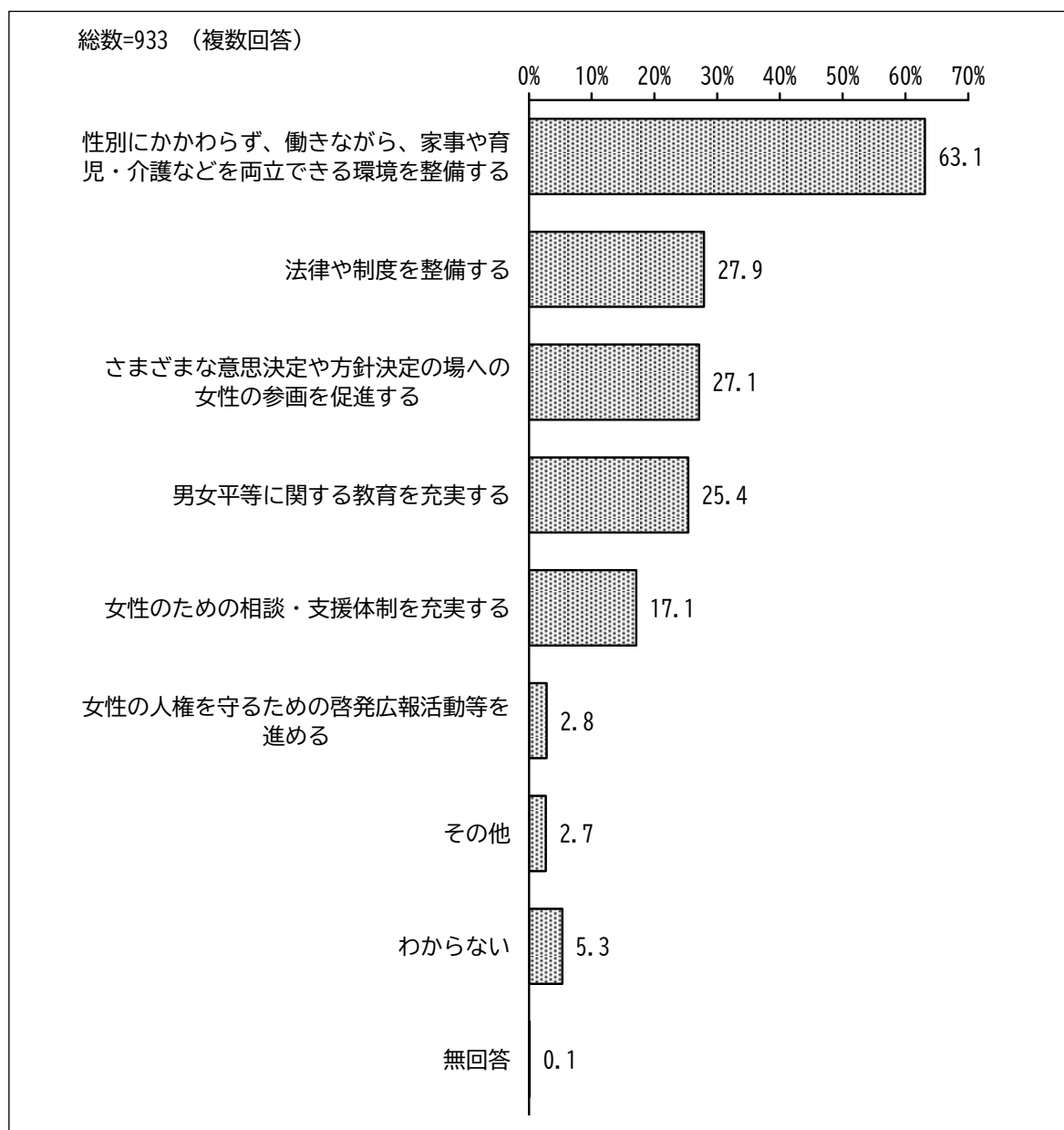
図表 81 女性の人権が守られていないと思うこと《前回調査との比較》

●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて、「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」が7ポイント増加するとともに、「ストーカー被害を受ける」が5ポイント増加しています。

問 13 女性の人権を守るために実施すべきこと

女性の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。（○は2つまで）



図表 82 女性の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が63.1%で最も多く、「法律や制度を整備する」(27.9%)、「さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」(27.1%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」は70.8%であり、男性(53.3%)を17ポイント上回っています。

			人数	女性のための相談・支援体制を充実する	両立できる環境を整備する	性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などをこなす	さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する	女性の人権を守るための啓発広報活動等を進める	男女平等に関する教育を充実する	法律や制度を整備する	わからない	その他	無回答
全体			933	17.1	63.1	27.1	2.8	25.4	27.9	5.3	2.7	0.1	
性別	女性		517	16.2	70.8	30.9	2.3	26.1	28.8	3.3	1.2	-	
	男性		413	18.4	53.3	22.5	3.4	24.7	26.2	7.7	4.6	0.2	
	その他・無回答 ※参考値		3	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	52	17.3	75.0	28.8	-	11.5	40.4	1.9	-	-	
		30～39歳	95	15.8	80.0	32.6	1.1	16.8	28.4	1.1	3.2	-	
		40～49歳	90	17.8	66.7	40.0	2.2	22.2	22.2	4.4	1.1	-	
		50～59歳	119	17.6	64.7	27.7	1.7	27.7	32.8	5.0	1.7	-	
		60～69歳	79	17.7	77.2	24.1	2.5	41.8	26.6	-	-	-	
		70歳以上	82	11.0	64.6	31.7	6.1	32.9	25.6	6.1	-	-	
	男性	18～29歳 ※参考値	33	12.1	48.5	12.1	3.0	27.3	21.2	18.2	3.0	-	
		30～39歳	81	18.5	54.3	17.3	1.2	22.2	28.4	8.6	7.4	-	
		40～49歳	86	12.8	54.7	19.8	3.5	18.6	33.7	9.3	4.7	-	
		50～59歳	78	19.2	55.1	21.8	3.8	30.8	17.9	7.7	5.1	-	
		60～69歳	76	25.0	56.6	25.0	5.3	28.9	26.3	1.3	5.3	-	
		70歳以上	59	20.3	45.8	37.3	3.4	22.0	25.4	6.8	-	1.7	
	その他・無回答 ※参考値		3	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	

図表 83 女性の人権を守るために実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では「法律や制度を整備する」が 40.4%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。40～49 歳では、「さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」が 40.0%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。「男女平等に関する教育を充実する」は 60～69 歳にかけて年代とともに割合が増加しており、50～59 歳では 27.7%、60～69 歳では 41.8%となっています。

男性では 40～49 歳で「法律や制度を整備する」が 33.7%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。「さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」は年代とともに割合が増加しており、60～69 歳では 25.0%、70 歳以上では 37.3%となっています。

			人数	女性のための相談・支援体制を充実する	性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する	女性の権利を守るための啓発広報活動を進める	男女平等に関する教育を充実する	法律や制度を整備する	わからない	その他	無回答
全体			933	17.1	63.1	27.1	2.8	25.4	27.9	5.3	2.7	0.1
性・年代別	女性	自営業 ※参考値	36	8.3	72.2	38.9	-	19.4	25.0	-	2.8	-
		勤め	261	16.5	72.4	30.3	1.9	24.9	30.7	2.3	1.1	-
		学生 ※参考値	17	23.5	76.5	23.5	-	5.9	41.2	5.9	-	-
		主婦・主夫	129	17.1	72.1	31.0	2.3	27.1	26.4	4.7	1.6	-
		無職	52	19.2	63.5	32.7	3.8	28.8	23.1	7.7	-	-
		その他 ※参考値	21	9.5	52.4	28.6	9.5	57.1	28.6	-	-	-
	男性	自営業	65	23.1	63.1	21.5	3.1	24.6	24.6	3.1	4.6	-
		勤め	277	16.6	52.7	21.3	3.2	25.3	25.6	8.3	5.4	-
		学生 ※参考値	5	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	-	20.0	-
		主婦・主夫 ※参考値	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-
		無職 ※参考値	48	16.7	43.8	29.2	4.2	22.9	29.2	12.5	-	2.1
		その他 ※参考値	17	29.4	58.8	29.4	-	23.5	23.5	5.9	-	-
無回答ほか ※参考値		4	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	

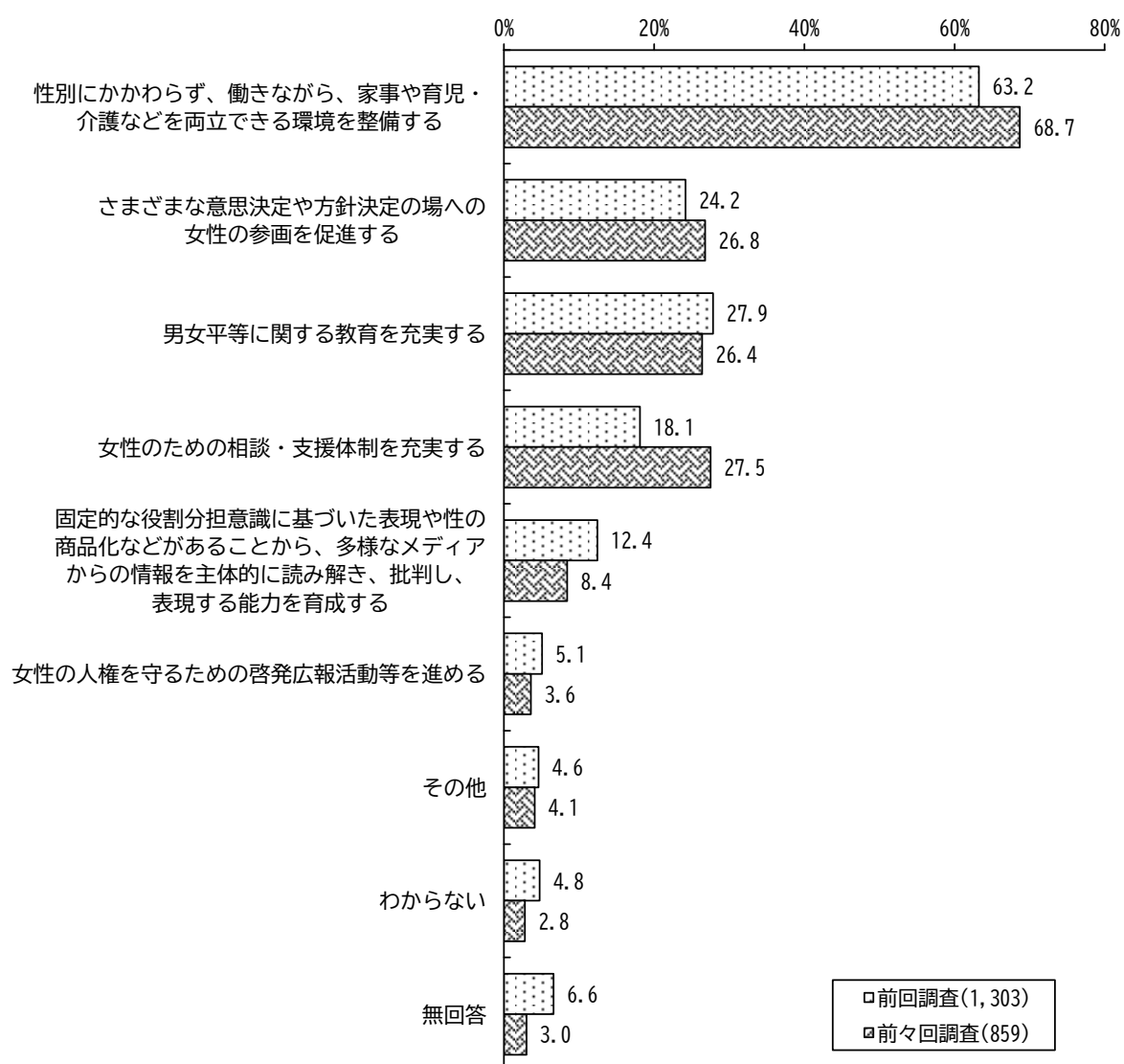
図表 84 女性の人権を守るために実施すべきこと(男女・職業別)

○男女・職業別の傾向

無職の女性では、「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が63.5%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント下回っています。

自営業の男性では、「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が63.1%であり、男性回答者全体の割合を9ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



図表 85 女性の人権を守るために実施すべきこと「前回調査・前々回調査結果」

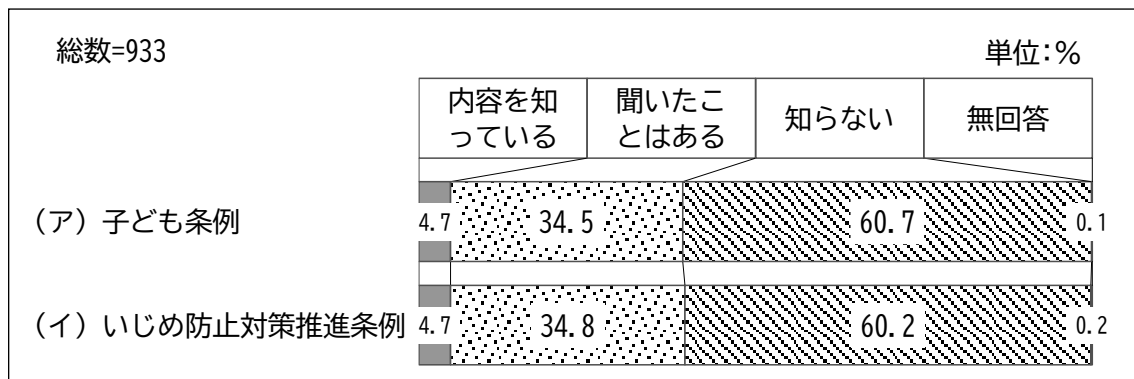
●今回調査で選択肢の入れ替えを行ったため、参考掲載します。

3 子どもの人権について

問 14 区制定条例の認知

目黒区が制定した「子ども条例」や「いじめ防止対策推進条例」を知っていますか。

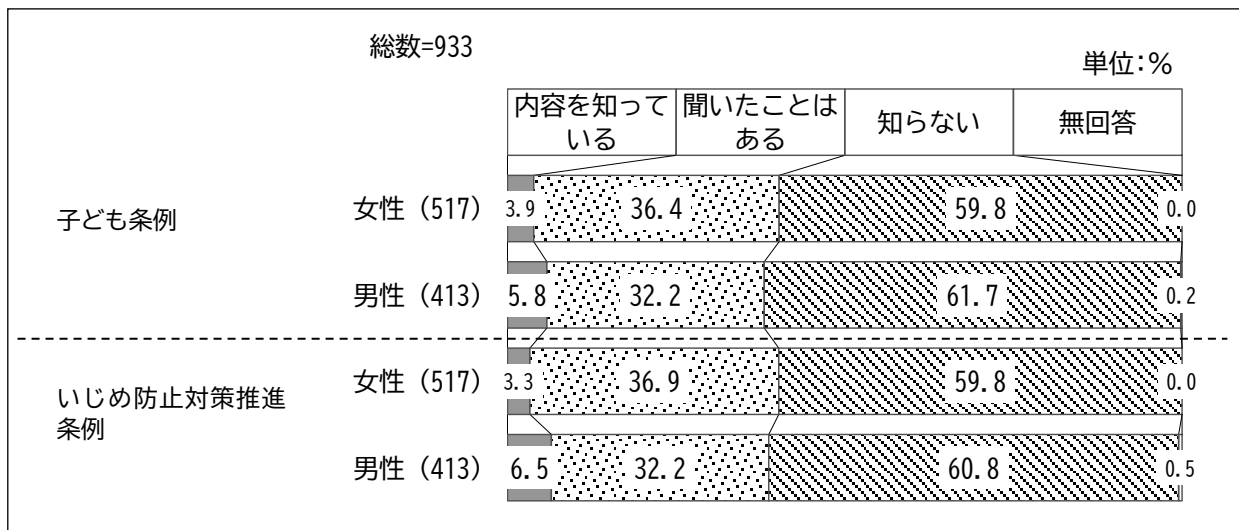
(ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 86 区制定条例の認知

○全体の傾向

目黒区が制定した条例について、『子ども条例』『いじめ防止対策推進条例』ともに「内容を知っている」が1割未満、「聞いたことはある」が3割台半ばにとどまっており、「知らない」という回答が6割を占めています。

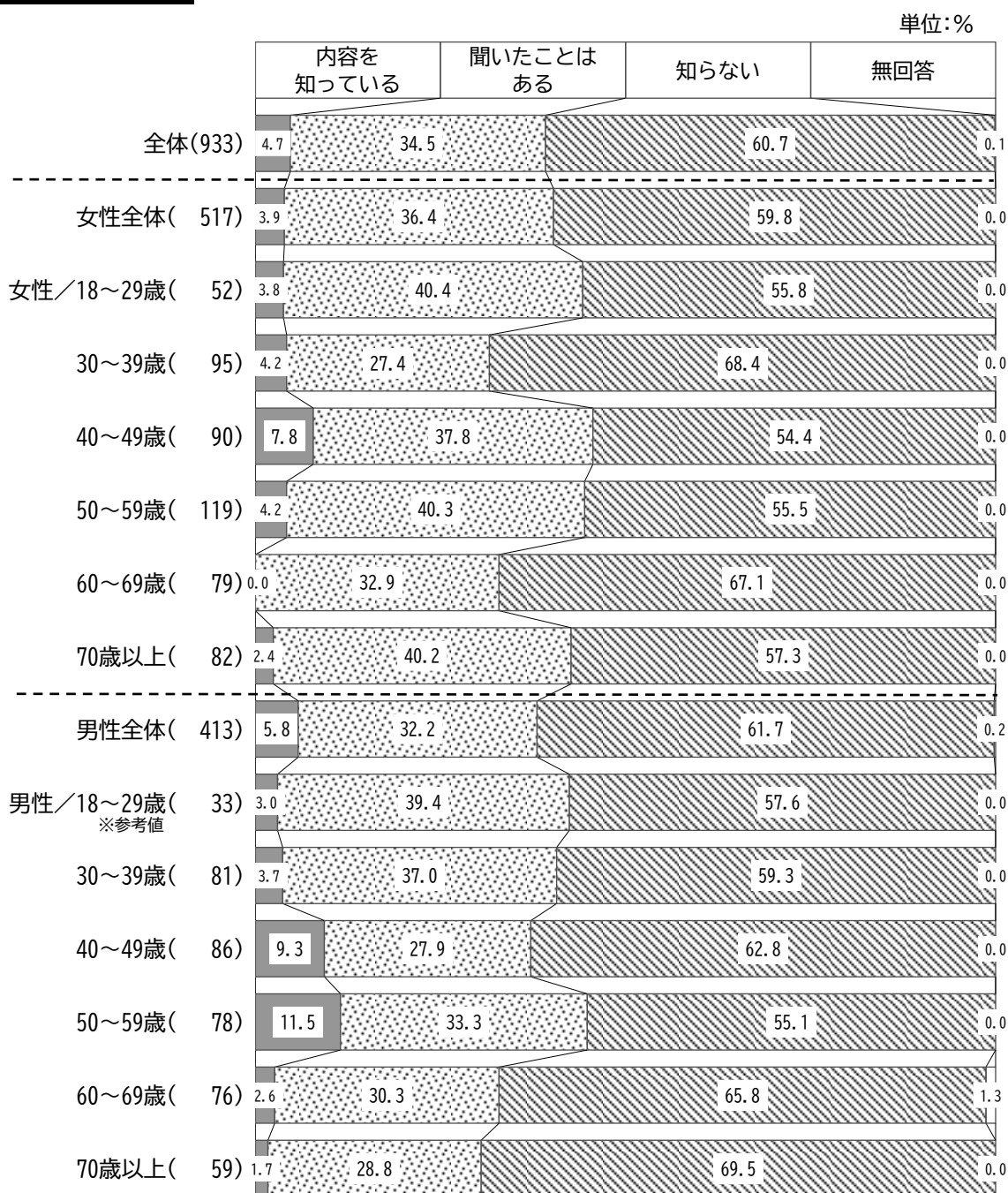


図表 87 区制定条例の認知(男女別)

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

(ア) 子ども条例



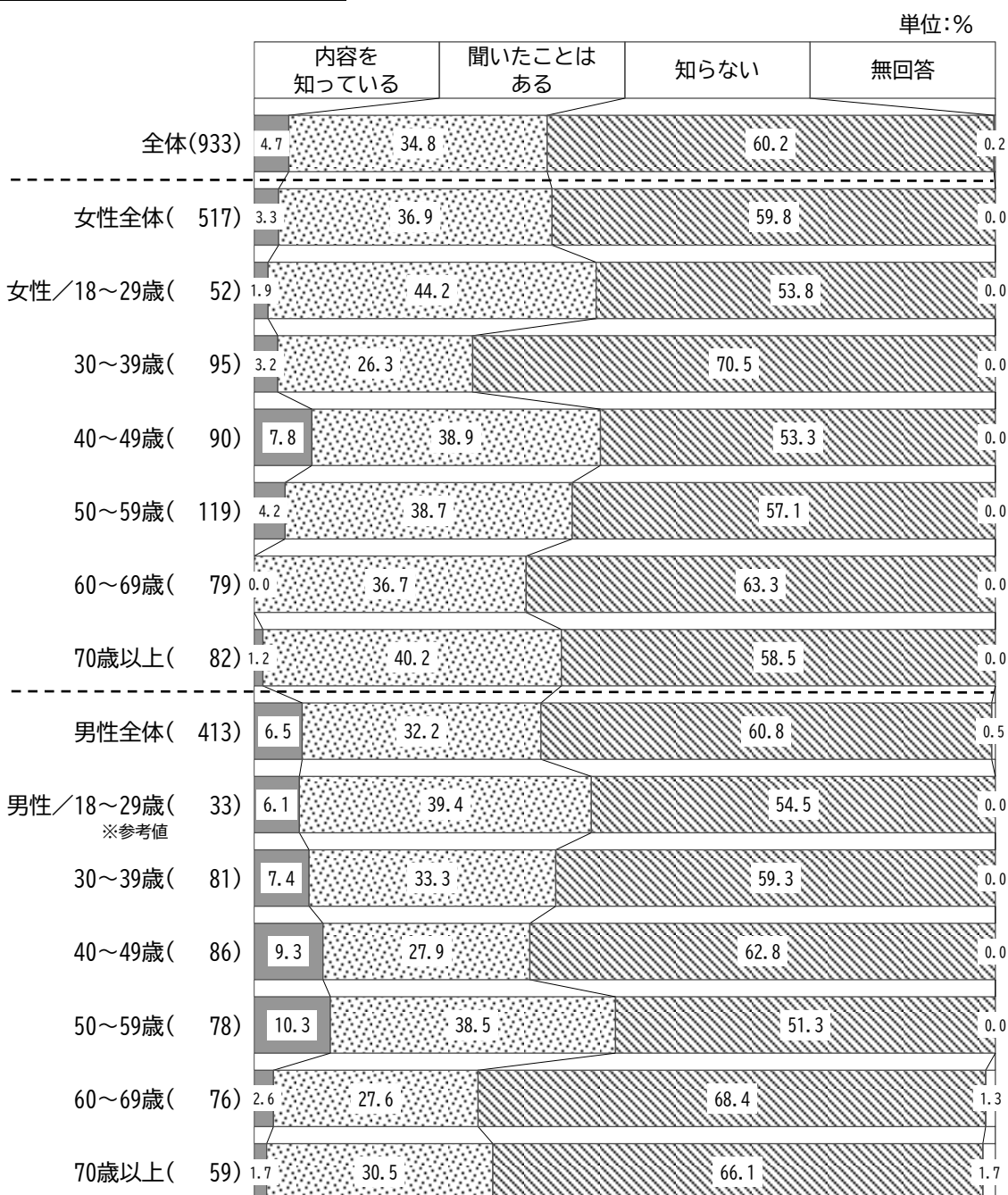
図表 88 区制定条例の認知『子ども条例』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 40～49 歳では「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が 45.6%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。30～39 歳と 60～69 歳では「知らない」が 7 割弱であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

男性では、40～49 歳と 50～59 歳で「内容を知っている」が 1 割前後であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

(イ) いじめ防止対策推進条例



図表 89 区制定条例の認知『いじめ防止対策推進条例』(男女・年代別)

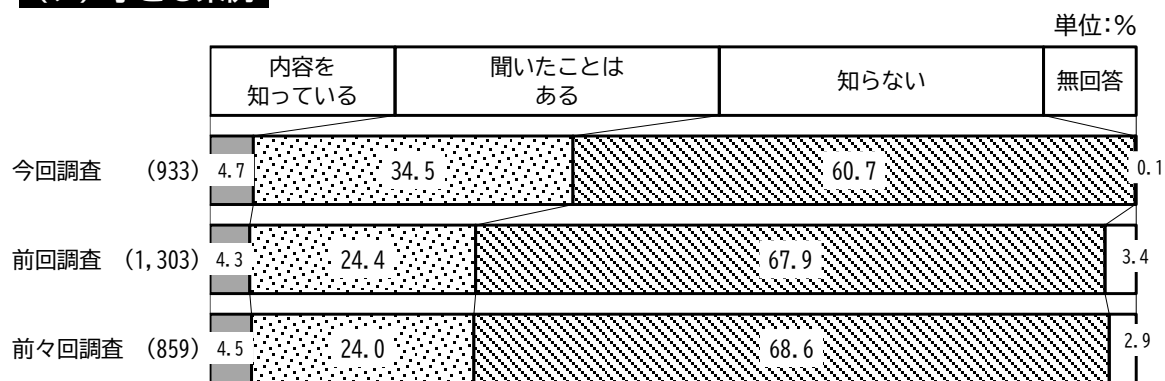
○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と40～49歳では「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が5割弱であり、女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。30～39歳では「知らない」が70.5%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。

男性では、50～59歳で「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が48.8%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較

(ア) 子ども条例



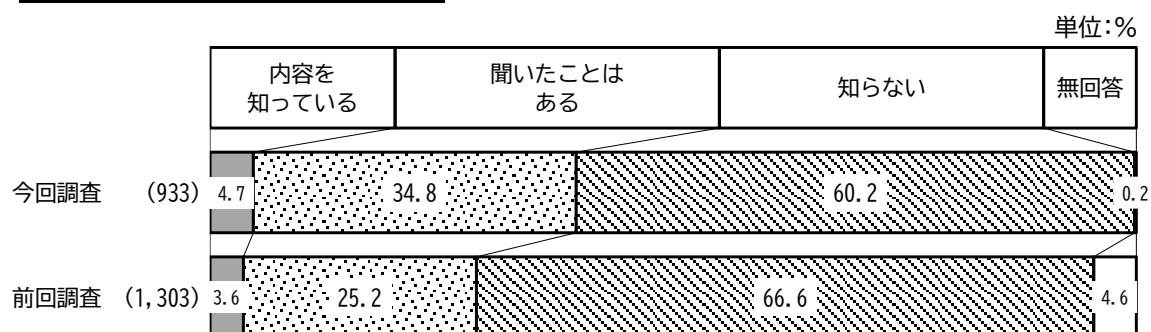
※「内容を知っている」は前々回調査では「条例の内容を知っている」。
「聞いたことはある」は前々回調査では「内容は分からないが条例があることは知っている」。

図表 90 区制定条例の認知(子ども条例)◀前回調査・前々回調査との比較▶

●前回調査・前々回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「聞いたことはある」の割合が10ポイント増加し、「知らない」の割合が7ポイント減少しています。

(イ) いじめ防止対策推進条例



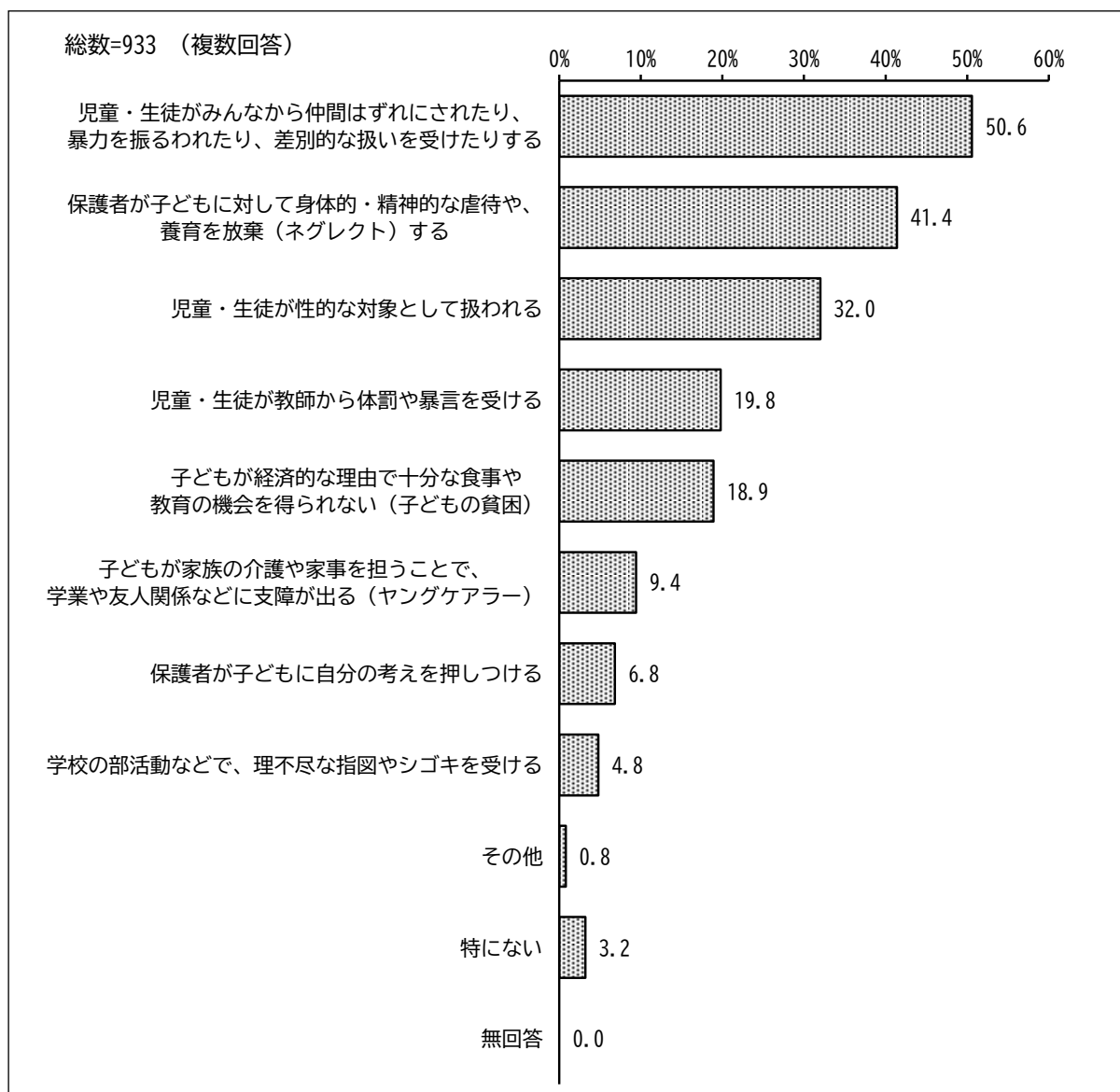
図表 91 区制定条例の認知(いじめ防止対策推進条例)◀前回調査との比較▶

●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「聞いたことはある」の割合が9ポイント増加し、「知らない」の割合が6ポイント減少しています。

問 15 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと

次にあげる子どもの人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。（○は2つまで）



図表 92 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が 50.6%で最も多く、「保護者が子どもに対して身体的・精神的な虐待や、養育を放棄（ネグレクト）する」(41.4%)、「児童・生徒が性的な対象として扱われる」(32.0%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「児童・生徒が性的な対象として扱われる」(37.7%)は男性の割合を 12 ポイント上回るとともに、「保護者が子どもに対して身体的・精神的な虐待や、養育を放棄（ネグレクト）する」(45.5%)は男性の割合を 9 ポイント上回っています。

		人数	差別的な扱いを受けたりする	児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、	児童・生徒が教師から体罰や暴言を受ける	学校の部活動などで、理不尽な指図やシゴキを受ける	児童・生徒が性的な対象として扱われる	保護者が子どもに対して身体的・精神的な虐待や、養育を放棄（ネグレクト）する	保護者が子どもに自分の考えを押しつける	子どもが経済的な理由で十分な食事や教育の機会を得られない（子どもの貧困）	子どもが家族の介護や家事を担うことで、学業や友人関係などに支障が出る（ヤングケアラー）	特にな	その他	無回答	
全体		933	50.6	19.8	4.8	32.0	41.4	6.8	18.9	9.4	3.2	0.8	-		
性別	女性	517	49.3	17.8	3.3	37.7	45.5	7.5	19.1	10.8	0.8	0.4	-		
	男性	413	52.3	22.5	6.8	24.9	35.8	5.6	18.6	7.7	6.3	1.2	-		
	その他・無回答 ※参考値	3	33.3	-	-	33.3	100.0	33.3	-	-	-	-	-		
性・年代別	女性	18～29歳	52	30.8	26.9	3.8	48.1	38.5	7.7	15.4	11.5	1.9	-	-	
		30～39歳	95	47.4	16.8	4.2	41.1	46.3	6.3	17.9	13.7	-	-	-	
		40～49歳	90	48.9	21.1	3.3	38.9	46.7	7.8	16.7	12.2	-	-	-	
		50～59歳	119	52.1	11.8	3.4	37.0	44.5	6.7	22.7	13.4	-	1.7	-	
		60～69歳	79	54.4	16.5	2.5	40.5	51.9	5.1	19.0	5.1	-	-	-	
		70歳以上	82	54.9	19.5	2.4	24.4	42.7	12.2	20.7	7.3	3.7	-	-	
	男性	18～29歳 ※参考値	33	45.5	15.2	6.1	15.2	39.4	6.1	18.2	12.1	6.1	9.1	-	-
		30～39歳	81	37.0	23.5	8.6	33.3	42.0	9.9	18.5	8.6	4.9	-	-	-
		40～49歳	86	54.7	27.9	7.0	27.9	36.0	5.8	14.0	5.8	5.8	-	-	-
		50～59歳	78	56.4	23.1	6.4	20.5	33.3	6.4	24.4	9.0	2.6	2.6	-	-
		60～69歳	76	57.9	22.4	3.9	23.7	39.5	2.6	14.5	10.5	6.6	-	-	-
		70歳以上	59	61.0	16.9	8.5	22.0	23.7	1.7	23.7	1.7	13.6	-	-	-
その他・無回答 ※参考値		3	33.3	-	-	33.3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	

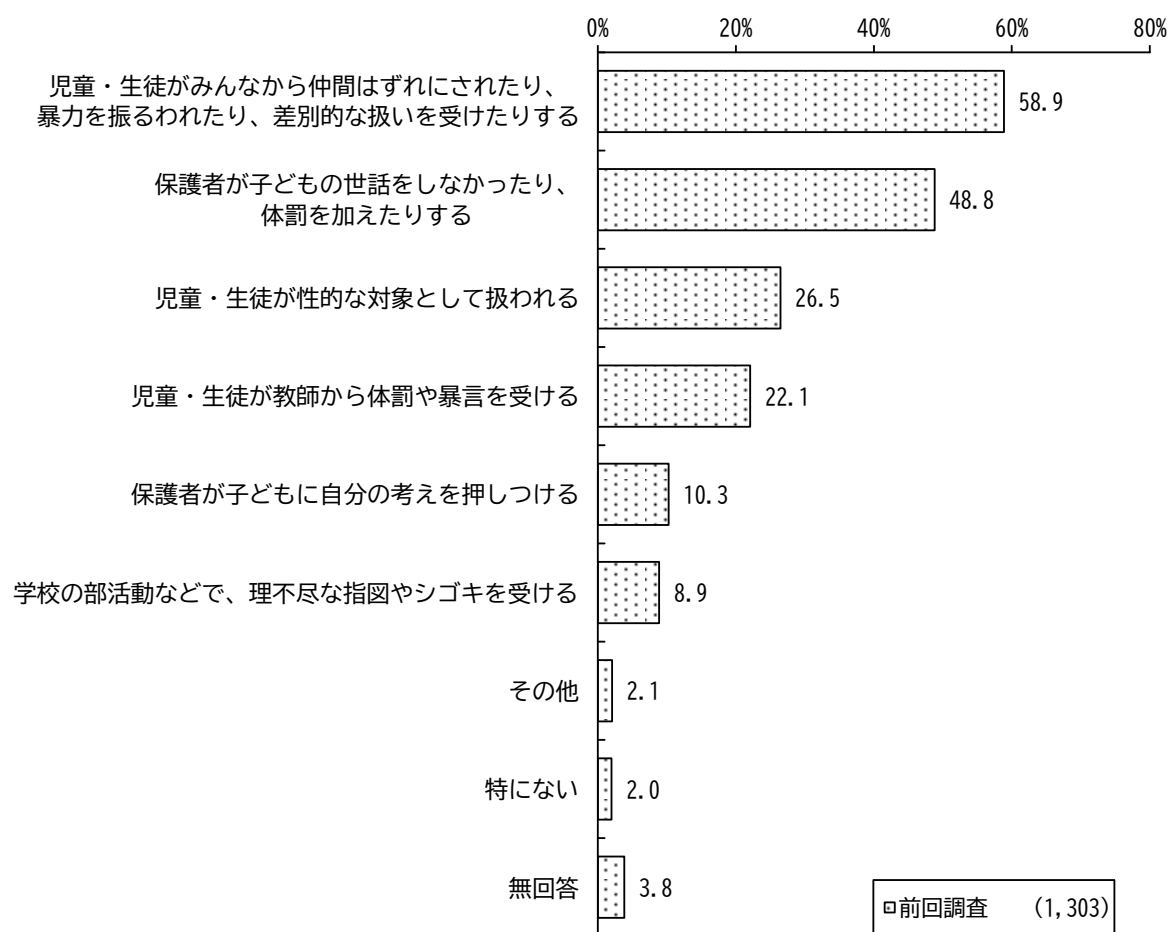
図表 93 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が30.8%であり、他の年代を16ポイント以上下回っています。一方で、女性の18～29歳では「児童・生徒が教師から体罰や暴言を受ける」(26.9%)、「児童・生徒が性的な対象として扱われる」(48.1%)がいずれも他の年代を5ポイント以上上回っています。また、60～69歳では、「保護者が子どもに対して身体的・精神的な虐待や、養育を放棄（ネグレクト）する」が51.9%で、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、30～39歳で「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が37.0%で、他の年代を17ポイント以上下回っています。一方、30～39歳の「児童・生徒が性的な対象として扱われる」は33.3%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査結果

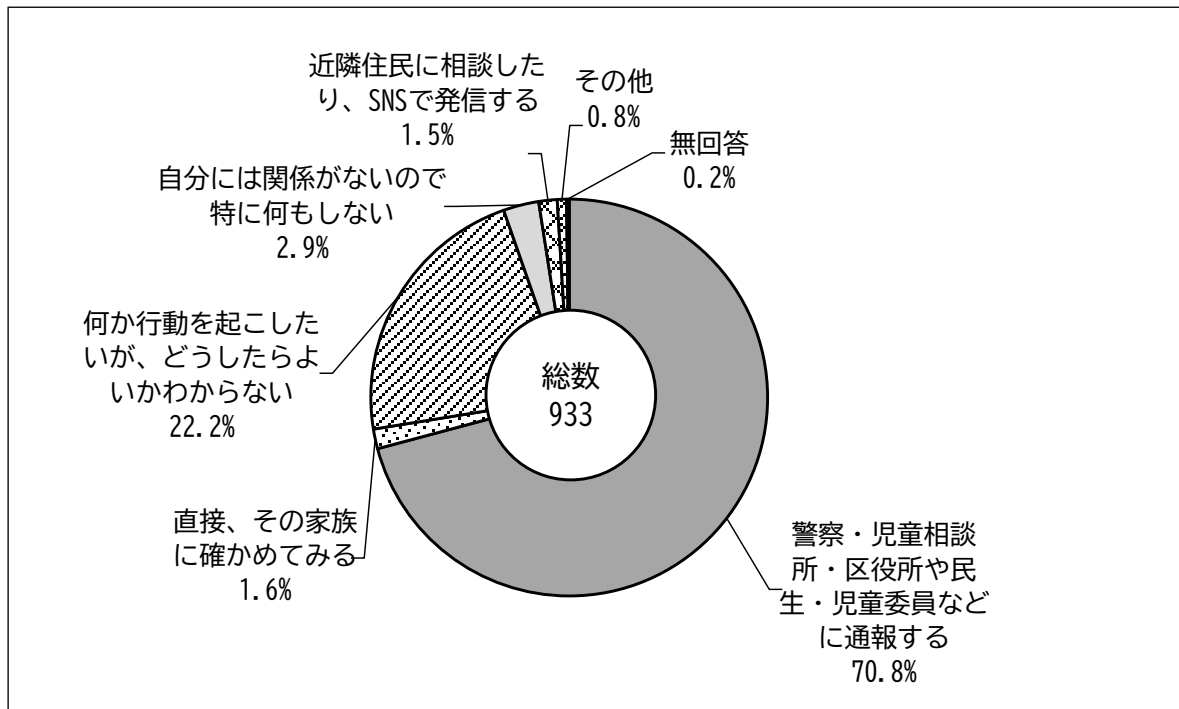


図表 94 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと《前回調査結果》

●今回調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 16 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応

あなたがお住まいの地域の子どもの保護者等から虐待を受けていると思われる場合、あなたはどうしますか。(〇は1つ)



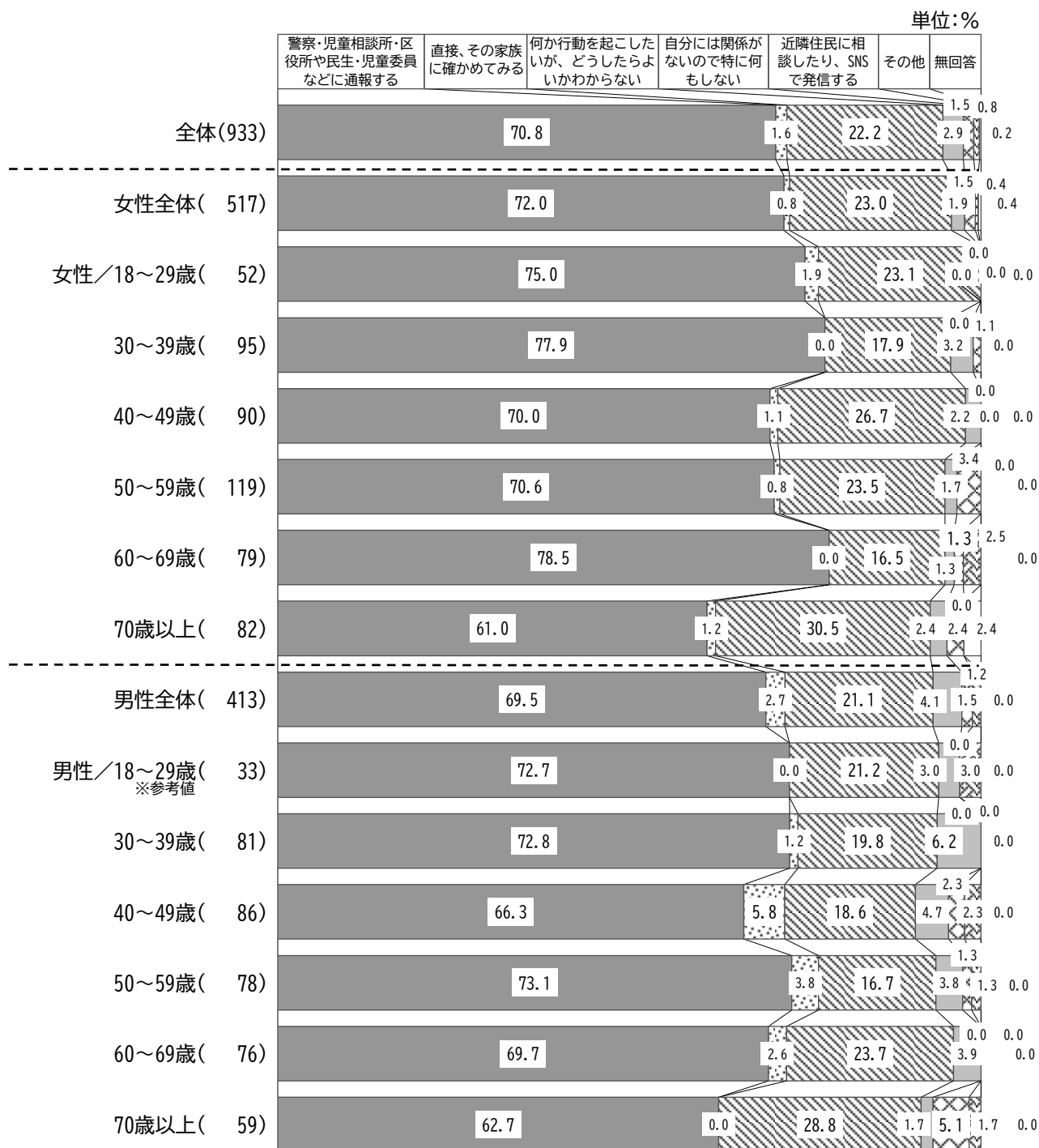
図表 95 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応

○全体の傾向

「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が70.8%で最も多く、「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」(22.2%)が続きます。「自分には関係がないので特に何もしない」「直接、その家族に確かめてみる」「近隣住民に相談したり、SNSで発信する」という回答は、いずれも1割に達していません。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

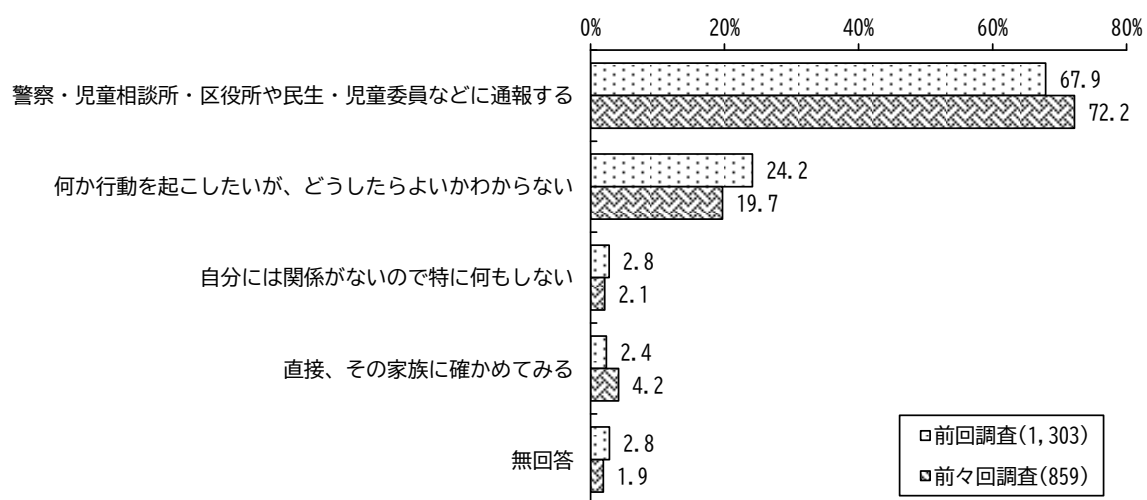


図表 96 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の30~39歳と60~69歳では、「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が8割弱であり、女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。また、男女とも70歳以上では「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が6割強にとどまるとともに、「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」が3割前後で女性回答者全体・男性回答者全体の割合をそれぞれ7ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果

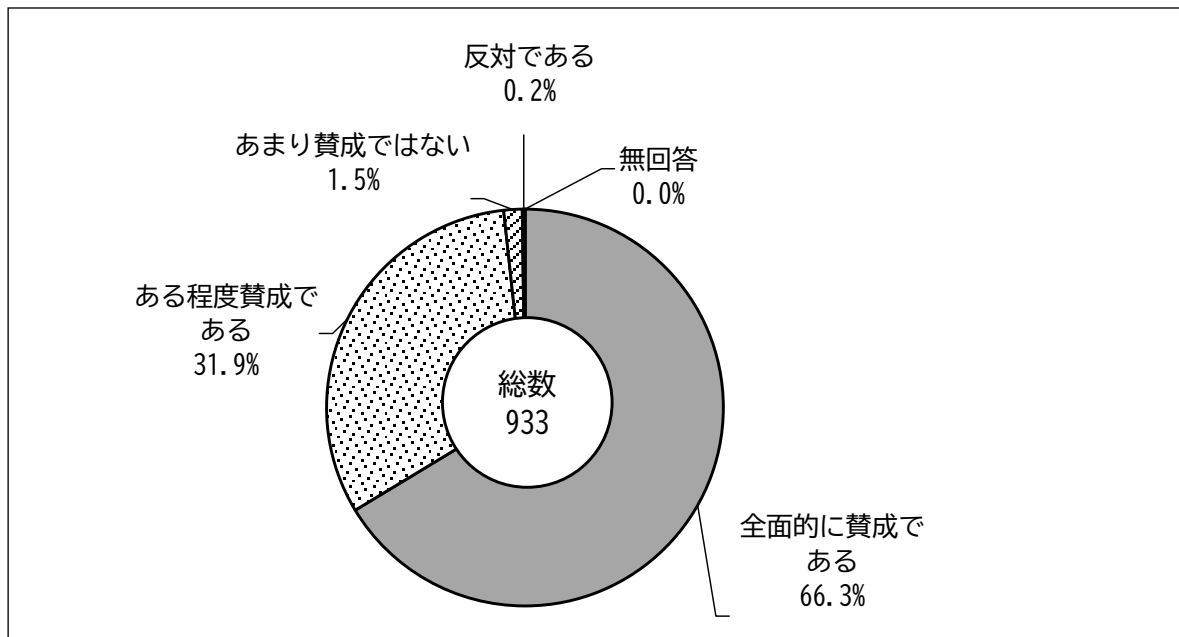


図表 97 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 17 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え 方への賛否

「子どもを一人の人間として尊重し、子どもが主体性や自立心を伸ばすことのできる社会が望ましい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



図表 98 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否

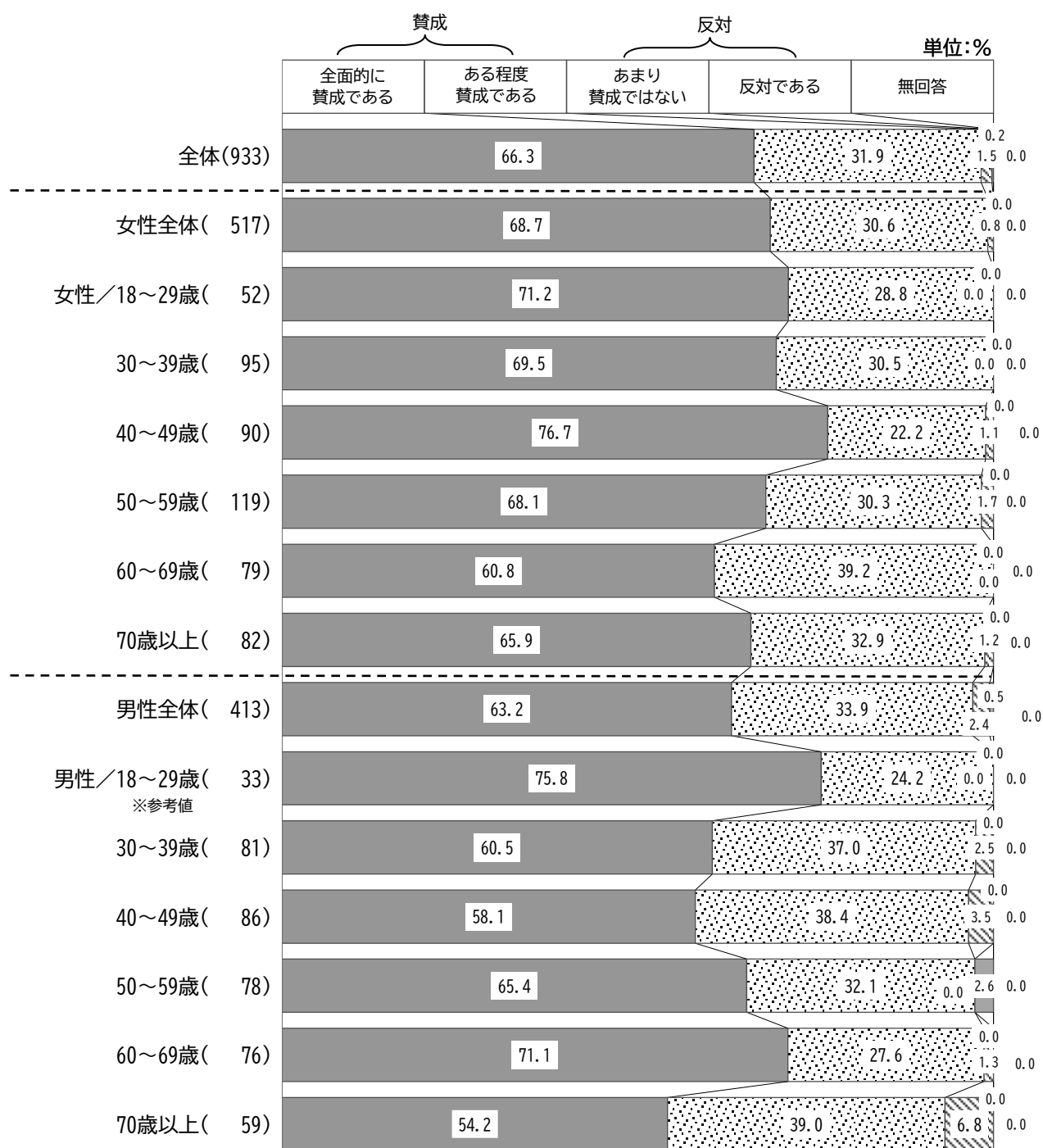
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 66.3%、「ある程度賛成である」が 31.9%であり、「反対である」が 0.2%、「あまり賛成ではない」が 1.5%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 98.2%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 1.7%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

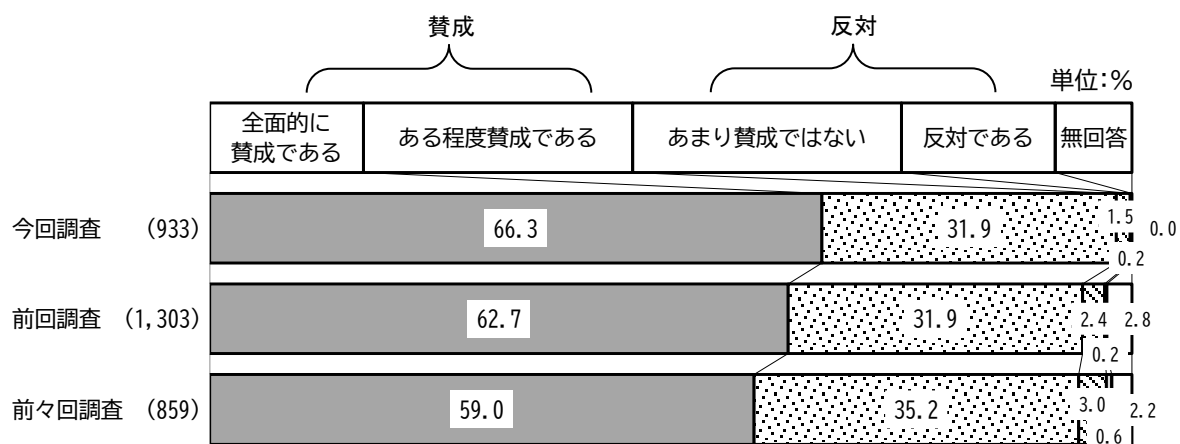
女性の「全面的に賛成である」は 68.7%であり、男性を 5 ポイント上回っています。



○男女・年代別の傾向

男性では、60～69 歳で「全面的に賛成である」が 71.1%であり、男性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。一方、70 歳以上では「全面的に賛成である」が 54.2%であり、男性回答者全体の割合を 9 ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



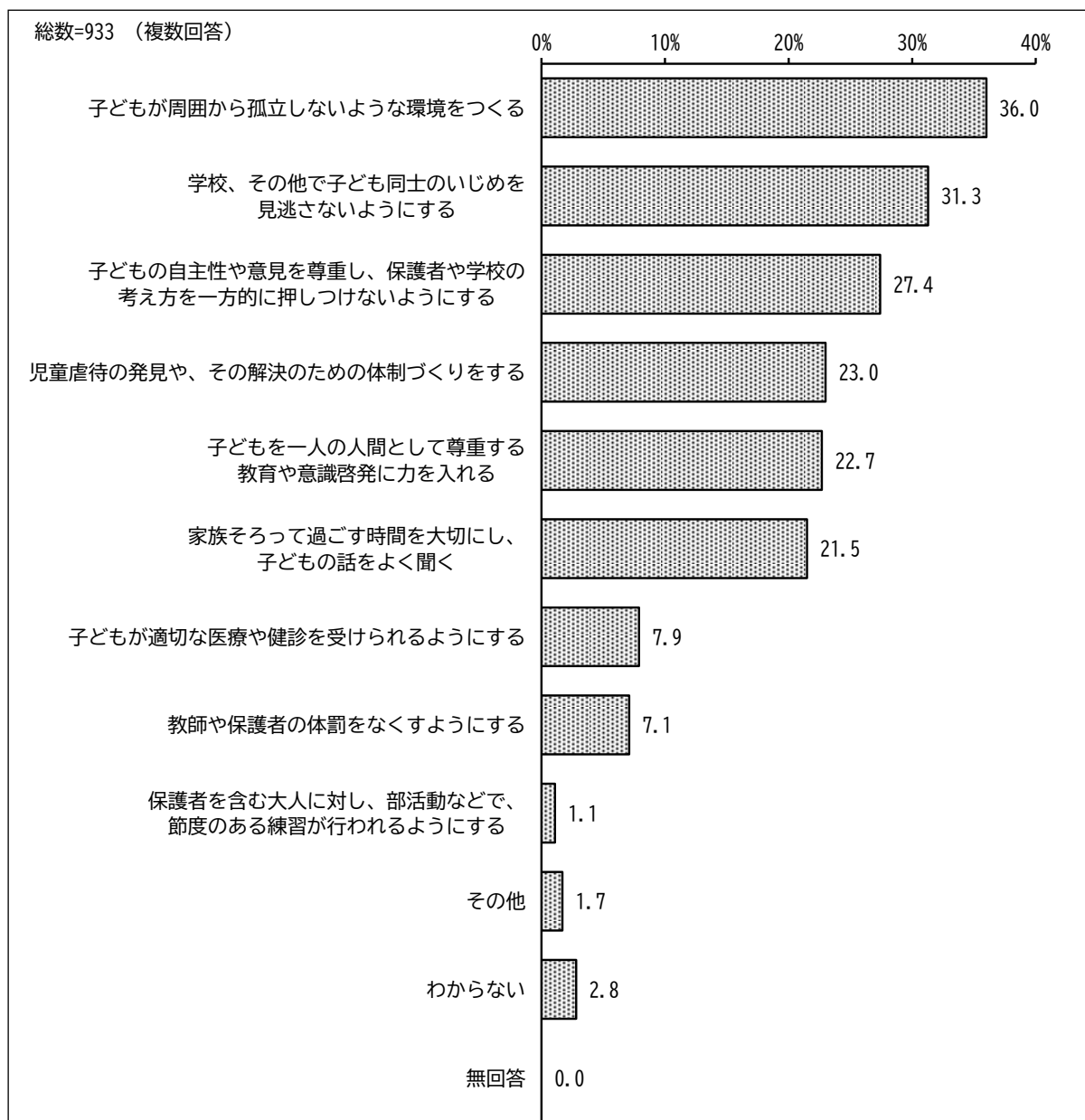
図表 100 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「全面的に賛成である」の割合が増加を続けており、今回調査の「全面的に賛成である」の割合は前々回調査を7ポイント上回っています。なお、今回調査・前回調査・前々回調査とも“賛成”が9割以上を占めています。

問 18 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと

子どもの人権を守るため、大人たちはどのようにするべきだと思いますか。(〇は2つまで)



図表 101 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと

○全体の傾向

「子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる」が 36.0%で最も多く、「学校、その他で子ども同士のいじめを見逃さないようにする」(31.3%)、「子どもの自主性や意見を尊重し、保護者や学校の考え方を一方的に押しつけないようにする」(27.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」は 25.7%であり、男性の割合を 6 ポイント上回っています。男性の「学校、その他で子ども同士のいじめを見逃さないようにする」は 34.6%であり、女性の割合を 6 ポイント上回っています。

		人数	子どもが周囲から孤立しないよう	学校、その他で子ども同士のいじめを見逃さないようにする	押しつけないようにする	子どもの自主性や意見を尊重し、保護者や学校の考え方を一方的に	教師や保護者の体罰をなくすようにする	保護者を含む大人に対し、部活動などで、節度のある練習が行われるようにする	子どもを一人の人間として尊重する教育や意識啓発に力を入れる	児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	家族そろって過ごす時間を大切に、子どもとの話をよく聞く	子どもが適切な医療や健診を受けられるようにする	わからない	その他	無回答
全体		933	36.0	31.3	27.4	7.1	1.1	22.7	23.0	21.5	7.9	2.8	1.7	-	
性別	女性	517	37.5	28.6	28.6	7.5	0.6	23.0	25.7	21.5	9.9	2.1	1.4	-	
	男性	413	34.4	34.6	25.9	6.5	1.7	22.3	19.4	21.8	5.3	3.6	2.2	-	
	その他・無回答 ※参考値		3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	52	21.2	32.7	34.6	11.5	1.9	11.5	21.2	15.4	11.5	3.8	-	-
		30～39歳	95	34.7	26.3	26.3	10.5	2.1	23.2	32.6	17.9	13.7	-	2.1	-
		40～49歳	90	41.1	32.2	27.8	6.7	-	20.0	25.6	25.6	6.7	1.1	2.2	-
		50～59歳	119	42.0	24.4	28.6	4.2	-	30.3	25.2	16.8	10.1	3.4	2.5	-
		60～69歳	79	40.5	29.1	29.1	8.9	-	22.8	29.1	19.0	7.6	2.5	-	-
		70歳以上	82	37.8	30.5	28.0	6.1	-	23.2	18.3	34.1	9.8	2.4	-	-
		18～29歳 ※参考値	33	27.3	33.3	27.3	6.1	3.0	15.2	18.2	21.2	3.0	9.1	6.1	-
	男性	30～39歳	81	25.9	25.9	30.9	6.2	-	24.7	21.0	25.9	11.1	2.5	2.5	-
		40～49歳	86	38.4	37.2	19.8	7.0	3.5	16.3	20.9	23.3	4.7	-	3.5	-
		50～59歳	78	46.2	39.7	19.2	11.5	1.3	19.2	17.9	16.7	6.4	2.6	2.6	-
		60～69歳	76	23.7	40.8	32.9	2.6	-	28.9	26.3	23.7	3.9	1.3	-	-
		70歳以上	59	42.4	28.8	27.1	5.1	3.4	27.1	8.5	18.6	-	11.9	-	-
		その他・無回答 ※参考値		3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-

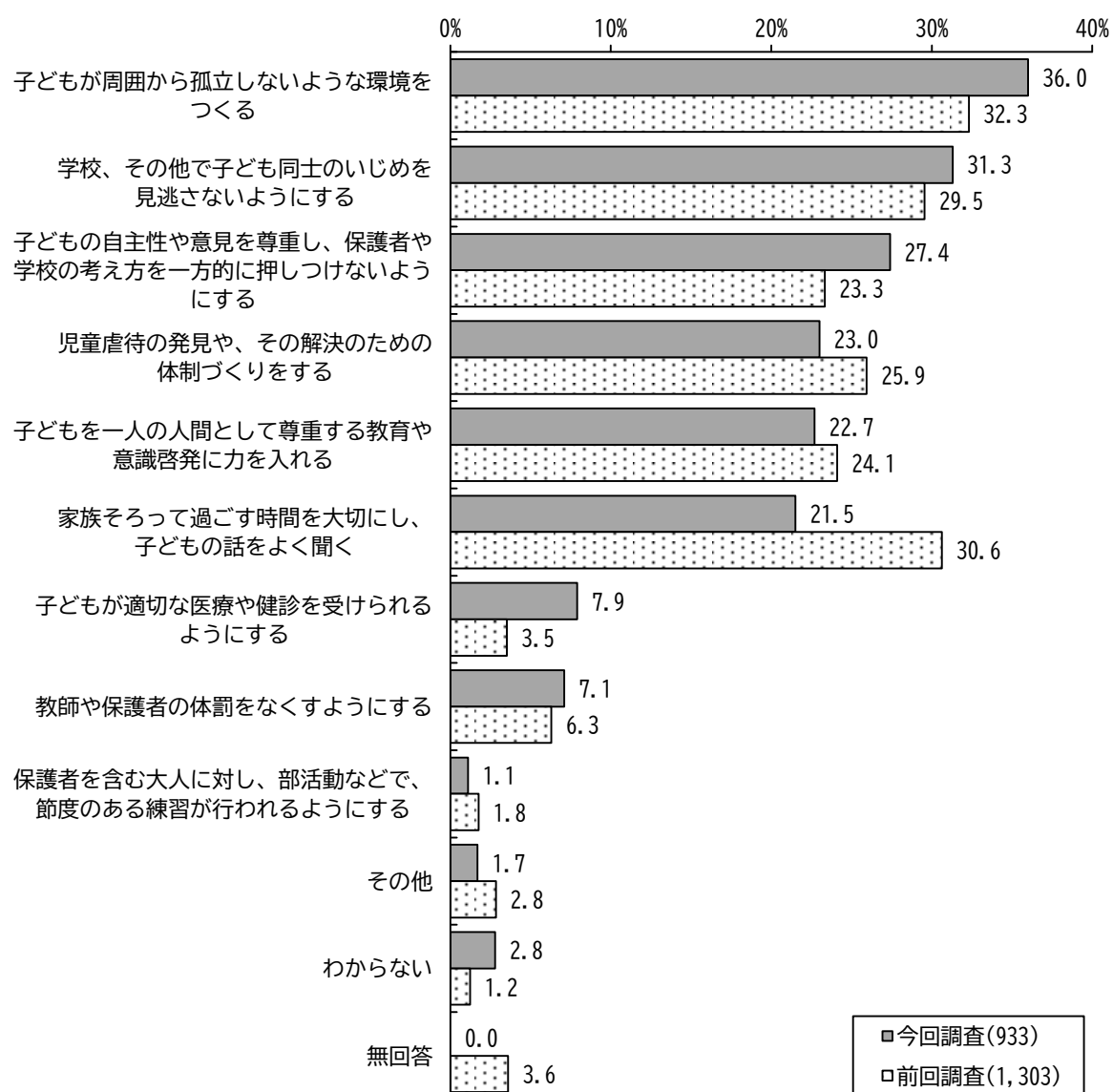
図表 102 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる」が21.2%、「子どもを一人の人間として尊重する教育や意識啓発に力を入れる」が11.5%であり、他の年代を8ポイント以上下回っています。一方、18～29歳では「子どもの自主性や意見を尊重し、保護者や学校の考え方を一方的に押しつけないようにする」が34.6%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。また、50～59歳では「子どもを一人の人間として尊重する教育や意識啓発に力を入れる」が30.3%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。70歳以上では「家族そろって過ごす時間を大切にし、子どもの話をよく聞く」が34.1%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

男性では、30～39歳で、「子どもが適切な医療や健診を受けられるようにする」が11.1%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。また、60～69歳で「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」が26.3%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 103 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと《前回調査との比較》

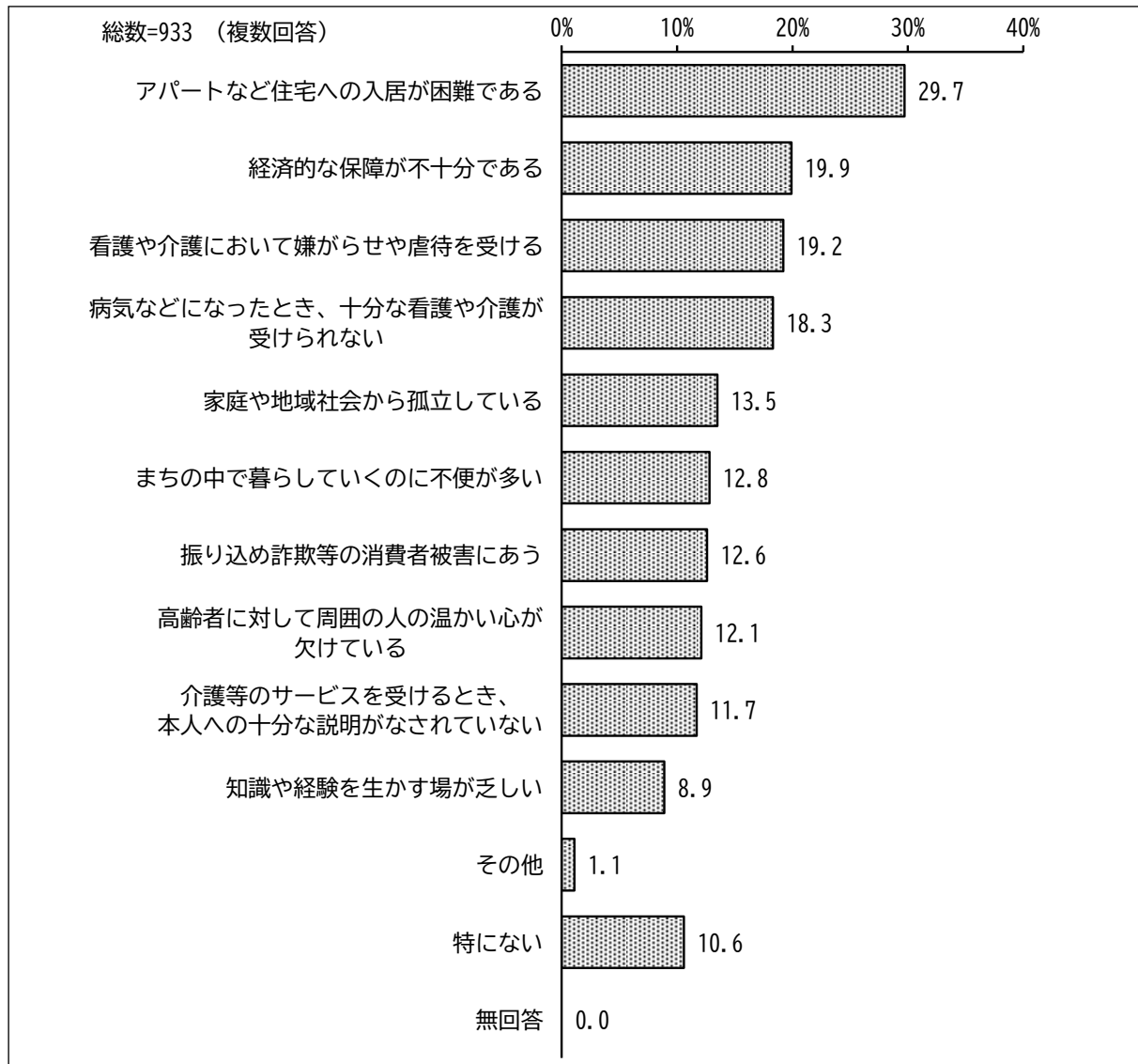
●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「家族そろって過ごす時間を大切にし、子どもの話をよく聞く」が9ポイント減少しています。

4 高齢者の人権について

問 19 高齢者の人権が守られていないと思うこと

高齢者の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。(○は2つまで)



図表 104 高齢者の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「アパートなど住宅への入居が困難である」が 29.7%で最も多く、「経済的な保障が不十分である」(19.9%)、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」(19.2%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」(22.4%)は男性の割合を7ポイント上回るとともに、「経済的な保障が不十分である」(22.6%)は男性の割合を6ポイント上回っています。

		人数	介護等のサービスを受けるとき、本人への十分な説明がなされていない	病気などになったとき、十分な看護や介護が受けられない	アパートなど住宅への入居が困難である	まちの中で暮らしていくのに不便が多い	家庭や地域社会から孤立している	高齢者に対して周囲の人の温かい心が欠けている	知識や経験を生かす場が乏しい	経済的な保障が不十分である	振り込め詐欺等の消費者被害にあう	看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける	特にな	その他	無回答
全体		933	11.7	18.3	29.7	12.8	13.5	12.1	8.9	19.9	12.6	19.2	10.6	1.1	-
性別	女性	517	11.2	19.9	31.1	13.9	15.1	11.8	8.5	22.6	12.4	22.4	6.0	1.0	-
	男性	413	12.3	15.7	27.8	11.4	11.6	12.6	9.4	16.5	12.8	15.3	16.5	1.2	-
	その他・無回答 ※参考値	3	-	100.0	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	17.3	23.1	13.5	11.5	21.2	1.9	3.8	17.3	11.5	21.2	15.4	-
		30～39歳	95	6.3	22.1	27.4	10.5	17.9	14.7	8.4	12.6	11.6	35.8	6.3	1.1
		40～49歳	90	11.1	23.3	36.7	8.9	14.4	8.9	5.6	28.9	10.0	25.6	3.3	1.1
		50～59歳	119	9.2	20.2	35.3	20.2	11.8	8.4	10.9	26.1	16.0	26.9	1.7	0.8
		60～69歳	79	15.2	15.2	24.1	19.0	19.0	21.5	7.6	29.1	15.2	17.7	-	-
		70歳以上	82	12.2	15.9	41.5	11.0	9.8	13.4	12.2	19.5	8.5	2.4	14.6	2.4
	男性	18～29歳 ※参考値	33	12.1	3.0	15.2	9.1	15.2	24.2	9.1	3.0	9.1	21.2	18.2	3.0
		30～39歳	81	8.6	14.8	19.8	14.8	13.6	16.0	7.4	9.9	14.8	18.5	18.5	1.2
		40～49歳	86	14.0	14.0	25.6	12.8	8.1	2.3	10.5	9.3	16.3	17.4	25.6	-
		50～59歳	78	14.1	16.7	32.1	7.7	15.4	15.4	6.4	16.7	15.4	19.2	11.5	2.6
		60～69歳	76	9.2	25.0	32.9	11.8	11.8	11.8	28.9	9.2	11.8	9.2	-	-
		70歳以上	59	16.9	13.6	37.3	10.2	6.8	13.6	11.9	27.1	8.5	3.4	15.3	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	-	100.0	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-

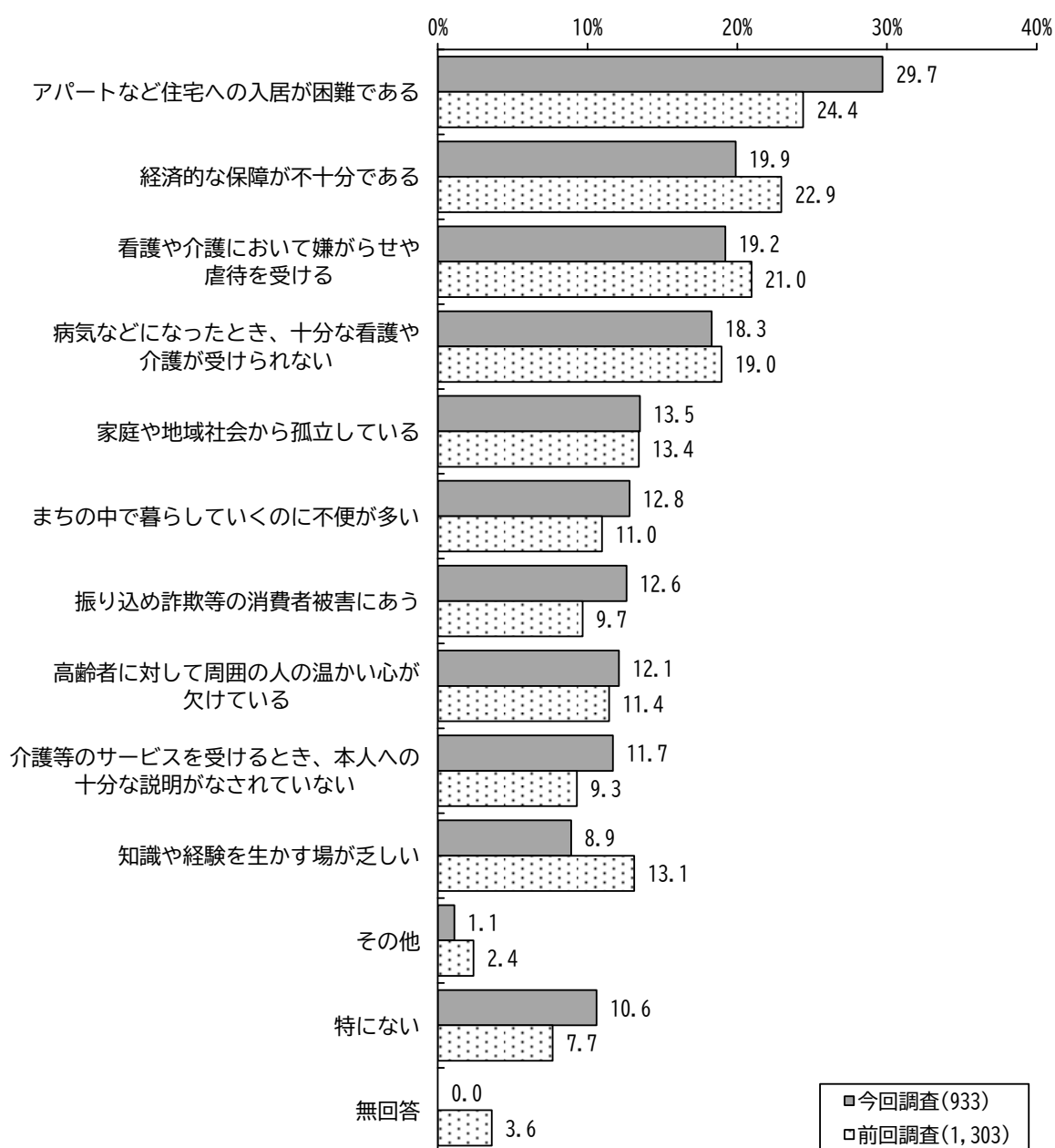
図表 105 高齢者の人権が守られていないと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳では「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」が 35.8%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。60～69 歳では「高齢者に対して周囲の人の温かい心が欠けている」が 21.5%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「アパートなど住宅への入居が困難である」が 41.5%であり、女性回答者全体の割合を 10 ポイント上回っています。

男性では、60～69 歳で「病気などになったとき、十分な看護や介護が受けられない」が 25.0%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。また、60～69 歳、70 歳以上では「経済的な保障が不十分である」が 3 割弱であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



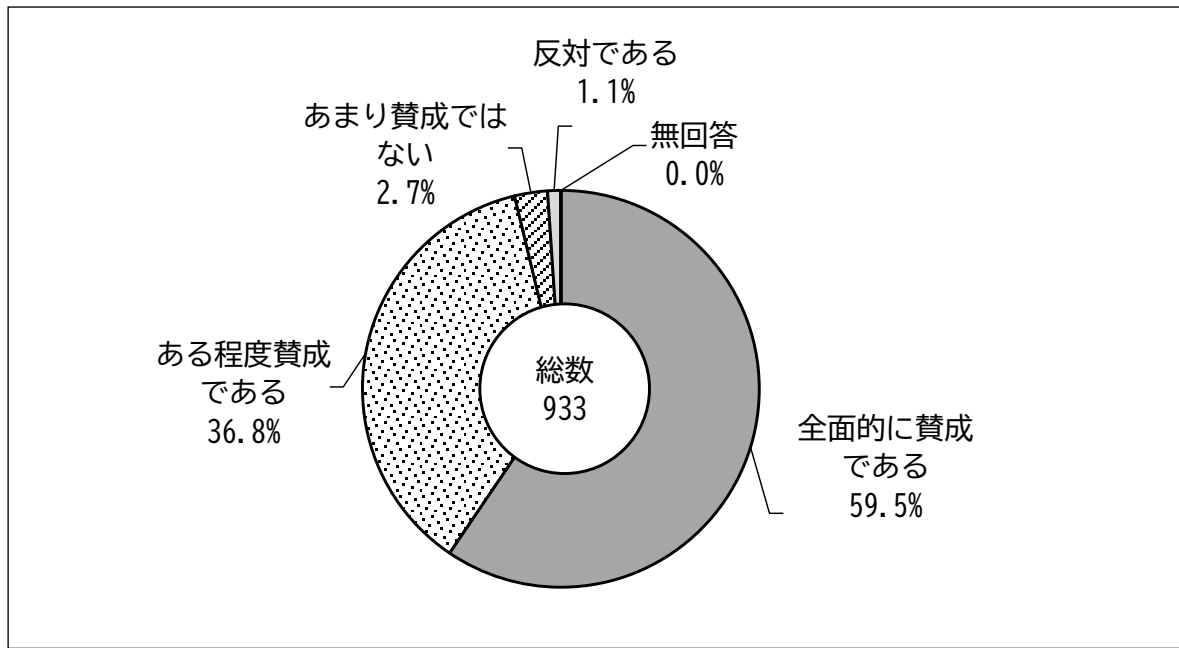
図表 106 高齢者の人権が守られていないと思うこと「前回調査との比較」

●前回調査との比較

今回調査の「アパートなど住宅への入居が困難である」は、前回調査を5ポイント上回っています。

問 20 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否

「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



図表 107 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否

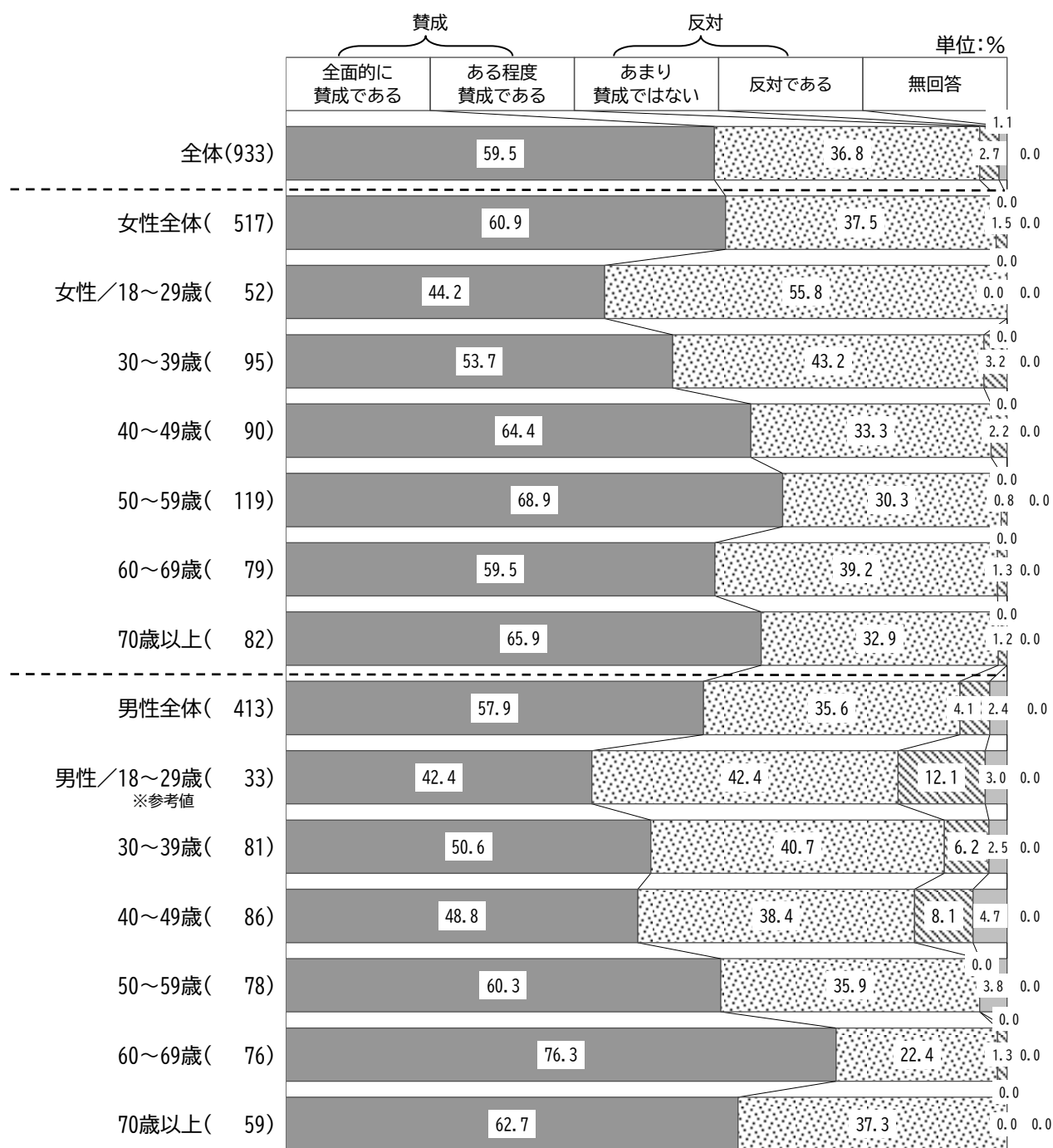
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が59.5%、「ある程度賛成である」が36.8%であり、「反対である」が1.1%、「あまり賛成ではない」が2.7%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は96.3%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は3.8%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



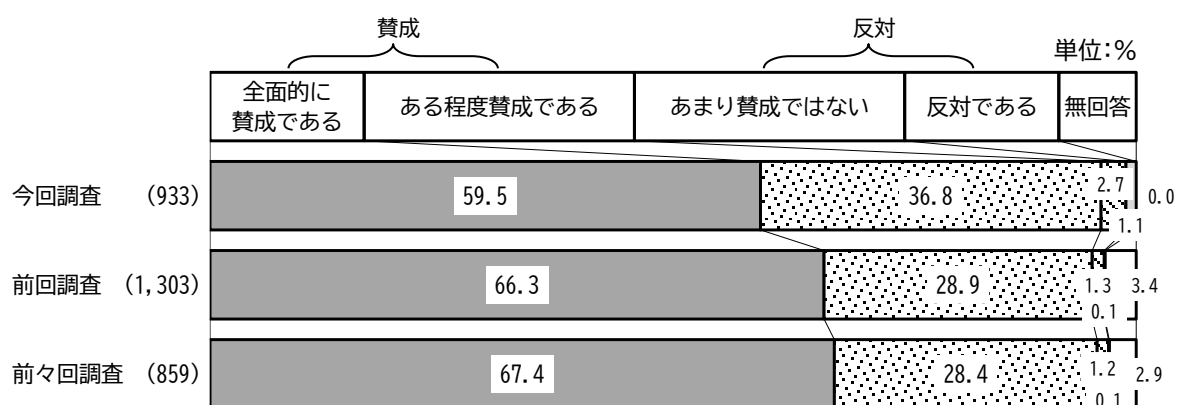
図表 108 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

男性の40～49歳を除く各年代とも“賛成”が9割台となっています。女性の18～29歳では「全面的に賛成である」が44.2%であり、他の年代を9ポイント以上下回っています。

男性の60～69歳では「全面的に賛成である」が76.3%であり、他の年代を13ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



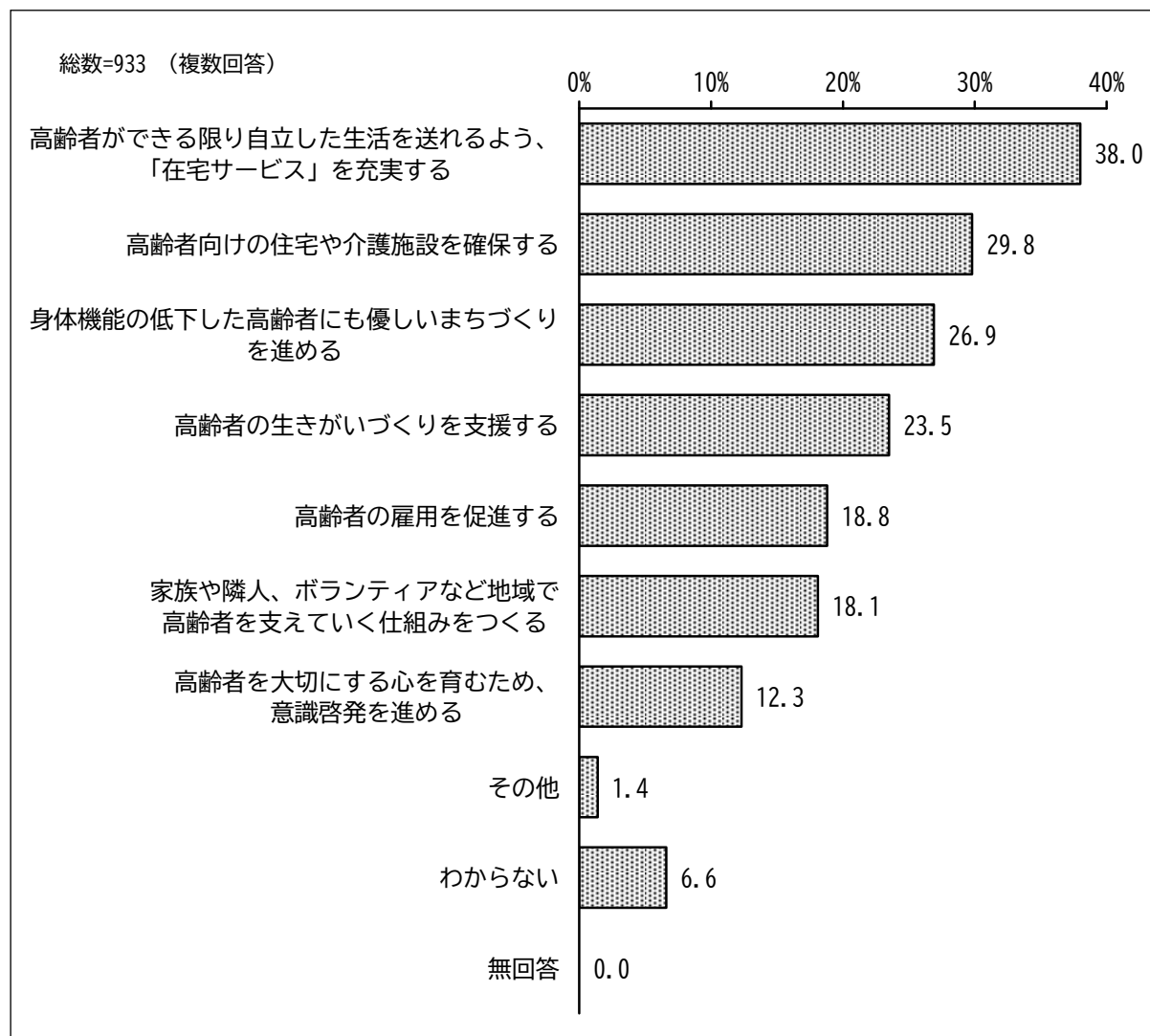
図表 109 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも“賛成”が9割以上を占めています。このほか、前々回調査から今回調査にかけて、「全面的に賛成である」の割合が減少を続けており、今回調査の「全面的に賛成である」の割合は前回調査を6ポイント下回っています。

問 21 高齢者の人権を守るために実施すべきこと

高齢者の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。(〇は2つまで)



図表 110 高齢者の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」が38.0%で最も多く、「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」(29.8%)、「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」(26.9%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」(42.0%)は男性の割合を9ポイント、「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」(37.3%)は男性の割合を17ポイント上回っています。

男性の「高齢者を大切にする心を育むため、意識啓発を進める」は15.5%であり、女性の割合を5ポイント上回っています。

		人数	高齢者を大切にする心を育むため、意識啓発を進める	高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する	身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める	家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる	高齢者の雇用を促進する	高齢者の生きがいづくりを支援する	高齢者向けの住宅や介護施設を確保する	わからない	その他	無回答
全体		933	12.3	38.0	26.9	18.1	18.8	23.5	29.8	6.6	1.4	-
性別	女性	517	9.9	42.0	26.7	19.3	17.6	22.4	37.3	4.6	0.4	-
	男性	413	15.5	32.9	27.1	16.7	19.9	24.9	20.3	9.2	2.7	-
	その他・無回答 ※参考値	3	-	66.7	33.3	-	66.7	-	33.3	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	15.4	40.4	11.5	19.2	23.1	25.0	17.3	9.6	-
		30～39歳	95	-	38.9	28.4	23.2	15.8	24.2	34.7	6.3	2.1
		40～49歳	90	12.2	45.6	23.3	15.6	15.6	23.3	34.4	6.7	-
		50～59歳	119	6.7	43.7	26.9	11.8	30.3	21.8	45.4	3.4	-
		60～69歳	79	12.7	40.5	25.3	31.6	12.7	19.0	41.8	1.3	-
		70歳以上	82	17.1	41.5	39.0	18.3	4.9	22.0	40.2	2.4	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	6.1	18.2	24.2	15.2	24.2	15.2	24.2	6.1	-
		30～39歳	81	14.8	29.6	28.4	14.8	12.3	29.6	16.0	11.1	2.5
		40～49歳	86	11.6	27.9	25.6	15.1	19.8	29.1	22.1	9.3	5.8
		50～59歳	78	20.5	33.3	21.8	24.4	19.2	26.9	19.2	7.7	2.6
		60～69歳	76	18.4	40.8	23.7	19.7	27.6	22.4	22.4	2.6	-
		70歳以上	59	16.9	42.4	40.7	8.5	18.6	18.6	25.4	8.5	-
	その他・無回答 ※参考値		3	-	66.7	33.3	-	66.7	-	33.3	-	-

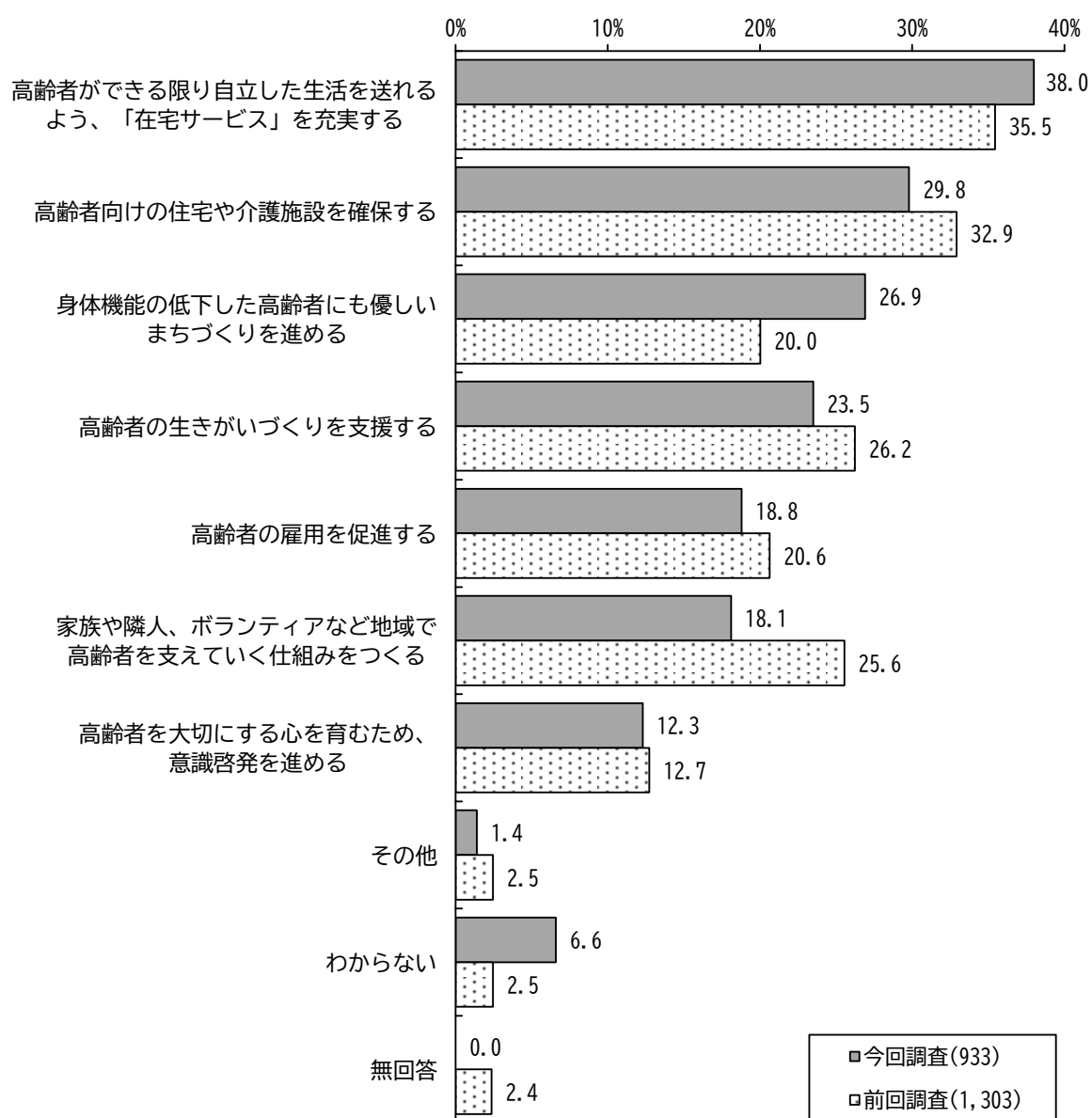
図表 111 高齢者の人権を守るために実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳では「高齢者の雇用を促進する」が 30.3%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。60～69 歳では、「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる」が 31.6%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」が 39.0%であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。一方、18～29 歳の「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」は 11.5%、「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」は 17.3%であり、いずれも他の年代を 10 ポイント以上下回っています。

男性では、70 歳以上で「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」が 40.7%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。60～69 歳と 70 歳以上では「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」が 4 割強であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。このほか、50～59 歳で「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる」が 24.4%であり、男性回答者全体を 7 ポイント上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 112 高齢者の人権を守るために実施すべきこと《前回調査との比較》

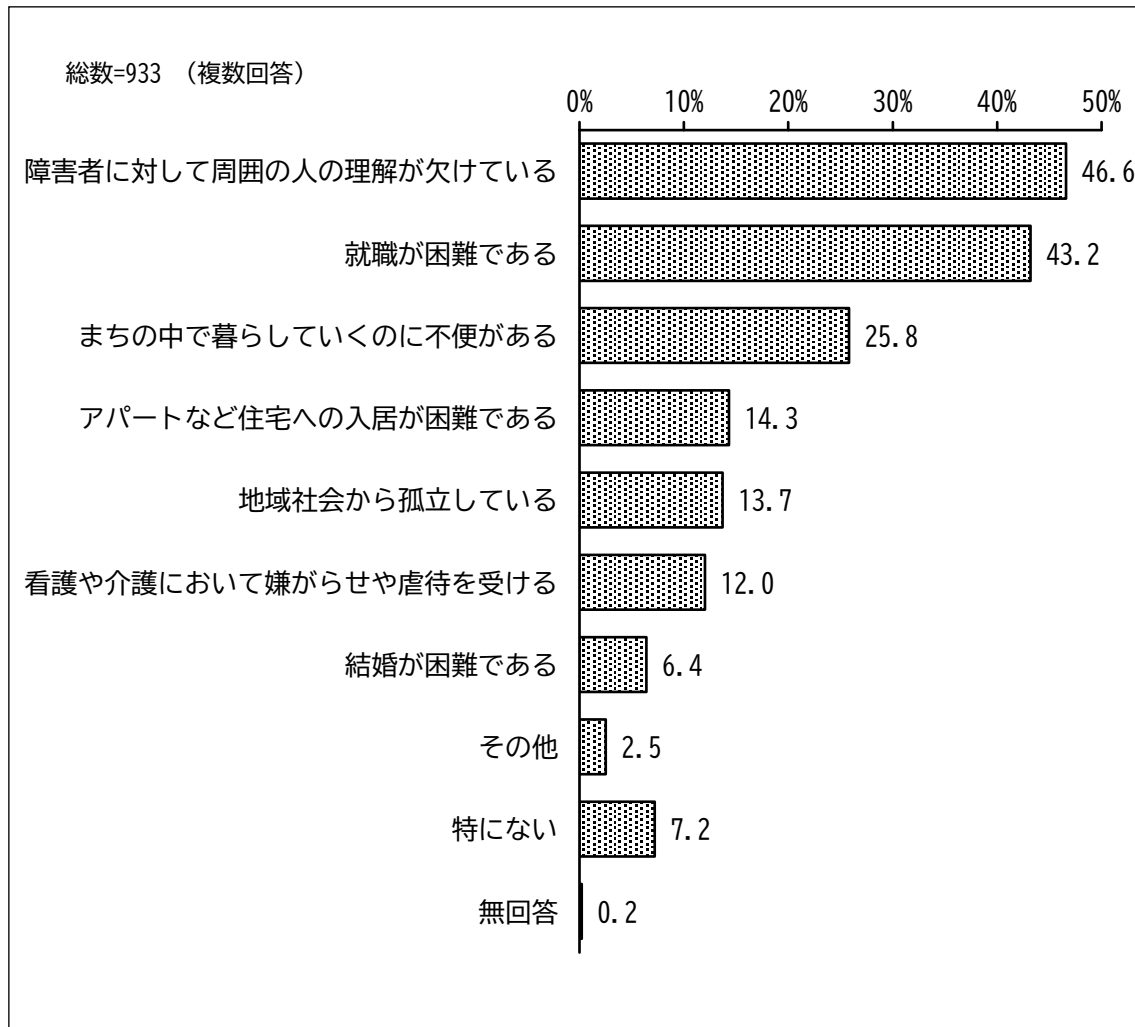
●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」が6ポイント増加しています。一方、前回調査から今回調査にかけて「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支える仕組みをつくる」が7ポイント減少しています。

5 障害者の人権について

問 22 障害者の人権が守られていないと思うこと

障害者の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。（○は2つまで）



図表 113 障害者の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「障害者に対して周囲の人の理解が欠けている」が 46.6%で最も多く、「就職が困難である」(43.2%)、「まちの中で暮らしていくのに不便がある」(25.8%)が続いています。

○男女別の傾向

女性の「障害者に対して周囲の人の理解が欠けている」は 52.0%であり、男性の割合を 11ポイント上回っています。男性の「結婚が困難である」は 9.7%であり、女性の割合を 5ポイント上回っています。

		人数	就職が困難である	結婚が困難である	アパートなど住宅への入居が困難である	まちの中で暮らしていくのに不便がある	地域社会から孤立している	障害者に対して周囲の人の理解が欠けている	看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける	特にな	その他	無回答
全体		933	43.2	6.4	14.3	25.8	13.7	46.6	12.0	7.2	2.5	0.2
性別	女性	517	41.6	3.9	16.2	27.9	14.3	52.0	13.9	4.3	2.7	0.2
	男性	413	44.8	9.7	11.6	23.2	13.1	40.2	9.4	10.9	2.2	0.2
	その他・無回答 ※参考値	3	100.0	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	51.9	5.8	7.7	13.5	23.1	48.1	9.6	5.8	-
		30～39歳	95	36.8	1.1	15.8	26.3	18.9	44.2	22.1	7.4	-
		40～49歳	90	48.9	3.3	20.0	25.6	13.3	45.6	23.3	1.1	-
		50～59歳	119	40.3	3.4	15.1	30.3	10.1	61.3	13.4	-	-
		60～69歳	79	38.0	8.9	17.7	44.3	12.7	51.9	7.6	2.5	-
		70歳以上	82	37.8	2.4	18.3	22.0	12.2	57.3	3.7	11.0	1.2
	男性	18～29歳 ※参考値	33	30.3	15.2	3.0	15.2	6.1	48.5	9.1	9.1	-
		30～39歳	81	45.7	8.6	8.6	19.8	17.3	38.3	13.6	11.1	-
		40～49歳	86	44.2	9.3	11.6	17.4	12.8	34.9	7.0	20.9	-
		50～59歳	78	43.6	7.7	17.9	28.2	11.5	42.3	12.8	5.1	-
		60～69歳	76	44.7	11.8	10.5	25.0	10.5	50.0	10.5	7.9	-
		70歳以上	59	54.2	8.5	13.6	32.2	16.9	30.5	1.7	8.5	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	100.0	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-

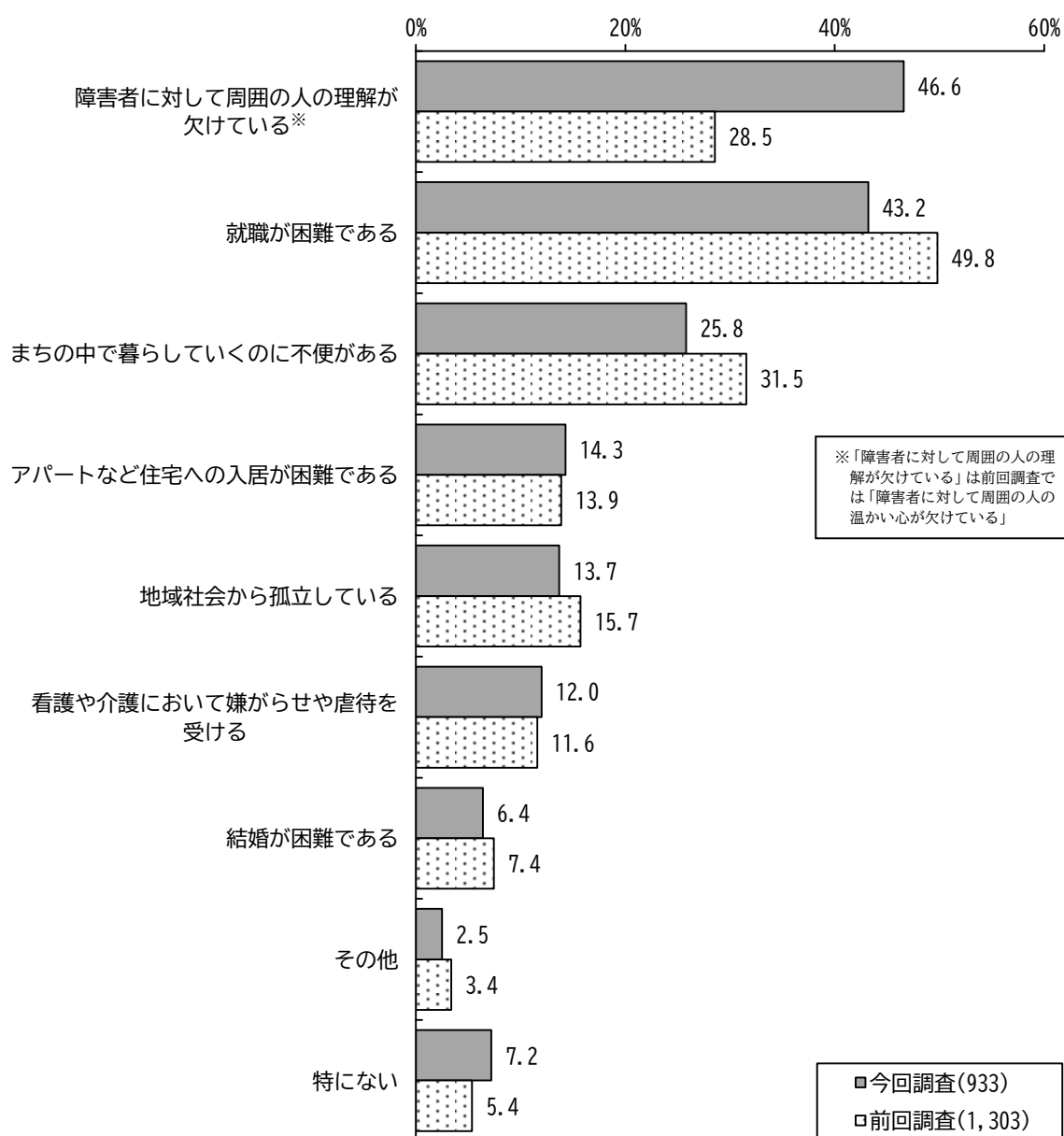
図表 114 障害者の人権が守られていないと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と40～49歳では「就職が困難である」が5割前後であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。30～39歳と40～49歳では「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」が2割強であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。60～69歳では「まちの中で暮らしていくのに不便がある」が44.3%であり、他の年代を14ポイント以上上回っています。50～59歳と70歳以上では「障害者に対して周囲の人の理解が欠けている」が6割前後であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、60～69歳で「障害者に対して周囲の人の理解が欠けている」が50.0%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。30～39歳と40～49歳では「まちの中で暮らしていくのに不便がある」が2割弱であるのに対し、50歳以上の各年代では2割台半ばから3割強となっています。

▼ 前回調査との比較



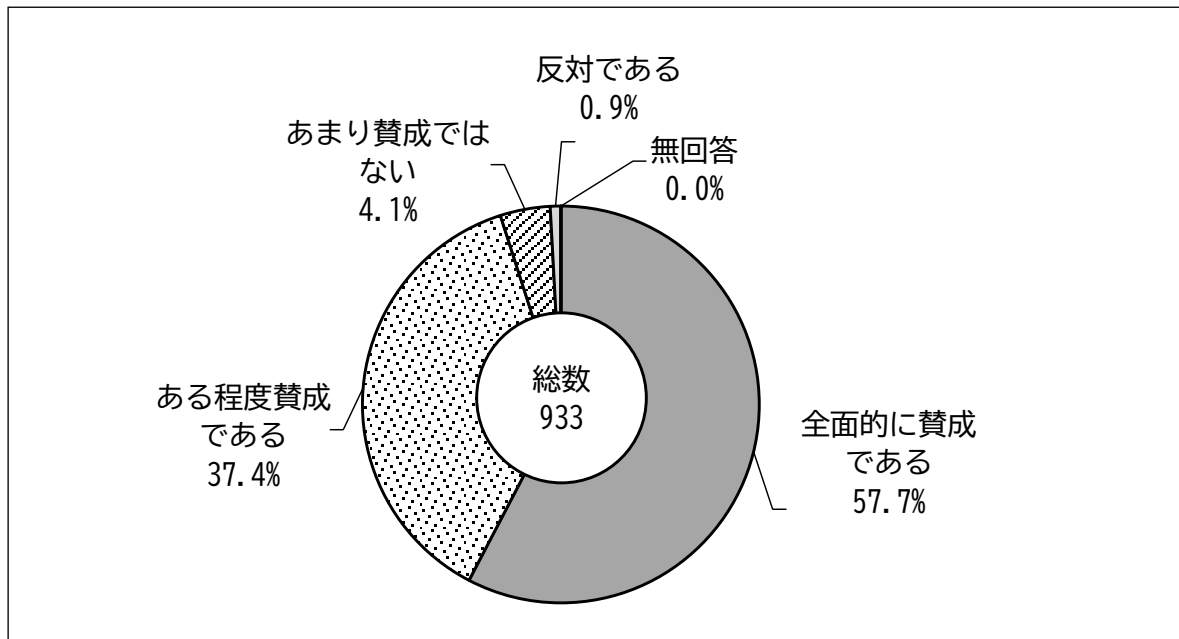
図表 115 障害者の人権が守られていないと思うこと《前回調査との比較》

●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「障害者に対して周囲の人の理解が欠けている」が18ポイント増加しています。一方、前回調査から今回調査にかけて「就職が困難である」「まちの中で暮らしていくのに不便がある」が5ポイント以上減少しています。

問 23 共生社会の賛否

「障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いともに生きていく社会（共生社会）」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）



図表 116 共生社会の賛否

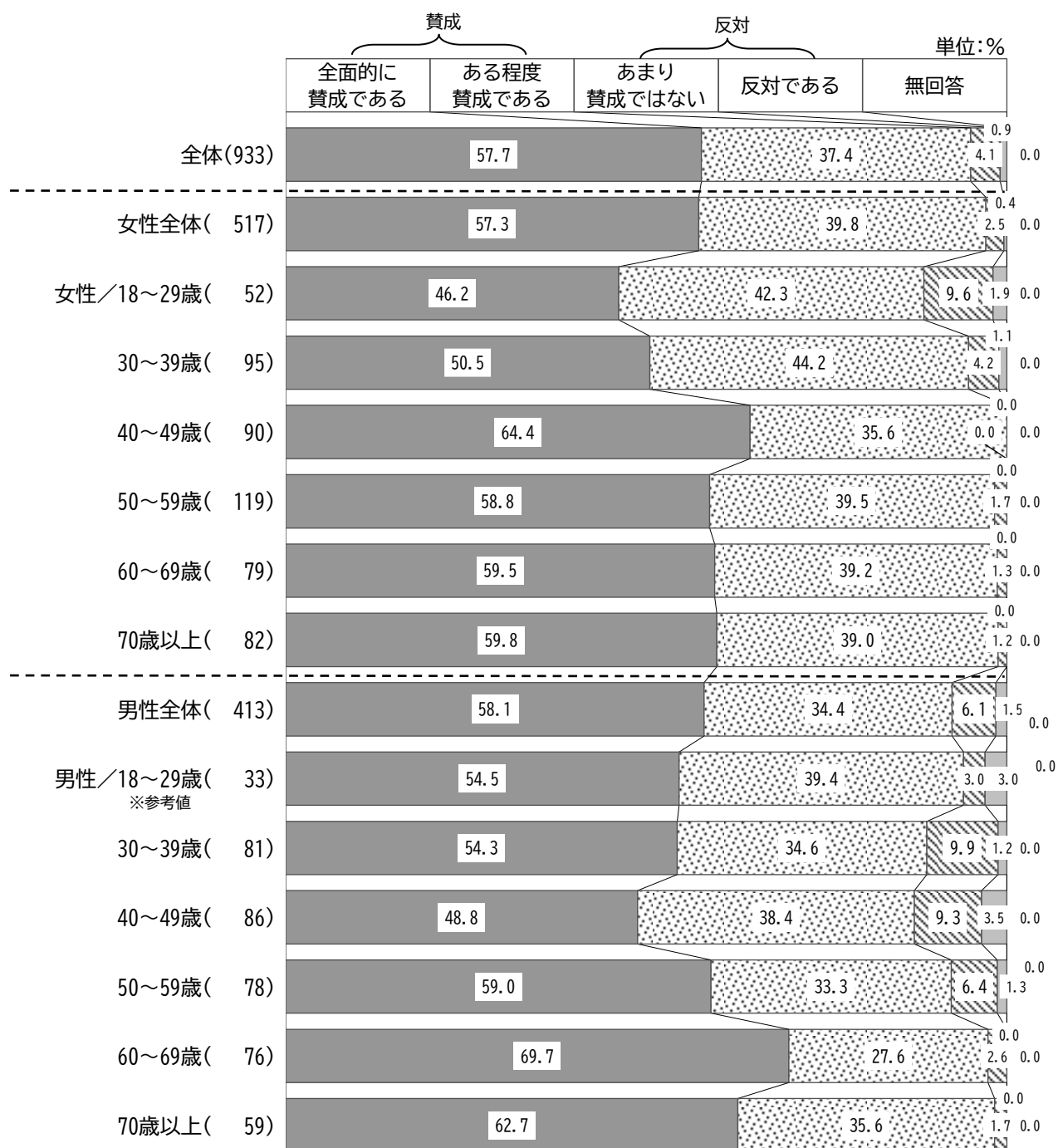
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 57.7%、「ある程度賛成である」が 37.4%であり、「反対である」が 0.9%、「あまり賛成ではない」が 4.1%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 95.1%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 5.0%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



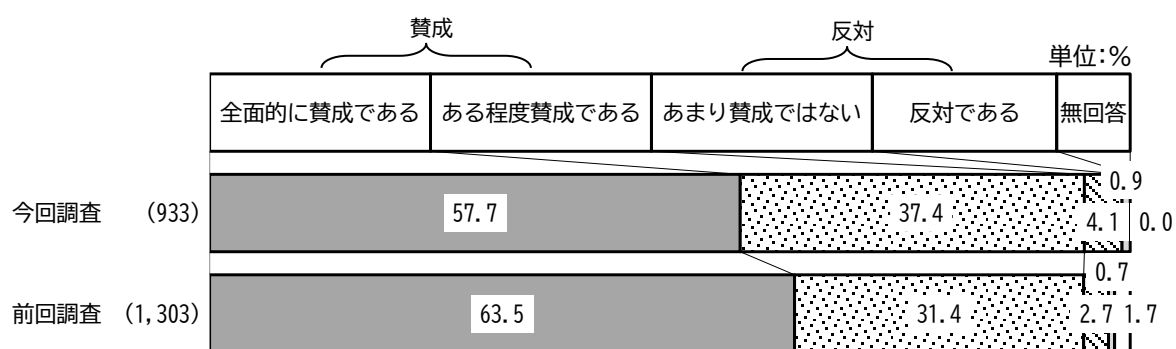
図表 117 共生社会の賛否(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳と男性の 30～39 歳、40～49 歳を除く各年代とも、“賛成” が 9 割台となっています。女性の 18～29 歳と 30～39 歳では「全面的に賛成である」が 5 割前後であり、他の年代を 8 ポイント以上下回っています。

男性では、60～69 歳で「全面的に賛成である」が 69.7%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。一方、男性の 40～49 歳では「全面的に賛成である」が 48.8%であり、他の年代を 5 ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査との比較



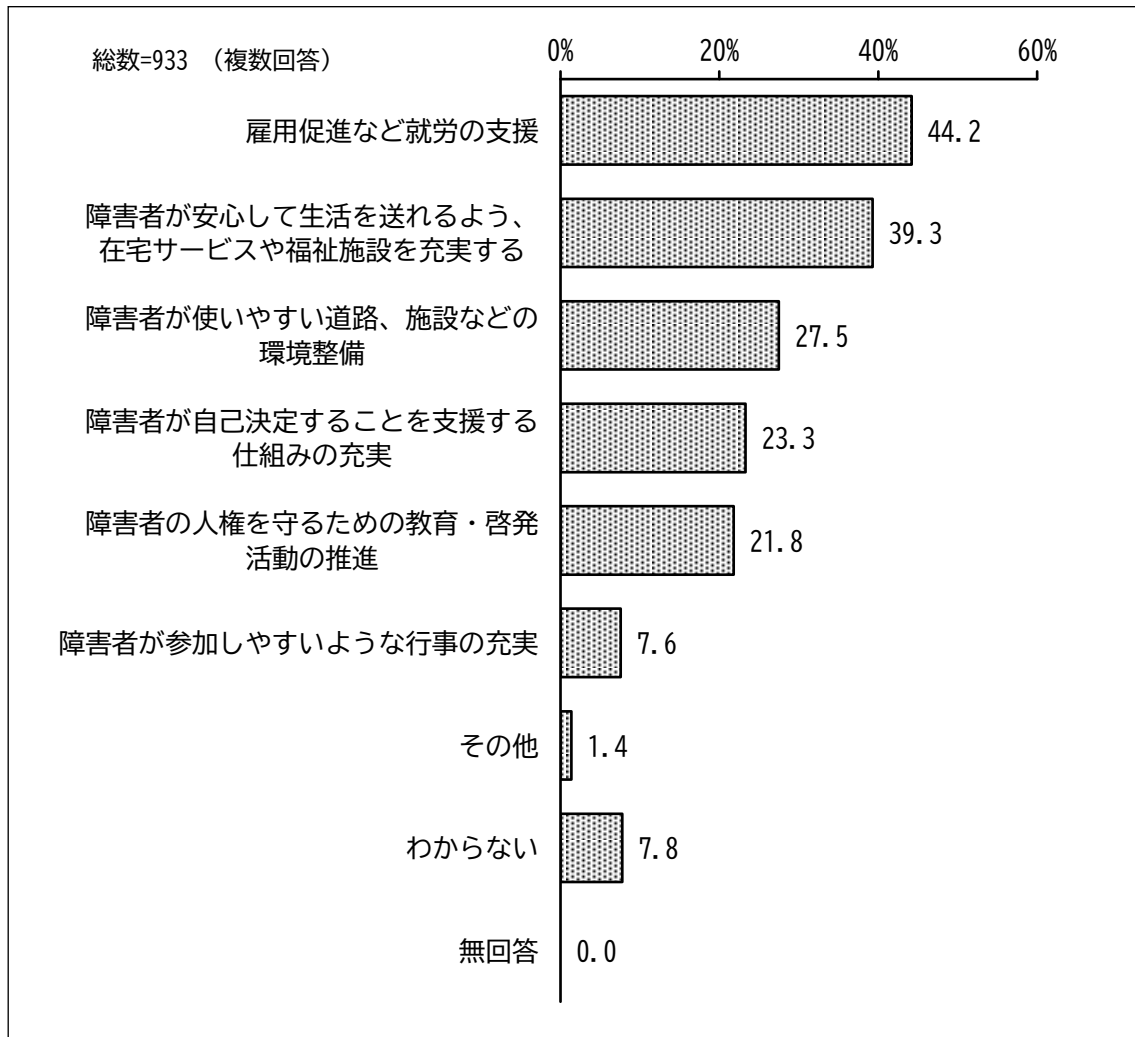
図表 118 共生社会の賛否《前回調査との比較》

●前回調査との比較

今回調査・前回調査とも“賛成”が9割以上を占めています。このほか、前回調査から今回調査にかけて「全面的に賛成である」が5ポイント減少しています。

問 24 障害者の人権を守るために実施すべきこと

障害者の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。（〇は2つまで）



図表 119 障害者の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「雇用促進など就労の支援」が44.2%で最も多く、「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」(39.3%)、「障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備」(27.5%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」(45.1%)は男性の割合を13ポイント上回るとともに、「障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備」(30.9%)は、男性の割合を7ポイント上回っています。

			雇用促進など就労の支援	障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する	障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備	障害者が参加しやすいような行事の充実	障害者の人権を守るための教育・啓発活動の推進	障害者が自己決定することを支援する仕組みの充実	わからない	その他	無回答
		人数									
全体		933	44.2	39.3	27.5	7.6	21.8	23.3	7.8	1.4	-
性別	女性	517	42.9	45.1	30.9	6.6	20.1	24.0	6.4	1.0	-
	男性	413	45.5	32.0	23.2	9.0	24.0	22.5	9.7	1.9	-
	その他・無回答 ※参考値	3	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	48.1	34.6	17.3	7.7	17.3	32.7	7.7	-
		30～39歳	95	35.8	41.1	28.4	12.6	20.0	26.3	6.3	-
		40～49歳	90	52.2	51.1	26.7	1.1	16.7	28.9	6.7	-
		50～59歳	119	43.7	47.1	31.1	4.2	21.0	21.0	6.7	-
		60～69歳	79	48.1	43.0	38.0	3.8	22.8	19.0	5.1	-
		70歳以上	82	31.7	48.8	40.2	11.0	22.0	19.5	6.1	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	21.2	12.1	9.1	12.1	33.3	15.2	33.3	-
		30～39歳	81	54.3	21.0	24.7	2.5	21.0	30.9	8.6	-
		40～49歳	86	40.7	34.9	19.8	9.3	19.8	22.1	12.8	-
		50～59歳	78	44.9	33.3	34.6	10.3	28.2	19.2	2.6	-
		60～69歳	76	48.7	36.8	15.8	13.2	31.6	22.4	5.3	-
		70歳以上	59	50.8	45.8	28.8	8.5	13.6	20.3	8.5	-
	その他・無回答 ※参考値		3	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-	-

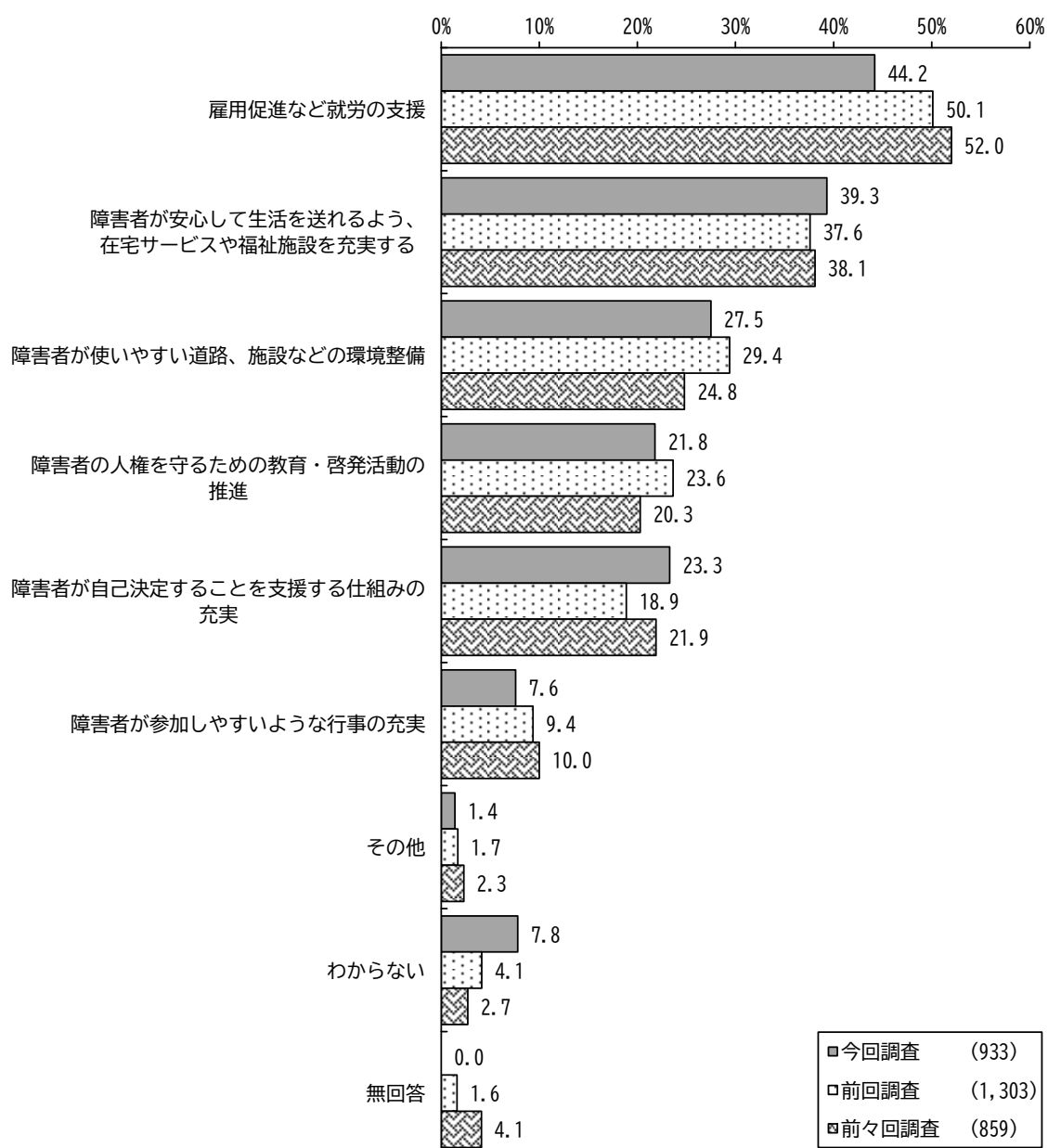
図表 120 障害者の人権を守るために実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳と70歳以上では「障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備」が4割前後であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。40～49歳では「雇用促進など就労の支援」が52.2%であり、女性回答者全体の割合を9ポイント上回っているほか、「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」が51.1%であり、女性回答者全体の割合を6ポイント上回っています。また、30～39歳では「障害者が参加しやすいような行事の充実」が12.6%、18～29歳では「障害者が自己決定することを支援する仕組みの充実」が32.7%であり、いずれも女性回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。

男性では、70歳以上で「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」が45.8%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。50～59歳では「障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備」が34.6%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。30～39歳では「障害者が自己決定することを支援する仕組みの充実」が30.9%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 121 障害者の人権を守るために実施すべきこと《前回調査・前々回調査との比較》

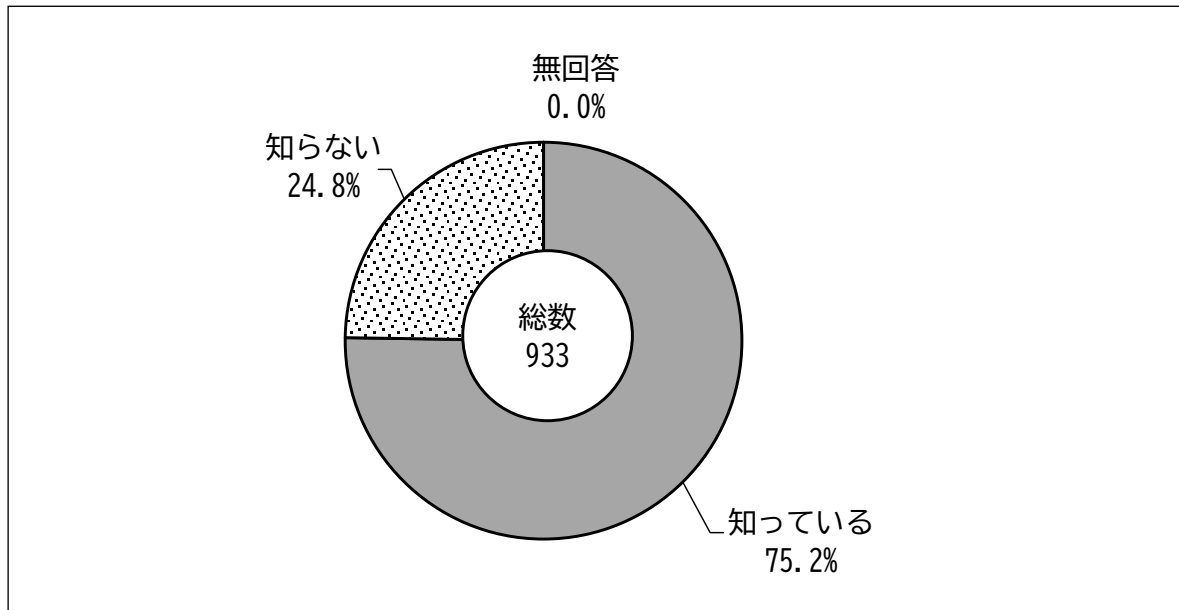
●前回調査・前々回調査との比較

「雇用促進など就労の支援」は、今回調査・前回調査・前々回調査とも最も多い回答となっていますが、前々回調査から今回調査にかけて減少を続けており、今回調査の割合は前回調査を5ポイント下回っています。

6 部落差別（同和問題）について

問 25 部落差別（同和問題）の認知状況

あなたは、日本の社会に部落差別（同和問題）といわれる人権侵害の問題があることを知っていますか。（○は1つ）



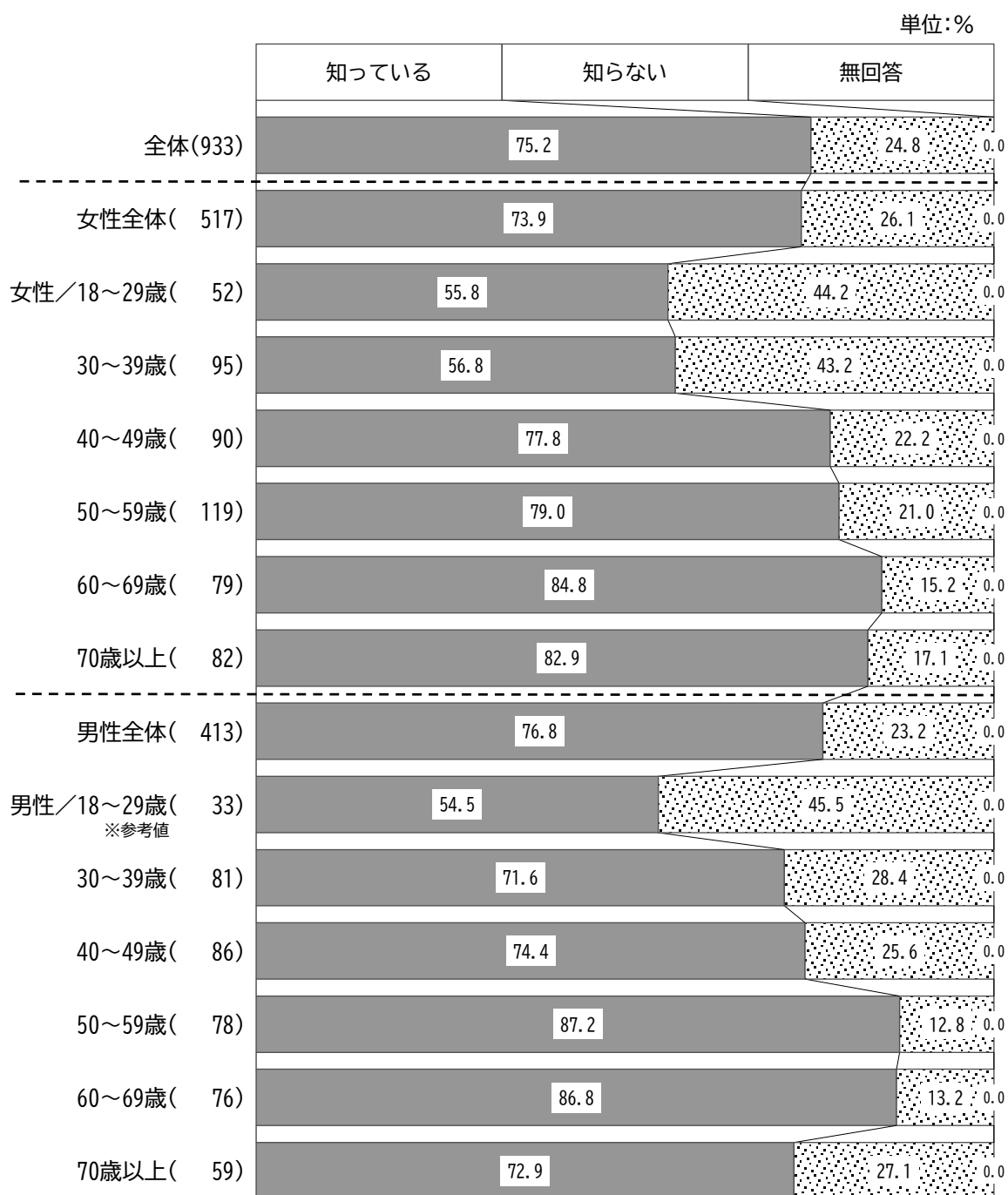
図表 122 部落差別(同和問題)の認知状況

○全体の傾向

「知っている」が75.2%であり、「知らない」が24.8%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



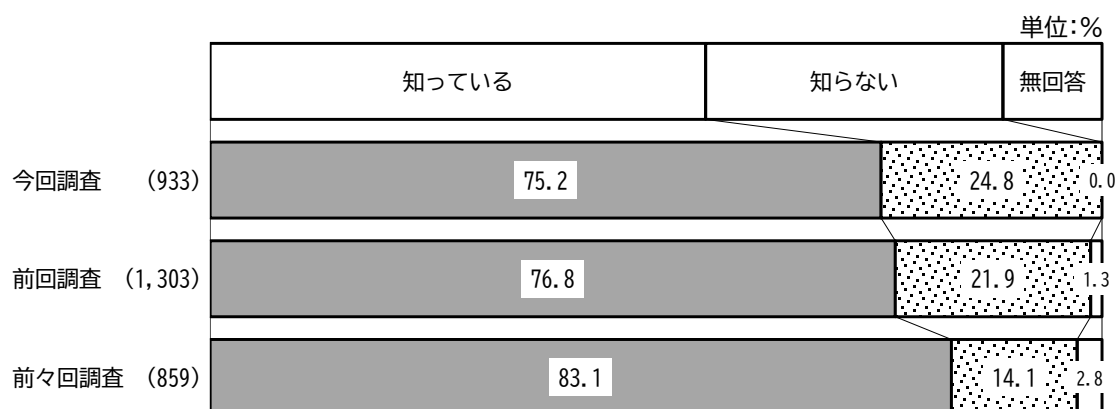
図表 123 部落差別(同和問題)の認知状況(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳と70歳以上では「知っている」が8割強であり、女性回答者全体の割合を9ポイント以上上回っています。一方、18～29歳と30～39歳では「知っている」が5割台半ばから6割弱であり、他の年代を7ポイント以上下回っています。

男性では、50～59歳と60～69歳で「知っている」が9割弱であり、他の年代を12ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



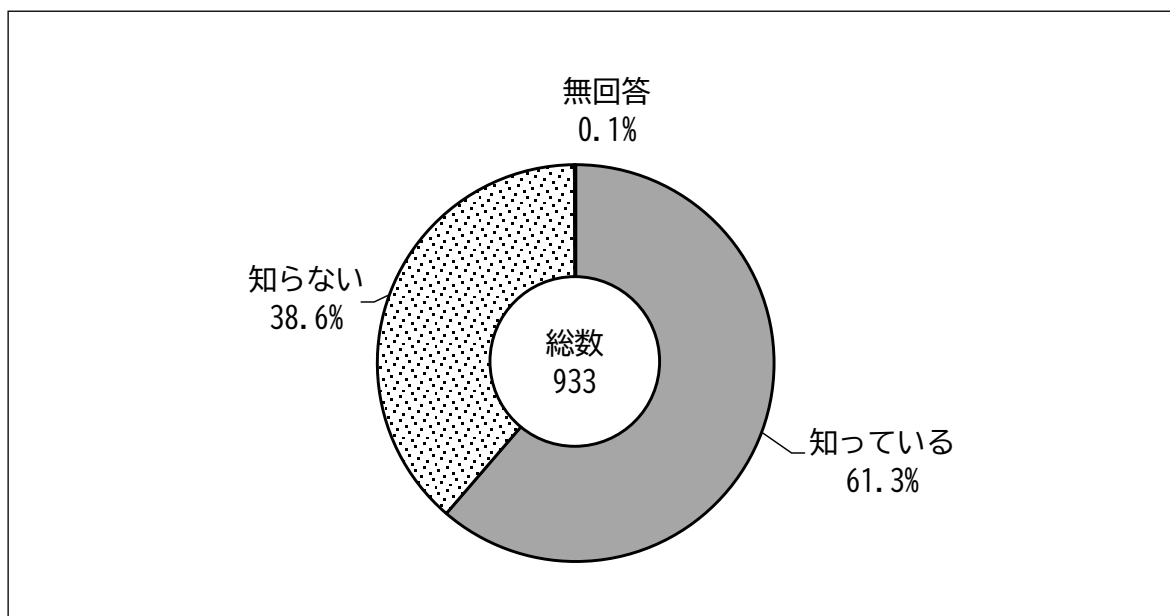
図表 124 部落差別(同和問題)の認知状況◀前回調査・前々回調査との比較▶

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「知っている」の割合が7割以上を占めていますが、前々回調査から今回調査にかけて「知っている」の割合が減少を続けており、今回調査の「知っている」の割合は前々回調査を7ポイント下回っています。

問 26 被差別部落（同和地区）の認知状況

被差別部落（同和地区）といわれ、差別を受けている地区があることを知っていますか。
(○は1つ)



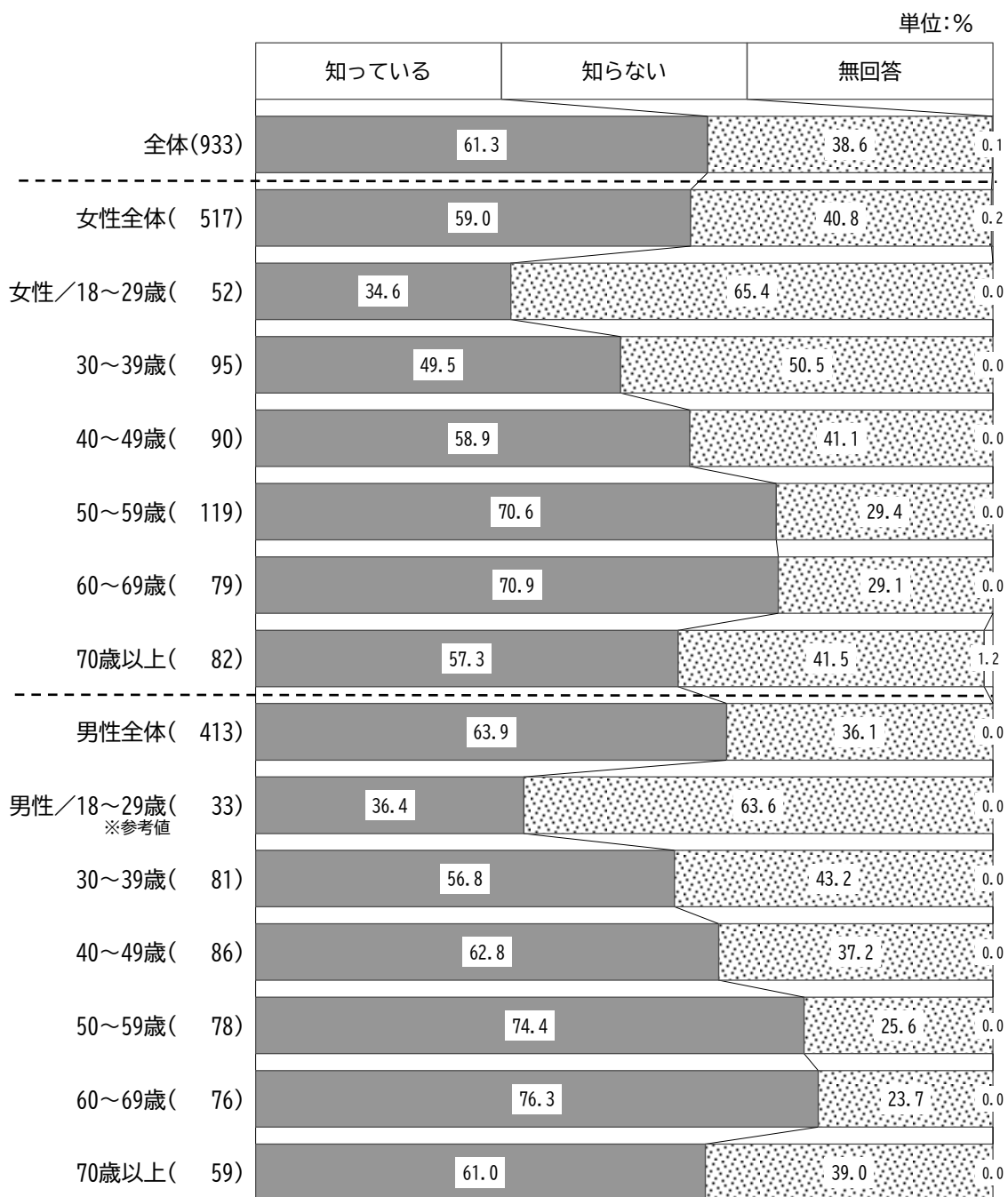
図表 125 被差別部落(同和地区)の認知状況

○全体の傾向

「知っている」が61.3%であり、「知らない」が38.6%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

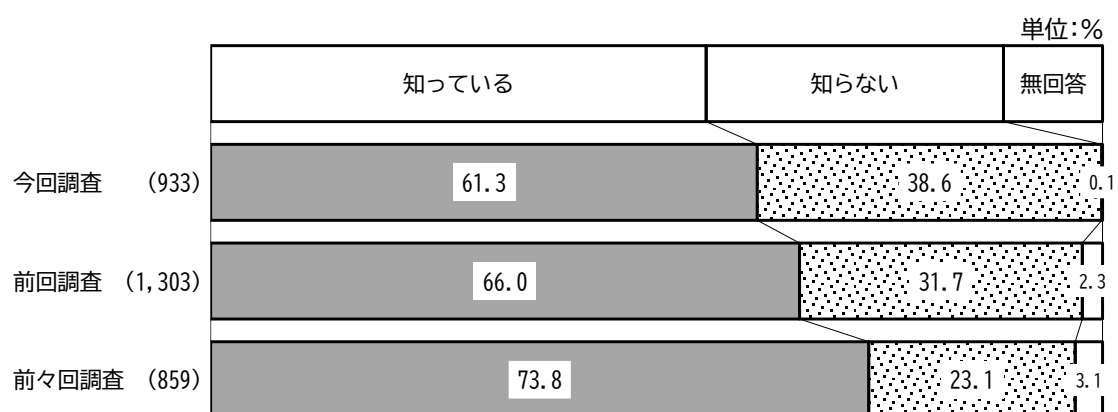


図表 126 被差別部落(同和地区)の認知状況(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

男女の 50～59 歳と 60～69 歳では、「知っている」が 7 割台で「知らない」を大幅に上回っているのに対し、女性の 18～29 歳と 30～39 歳では「知らない」が「知っている」を上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 127 被差別部落(同和地区)の認知状況<<前回調査・前々回調査との比較>>

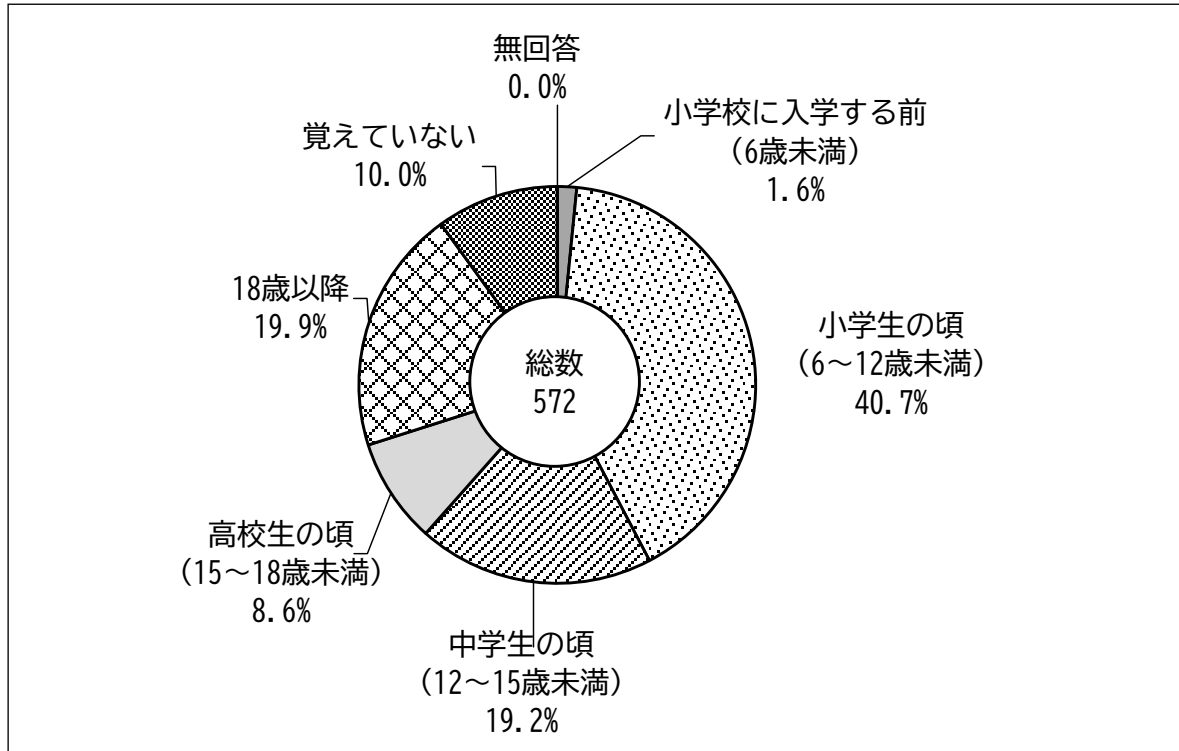
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「知っている」が「知らない」を大幅に上回っていますが、前々回調査から今回調査にかけて、「知っている」の割合は減少を続けており、「知らない」の割合が増加を続けています。

問 26-1 被差別部落（同和地区）の認知時期

問 26 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

それは、いつごろ知りましたか。（○は1つ）



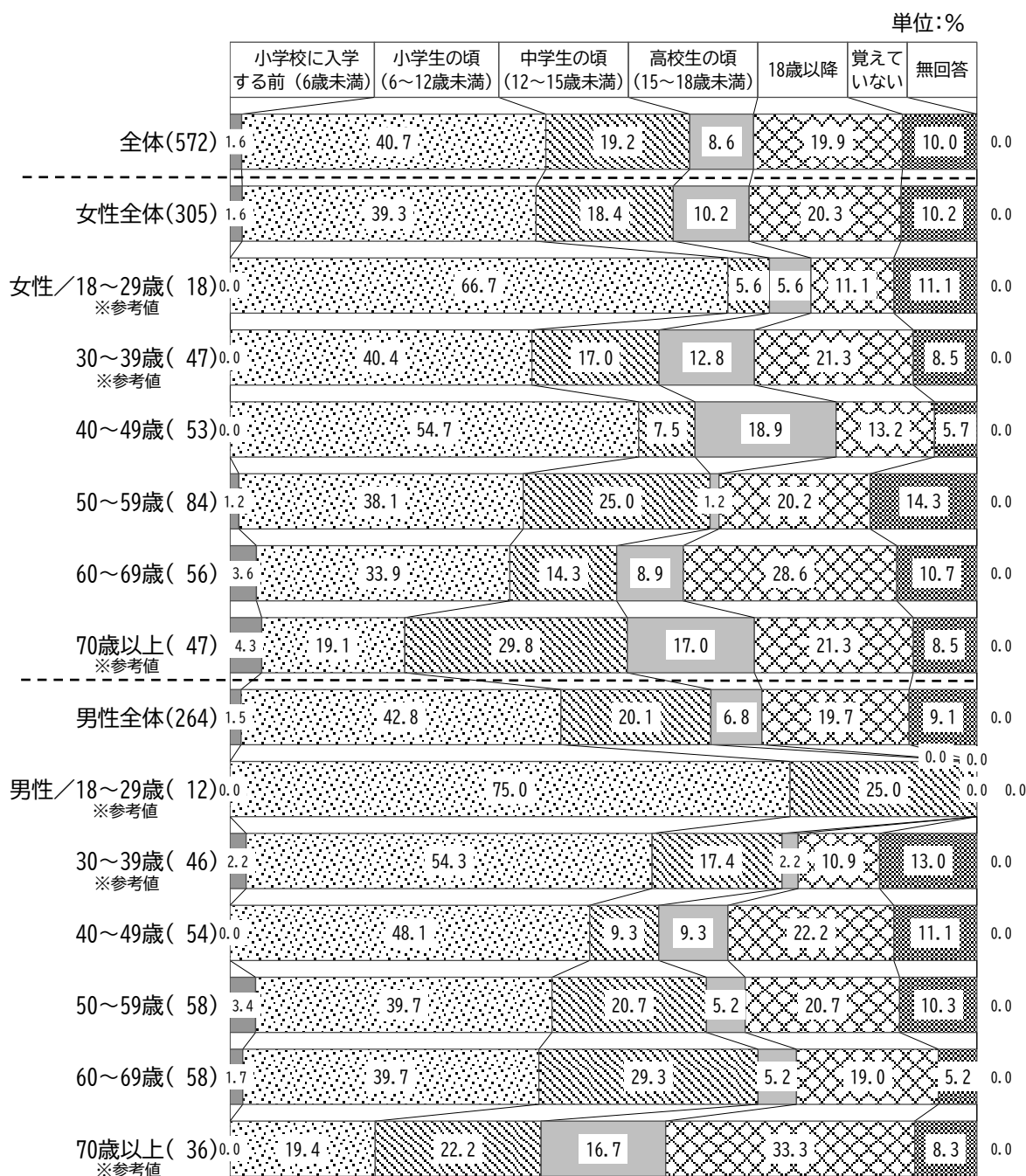
図表 128 被差別部落(同和地区)の認知時期

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、認知した時期について聞いたところ、「小学生の頃（6～12歳未満）」が40.7%で最も多く、「18歳以降」（19.9%）、「中学生の頃（12～15歳未満）」（19.2%）が続きます。「小学校に入学する前（6歳未満）」「小学生の頃（6～12歳未満）」「中学生の頃（12～15歳未満）」を合わせると61.5%であり、全体の6割強が中学生までの時期に被差別部落（同和地区）のことを認知したことがわかります。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



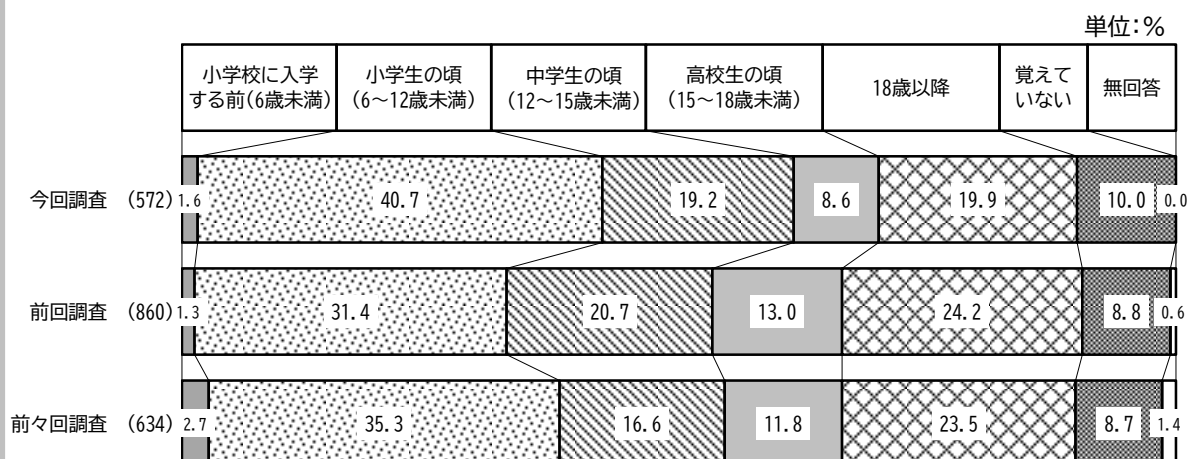
図表 129 被差別部落(同和地区)の認知時期(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳では「小学生の頃（6～12歳未満）」が54.7%で女性回答者全体の割合を15ポイント上回っているほか、「高校生の頃（15～18歳未満）」が18.9%で女性回答者全体の割合を8ポイント上回っています。

男性では、40～49歳で「小学生の頃（6～12歳未満）」が48.1%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。また、60～69歳では「中学生の頃（12～15歳未満）」が29.3%であり、男性回答者全体の割合を9ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 130 被差別部落(同和地区)の認知時期<<前回調査・前々回調査との比較>>

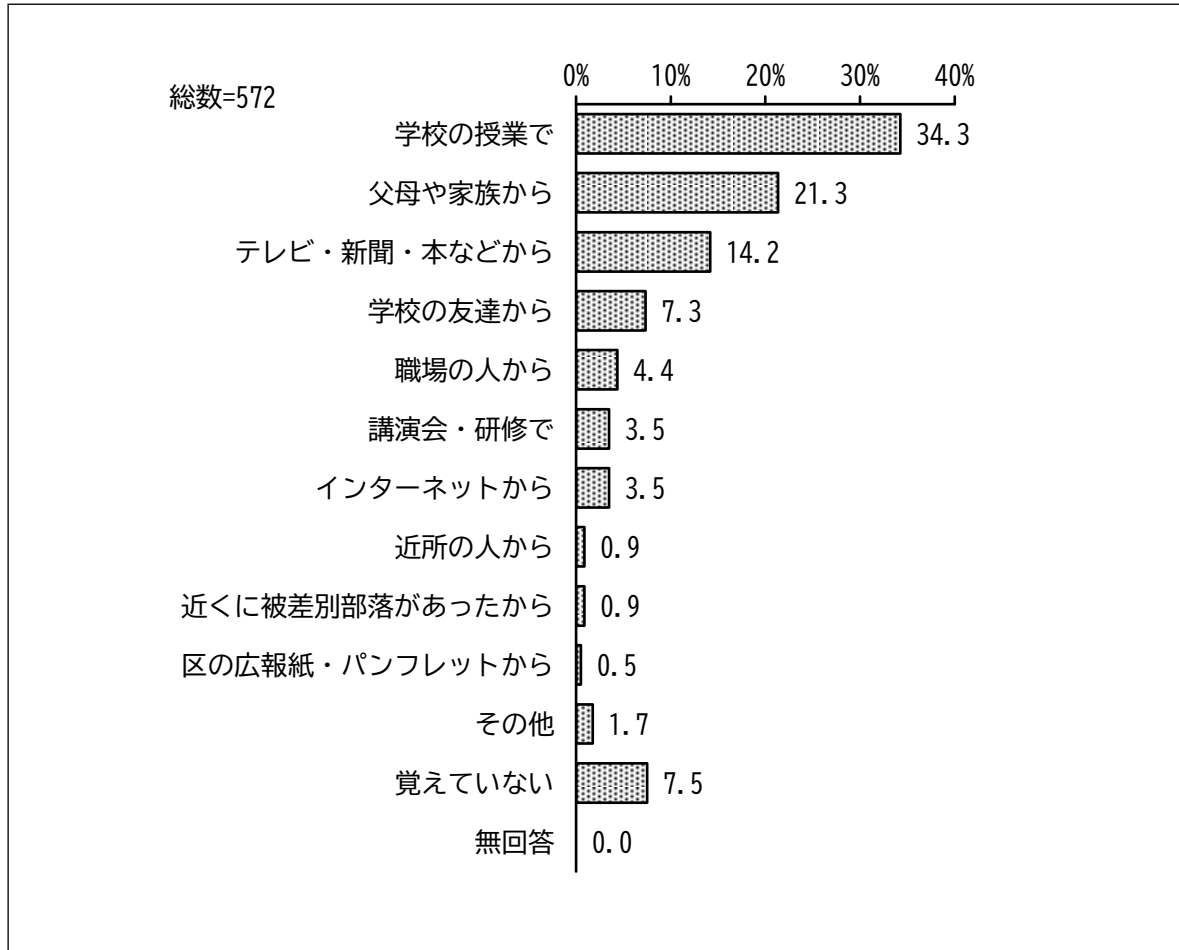
●前回調査・前々回調査との比較

「小学生の頃（6～12 歳未満）」は前々回調査から前回調査にかけて減少していましたが、前回調査から今回調査にかけては増加に転じており、今回調査の割合は前回調査を9ポイント上回っています。

問 26-2 被差別部落（同和地区）の認知機会

問 26 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

初めて知ったのは、どのようにしてですか。（○は1つ）



図表 131 被差別部落(同和地区)の認知機会

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、認知した機会について聞いたところ、「学校の授業で」が 34.3%で最も多く、「父母や家族から」（21.3%）、「テレビ・新聞・本などから」（14.2%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「父母や家族から」は 23.9%であり、男性の割合を 5 ポイント上回っています。

		人数	父母や家族から	近所の人から	学校の友達から	職場の人から	学校の授業で	講演会・研修で	区の広報紙・パンフレットから	テレビ・新聞・本などから	近くに被差別部落があったから	インターネットから	覚えていない	その他	無回答
全体		572	21.3	0.9	7.3	4.4	34.3	3.5	0.5	14.2	0.9	3.5	7.5	1.7	-
性別	女性	305	23.9	0.3	6.6	3.3	34.8	3.9	0.7	15.7	0.7	2.3	5.6	2.3	-
	男性	264	18.6	1.5	8.3	5.7	33.7	3.0	0.4	12.5	1.1	4.5	9.5	1.1	-
	その他・無回答 ※参考値	3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-
性・年代別	女性	18～29歳 ※参考値	18	27.8	-	-	61.1	-	-	5.6	-	5.6	-	-	-
		30～39歳 ※参考値	47	17.0	-	6.4	6.4	46.8	2.1	10.6	2.1	4.3	2.1	2.1	-
		40～49歳	53	32.1	-	5.7	3.8	47.2	-	3.8	-	1.9	3.8	1.9	-
		50～59歳	84	22.6	-	8.3	6.0	32.1	4.8	15.5	-	2.4	4.8	3.6	-
		60～69歳	56	25.0	-	7.1	-	23.2	10.7	21.4	-	1.8	8.9	1.8	-
		70歳以上 ※参考値	47	21.3	2.1	6.4	-	17.0	2.1	4.3	31.9	2.1	-	10.6	2.1
	男性	18～29歳 ※参考値	12	16.7	-	8.3	-	66.7	-	8.3	-	-	-	-	-
		30～39歳 ※参考値	46	15.2	-	2.2	2.2	45.7	2.2	4.3	2.2	13.0	10.9	2.2	-
		40～49歳	54	18.5	1.9	5.6	7.4	38.9	1.9	1.9	1.9	9.3	11.1	1.9	-
		50～59歳	58	17.2	1.7	8.6	6.9	31.0	3.4	17.2	1.7	1.7	8.6	1.7	-
		60～69歳	58	22.4	1.7	13.8	6.9	29.3	3.4	17.2	-	-	5.2	-	-
		70歳以上 ※参考値	36	19.4	2.8	11.1	5.6	11.1	5.6	2.8	25.0	-	-	16.7	-
	その他・無回答 ※参考値		3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-

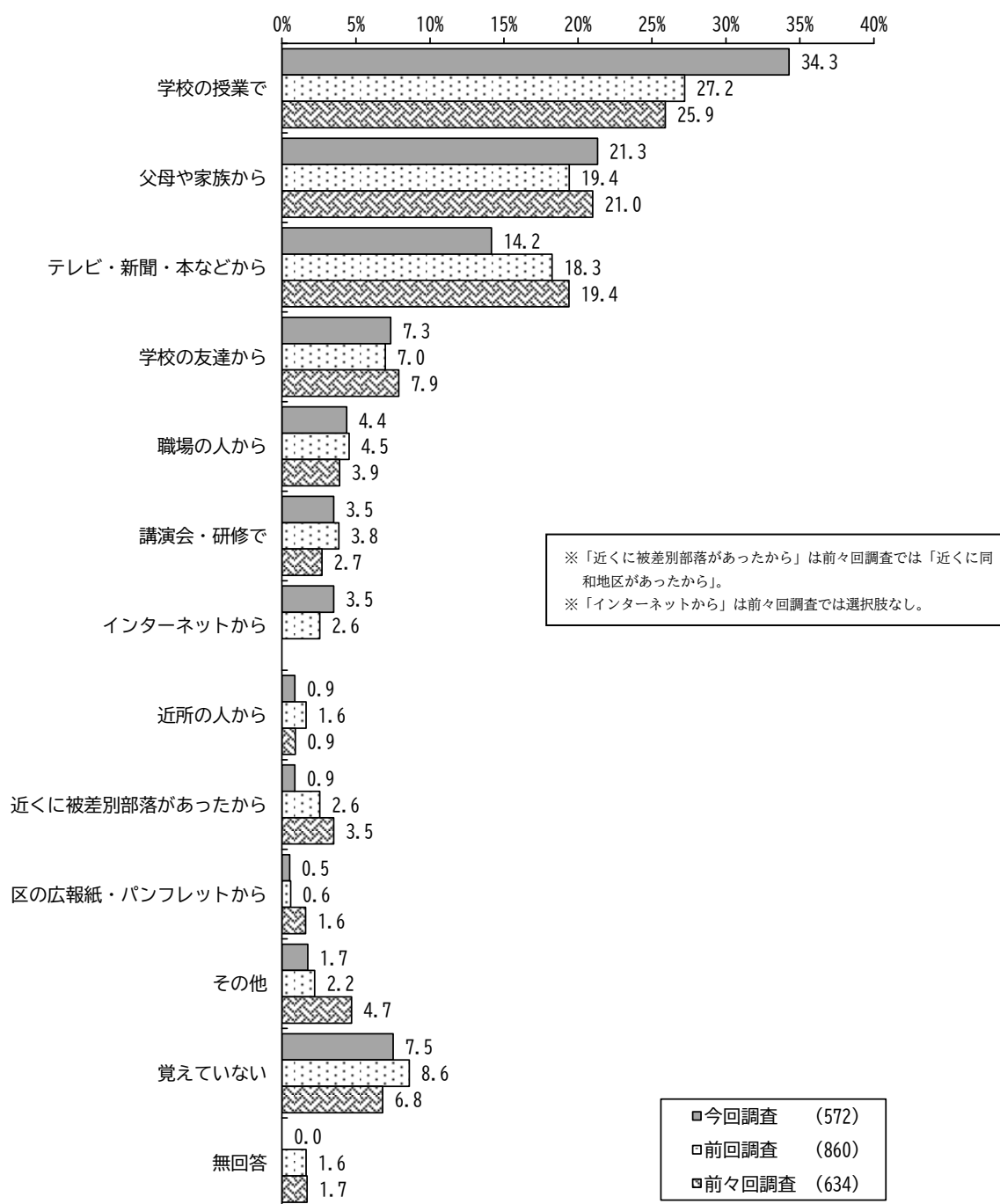
図表 132 被差別部落(同和地区)の認知機会(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳では「学校の授業で」が47.2%、「父母や家族から」が32.1%であり、女性回答者全体の割合を8ポイント以上上回っています。また、60～69歳では「テレビ・新聞・本などから」が21.4%、「講演会・研修で」が10.7%であり、女性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。

男性では、40～49歳で「学校の授業で」が38.9%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。また、60～69歳では「学校の友達から」が13.8%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 133 被差別部落(同和地区)の認知機会《前回調査・前々回調査との比較》

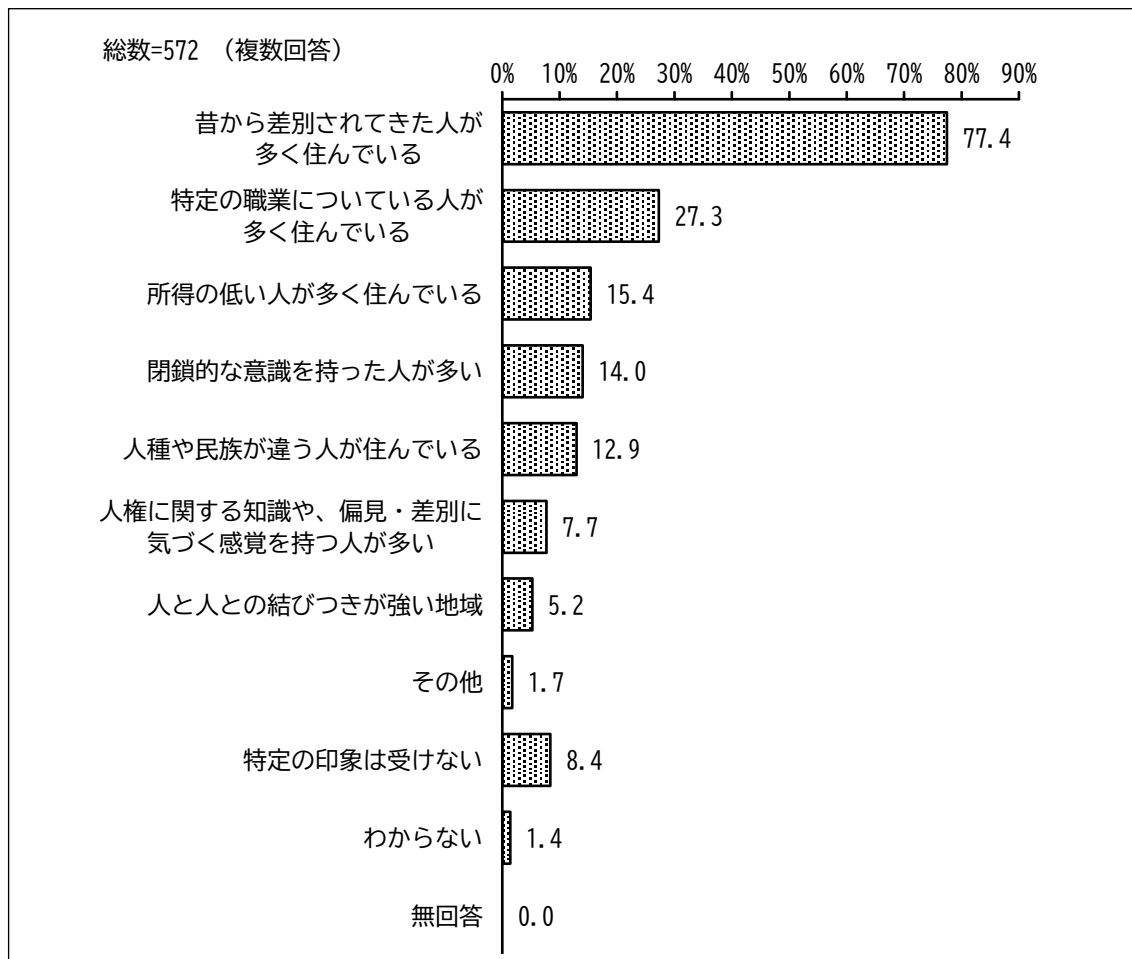
●前回調査・前々回調査との比較

「学校の授業で」は前々回調査から今回調査にかけて増加を続けており、今回調査の割合は前回調査を7ポイント上回っています。一方、「テレビ・新聞・本などから」は前々回調査から今回調査にかけて減少を続けています。

問 26-3 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象

問 26 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

「被差別部落」「同和地区」という言葉からどのような印象を受けますか。(○はいくつでも)



図表 134 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象について聞いたところ、「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が77.4%で最も多く、「特定の職業についている人が多く住んでいる」(27.3%)、「所得の低い人が多く住んでいる」(15.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」は81.3%であり、男性の割合を8ポイント上回っています。男性の「特定の職業についている人が多く住んでいる」(30.7%)は女性の割合を6ポイント上回るとともに、「閉鎖的な意識を持った人が多い」(16.7%)は女性の割合を5ポイント上回っています。

		人数	昔から差別されてきた人が多く住んでいる	人種や民族が違う人が住んでいる	特定の職業についている人が多く住んでいる	人と人との結びつきが強い地域	閉鎖的な意識を持った人が多い	人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い	所得の低い人が多く住んでいる	特定の印象は受けない	わからない	その他	無回答
全体		572	77.4	12.9	27.3	5.2	14.0	7.7	15.4	8.4	1.4	1.7	-
性別	女性	305	81.3	11.1	24.6	5.9	11.5	6.9	15.4	6.2	1.3	1.0	-
	男性	264	72.7	14.8	30.7	4.5	16.7	8.3	15.5	11.0	1.5	2.7	-
	その他・無回答 ※参考値	3	100.0	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳 ※参考値	18	61.1	11.1	27.8	11.1	16.7	-	11.1	11.1	11.1	-
		30～39歳 ※参考値	47	83.0	12.8	21.3	4.3	23.4	6.4	17.0	4.3	2.1	-
		40～49歳	53	86.8	9.4	15.1	15.1	11.3	1.9	18.9	3.8	-	-
		50～59歳	84	82.1	9.5	26.2	3.6	9.5	14.3	19.0	7.1	1.2	2.4
		60～69歳	56	83.9	19.6	23.2	3.6	7.1	7.1	10.7	1.8	-	1.8
		70歳以上 ※参考値	47	76.6	4.3	36.2	2.1	6.4	2.1	10.6	12.8	-	-
	男性	18～29歳 ※参考値	12	58.3	8.3	33.3	-	8.3	-	8.3	16.7	-	-
		30～39歳 ※参考値	46	60.9	10.9	17.4	4.3	19.6	6.5	17.4	17.4	-	6.5
		40～49歳	54	64.8	16.7	20.4	3.7	24.1	11.1	13.0	16.7	1.9	3.7
		50～59歳	58	75.9	15.5	34.5	5.2	13.8	12.1	13.8	5.2	1.7	1.7
		60～69歳	58	91.4	20.7	41.4	6.9	17.2	3.4	24.1	-	1.7	1.7
		70歳以上 ※参考値	36	69.4	8.3	38.9	2.8	8.3	11.1	8.3	19.4	2.8	-
		その他・無回答 ※参考値	3	100.0	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-

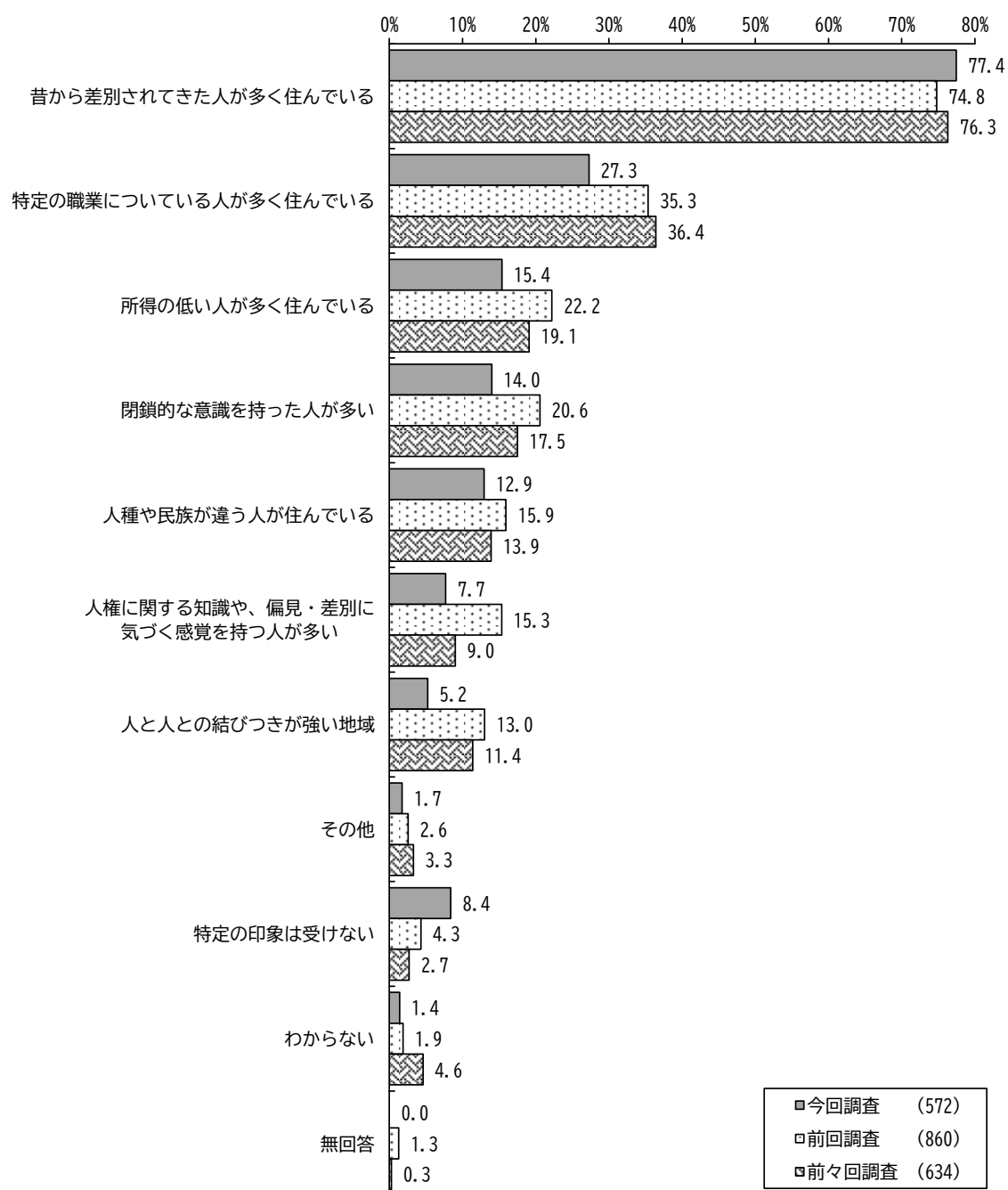
図表 135 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳では「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が86.8%、「人と人との結びつきが強い地域」が15.1%であり、女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。50～59歳では、「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」が14.3%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。このほか、60～69歳では「人種や民族が違う人が住んでいる」が19.6%であり、女性回答者全体の割合を8ポイント上回っています。

男性の60～69歳以上では「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が91.4%、「人種や民族が違う人が住んでいる」が20.7%、「所得の低い人が多く住んでいる」が24.1%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。このほか、40～49歳では「閉鎖的な意識を持った人が多い」が24.1%であり、男性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」は前々回調査では「人権意識の高い人が多い」。

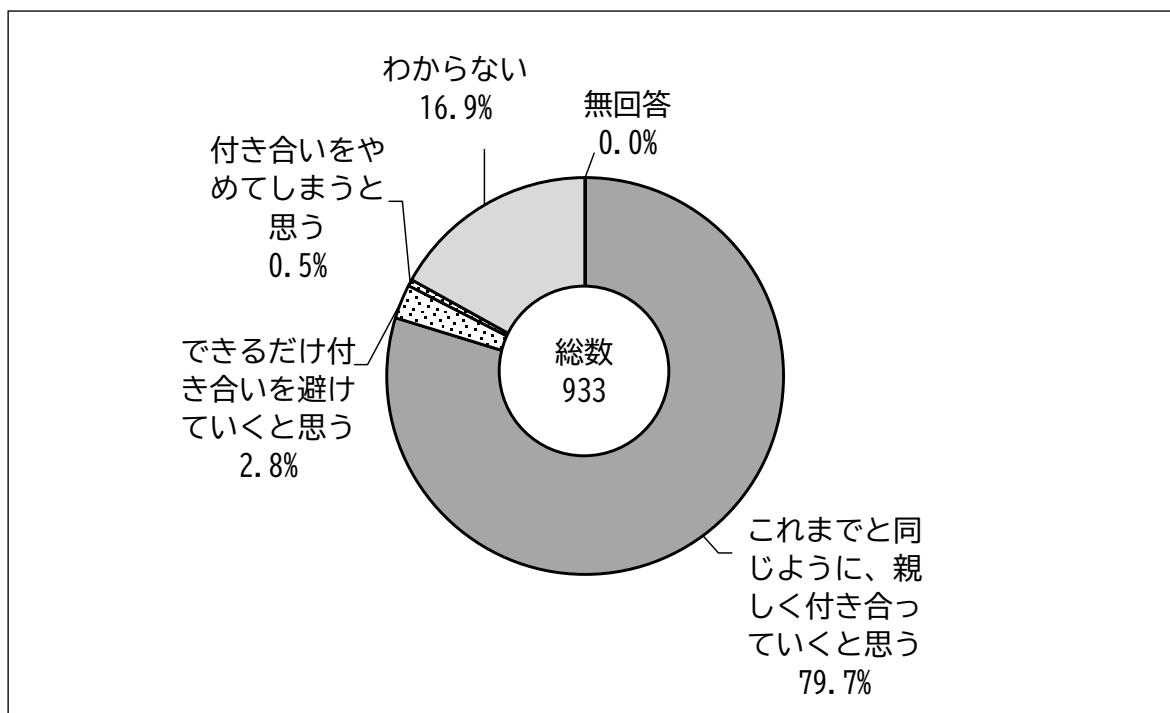
図表 136 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象◀前回調査・前々回調査との比較▶

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が7割台で最も多くなっています。前回調査から今回調査にかけて「特定の職業についている人が多く住んでいる」「所得の低い人が住んでいる」「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」「人と人との結びつきが強い地域」が6ポイント以上減少しています。

問 27 親しい隣近所の人「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応

あなたが親しく付き合っている隣近所の人「被差別部落（同和地区）」出身の人であるとわかった場合、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）



図表 137 親しい隣近所の人「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応

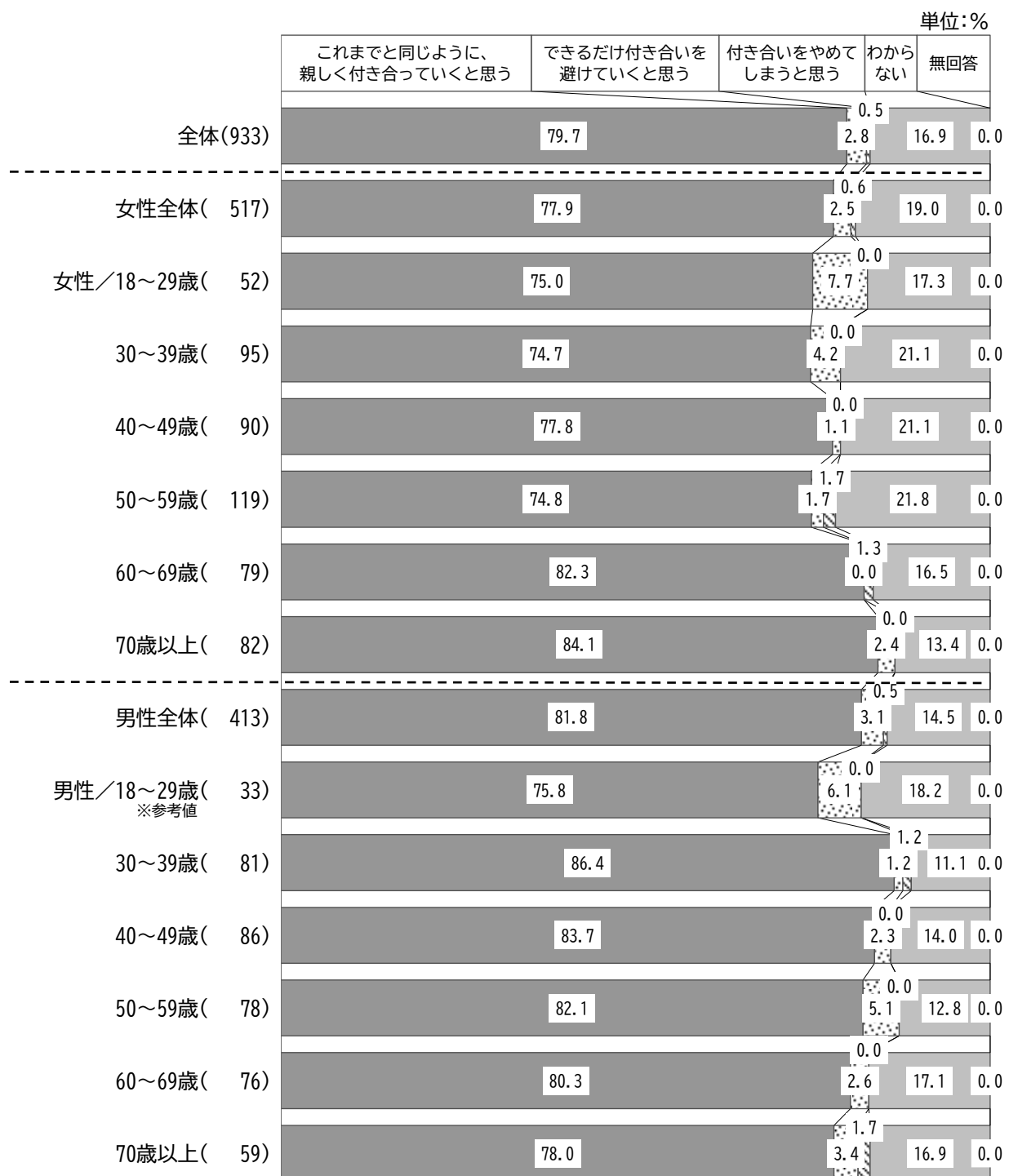
○全体の傾向

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が 79.7%で最も多く、「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が 2.8%、「付き合いをやめてしまうと思う」が 0.5%です。「わからない」は 16.9%となっています。

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」以外を選択した割合（「できるだけ付き合いを避けていくと思う」と「付き合いをやめてしまうと思う」と「わからない」の合計）は、20.2%です。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



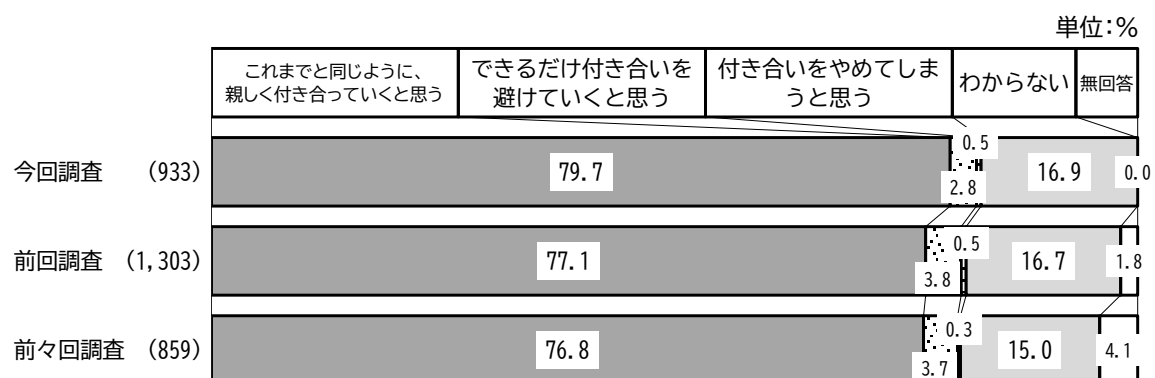
図表 138 親しい隣近所の人「被差別部落(同和地区)」出身であるとわかった場合の対応(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳と 70 歳以上では「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が 8 割強となっています。

男性では、年代とともに「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」の割合が減少しており、70 歳以上では 78.0%にとどまっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



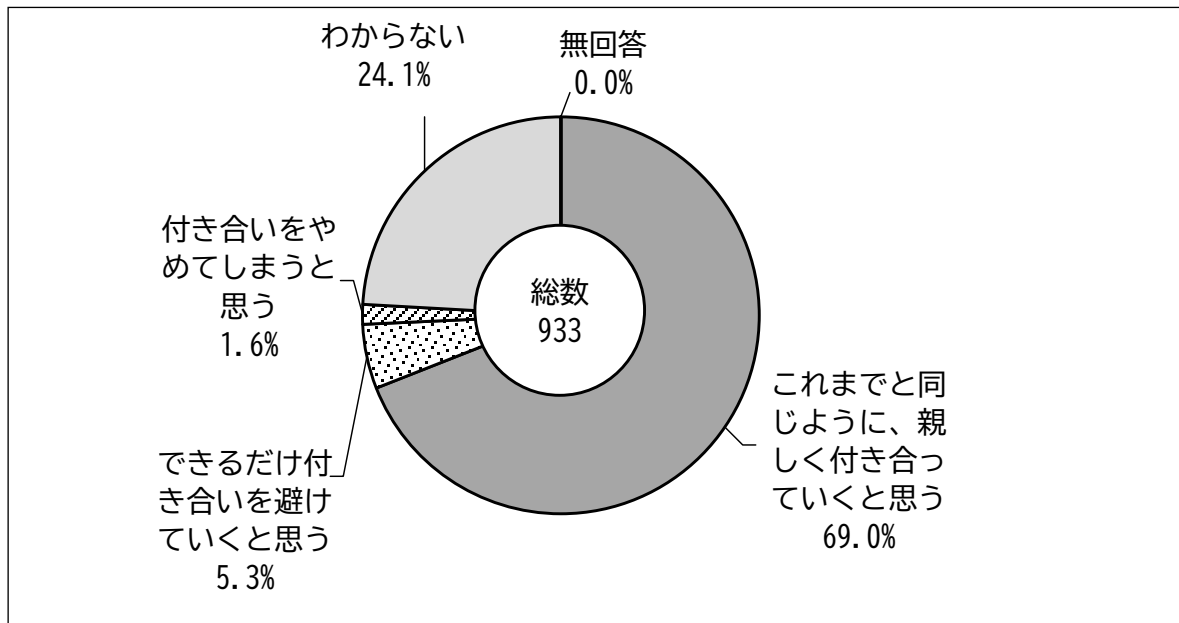
図表 139 親しい隣近所の人が「被差別部落(同和地区)」出身であるとわかった場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が8割弱を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 28 身内の結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応

あなたの身内の方の結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身であることがわかった場合、あなたはどのようにと思いますか（○は1つ）



図表 140 身内の結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応

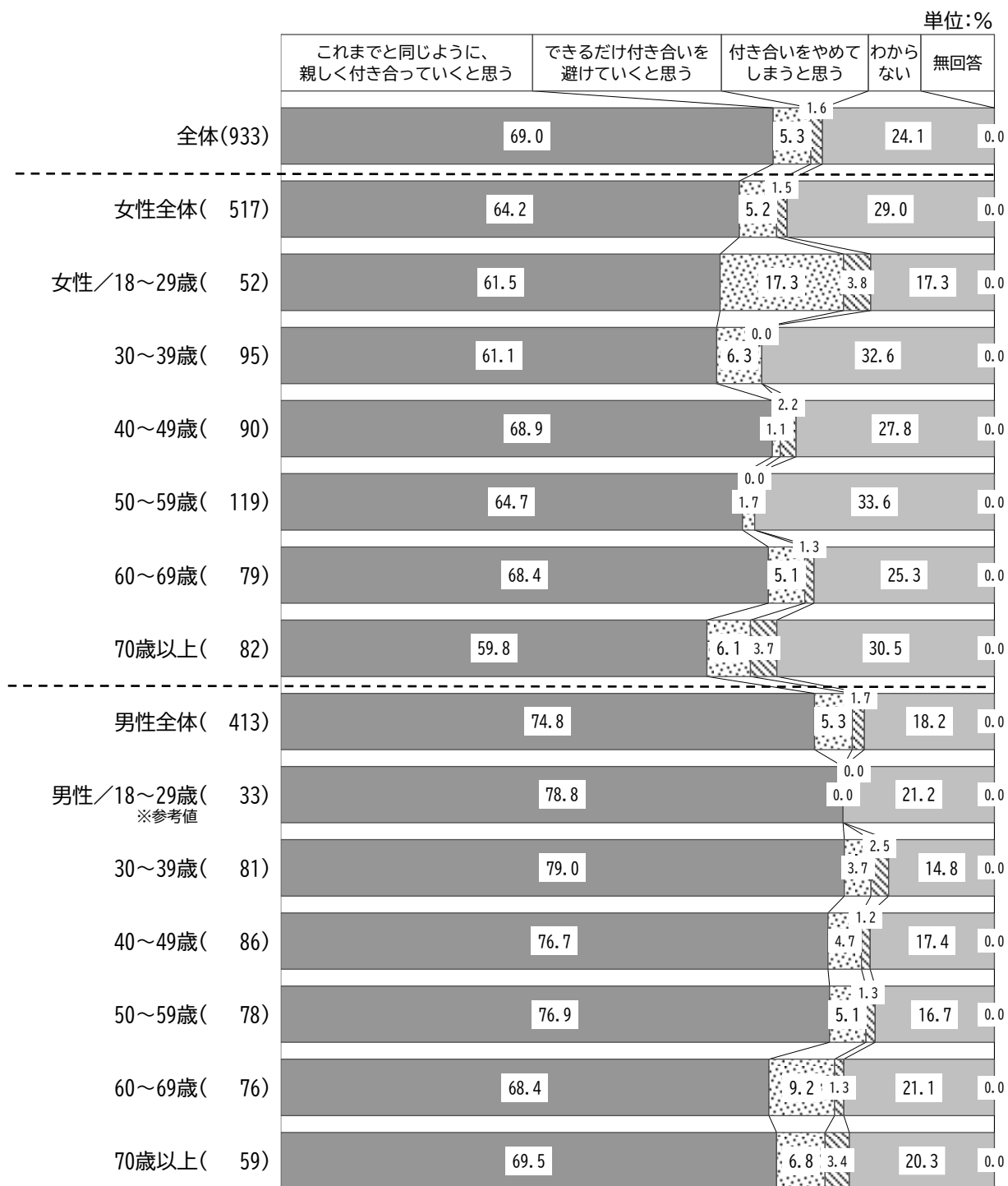
○全体の傾向

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が 69.0%で最も多く、「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が 5.3%、「付き合いをやめてしまうと思う」が 1.6%です。「わからない」は 24.1%となっています。

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」以外を選択した割合（「できるだけ付き合いを避けていくと思う」と「付き合いをやめてしまうと思う」と「わからない」の合計）は、31.0%です。

○男女別の傾向

女性の「わからない」は 29.0%であり、男性の割合を 10 ポイント上回っています。一方、男性の「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」は 74.8%であり、女性の割合を 10 ポイント上回っています。

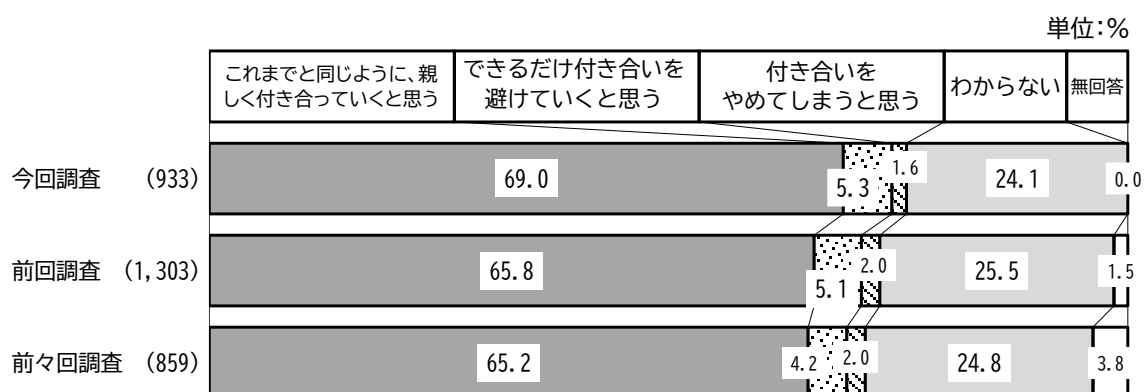


図表 141 身内の結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では、「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が17.3%であり、他の年代を11ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



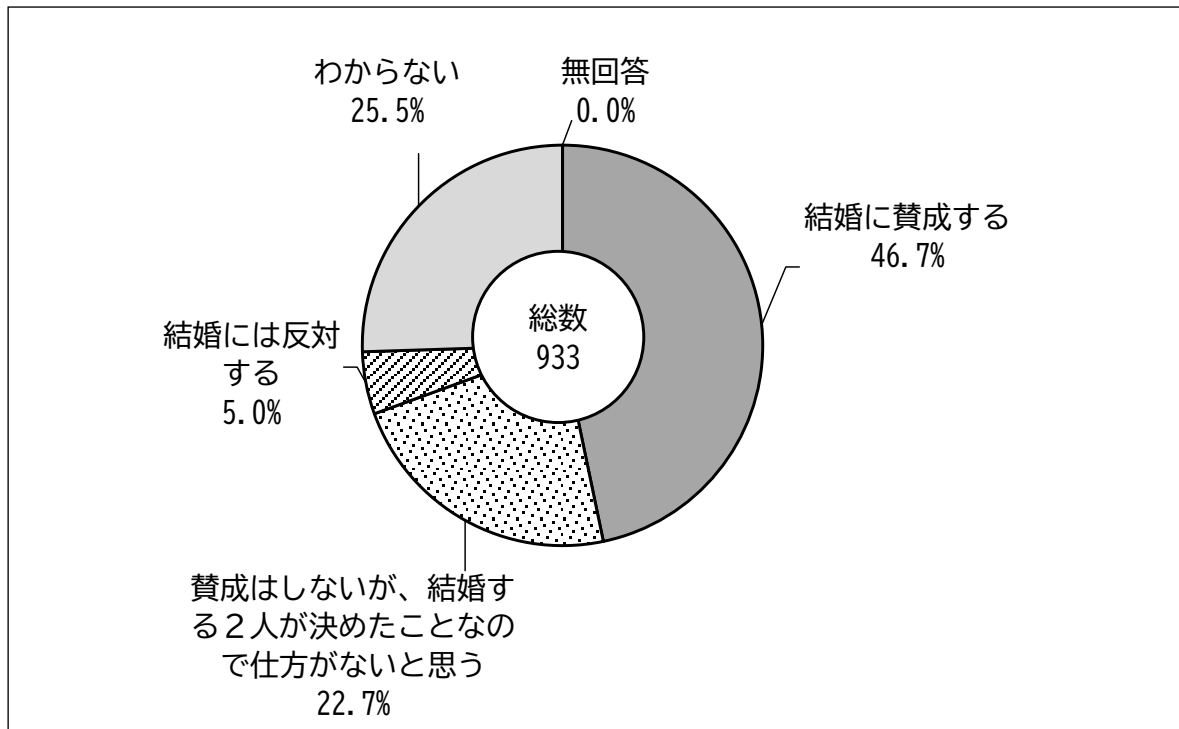
図表 142 身内の結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が6割台半ばから7割弱を占めています。「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」の割合は、前々回調査から今回調査にかけて増加を続けています。

問 29 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

もしも、あなたにお子さんがいるとして、そのお子さんの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身の場合、あなたはどのようにと思いますか。（○は1つ）



図表 143 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

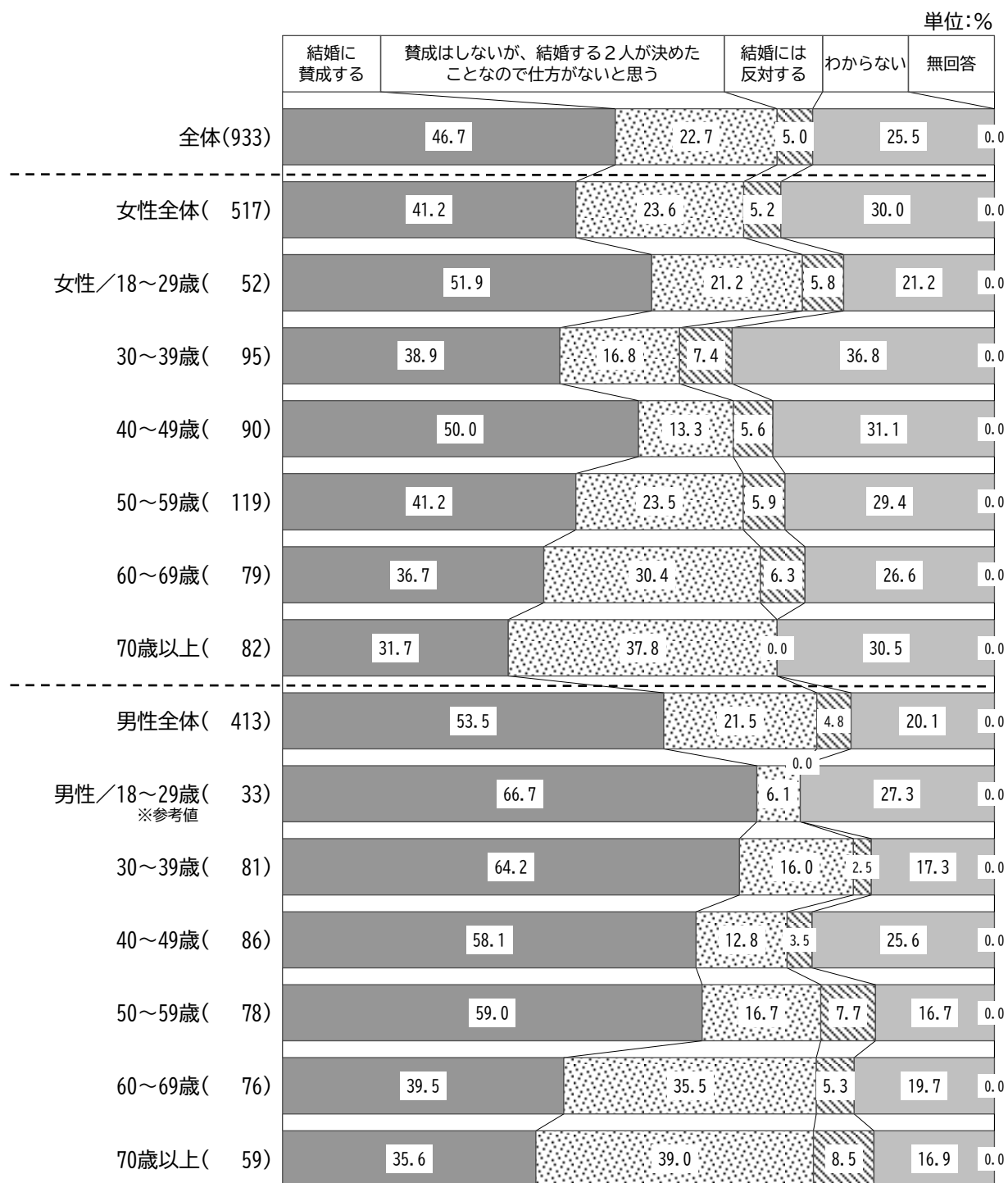
○全体の傾向

「結婚に賛成する」が 46.7%で最も多く、「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方ないと思う」が 22.7%、「結婚には反対する」が 5.0%です。「わからない」は 25.5%となっています。

「結婚に賛成する」以外を選択した割合（「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方ないと思う」と「結婚には反対する」と「わからない」の合計）は 53.2%であり、「結婚に賛成する」を上回っています。

○男女別の傾向

女性の「わからない」は 30.0%であり、男性の割合を 9 ポイント上回っています。一方、男性の「結婚に賛成する」は 53.5%であり、女性の割合を 12 ポイント上回っています。



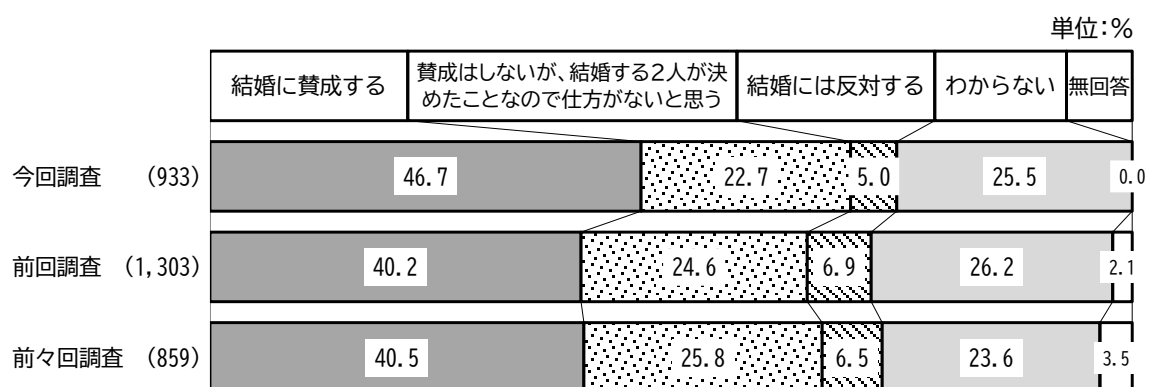
図表 144 子どもの結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応

○男女・年代別の傾向

男女とも 69 歳以下では「結婚に賛成する」が「賛成はしないが、結婚する 2 人が決めたことなので仕方がないと思う」を上回っているのに対し、70 歳以上では「賛成はしないが、結婚する 2 人が決めたことなので仕方がないと思う」が「結婚に賛成する」を上回っています。

70 歳以上の「結婚に賛成する」は女性 31.7%、男性 35.6%であり、女性回答者全体の割合を 9 ポイント、男性回答者全体の割合を 17 ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



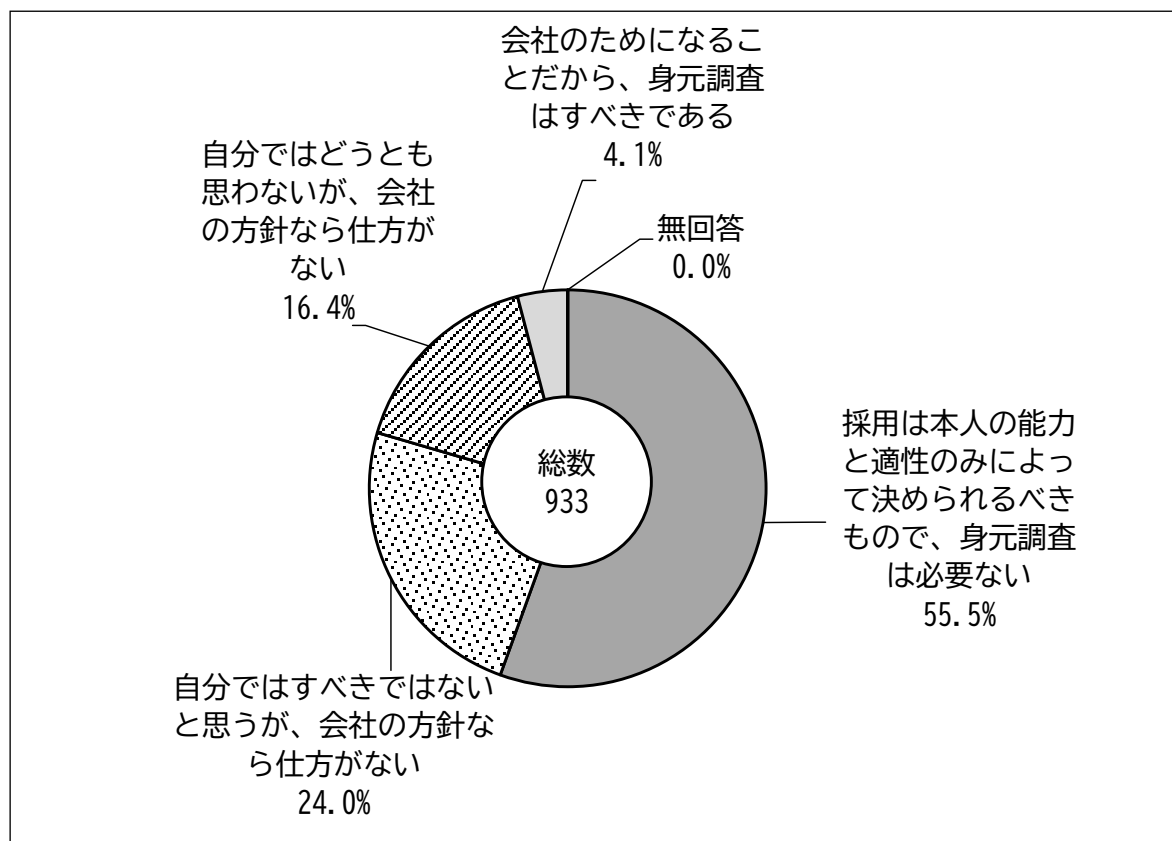
図表 145 子どもの結婚相手が「被差別部落(同和地区)」出身である場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査の「結婚に賛成する」の割合は、前回調査と前々回調査を6ポイント上回っています。

問 30 採用試験の際に行われる身元調査への意識

ある会社で採用試験の際に、出身地や家族の状況などを、ひそかに興信所などを使って調べる身元調査をしています。あなたはごどう思いますか。(○は1つ)



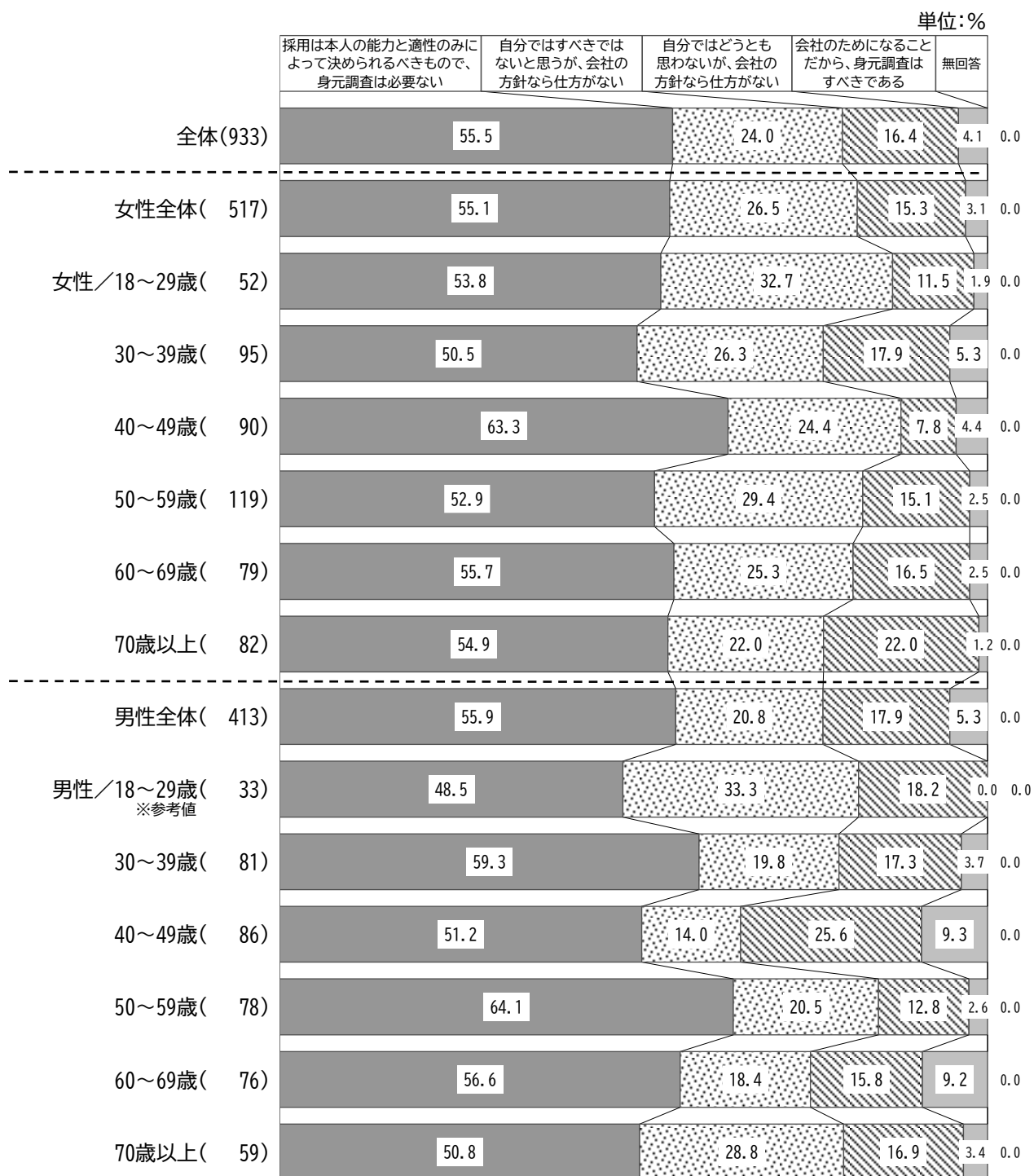
図表 146 採用試験の際に行われる身元調査への意識

○全体の傾向

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が55.5%で最も多く、「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」(24.0%)、「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方がない」(16.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」は26.5%であり、男性の割合を5ポイント上回っています。



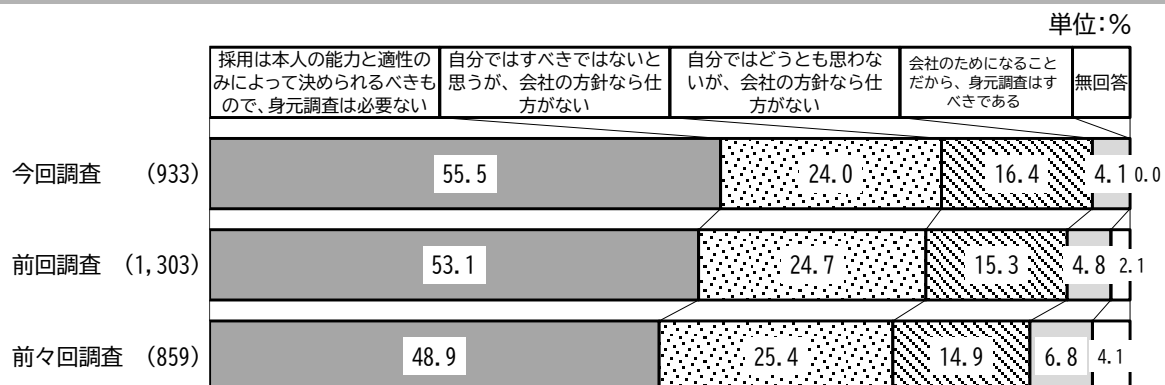
図表 147 採用試験の際に行われる身元調査への意識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 40～49 歳では、「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が 63.3%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。18～29 歳では「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」が 32.7%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。

男性では、50～59 歳で「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が 64.1%であり、男性回答者全体の割合を 8 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 148 採用試験の際に行われる身元調査への意識《前回調査・前々回調査との比較》

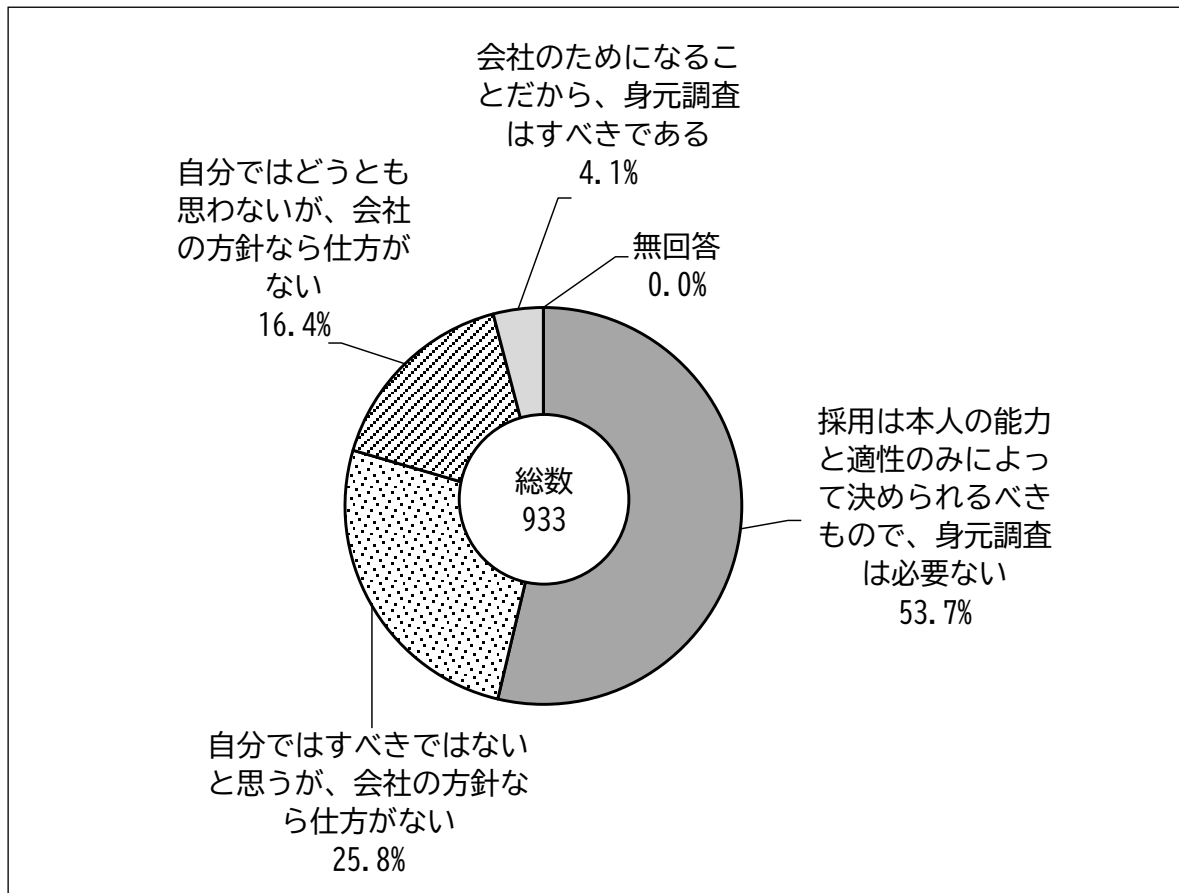
●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて「採用は本人の能力と適性のみにによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」の割合が増加を続けており、今回調査では5割台半ばとなっています。

問 31 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識

あなたが勤めている会社で身元調査をしているとします。あなたはどのように思いますか。

(〇は1つ)



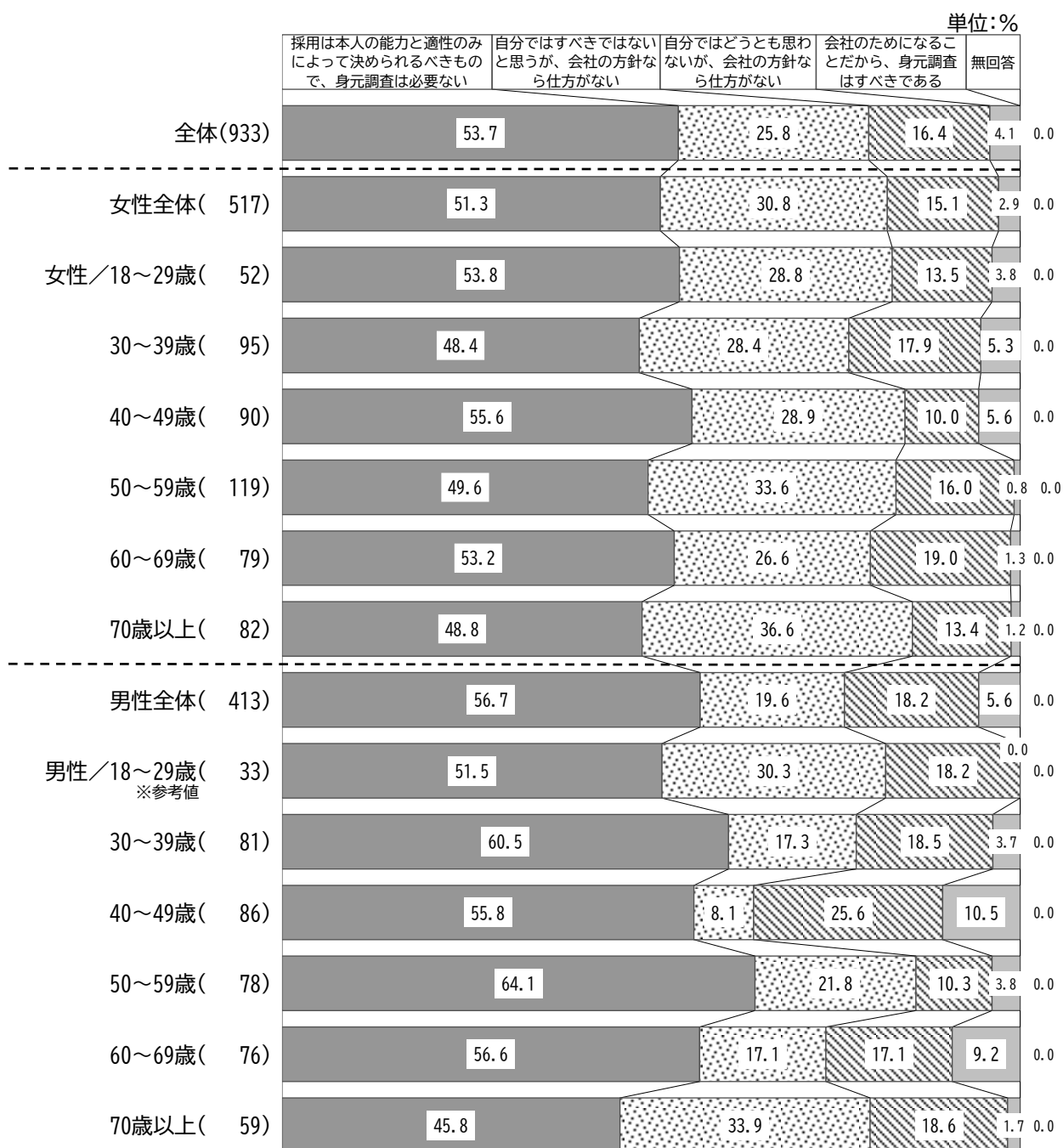
図表 149 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識

○全体の傾向

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が53.7%で最も多く、「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」(25.8%)、「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方がない」(16.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」は30.8%であり、男性の割合を11ポイント上回っています。一方、男性の「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」は56.7%であり、女性の割合を5ポイント上回っています。

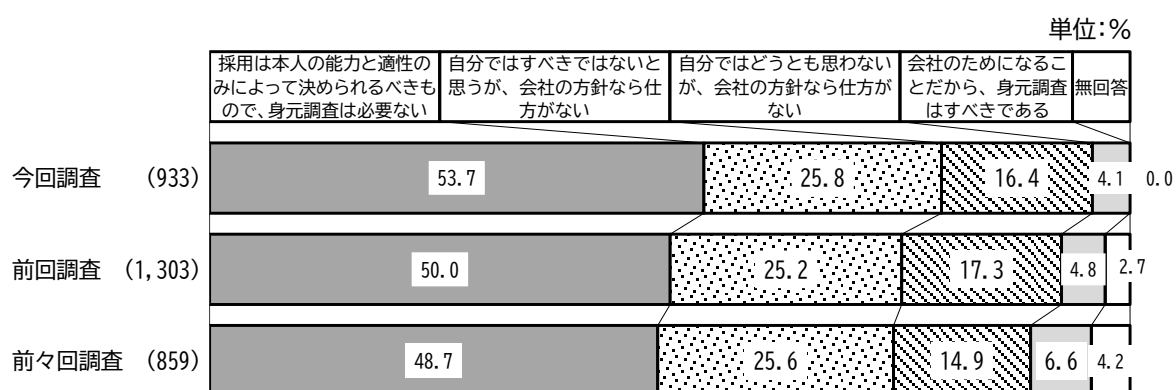


図表 150 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

男性の 40～49 歳では、「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方ない」が 25.6%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、70 歳以上では「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方ない」が 33.9%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



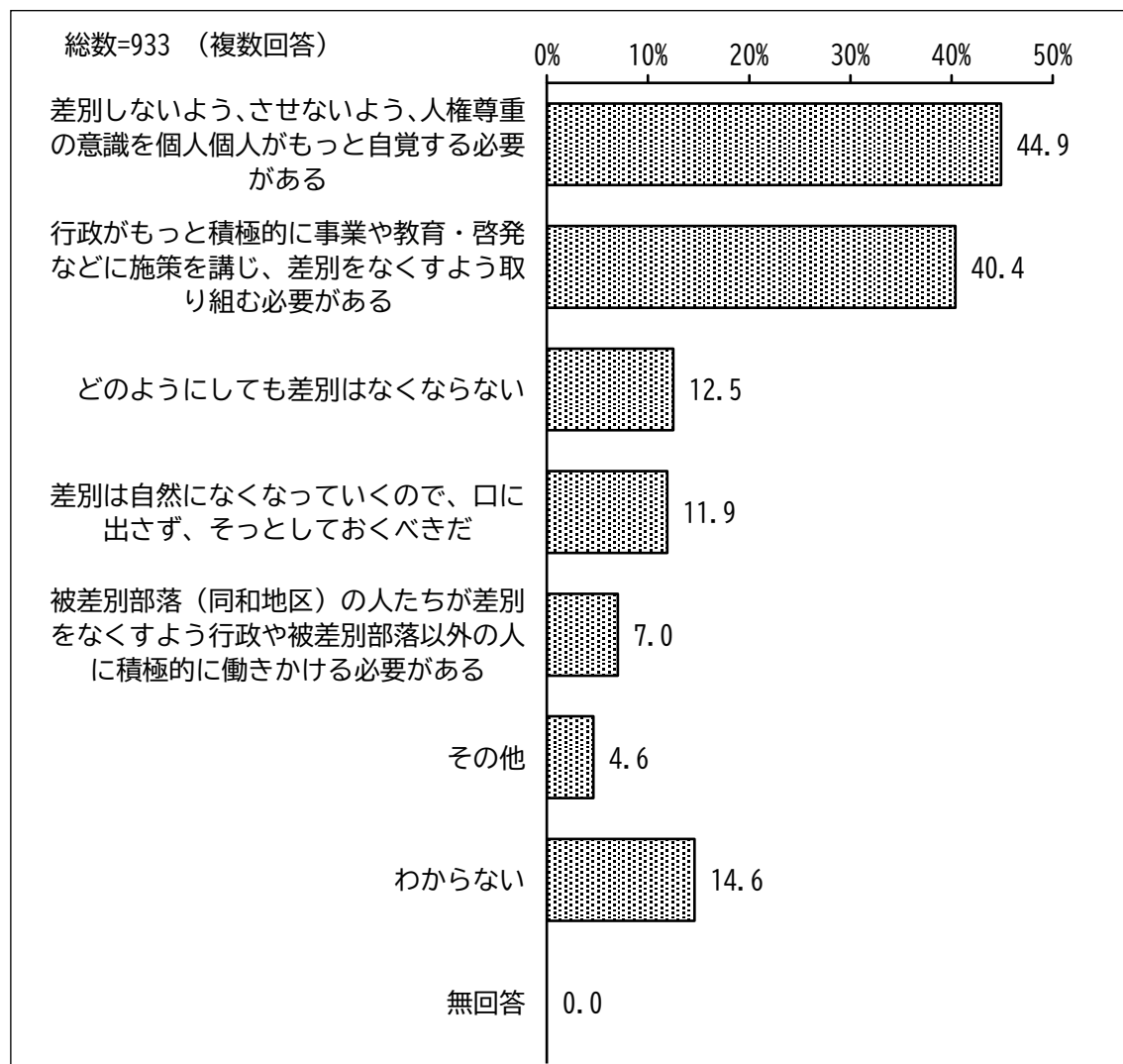
図表 151 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」の割合が増加を続けており、今回調査では5割台半ばとなっています。

問 32 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと

部落差別（同和問題）解決のために、今後どうすればよいと思いますか。（○は2つまで）



図表 152 部落差別(同和問題)解決のために今後実施すべきこと

○全体の傾向

「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が 44.9%で最も多く、「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」(40.4%)が続きます。このほか、「どのようにしても差別はなくなる」が 12.5%となっています。

○男女別の傾向

女性の「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」は 48.0%であり、男性の割合を 6 ポイント上回っています。男性の「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」は 16.5%であり、女性の割合を 8 ポイント上回っています。

			人数	行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある	尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある	差別しないよう、させないよう、人権差別的に働かせる必要がある	被差別部落（同和地区）の人たちが差別をなくすよう行政や被差別部落以外の人に積極的に働きかける必要がある	差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ	どのようにしても差別はなくなる	わからない	その他	無回答
全体			933	40.4	44.9	7.0	11.9	12.5	14.6	4.6	-	
性別	女性		517	42.4	48.0	5.0	8.3	12.6	14.9	3.1	-	
	男性		413	38.0	41.2	9.2	16.5	12.6	14.0	6.5	-	
	その他・無回答 ※参考値		3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	52	38.5	50.0	3.8	5.8	15.4	19.2	-	-	
		30～39歳	95	37.9	46.3	3.2	6.3	17.9	15.8	3.2	-	
		40～49歳	90	46.7	37.8	5.6	12.2	13.3	14.4	4.4	-	
		50～59歳	119	39.5	52.1	6.7	8.4	13.4	12.6	3.4	-	
		60～69歳	79	43.0	59.5	3.8	5.1	7.6	15.2	5.1	-	
		70歳以上	82	48.8	42.7	6.1	11.0	7.3	14.6	1.2	-	
	男性	18～29歳 ※参考値	33	27.3	51.5	-	6.1	6.1	27.3	6.1	-	
		30～39歳	81	34.6	27.2	13.6	18.5	16.0	13.6	7.4	-	
		40～49歳	86	29.1	32.6	9.3	22.1	15.1	17.4	8.1	-	
		50～59歳	78	41.0	42.3	12.8	16.7	15.4	5.1	9.0	-	
		60～69歳	76	51.3	52.6	5.3	10.5	7.9	13.2	6.6	-	
		70歳以上	59	40.7	50.8	8.5	18.6	10.2	15.3	-	-	
	その他・無回答 ※参考値		3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	

図表 153 部落差別(同和問題)解決のために今後実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳では「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が59.5%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。一方、40～49歳では「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が37.8%であり、女性回答者全体の割合を10ポイント下回っています。

男性では、60～69歳で「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」が51.3%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。また、60～69歳と70歳以上では「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が5割強であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

		人数	行政がもっと積極的な施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある	差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもつと自覚する必要がある	被差別部落（同和地区）の人たちが差別をなくすよう行政や被差別部落以外の差別に積極的に働きかける必要がある	差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ	どのようなにしても差別はなくなる	わからない	その他	無回答
全体		933	40.4	44.9	7.0	11.9	12.5	14.6	4.6	-
部落差別	多く存在する	80	57.5	45.0	8.8	3.8	21.3	15.0	2.5	-
	ある程度存在する	630	42.5	48.9	7.6	9.4	11.9	13.5	4.0	-
	存在しない	217	27.2	33.6	4.6	22.1	11.5	18.0	7.4	-
	無回答 ※参考値	6	66.7	33.3	-	16.7	-	-	-	-

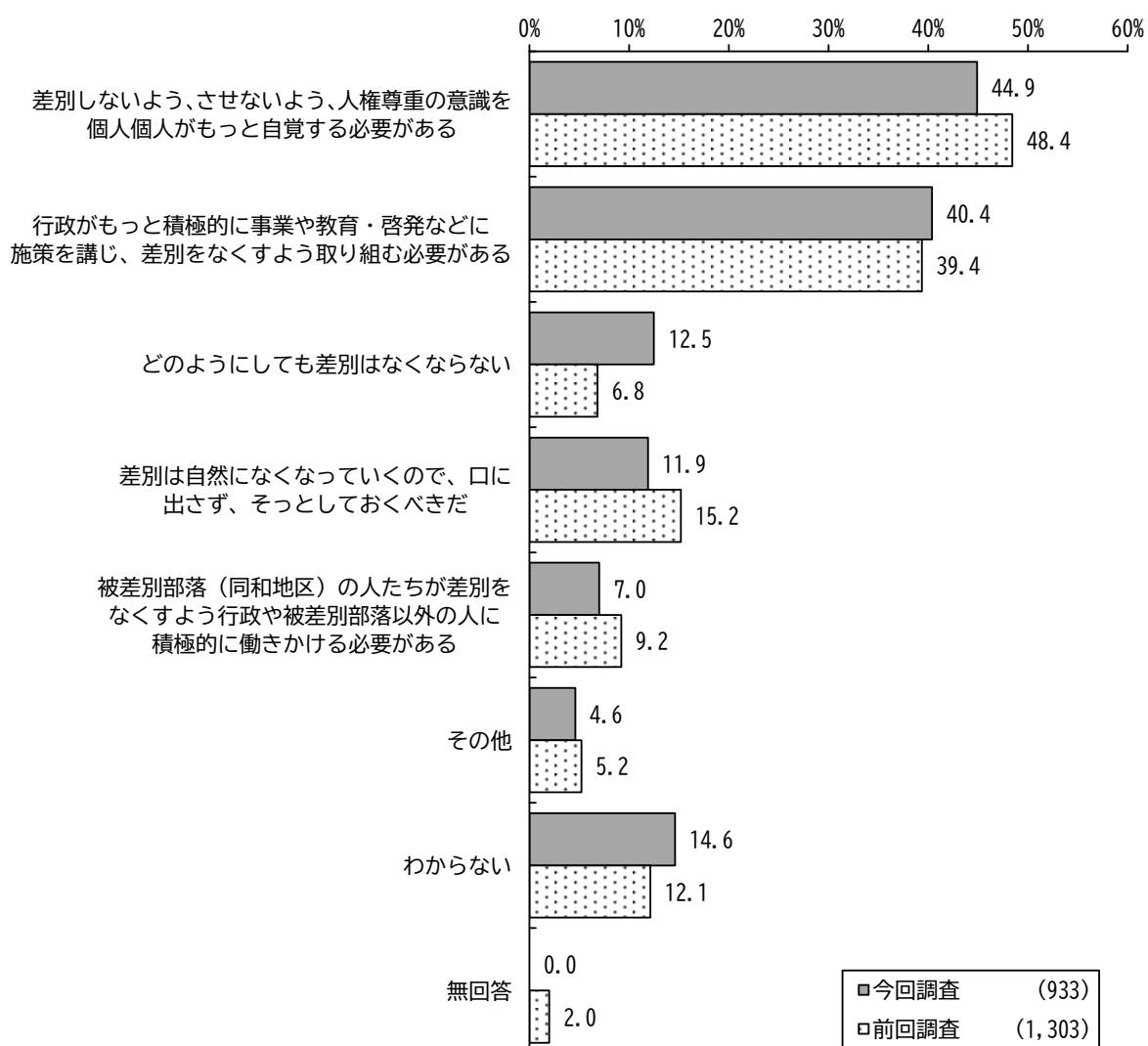
図表 154 部落差別(同和問題)解決のために今後実施すべきこと(部落差別(同和問題)の認識別)

○部落差別（同和問題）の存在に対する認識別の傾向

現在の社会で部落差別（同和問題）が多く存在すると考える人では、「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」が57.5%で、回答者全体の割合を17ポイント上回っています。また、部落差別（同和問題）が多く存在すると考える人では、「どのようなにしても差別はなくなる」が21.3%であり、回答者全体の割合を8ポイント上回っています。

部落差別（同和問題）が存在しないと考える人では、「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が22.1%であり、回答者全体の割合を10ポイント上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 155 部落差別(同和問題)解決のために今後実施すべきこと《前回調査との比較》

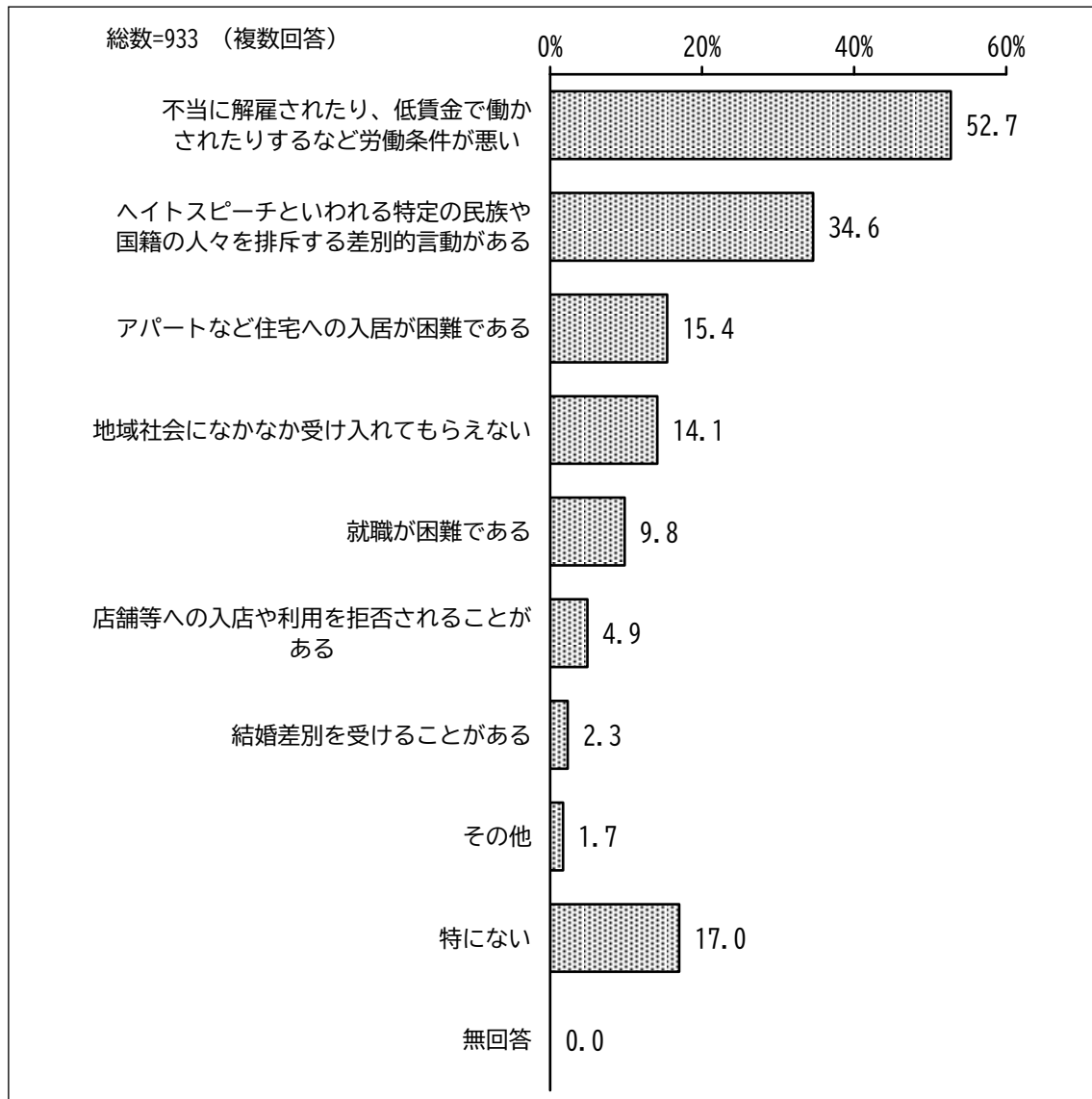
●前回調査との比較

前回調査・今回調査とも「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が最も多く、「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」が続いています。前回調査から今回調査にかけて「どのようにしても差別はなくなる」が5ポイント増加しています。

7 外国人の人権について

問 33 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと

次にあげる外国人の人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。（○は2つまで）



図表 156 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が52.7%で最も多く、「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」(34.6%)、「アパートなど住宅への入居が困難である」(15.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」(59.2%)は男性の割合を14ポイント上回るとともに、「アパートなど住宅への入居が困難である」(18.0%)は男性の割合を5ポイント上回っています。

		人数	就職が困難である	不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い	結婚差別を受けることがある	地域社会になかなか受け入れてもらえない	店舗等への入店や利用を拒否されることがある	アパートなど住宅への入居が困難である	ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある	特にない	その他	無回答
全体		933	9.8	52.7	2.3	14.1	4.9	15.4	34.6	17.0	1.7	-
性別	女性	517	8.1	59.2	2.7	12.0	5.8	18.0	35.4	13.0	1.4	-
	男性	413	11.9	44.6	1.7	16.7	3.9	12.3	33.4	22.3	2.2	-
	その他・無回答 ※参考値	3	-	66.7	-	33.3	-	-	66.7	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	9.6	46.2	3.8	13.5	3.8	19.2	32.7	21.2	-
		30～39歳	95	7.4	54.7	5.3	13.7	8.4	18.9	38.9	11.6	-
		40～49歳	90	12.2	61.1	1.1	11.1	7.8	21.1	43.3	3.3	-
		50～59歳	119	5.9	62.2	1.7	12.6	5.9	15.1	36.1	10.9	-
		60～69歳	79	7.6	67.1	2.5	8.9	6.3	20.3	27.8	12.7	-
		70歳以上	82	7.3	58.5	2.4	12.2	1.2	14.6	30.5	23.2	-
		※参考値	33	15.2	24.2	6.1	24.2	6.1	6.1	33.3	21.2	-
	男性	18～29歳	81	12.3	44.4	-	22.2	7.4	9.9	34.6	23.5	-
		30～39歳	86	8.1	36.0	2.3	14.0	4.7	11.6	27.9	30.2	-
		40～49歳	78	11.5	39.7	-	12.8	3.8	12.8	29.5	25.6	-
		50～59歳	76	7.9	63.2	1.3	15.8	-	14.5	46.1	11.8	-
		60～69歳	59	20.3	50.8	3.4	15.3	1.7	16.9	28.8	18.6	-
		70歳以上	59	20.3	50.8	3.4	15.3	1.7	16.9	28.8	18.6	-
		※参考値	3	-	66.7	-	33.3	-	-	66.7	-	-

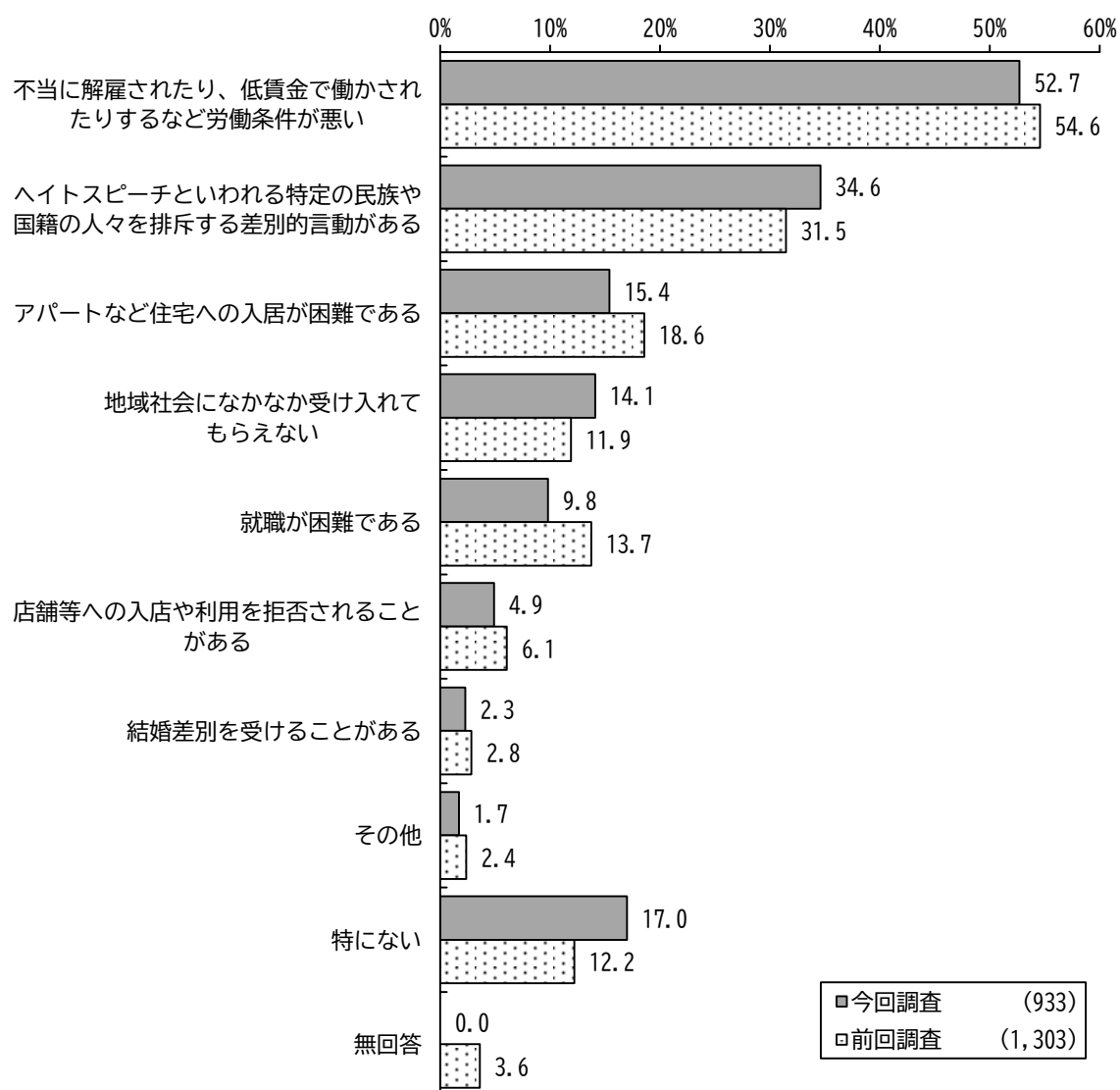
図表 157 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳では「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」が43.3%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。18～29歳では、「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が46.2%であり、他の年代を8ポイント以上下回っています。

男性では、60～69歳で「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が63.2%、「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」が46.1%であり、いずれも他の年代を11ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



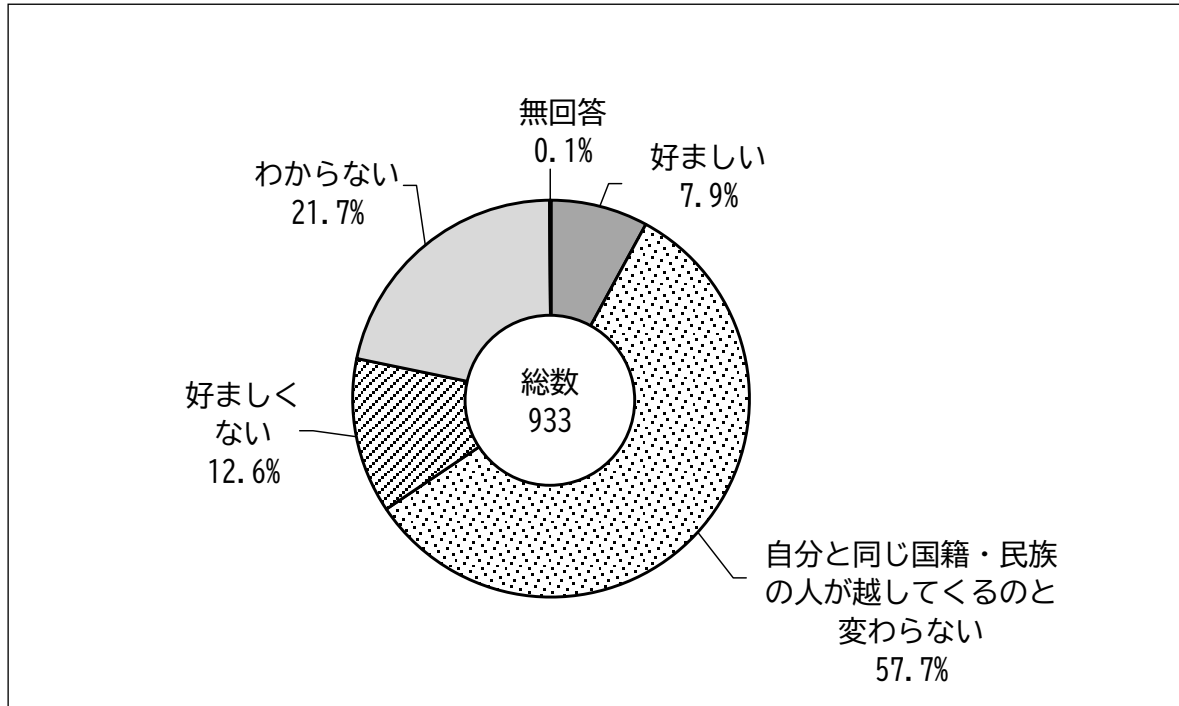
図表 158 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと《前回調査との比較》

●前回調査との比較

今回調査・前回調査とも「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が5割強を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 34 外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引越してきた場合の対応

外国人（自分とは異なる国籍・民族）が、あなたの隣に引越してきた場合、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）



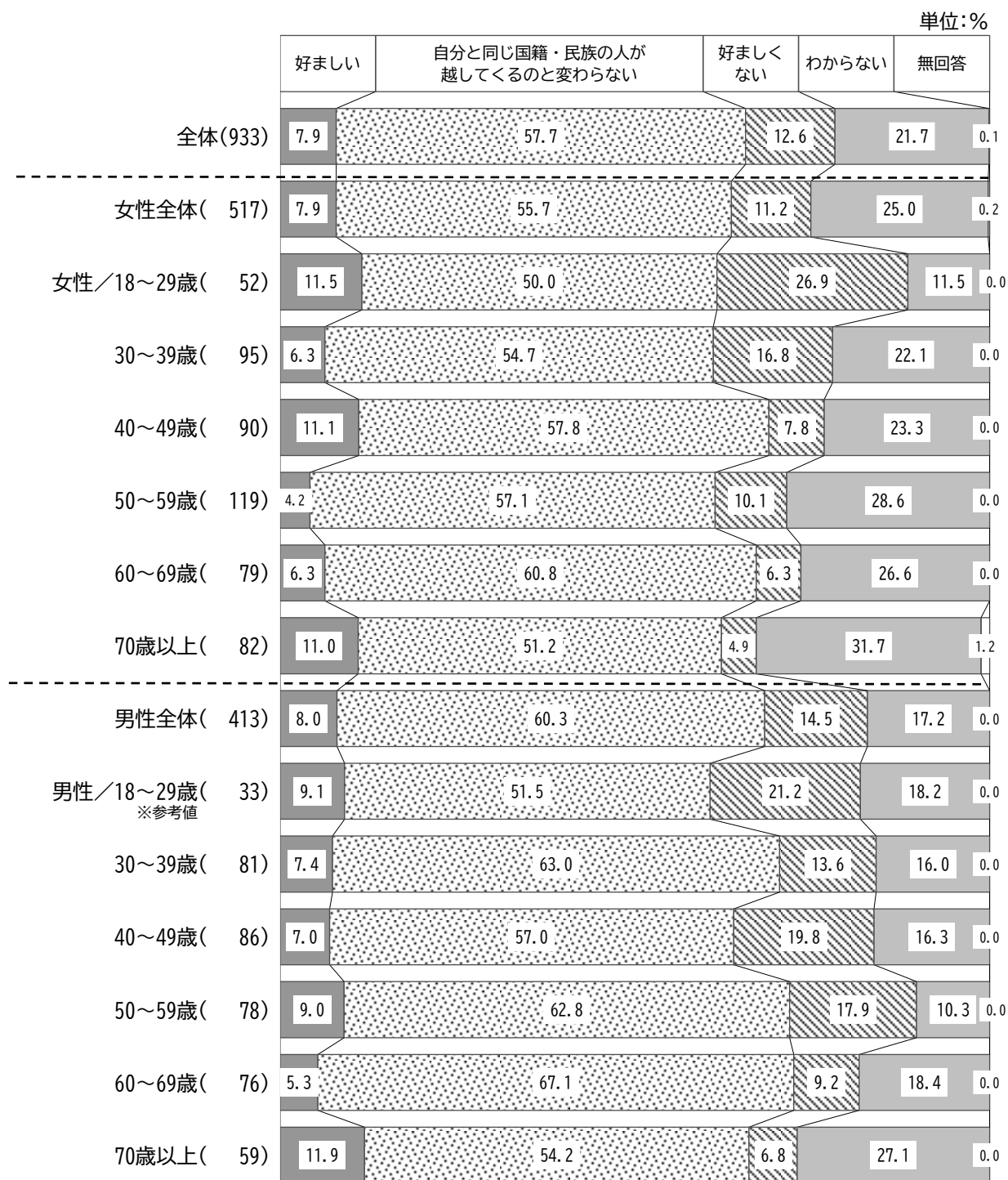
図表 159 外国人(自分とは異なる国籍・民族)が隣に引越してきた場合の対応

○全体の傾向

「好ましい」が7.9%、「自分と同じ国籍・民族の人が越してくるのと変わらない」が57.7%、「好ましくない」が12.6%となっています。なお、「わからない」が21.7%となっています。

○男女別の傾向

女性の「わからない」は25.0%であり、男性の割合を7ポイント上回っています。



図表 160 外国人(自分とは異なる国籍・民族)が隣に引越してきた場合の対応(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳では「自分と同じ国籍・民族の人が越してくるのと変わらない」が6割に達しています。18～29歳では、「好ましくない」が26.9%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。

男性では、60～69歳で「自分と同じ国籍・民族の人が越してくるのと変わらない」が67.1%であり、男性回答者全体の割合を6ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



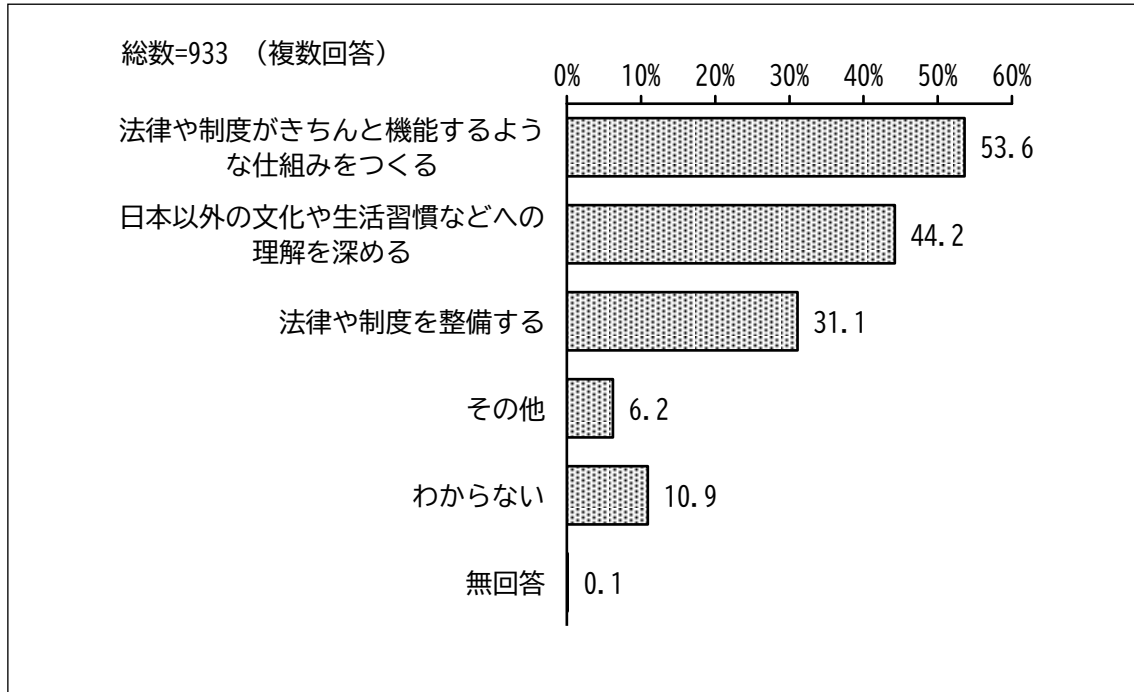
図表 161 外国人(自分とは異なる国籍・民族)が隣に引越してきた場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」が6割前後で最も多くなっていますが、前々回調査から今回調査にかけて減少を続けています。一方、前々回調査から今回調査にかけて「好ましくない」の割合が増加を続けており、今回調査の「好ましくない」の割合は前回調査を6ポイント上回っています。

問 35 外国人の人権を守るために必要なこと

外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は2つまで）



図表 162 外国人の人権を守るために必要なこと

○全体の傾向

「法律や制度がきちんと機能するような仕組みをつくる」が 53.6%で最も多く、「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」（44.2%）、「法律や制度を整備する」（31.1%）が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

			人数	日本以外の文化や生活習慣 などへの理解を深める	法律や制度を整備する	法律や制度がきちんと機能 するよう仕組みをつくる	わからない	その他	無回答
全体			933	44.2	31.1	53.6	10.9	6.2	0.1
性別	女性		517	46.4	30.8	54.2	9.9	5.0	-
	男性		413	41.6	31.2	53.0	12.1	7.7	0.2
	その他・無回答 ※参考値		3	-	66.7	33.3	33.3	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	40.4	42.3	48.1	9.6	3.8	-
		30～39歳	95	45.3	37.9	42.1	11.6	7.4	-
		40～49歳	90	47.8	33.3	61.1	5.6	5.6	-
		50～59歳	119	48.7	26.9	58.8	9.2	3.4	-
		60～69歳	79	41.8	26.6	60.8	12.7	3.8	-
		70歳以上	82	51.2	22.0	51.2	11.0	6.1	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	24.2	30.3	45.5	24.2	6.1	-
		30～39歳	81	30.9	34.6	56.8	9.9	9.9	-
		40～49歳	86	43.0	29.1	52.3	14.0	10.5	-
		50～59歳	78	44.9	23.1	46.2	9.0	12.8	-
		60～69歳	76	42.1	38.2	61.8	10.5	2.6	-
		70歳以上	59	59.3	32.2	50.8	11.9	1.7	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	-	66.7	33.3	33.3	-	-

図表 163 外国人の人権を守るために必要なこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳、50～59歳、60～69歳では「法律や制度がきちんと機能するよう仕組みをつくる」が6割前後であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。「法律や制度を整備する」は年代とともに割合が減少しており、18～29歳で42.3%であるのに対し、70歳以上では22.0%にとどまっています。

男性では、70歳以上で「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が59.3%であり、他の年代を14ポイント以上上回っています。

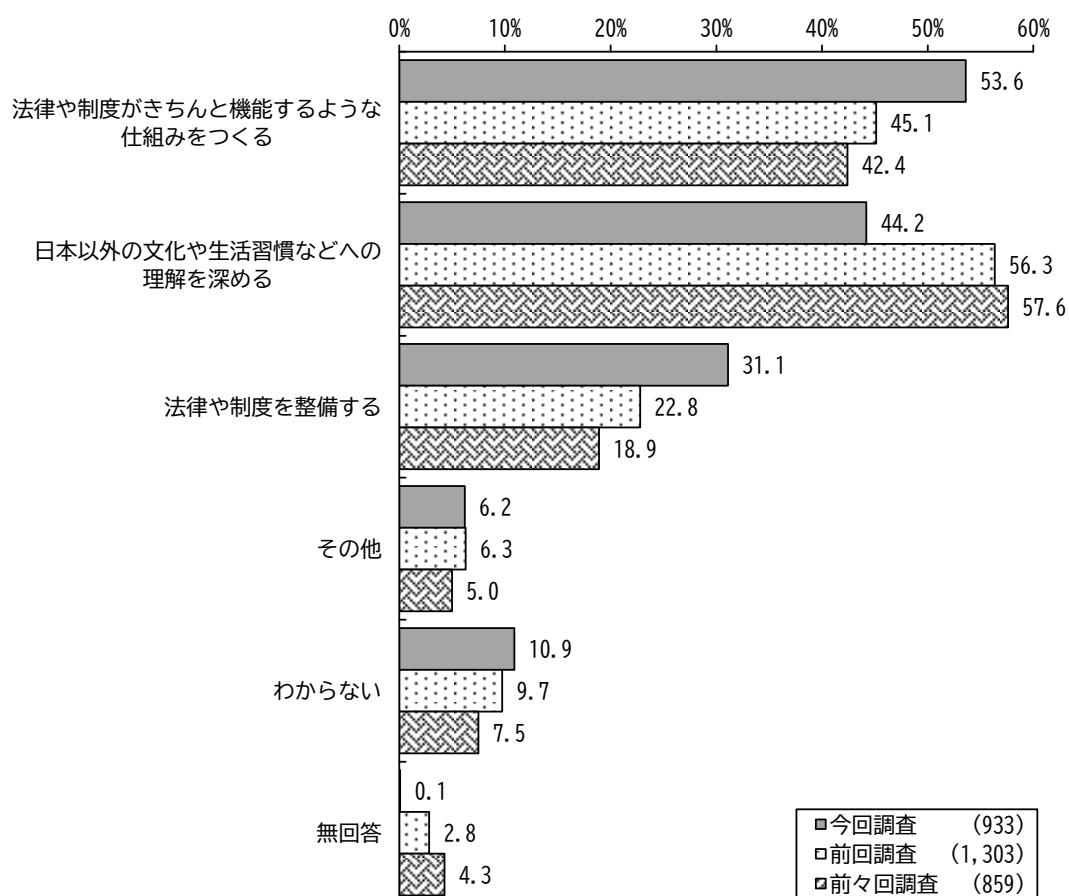
		人数	日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める	法律や制度を整備する	法律や制度がきちんと機能するよう仕組みをつくる機能	わからない	その他	無回答
全体		933	44.2	31.1	53.6	10.9	6.2	0.1
外国人差別	多く存在する	249	48.6	38.6	56.6	7.6	4.4	-
	ある程度存在する	594	44.9	28.3	54.2	10.6	6.1	0.2
	存在しない	85	25.9	29.4	41.2	21.2	12.9	-
	無回答 ※参考値	5	40.0	20.0	40.0	40.0	-	-

図表 164 外国人の人権を守るために必要なこと(外国人差別の存在に対する認識別)

○外国人差別の存在に対する認識別の傾向

現在の社会で外国人差別が多く存在する、ある程度存在すると考えている人では、「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が4割台であり、外国人差別が存在しないと考えている人の割合を19ポイント以上上回っています。また、外国人差別が多く存在する、ある程度存在すると考えている人では、「法律や制度がきちんと機能するよう仕組みをつくる」が5割台であり、外国人差別が存在しないと考えている人の割合を13ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



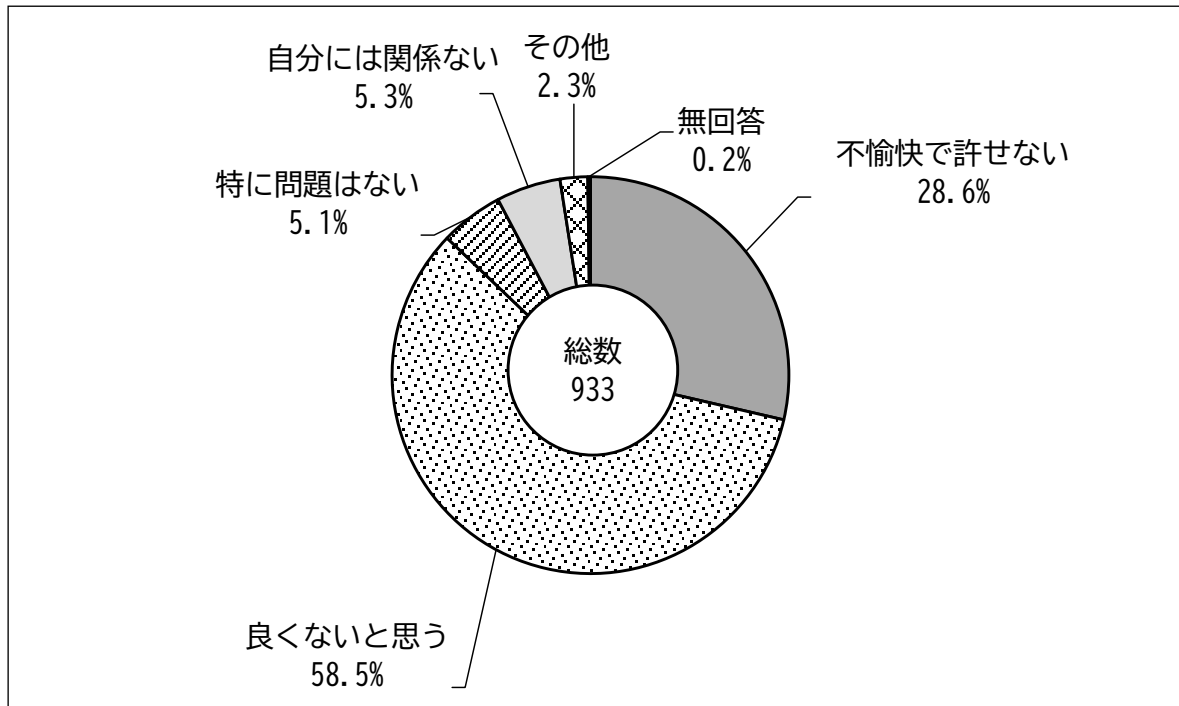
図表 165 外国人の人権を守るために必要なこと《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

前回調査・前々回調査では「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が最も多く、「法律や制度がきちんと機能するような仕組みをつくる」が続いていましたが、前回調査から今回調査にかけて両者の順位が入れ替わりました。このほか、前々回調査から今回調査にかけて「法律や制度を整備する」が増加を続けており、今回調査の割合は31.1%で前回調査を8ポイント上回っています。

問 36 ヘイトスピーチに対する認識

あなたは、ヘイトスピーチといわれる差別的言動について、どう思いますか。(○は1つ)



図表 166 ヘイトスピーチに対する認識

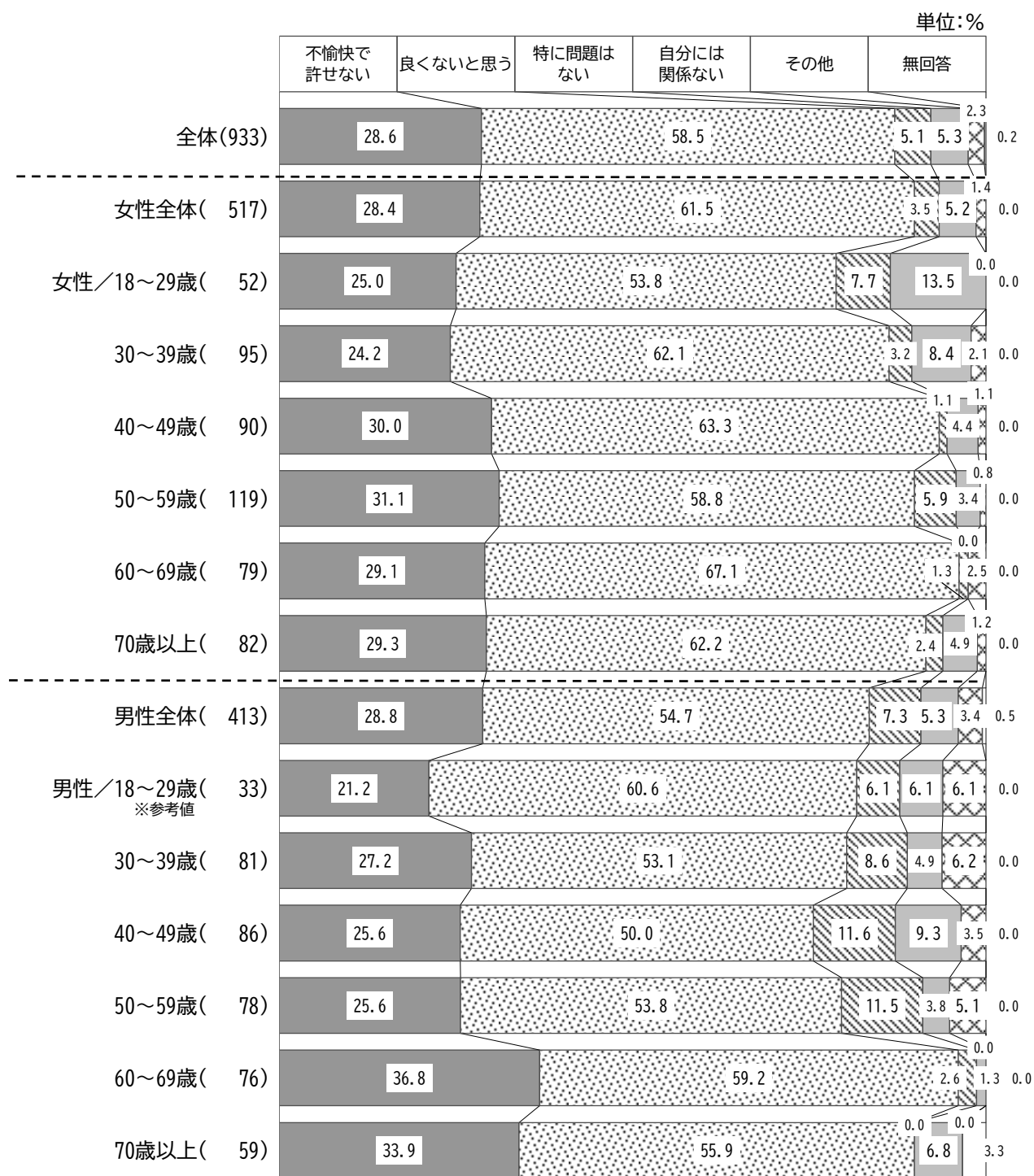
○全体の傾向

「不愉快で許せない」が28.6%、「良くないと思う」が58.5%となっており、「特に問題はない」が5.1%、「自分には関係ない」が5.3%となっています。

「不愉快で許せない」「良くないと思う」の合計は87.1%、「特に問題はない」「自分には関係ない」の合計は10.6%であり、否定的な回答が9割弱を占めています。

○男女別の傾向

女性の「良くないと思う」は61.5%であり、男性の割合を6ポイント上回っています。



図表 167 ヘイトスピーチに対する認識(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

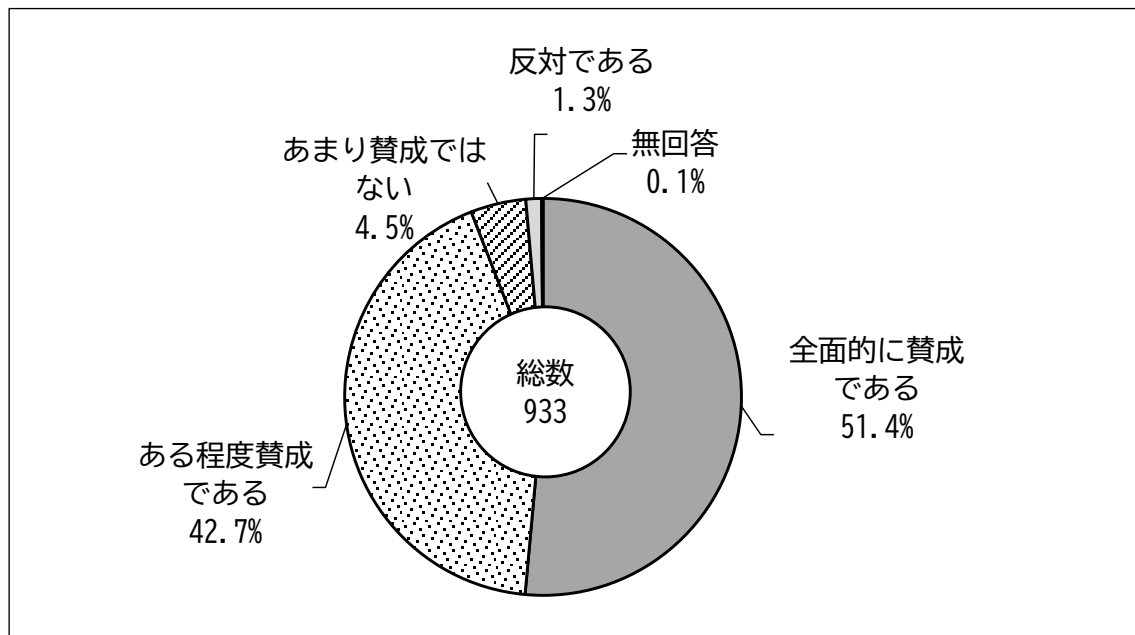
女性の30歳以上の各年代では、「不快で許せない」「良くないと思う」の合計が9割前後を占めているのに対し、18~29歳は78.8%にとどまっています。18~29歳は「自分には関係ない」が13.5%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、60~69歳で「不快で許せない」「良くないと思う」の合計が96.0%であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。

8 感染症と人権について

問 37 「感染症の感染者・患者等を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否

「HIV や新型コロナウイルスをはじめ、さまざまな感染症の感染者や患者等を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考えについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



図表 168 「感染症の感染者・患者等を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否

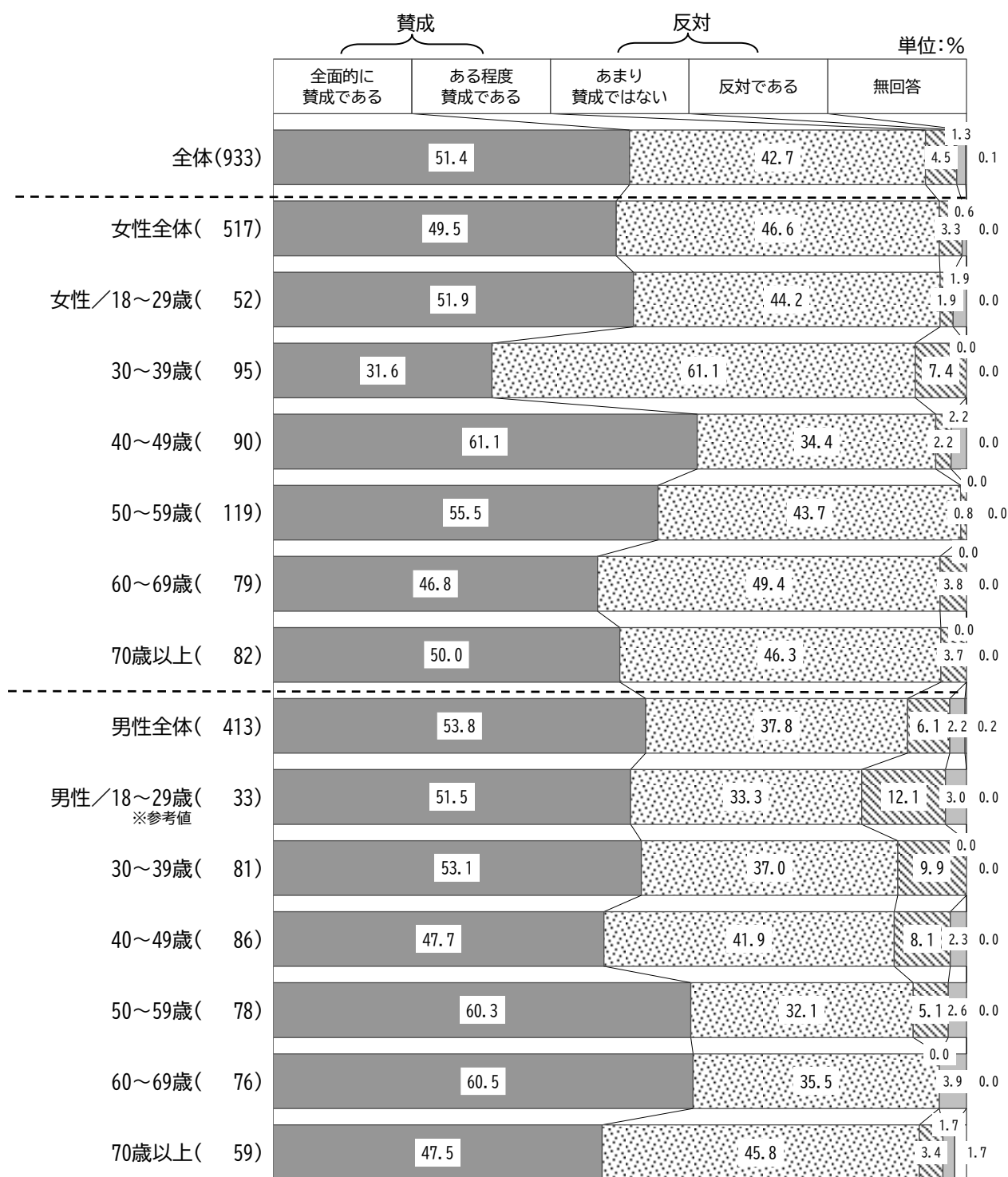
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が51.4%、「ある程度賛成である」が42.7%であり、「反対である」が1.3%、「あまり賛成ではない」が4.5%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は94.1%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は5.8%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

女性の「ある程度賛成である」は46.6%であり、男性の割合を8ポイント上回っています。



図表 169 「感染症の感染者・患者等を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否(男女・年代別)

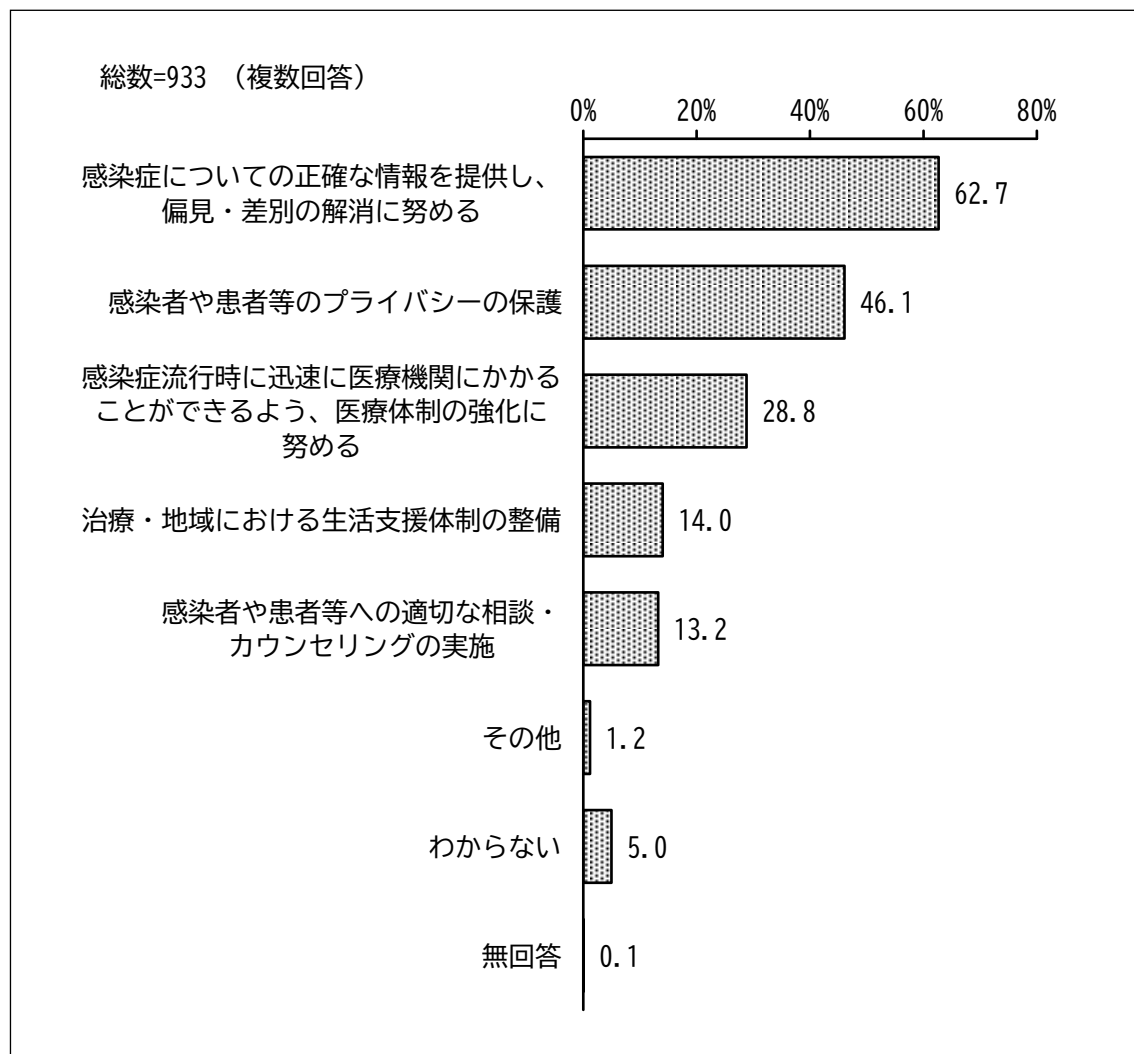
○男女・年代別の傾向

女性の全ての年代で“賛成”が9割台となっています。女性の30～39歳では「全面的に賛成である」が31.6%で他の年代を15ポイント以上下回る一方で、「ある程度賛成である」が61.1%で他の年代を11ポイント以上上回っています。

男性では、50～59歳と60～69歳で「全面的に賛成である」が6割であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。

問 38 感染症の感染者や患者等の人権を守るために、行政が実施すべきこと

さまざまな感染症の感染者や患者等の人権を守るためには、行政は、どのようなことを行えばよいと思いますか。(〇は2つまで)



図表 170 感染症の感染者や患者等の人権を守るために、行政が実施すべきこと

○全体の傾向

「感染症についての正確な情報を提供し、偏見・差別の解消に努める」が62.7%で最も多く、「感染者や患者等のプライバシーの保護」(46.1%)、「感染症流行時に迅速に医療機関にかかることができるよう、医療体制の強化に努める」(28.8%)が続いています。

○男女別の傾向

女性の「感染症流行時に迅速に医療機関にかかることができるよう、医療体制の強化に努める」は32.3%であり、男性の割合を7ポイント上回っています。

			感染者や患者等のプライバシーの保護	見・感染症についての正確な情報を提供し、偏見・差別の解消に努める	感染者や患者等への適切な相談・カウンセリングの実施	治療・地域における生活支援体制の整備	感染症流行時に迅速に医療体制の強化にかかわることができるよう、医療体制の強化に努めること	わからない	その他	無回答
		人数								
全体		933	46.1	62.7	13.2	14.0	28.8	5.0	1.2	0.1
性別	女性	517	47.2	63.4	12.8	15.9	32.3	3.5	0.4	-
	男性	413	44.6	62.0	13.6	11.9	24.5	7.0	2.2	0.2
	その他・無回答 ※参考値	3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	40.4	57.7	11.5	13.5	28.8	5.8	-
		30～39歳	95	51.6	64.2	7.4	15.8	33.7	2.1	-
		40～49歳	90	63.3	62.2	13.3	15.6	21.1	3.3	-
		50～59歳	119	47.9	63.9	13.4	17.6	30.3	4.2	-
		60～69歳	79	44.3	63.3	13.9	17.7	43.0	2.5	-
		70歳以上	82	30.5	67.1	17.1	13.4	37.8	3.7	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	57.6	54.5	6.1	6.1	24.2	9.1	-
		30～39歳	81	53.1	51.9	11.1	11.1	19.8	16.0	-
		40～49歳	86	44.2	58.1	14.0	14.0	26.7	5.8	-
		50～59歳	78	32.1	67.9	16.7	11.5	26.9	2.6	-
		60～69歳	76	44.7	71.1	15.8	14.5	21.1	3.9	-
		70歳以上	59	42.4	66.1	13.6	10.2	28.8	5.1	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-

図表 171 感染症の感染者や患者等の人権を守るために、行政が実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

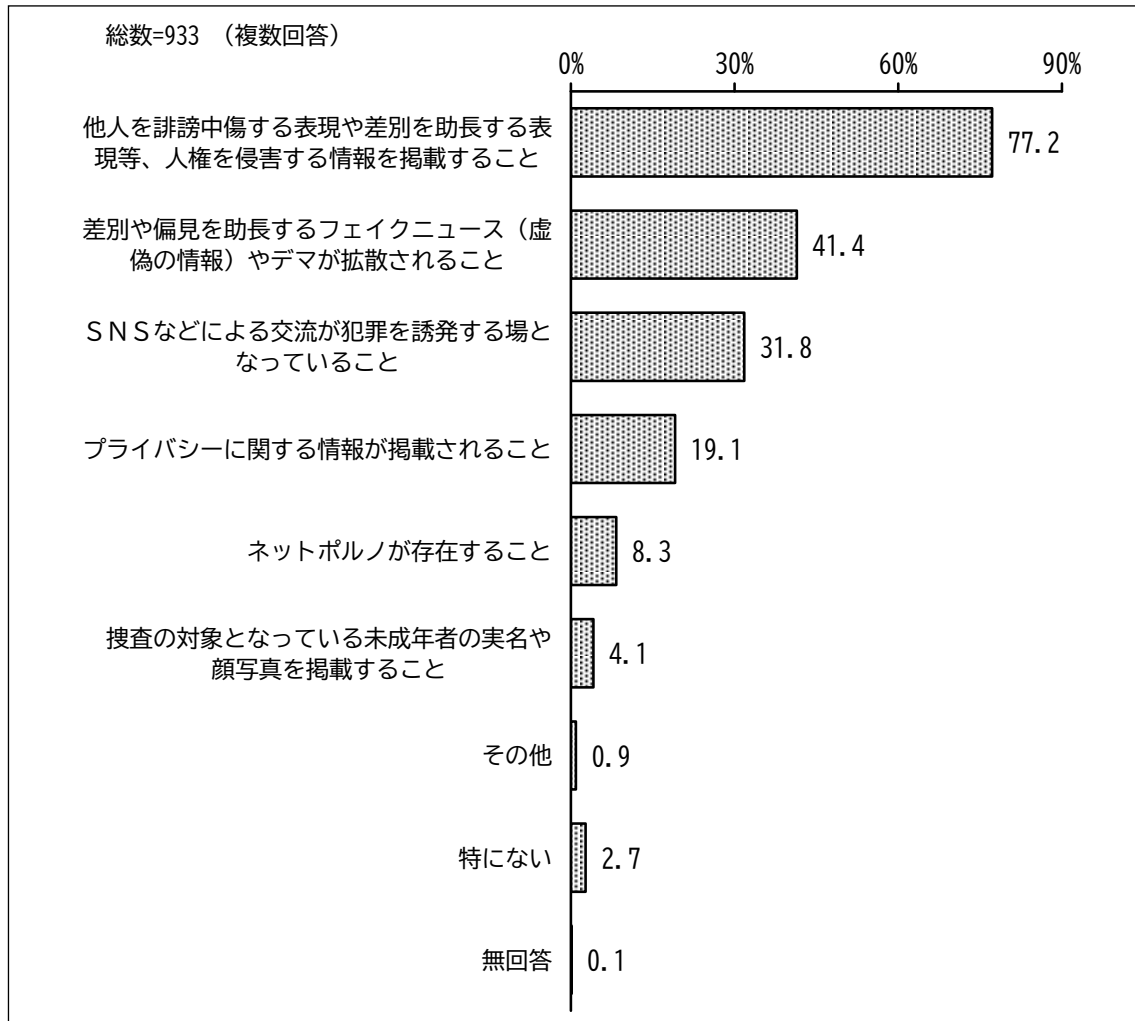
女性の 40～49 歳では「感染者や患者等のプライバシーの保護」が 63.3%であり、他の年代を 11 ポイント以上上回っています。60～69 歳では「感染症流行時に迅速に医療機関にかかわることができるよう、医療体制の強化に努める」が 43.0%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。このほか、70 歳以上で「感染者や患者等のプライバシーの保護」が 30.5%であり、他の年代を 13 ポイント以上下回っています。

男性では、50～59 歳で「感染者や患者等のプライバシーの保護」が 32.1%であり、他の年代を 10 ポイント以上下回っています。

9 インターネットに関する人権上の問題点について

問 39 インターネットで人権上問題があると思うこと

あなたが、インターネットに関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)



図表 172 インターネットで人権上問題があると思うこと

○全体の傾向

「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること」が 77.2%で最も多く、「差別や偏見を助長するフェイクニュース（虚偽の情報）やデマが拡散されること」（41.4%）、「SNS などによる交流が犯罪を誘発していること」（31.8%）が続いています。

○男女別の傾向

女性の「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること」（81.8%）は男性の割合を 10 ポイント上回るとともに、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」（10.6%）は男性の割合を 5 ポイント上回っています。

		人数	現人等を誹謗中傷する表現や差別を助長すること	プライバシーに関する情報が掲載されること	SNSなどによる交流が犯罪を誘発する場合と	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	ネットポルノが存在すること	差別や偏見を助長するフェイクニュース（虚偽の情報）やデマが拡散されること	特にな	その他	無回答
全体		933	77.2	31.8	4.1	8.3	19.1	41.4	2.7	0.9	0.1
性別	女性	517	81.8	30.9	3.9	10.6	20.1	41.2	0.8	0.4	-
	男性	413	71.2	33.2	4.4	5.3	17.9	41.4	5.1	1.5	0.2
	その他・無回答 ※参考値	3	100.0	-	-	-	-	66.7	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	84.6	25.0	-	17.3	13.5	42.3	-	-
		30～39歳	95	80.0	30.5	4.2	15.8	21.1	38.9	-	-
		40～49歳	90	81.1	37.8	5.6	11.1	18.9	34.4	-	1.1
		50～59歳	119	83.2	31.1	3.4	11.8	21.8	40.3	-	-
		60～69歳	79	83.5	29.1	5.1	6.3	24.1	45.6	-	-
		70歳以上	82	79.3	29.3	3.7	2.4	18.3	47.6	4.9	1.2
	男性	18～29歳 ※参考値	33	69.7	21.2	6.1	3.0	15.2	39.4	3.0	6.1
		30～39歳	81	72.8	25.9	4.9	8.6	18.5	53.1	3.7	-
		40～49歳	86	67.4	30.2	4.7	4.7	22.1	37.2	8.1	2.3
		50～59歳	78	69.2	41.0	2.6	5.1	23.1	32.1	2.6	1.3
		60～69歳	76	77.6	32.9	5.3	3.9	15.8	46.1	2.6	1.3
		70歳以上	59	69.5	44.1	3.4	5.1	8.5	39.0	10.2	-
		その他・無回答 ※参考値	3	100.0	-	-	-	66.7	-	-	-

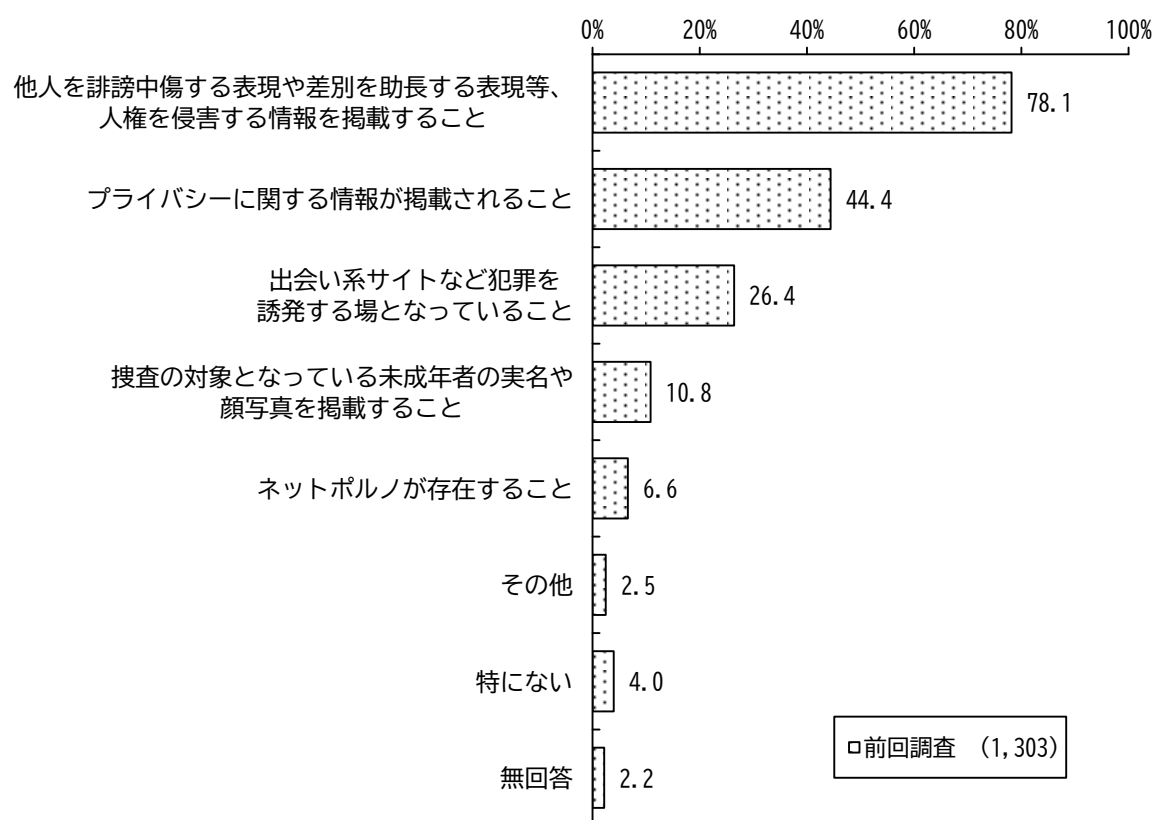
図表 173 インターネットで人権上問題があると思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 40～49 歳では「プライバシーに関する情報が掲載されること」が 37.8%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」は 18～29 歳と 30～39 歳で 2 割弱となっていますが、おおむね年代とともに割合が減少しており、70 歳以上では 2.4%となっています。

男性では、50～59 歳と 70 歳以上で「プライバシーに関する情報が掲載されること」が 4 割強であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。30～39 歳では「差別や偏見を助長するフェイクニュース（虚偽の情報）やデマが拡散されること」が 53.1%となっており、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査結果

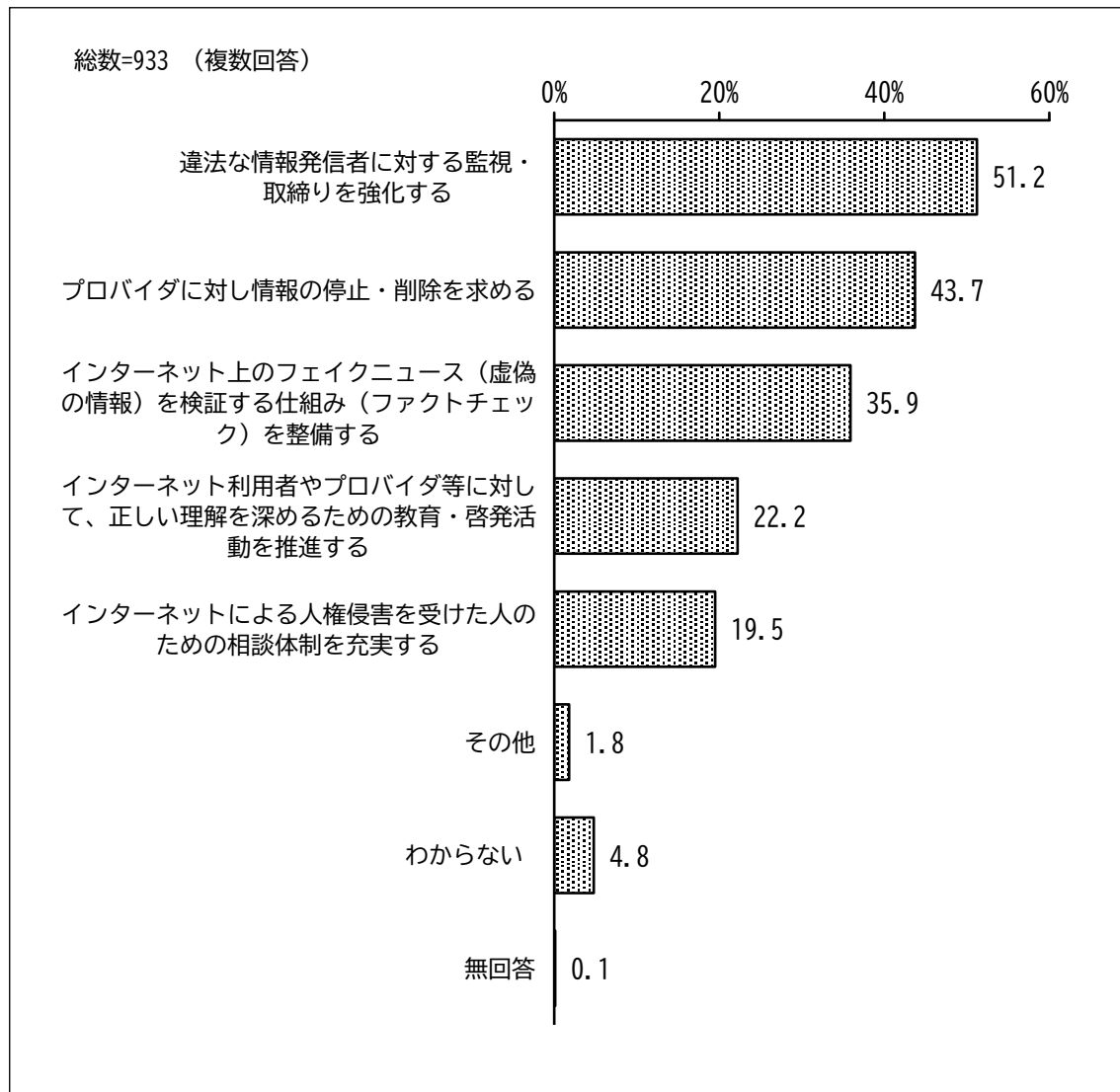


図表 174 インターネットで人権上問題があると思うこと◀前回調査結果▶

●今回調査で選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 40 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと

あなたは、インターネットによる人権侵害を防ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)



図表 175 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと

○全体の傾向

「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が 51.2%で最も多く、「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」(43.7%)、「インターネット上のフェイクニュース（虚偽情報）を検証する仕組み（ファクトチェック）を整備する」(35.9%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」は 56.3%であり、男性の割合を 11 ポイント上回っています。

			人数	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	プロバイダに対し情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する	インターネット上のフェイクニュース（虚偽の情報）を検証する仕組み（ファクトチェック）を整備する	わからない	その他	無回答
全体			933	19.5	22.2	43.7	51.2	35.9	4.8	1.8	0.1
性別	女性		517	19.3	21.1	44.7	56.3	36.9	3.1	1.2	-
	男性		413	19.6	23.7	42.6	44.8	34.6	7.0	2.7	0.2
	その他・無回答 ※参考値		3	33.3	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	32.7	26.9	21.2	36.5	36.5	3.8	1.9	-
		30～39歳	95	22.1	24.2	41.1	52.6	38.9	3.2	2.1	-
		40～49歳	90	12.2	20.0	51.1	63.3	35.6	1.1	1.1	-
		50～59歳	119	16.0	16.8	52.9	61.3	34.5	3.4	0.8	-
		60～69歳	79	19.0	17.7	50.6	65.8	32.9	1.3	1.3	-
		70歳以上	82	20.7	24.4	39.0	48.8	43.9	6.1	-	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	27.3	27.3	18.2	33.3	42.4	9.1	3.0	-
		30～39歳	81	16.0	27.2	35.8	38.3	46.9	7.4	-	-
		40～49歳	86	19.8	32.6	37.2	43.0	34.9	7.0	3.5	-
		50～59歳	78	19.2	21.8	43.6	53.8	28.2	5.1	5.1	-
		60～69歳	76	15.8	15.8	59.2	52.6	34.2	1.3	2.6	-
		70歳以上	59	25.4	16.9	50.8	40.7	22.0	15.3	1.7	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	33.3	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-

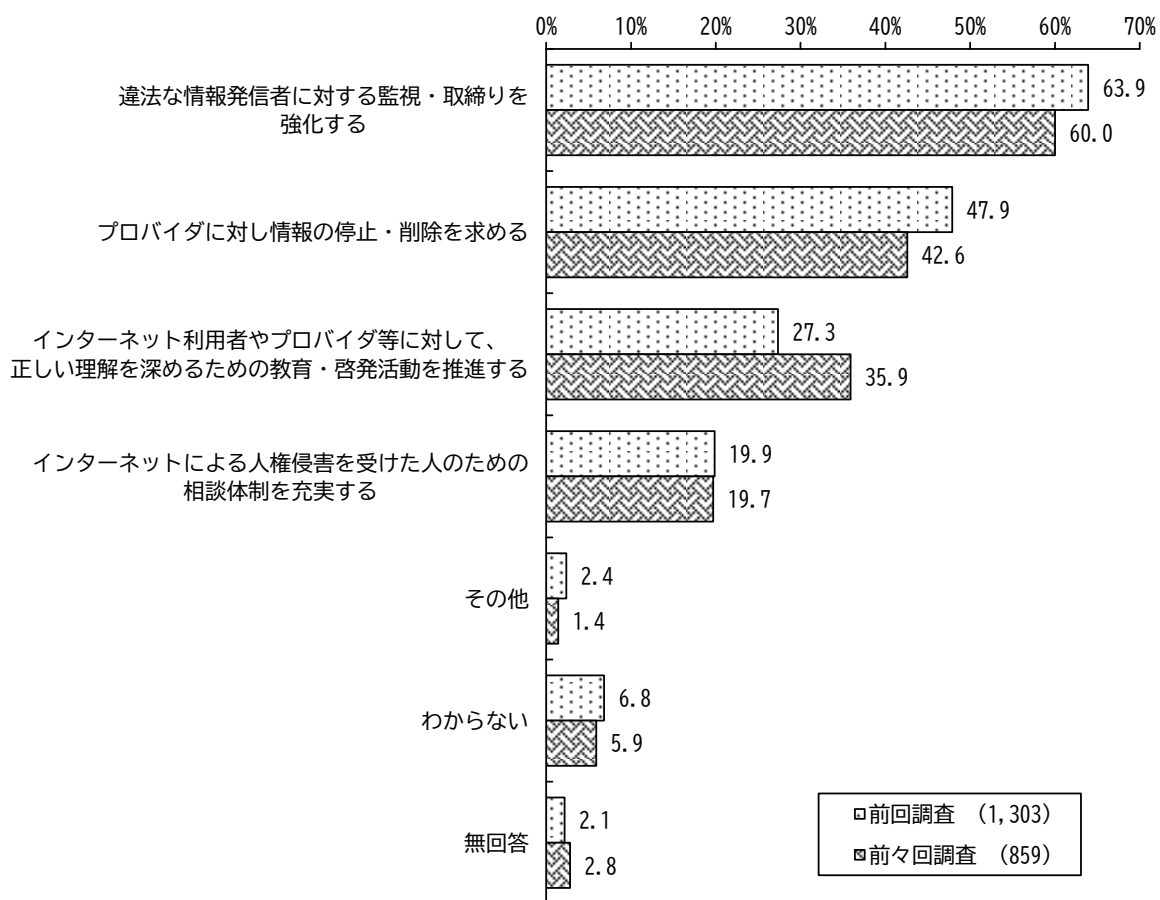
図表 176 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」が32.7%であり、他の年代を10ポイント以上上回っている一方、「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」が21.2%、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が36.5%であり、いずれも他の年代を12ポイント以上上回っています。70歳以上では「インターネット上のフェイクニュース（虚偽情報）を検証する仕組み（ファクトチェック）を整備する」が43.9%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、40～49歳で「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が32.6%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。60～69歳以上では「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」が59.2%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



図表 177 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと「前回調査・前々回調査結果」

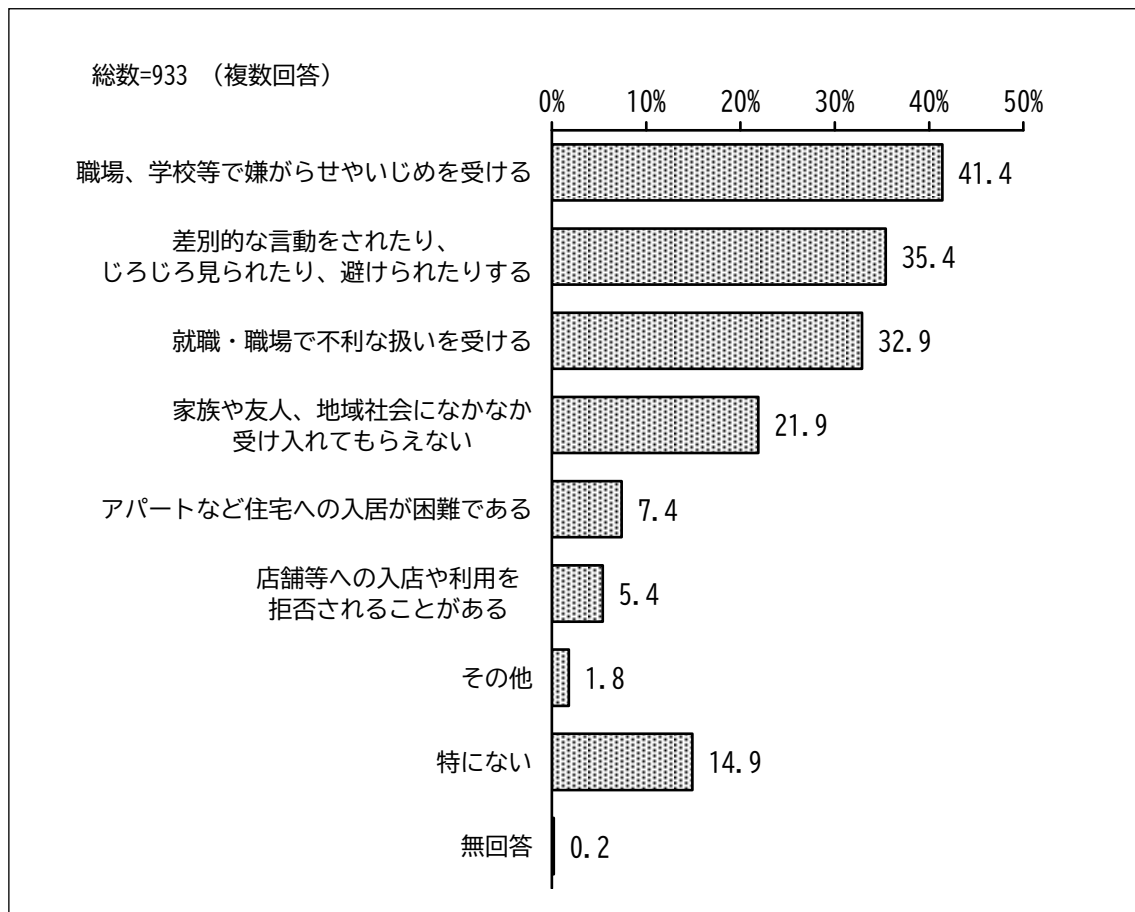
●今回調査で選択肢を追加したため、参考掲載します。

10 性的マイノリティに関する人権について

問 41 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと

性的マイノリティを理由とする人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。

(○は2つまで)



図表 178 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が 41.4%で最も多く、「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」(35.4%)、「就職・職場で不利な扱いを受ける」(32.9%)が続いています。

○男女別の傾向

女性の「就職・職場で不利な扱いを受ける」(38.1%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」(45.6%)、「家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない」(25.7%)は、男性の割合を8ポイント以上上回っています。一方、男性の「特にない」は21.8%であり、女性の割合を12ポイント上回っています。

			人数	就職・職場で不利な扱いを受ける	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける	差別的な言動をされたり、避けられたりする	家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない	店舗等への入店や利用を拒否されることがある	アパートなど住宅への入居が困難である	特にない	その他	無回答
全体			933	32.9	41.4	35.4	21.9	5.4	7.4	14.9	1.8	0.2
性別	女性		517	38.1	45.6	34.4	25.7	6.2	8.5	9.5	1.4	-
	男性		413	26.2	36.3	36.8	16.9	4.4	5.8	21.8	2.4	0.5
	その他・無回答 ※参考値		3	66.7	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	44.2	34.6	44.2	26.9	1.9	7.7	7.7	-	-
		30～39歳	95	29.5	44.2	33.7	31.6	8.4	9.5	11.6	1.1	-
		40～49歳	90	34.4	45.6	40.0	27.8	7.8	5.6	7.8	-	-
		50～59歳	119	37.0	58.0	35.3	18.5	5.9	10.9	5.9	2.5	-
		60～69歳	79	44.3	46.8	29.1	29.1	5.1	8.9	6.3	1.3	-
		70歳以上	82	43.9	35.4	26.8	23.2	6.1	7.3	18.3	2.4	-
	男性	18～29歳 ※参考値	33	21.2	27.3	36.4	21.2	-	-	24.2	3.0	-
		30～39歳	81	22.2	39.5	40.7	19.8	3.7	8.6	19.8	2.5	-
		40～49歳	86	23.3	31.4	29.1	9.3	5.8	8.1	31.4	1.2	-
		50～59歳	78	30.8	29.5	38.5	21.8	5.1	6.4	16.7	2.6	-
		60～69歳	76	27.6	47.4	43.4	14.5	6.6	2.6	17.1	1.3	-
		70歳以上	59	30.5	39.0	32.2	18.6	1.7	5.1	22.0	5.1	3.3
	その他・無回答 ※参考値		3	66.7	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-

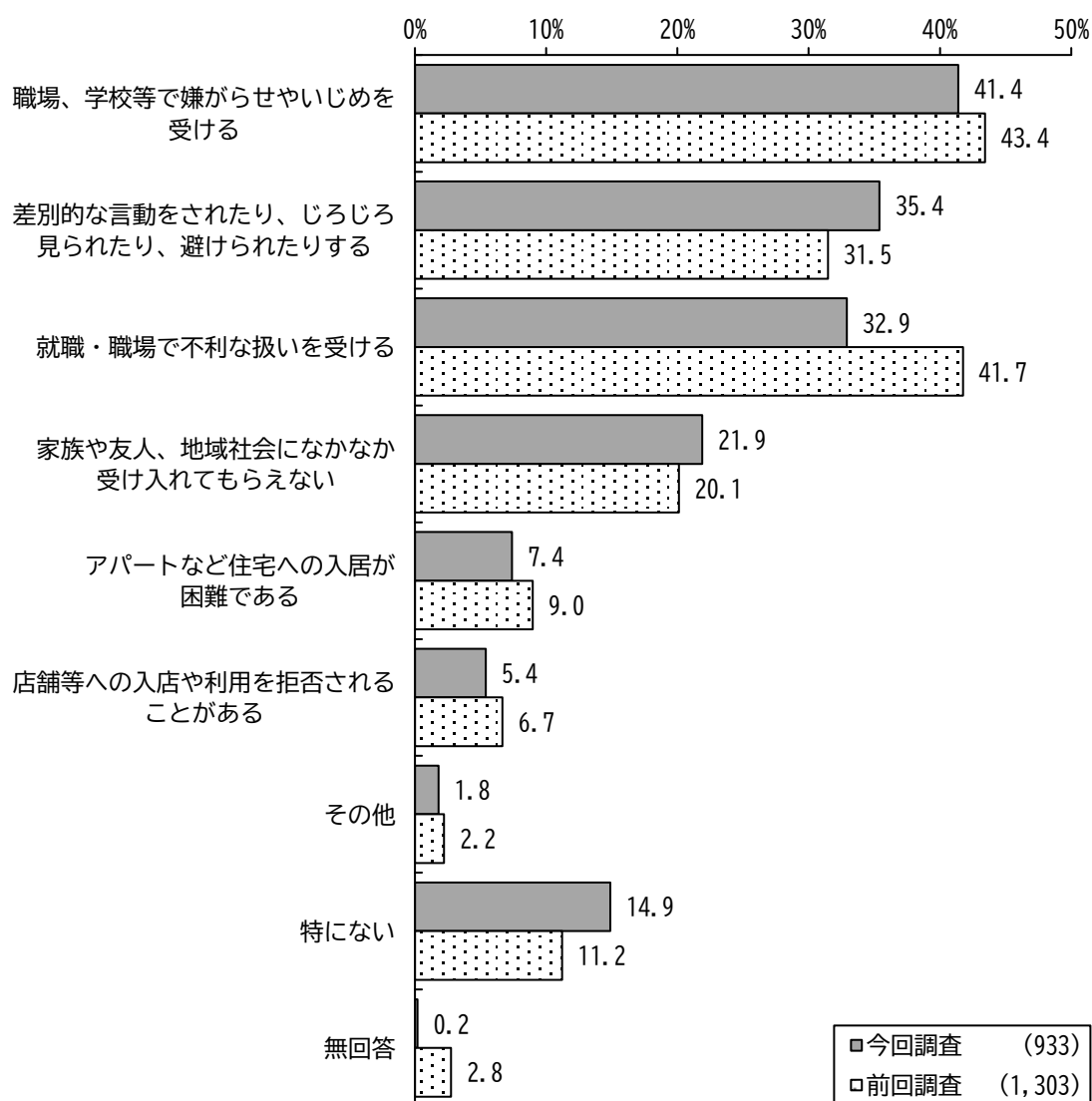
図表 179 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳では「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が 58.0%であり、他の年代を 11 ポイント以上上回っています。18～29 歳、60～69 歳、70 歳以上では「就職・職場で不利な扱いを受ける」が 4 割強であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。このほか、70 歳以上では「特にない」が 18.3%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

男性では、60～69 歳で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が 47.4%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。40～49 歳では「家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない」が 9.3%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。このほか、40～49 歳では「特にない」が 31.4%であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 180 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと《前回調査比較》

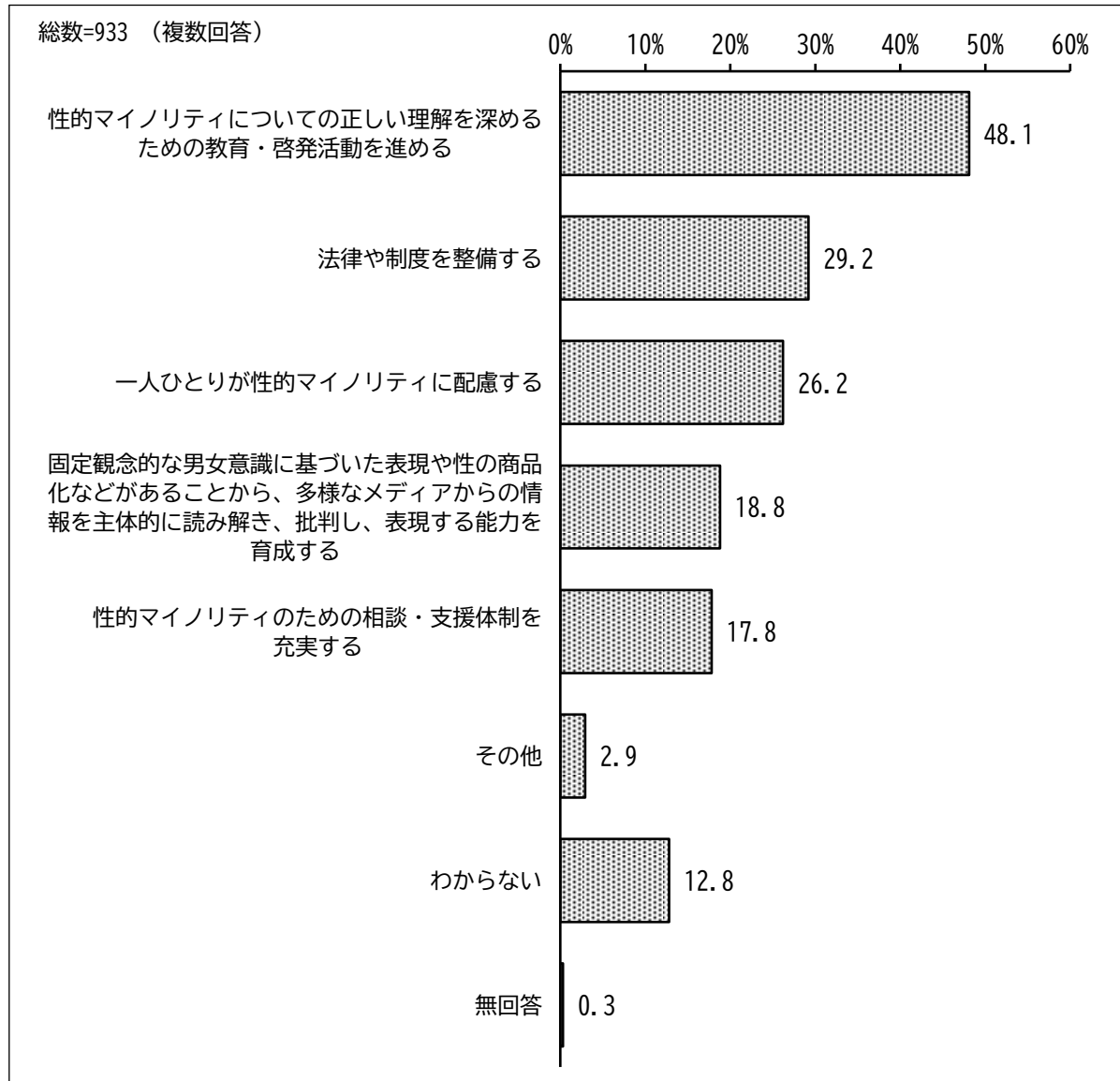
●前回調査との比較

今回調査・前回調査とも「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が4割強で最も多くなっています。前回調査から今回調査にかけて「就職・職場で不利な扱いを受ける」が8ポイント減少しています。

問 42 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと

性的マイノリティの人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。

(○は2つまで)



図表 181 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が48.1%で最も多く、「法律や制度を整備する」(29.2%)、「一人ひとりが性的マイノリティに配慮する」(26.2%)が続きます。

○男女別の傾向

男性の「わからない」は15.7%であり、女性の割合を5ポイント上回っています。

			性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する	性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める	法律や制度を整備する	固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	一人ひとりが性的マイノリティに配慮する	わからない	その他	無回答
人数										
全体		933	17.8	48.1	29.2	18.8	26.2	12.8	2.9	0.3
性別	女性	517	18.6	49.7	31.1	20.5	27.5	10.4	1.4	0.2
	男性	413	16.7	46.5	26.4	16.5	24.7	15.7	4.8	0.5
	その他・無回答 ※参考値	3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	17.3	40.4	38.5	23.1	30.8	5.8	-
		30～39歳	95	16.8	44.2	32.6	18.9	31.6	10.5	3.2
		40～49歳	90	22.2	52.2	30.0	24.4	22.2	8.9	1.1
		50～59歳	119	16.8	50.4	34.5	19.3	32.8	9.2	0.8
		60～69歳	79	17.7	57.0	26.6	19.0	27.8	8.9	1.3
		70歳以上	82	20.7	51.2	25.6	19.5	18.3	18.3	1.2
	男性	18～29歳 ※参考値	33	18.2	51.5	12.1	18.2	24.2	18.2	3.0
		30～39歳	81	13.6	40.7	27.2	16.0	29.6	12.3	8.6
		40～49歳	86	12.8	41.9	23.3	11.6	24.4	23.3	5.8
		50～59歳	78	16.7	55.1	25.6	15.4	21.8	10.3	7.7
		60～69歳	76	14.5	51.3	31.6	23.7	30.3	10.5	-
		70歳以上	59	28.8	40.7	32.2	15.3	15.3	22.0	1.7
	その他・無回答 ※参考値		3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-

図表 182 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳では「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が 57.0%であり、女性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。また、18～29 歳では「法律や制度を整備する」が 38.5%であり、女性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。

男性では、70 歳以上で「性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する」が 28.8%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。60～69 歳では「固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」が 23.7%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、30～39 歳と 60～69 歳では「一人ひとりが性的マイノリティに配慮

する」が3割前後で他の年代を5ポイント以上上回っている一方、70歳以上では15.3%にとどまっています。

		人数	性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する	性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める	法律や制度を整備する	固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	一人ひとりが性的マイノリティに配慮する	わからない	その他	無回答
全体		933	17.8	48.1	29.2	18.8	26.2	12.8	2.9	0.3
性的マイノリティに関する差別	多く存在する	254	16.9	50.8	39.8	24.8	23.2	8.3	1.2	-
	ある程度存在する	598	18.7	50.2	25.9	17.6	27.8	12.5	2.7	0.2
	存在しない	75	13.3	24.0	17.3	9.3	25.3	28.0	10.7	2.7
	無回答 ※参考値	6	16.7	33.3	50.0	-	-	33.3	-	-

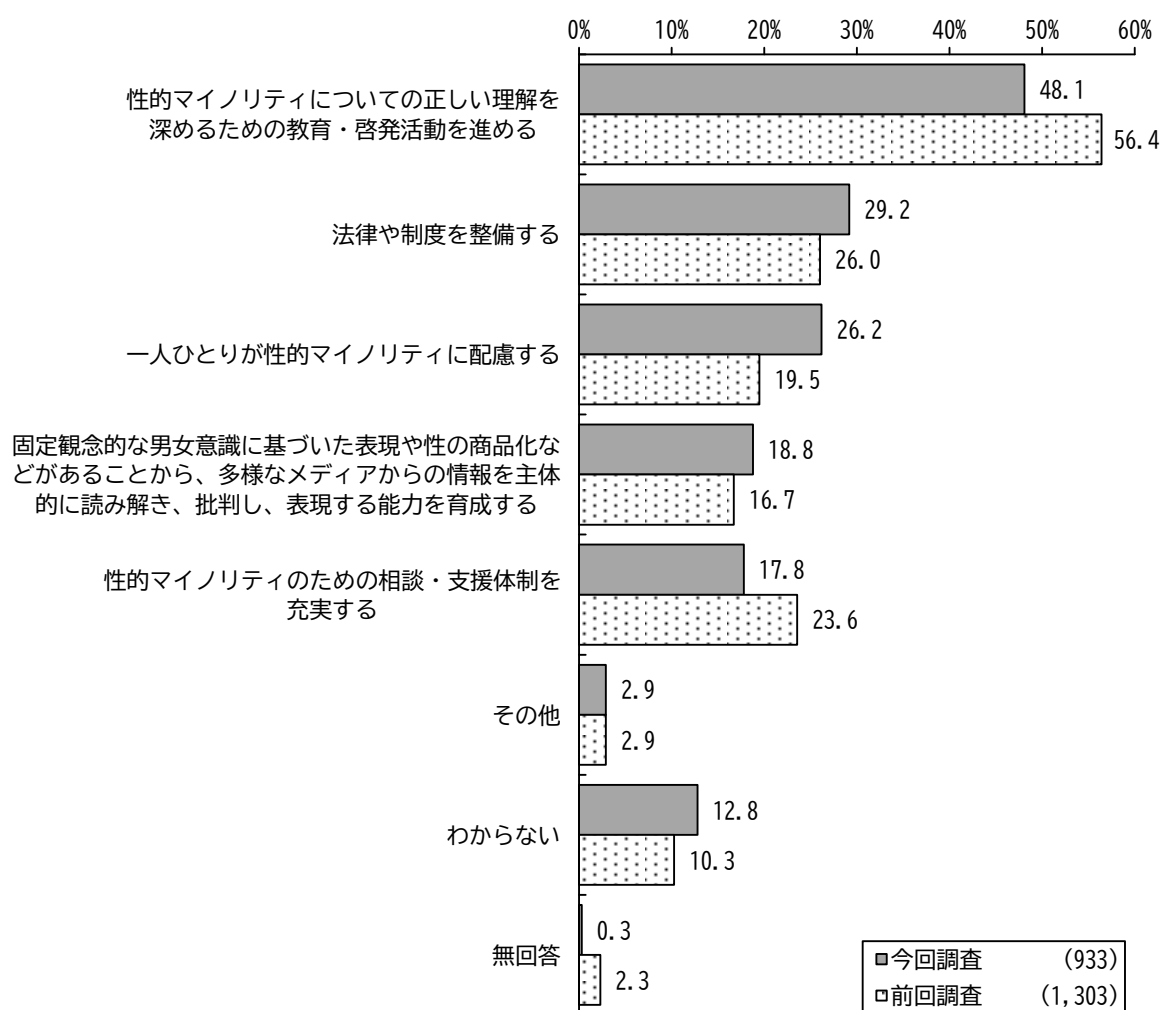
図表 183 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと
(性的マイノリティに関する差別の存在に関する認識別)

○性的マイノリティに関する差別の存在に対する認識別の傾向

現在の社会で性的マイノリティに関する差別が多く存在すると考えている人では、「法律や制度を整備する」が39.8%、「固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」が24.8%であり、いずれも回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。

性的マイノリティに関する差別が存在しないと考える人では、「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」(24.0%)が回答者全体の割合を24ポイント下回るとともに、「法律や制度を整備する」(17.3%)で11ポイント、「固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」(9.3%)で9ポイント下回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 184 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと《前回調査との比較》

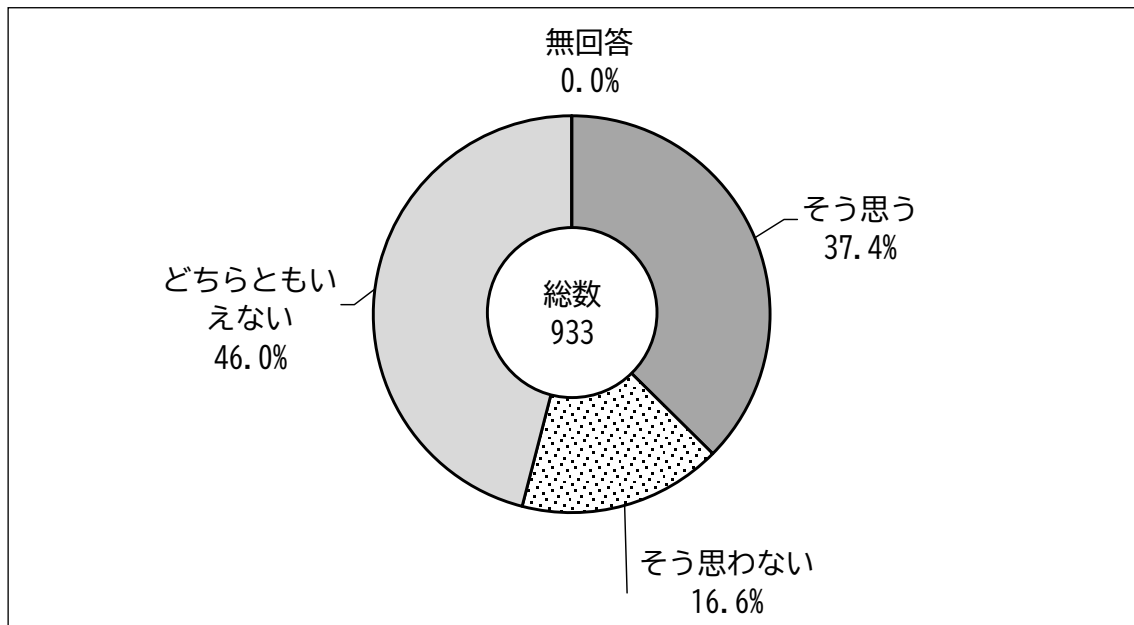
●前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が8ポイント減少するとともに、「性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する」が5ポイント減少しています。一方、前回調査から今回調査にかけて「一人ひとりが性的マイノリティに配慮する」が6ポイント増加しています。

11 人権尊重社会の実現について

問 43 10 年前と比べた区民の人権意識の状況

あなたは、10 年前に比べて、ご自身を含め区民一人ひとりの人権についての意識が高くなっていると思いますか。(○は1つ)



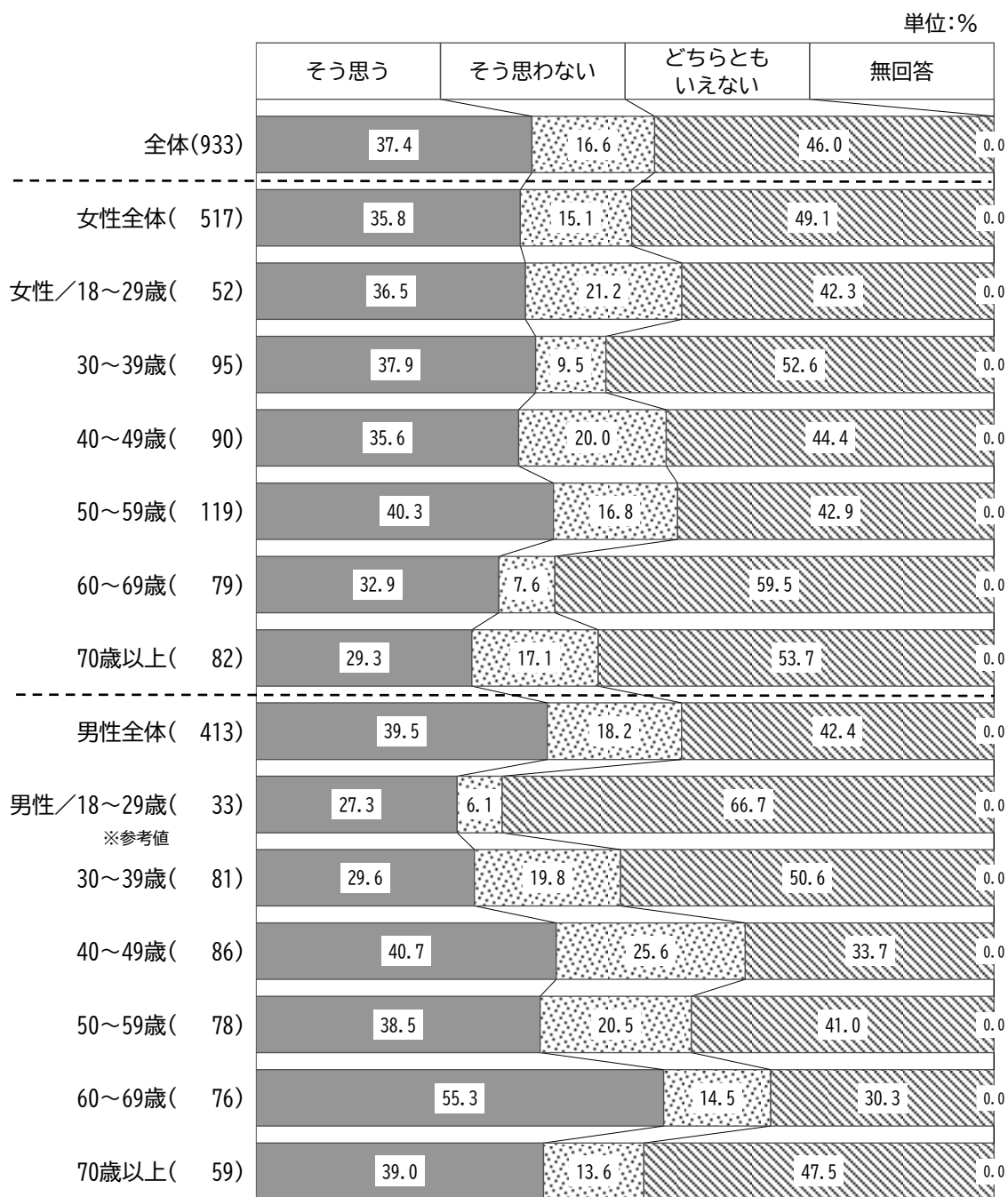
図表 185 10 年前と比べた区民の人権意識の状況

○全体の傾向

「そう思う」が 37.4%、「そう思わない」が 16.6%、「どちらともいえない」が 46.0%となっています。

○男女別の傾向

女性の「どちらともいえない」は 49.1%であり、男性の割合を 6 ポイント上回っています。



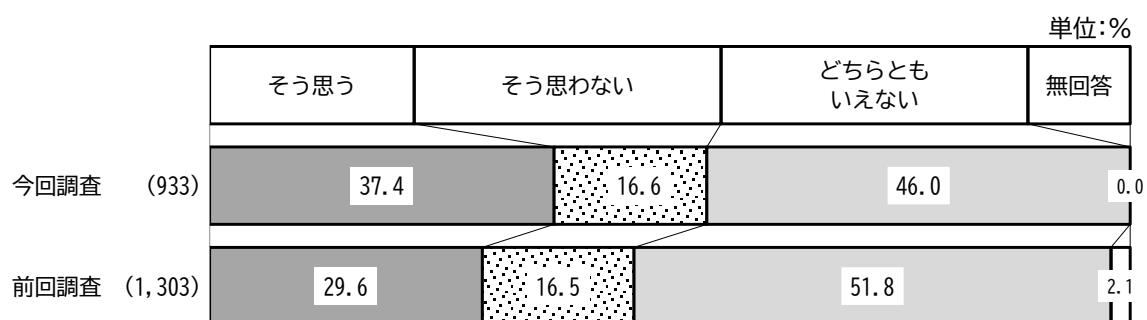
図表 186 10年前と比べた区民の人権意識の状況(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の 70 歳以上では「そう思う」が 29.3%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント下回っています。18～29 歳では「そう思わない」が 21.2%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。60～69 歳では「どちらともいえない」が 59.5%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

男性では、60～69 歳で「そう思う」が 55.3%であり、他の年代を 14 ポイント以上上回っています。一方、40～49 歳では「そう思わない」が 25.6%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



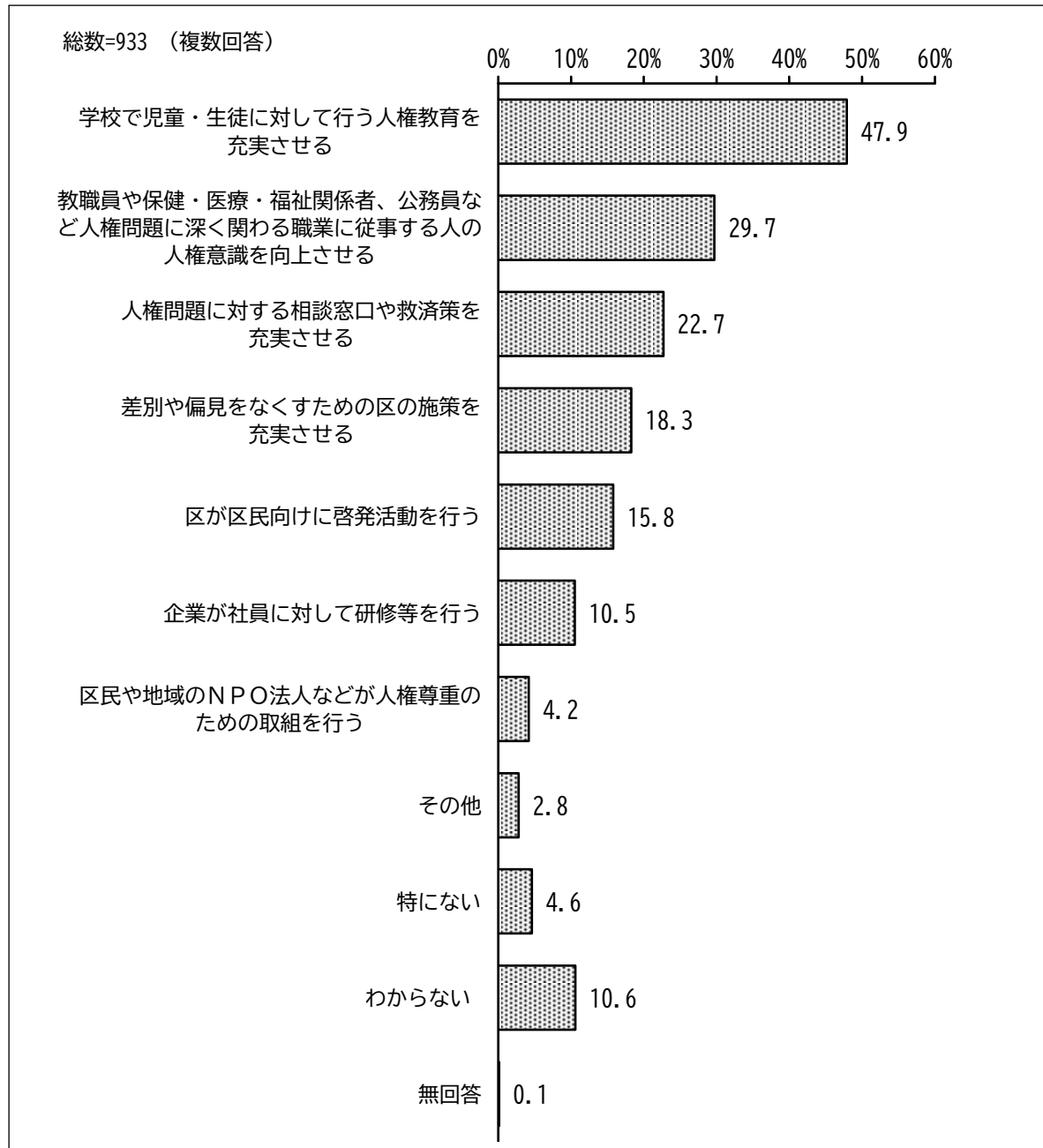
図表 187 10 年前と比べた区民の人権意識の状況 ≪ 前回調査との比較 ≫

● 前回調査との比較

前回調査から今回調査にかけて「そう思う」が7ポイント増加し、「どちらともいえない」が5ポイント減少しています。

問 44 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組

区民一人ひとりが尊重され、差別や偏見のない目黒区の実現に向けて、あなたは今後どのような取組が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



図表 188 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組

○全体の傾向

「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 47.9%で最も多く、「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」(29.7%)、「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」(22.7%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」(52.4%)は男性の割合を10ポイント上回るとともに、「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」(32.5%)、「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」(25.1%)は男性の割合を5ポイント以上上回っています。一方、男性の「区が区民向けに啓発活動を行う」は18.9%であり、女性の割合を5ポイント上回っています。

		人数	区が区民向けに啓発活動を行う	学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる	人権意識を向上させる 教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人	企業が社員に対して研修等を行う	人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる	差別や偏見をなくするための区の施策を充実させる	区民や地域のNPO法人などが人権尊重のための取組を行う	特にな	わからない	その他	無回答
全体		933	15.8	47.9	29.7	10.5	22.7	18.3	4.2	4.6	10.6	2.8	0.1
性別	女性	517	13.3	52.4	32.5	10.3	25.1	20.1	4.8	1.5	10.6	1.5	0.2
	男性	413	18.9	42.1	26.4	10.7	19.9	16.0	3.4	8.5	10.4	4.4	-
	その他・無回答 ※参考値	3	-	66.7	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	52	13.5	46.2	19.2	13.5	19.2	25.0	5.8	3.8	13.5	-
		30～39歳	95	9.5	53.7	29.5	18.9	20.0	21.1	2.1	2.1	11.6	-
		40～49歳	90	13.3	57.8	32.2	15.6	21.1	18.9	4.4	1.1	11.1	-
		50～59歳	119	13.4	52.9	27.7	5.9	31.9	22.7	6.7	1.7	9.2	-
		60～69歳	79	8.9	53.2	44.3	5.1	30.4	17.7	5.1	1.3	6.3	-
		70歳以上	82	22.0	47.6	40.2	3.7	24.4	15.9	4.9	-	13.4	-
		18～29歳 ※参考値	33	18.2	48.5	18.2	15.2	6.1	12.1	6.1	3.0	21.2	-
	男性	30～39歳	81	19.8	25.9	24.7	12.3	16.0	16.0	6.2	13.6	13.6	-
		40～49歳	86	12.8	43.0	18.6	12.8	14.0	16.3	1.2	12.8	10.5	-
		50～59歳	78	24.4	42.3	23.1	12.8	21.8	14.1	2.6	10.3	6.4	-
		60～69歳	76	11.8	56.6	35.5	9.2	31.6	21.1	5.3	2.6	2.6	-
		70歳以上	59	28.8	40.7	37.3	1.7	23.7	13.6	-	3.4	15.3	-
		その他・無回答 ※参考値	1										

図表 189 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

女性の70歳以上では「区が区民向けに啓発活動を行う」が22.0%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。40～49歳では「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が57.8%であり、女性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。50～59歳と60～69歳では「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」が3割強であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。

男性では、60～69歳で「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が56.6%、「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」が31.6%であり、いずれも他の年代を7ポイント以上上回っています。一方、30～39歳の「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」は25.9%であり、他の年代を14ポイント以上下回っています。

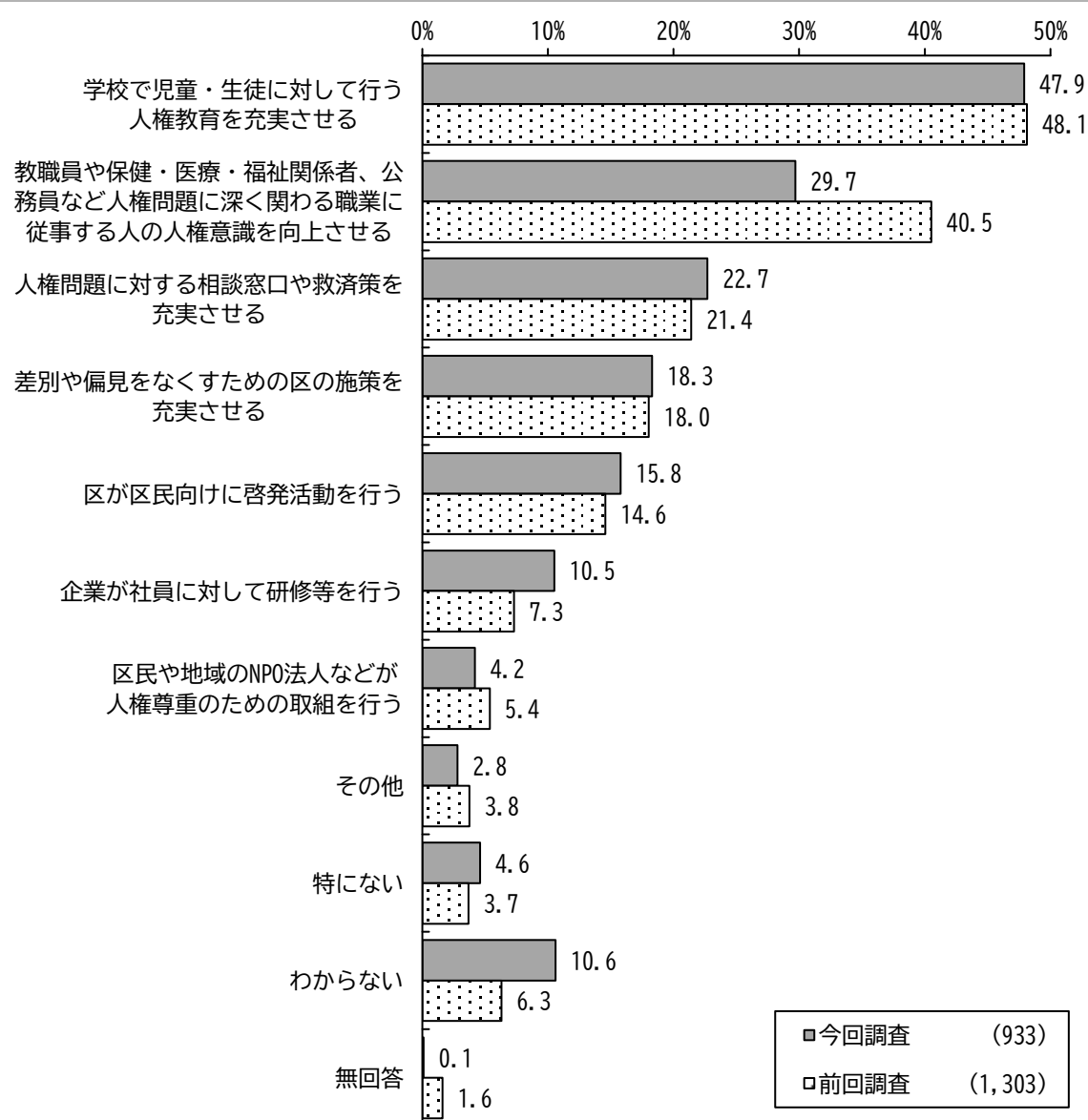
		人数	区が区民向けに啓発活動を行う	学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる	教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる	企業が社員に対して研修等を行う	人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる	差別や偏見をなくすための区の施策を充実させる	区民や地域のNPO法人などが人権尊重のための取組を行う	特にな	わからない	その他	無回答
全体		933	15.8	47.9	29.7	10.5	22.7	18.3	4.2	4.6	10.6	2.8	0.1
人権侵害経験	侵害された経験あり	468	15.6	50.6	30.3	11.8	25.4	20.3	3.6	2.1	9.4	3.2	-
	侵害された経験なし	462	15.8	45.2	29.0	9.3	20.1	16.5	4.8	7.1	11.9	2.4	-
	無回答 ※参考値	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3

図表 190 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組(人権侵害の経験別)

○人権侵害の経験別の傾向

これまでに自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたことがある人は、「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 50.6%、「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」が 25.4%であり、人権が侵害されたと感じたことがない人の割合を5ポイント上回っています。

▼ 前回調査との比較



図表 191 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組◀前回調査との比較▶

●前回調査との比較

前回調査・今回調査とも「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が最も多い回答となっています。このほか、前回調査から今回調査にかけて「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」が10ポイント減少しています。